宮城県文化財報告書第160集

下草古城跡ほか

平成６年３月

宮 城 県 教 育 委 員 会

序　文

近年、各自治体が歴史と風土に根ざした地域の活性化を推進するために、郷土にある文化財を再認識し、それを地域づくりの拠点として整備し活用していこうといった考え方を持つところが多くなってきております。

宮城県としても本間知事の提唱により平成２年度から「われらみやぎの東北学おこし事業」を実施するなど、国際化の推進や産業経済の発展の基盤となる歴史と風土に根ざした東北の「地域らしさ」の確立に努め、21世紀に向けた新たな県土づくりに取り組んでいるところであります。

一方、近年の本県における各種開発事業の活発化には目を見張るものがあります。道路建設や圃場整備など生活関連事業をはじめ、ゴルフ場などの大規模なレジャー施設や工場団地・住宅団地の進出が著しく、これらの開発によって埋蔵文化財が破壊の危機にさらされる場合が多くなってきています。

改めて申すまでもなく、埋蔵文化財は文献などに記録されていない地域の歴史を即物的に解明することが出来る貴重な歴史資料であるばかりでなく、その地域に住んでいる人々にとって最も親しみやすく、精神的なよすがとなるものであります。まさに「東北学」を考える上での最も基本となる資料と言えます。

しかし、埋蔵文化財は土地との関連で保存されてきたものであるため、各種開発事業によって絶えず破壊・消滅のおそれにさらされております。当教育委員会としては開発関係機関等との協議を通してこのような貴重な文化財を保存し、後世に伝えることに努めているところであります。

本書は開発関係機関等との協議・調整に基づき平成５年度に当教育委員会が行った発掘調査の成果を収録したものであります。これらの成果が地域の歴史的解明と文化財保護思想の高揚のため役立てていただければ幸いです。

最後に、協議にあたリ各遺跡の保護調整に理解を示され、調査にあたっても多大なご協力・ご支援をいただきました関係機関各位、および発掘作業にあたられた皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成６年３月

宮城県教育委員会教育長　鈴 鴨 清 美

目　　次

下草古遺跡 …… 1
新谷地遺跡 …… 131

例　　言

1．本書は、宮城県が平成５年度に埋蔵文化財緊急調査費の国庫補助を得て、宮城県教育庁文化財保護課が担当して実施した発掘調査の調査報告書である。
2．各遺跡の発掘調査から調査報告書作成に至る一連の作業は、調査原因となった開発行為に関わる機関の依頼を受けて文化財保護課が行なったものである。
3．各遺跡の保存協議や発掘調査に当たっては、各開発担当部局や地元教育委員会から多大な協力をいただいた。
4．本書に使用した土色については、「新版標準土色帳（1973）」を参照した。
5．本書に各遺跡の位置図として掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の1/25,000の地形図を複製して使用した。
6．本書は調査員全員の協議を経て下記の者が執筆・編集した。

下草吉城跡 ――（実測）須田良平・伊藤裕（ゆたか）・天野順陽（まさはる）
（執筆）第四章動物遺体　菅原弘樹、その他は天野
（編集）天野

新谷地遺跡 ―― 阿部　恵

7．発掘調査で出土した遺物および調査記録類などは、宮城県教育委員会が保管している。

下草古城跡

古墳時代第１集中地点出土土器

古墳時代第２集中地点出土土器

調 査 要 項

遺　跡　名：下草古城跡（しもくさこじょうあと）
　　宮城県遺跡地名表記載番号23068
遺 跡 記 号：0G
遺跡所在地：宮城県黒川郡大和町鶴巣下草
調 査 原 因：県営圃場整備事業
調 査 面 積：約12,000㎡
調 査 期 間：平成５（1993年）　４月７日～12月20日（事前調査）
　　平成６年（1994年）　２月24日（立会い調査）
調 査 主 体：宮城県教育委員会
調 査 担 当：宮城県教育庁文化財保護課
調　査　員：須田良平、伊藤　裕（ゆたか）、天野順陽（まさはる）
調 査 協 力：大和町教育委員会、宮城県仙台土地改良事務所、大和東部土地改良区
調査参加者：大内悦子、斎藤永記、斎藤徹子、斎藤柳子、佐藤淳子、佐藤邦子、佐藤裕子、
　　菅原喜四郎、高橋久兵衛、高橋惣市、高橋つよ子、高橋良三、横田ひで子、
　　横田よし子、若生孝子、渡辺光男　（五十音順）
整理参加者：伊藤由美子、大宮千賀子、大森かけひ

目　　次

第一章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境 …… 1
Ⅰ　遺跡の位置 …… 1
Ⅱ　遺跡の現状と推定される城郭構造 …… 1
Ⅲ　文献上の下草古城跡 …… 3
第二章　調査の目的 …… 5
第三章　発見された遺構と遺物 …… 7
Ⅰ　中近世 …… 7
1　発見された遺構 …… 7
2　発見された遺物 …… 47
Ⅱ　その他の時期の遺構と遺物 …… 67
1　古墳時代 …… 67
2　平安時代 …… 78
第四章　考察 …… 81
Ⅰ　古墳時代 …… 81
Ⅱ　平安時代 …… 85
Ⅲ　中近世 …… 86
第五章　まとめ …… 97
引用・参考文献 …… 98
写真図版 …… 99

図 目 次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡 ･････････････････2
第２図　遺跡の全景と地籍図に記された水田 ･････ 4
第３図　調査区 ･････････････････････････････6
第４図　５・７・13～18区遺構配置図（付図）
第５図　５区遺構平面図 ･････････････････････9・10
第６図　５区遺構断面図（1）　･････････････････11
第７図　５区遺構断面図（2）　･････････････････12
第８図　７区遺構平面図 ･････････････････････15･16
第９図　７区遺構断面図（1）　･････････････････17
第10図　７区遺構断面図（2）　･････････････････18
第11図　13区遺構平面図 ･････････････････････19･20
第12図　13区遺構断面図（1）　･････････････････22
第13図　13区遺構断面図（2）　･････････････････23
第14図　14区遺構平面図 ･････････････････････25･26
第15図　14区遺構断面図（1）　･････････････････28
第 16 図　14 区遺構断面図（2）　･････････････････29
第 17 図　15 区遺機平面図･････････････････････31･32
第 18 図　15 区遺構断面図･････････････････････33
第 19 図　16 区遺構平面図・断面図･････････････34
第 20 図　17 区遺構平面図･････････････････････35･36
第 21 図　17 区遺構断面図（1）　･････････････････37
第 22 図　17 区遺構断面図（2）　･････････････････38
第 23 図　18 区遺構平面図･････････････････････39･40
第 24 図　土製品、陶磁器（1）　･････････････････48
第 25 図　陶磁器（2）　･････････････････････････49
第 26 図　木製品（1）椀・蓋 ･････････････････50
第 27 図　木製品（2）椀 ･････････････････････51
第 28 図　木製品（3）連歯下駄 ･････････････････52
第 29 図　木製品（4）連歯下駄 ･････････････････53
第 30 図　木製品（5）連歯下駄 ･････････････････54
第 31 図　木製品（6）露卯下駄 ･････････････････55
第 32 図　木製品（7）露卯下駄 ･････････････････56
第 33 図　木製品（8）露卯下駄歯　木鉢 ･････････57
第 34 図　木製品（9）木鉢　曲げ物 ･････････････58
第 35 図　木製品（10）曲げ物 ･･････････････････59
第 36 図　木製品（11）曲げ物　折敷 ･････････････60
第 37 図　木製品（12）その他の木製品 ･･････････61
第 38 図　金属製品・古銭 ･･････････････････････62
第 39 図　石製品（1）石鉢、石臼（上臼）　･･････63
第 40 図　石製品（2）石臼（上臼、下臼）　･･････64
第 41 図　石製品（3）石臼（下臼）　･････････････65
第 42 図　石製品（4）石臼（下臼）、硯、砥石 ････66
第 43 図　土器集中地点平面図・断面図 ･･････････68
第 44 図　古墳時代第１集中地点出土土器（1）　･･70
第 45 図　古墳時代第１集中地点出土土器（2）　･･71
第 46 図　古墳時代第１集中地点出土土器（3）　･･72
第 47 図　古墳時代第２集中地点出土土器（1）　･･74
第 48 図　古墳時代第２集中地点出土土器（2）　･･75
第49図　古墳時代第2集中地点出土土器（3）･････････76
第50図　古墳時代第2集中地点出土土器（4）･･････ 77
第 51 図　ＳＩ447、ＳＸ456 平面図、断面図･････････ 79
第 52 図　ＳＸ455 出土遺物･･････････････････････ 80
第 53 図　ＳＸ456 出土遺物･･････････････････････ 80
第 54 図　平安時代　その他の遺物 ･･････････････ 80
第 55 図　古墳時代土器分類図 ･･････････････････ 83
第 56 図　箸の長さと最大径の関係 ･･････････････ 92

表 目 次

第１表　各区で確認された遺構数・・・・・・ 41
第２表　掘立柱建物属性表・・・・・・・・・・・・ 42
第３表　柱列属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第４表　井戸属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第５表　土壙属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第６表　溝属性表（1）・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第７表　溝属性表（2）・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第８表　遺構番号対照表 ・・・・・・・・・・・・・・46
第９表　土器組成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
第 10 表　箸の長さと点数 ・・・・・・・・・・・・・92
第 11 表　箸の最大径と点数 ・・・・・・・・・・・92
第 12 表　出土動物種名表 ・・・・・・・・・・・・・93
第 13 表　動物遺体の同定･計測結果一覧 94
第 14 表　出土イヌ頭骨の計測結果と比較資料94

写真図版

図版１　５区南西部･北西部全景、ＳＸ406
図版２　７区全景、整地層、13 区西部全景
図版３　13 区南東部全景、14 区東部全景
図版４　14 区ＳＸ359、ＳＫ378･379･354
図版５　14 区ＳＫ354、15 区全景
図版６　17 区基本層位、整地層、ＳＩ446
図版７　17 区ＳＤ450～453､18 区外堀ＳＤ146
古墳時代第２集中地点出土状況
図版８　陶磁器・木製品（蓋・椀）
図版９　木製品（連歯下駄）
図版 10　木製品（連歯下駄･露卯下駄の歯）
図版 11　木製品（連歯下駄）
図版 12　木製品（露卯下駄）
図版 13　木製品（木鉢・曲げ物・折敷）
図版 14　木製品（曲げ物・折敷・箸）
図版 15　木製品・金属製品・古銭
図版 16　石製品（石臼上臼・石鉢）
図版 17　石製品（石臼上臼）
図版 18　石製品（石臼下臼）
図版 19　石製品（石臼下臼･硯･砥石）、土製品
図版 20　古墳時代第１集中地点出土土器（1）
図版 21　古墳時代第１集中地点出土土器（2）
図版 22　古墳時代第１集中地点出土土器（3）
図版 23　古墳時代第２集中地点出土土器（1）
図版 24　古墳時代第２集中地点出土土器（2）
図版 25　古墳時代第２集中地点出土土器（3）
図版 26　古墳時代第２集中地点出土土器（4）
図版 27　平安時代ＳＸ455・456・その他の出土土器

図版 28　動物遺体
図版 29　動物遺体

下草古城跡（しもくさこじょうあと）

第一章　遺跡の位置と環境

Ⅰ　遺跡の位置（第１図）

下草古城跡は、黒川郡大和町鶴巣下草に所在する。大和町の中心部、吉岡から南東に３㎞のところに位置する。

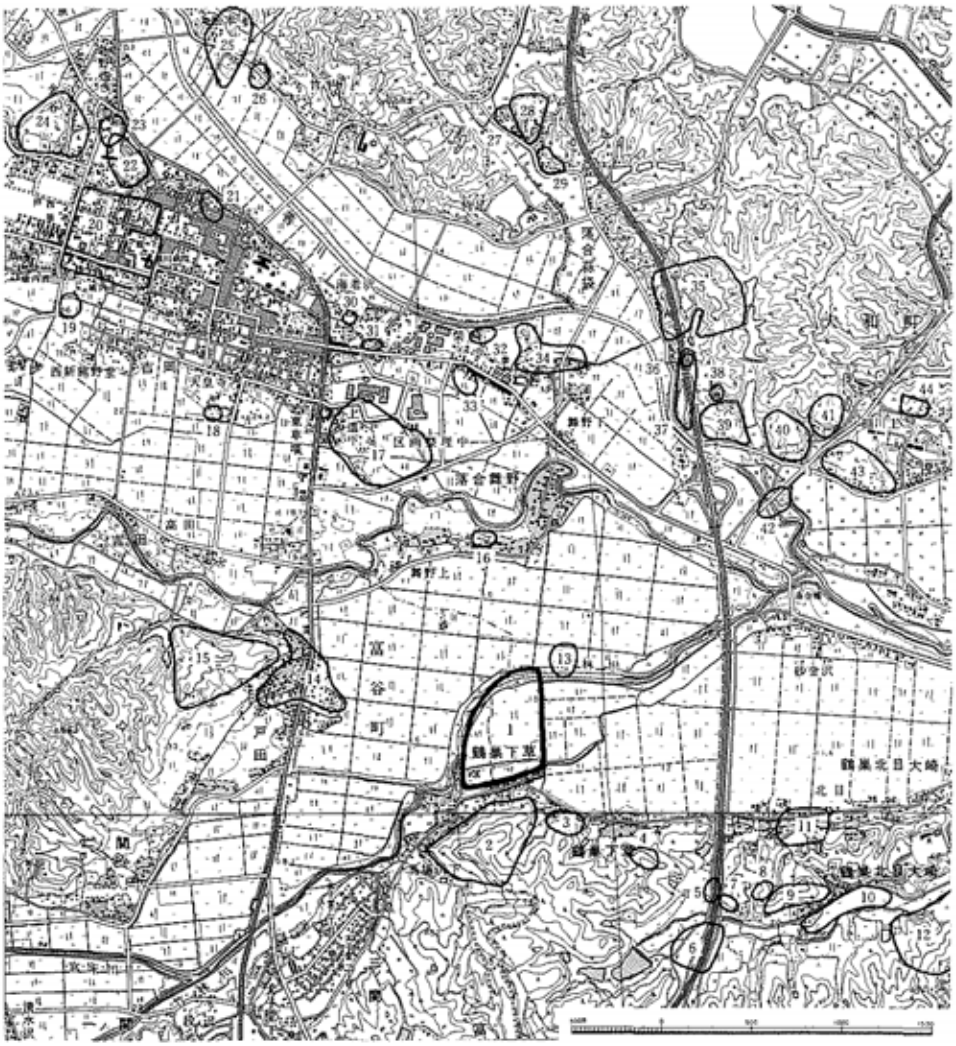
奥羽山脈・船形連峰に端を発した吉田川とその支流である善川、竹林川は、徐々に高度を下げ周辺を開析しながら東流する。大和町の中心部、吉岡から舞野、下草付近では、吉田川に、北西から善川、南西から竹林川が合流しており、広く沖積地が広がっている。遺跡は竹林川が合流する地点から1.5㎞程上流にあり、標高13～15mの自然堤防とその周辺に位置する。

Ⅱ　遺跡の現状と推定される城郭構造（第２図）

遺跡の範囲は東西500m以上、南北約600mで、北西隅のかけた長方形を呈する。遺跡の北と西は竹林川に画され、竹林川に沿った部分は河川改修によって原形を失っている。南は鶴巣館が立地する丘陵に接している。一方、東側は沖積地が広がっている。圃場整備が行なわれているため現在の地形から遺跡の東端は明瞭ではないが、昨年の調査で東端は8・10 区付近であることが確認された。遺跡の現状は水田や畑であり、標高の低い部分は水田、それよりも一段高い平坦な部分は畑として利用されている。

これらを詳細に見てみると、遺跡の南側は水田が広範囲に広がっているのに対して、北側は一段高い畑の部分が広がり、それらを二重に取り囲むように細長い水田部分が認められる。これは城跡の地割りを反映するものであり、高い部分は本丸や二の丸、低い部分は堀という北端中央の畑部分を中心とした城郭配置の様子が明瞭に残存している。渡辺・大藤両氏が『大和町史』において、明治19年の地籍図（以下地籍図と略記）をもとに推定復元した城の構造では、外堀と考えられる水田までが城の郭内であり、現状も当時とほとんど変わっていない。郭外とされた東側、南側には、地籍図によると堀（水田）によって細かく区割りされた部分が広がり、侍屋敷跡と推定されている。しかし、現状では高い部分は島状に散在するのみであり、後世に削平されて水田として利用されている。この南側の水田部分では、細長い水田の形から堀と推定可能なところもあるが、内堀ほど明確なものはない。

以上のように、本遺跡は平野部に築かれた城としては、県内唯一ともいえる保存状態が良好な遺跡である。



番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	下草古城跡	集落跡・城跡	古代・中世	16	上舞野B遺跡	包含地	古代	31	赤崎遺跡	包含地	縄文・古代
2	鶴巣館跡	城跡	中世	17	一宮塚遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	32	西浦田遺跡	包含地	平安
3	道遺跡	包含地	古代	18	天皇寺遺跡	包含地	平安	33	柴崎遺跡	包含地	奈良
4	観音堂小塚群	小塚	中世・近世	19	東遺跡	包含地	古代	34	吉川遺跡	包含地	古代
5	日光山遺跡	墓・祭祀遺跡	奈良・平安・中世・近世	20	吉岡城跡	城跡	江戸	35	御所館跡	城跡	中世
6	勝負沢遺跡	包含地	縄文中・平安	21	安楽院遺跡	包含地	縄文中・後	36	新田古墳 1,2号	古墳	古墳後
7	日光山西小塚	小塚		22	中興寺遺跡	包含地	縄文・晩	37	八谷館跡	城跡	中世
8	日光山小塚群	小塚	中世	23	石神沢遺跡	包含地	旧石器・縄文晩・平安	38	新田古墳 3号	古墳	古墳後
9	別所横穴古墳群	古墳	古墳	24	金谷遺跡	包含地	旧石器・縄文中～晩	39	八谷古城跡	城跡	中世
10	別所遺跡	包含地	古代	25	松本遺跡	包含地	縄文・古代	40	大沢遺跡	包含地	古代
11	寺東遺跡	包含地	古代	26	菊西遺跡	包含地	古代	41	上ノ山遺跡	包含地	平安
12	天神館跡	包含地・城跡	縄文・中世	27	下屋敷遺跡	包含地	古代	42	相川環状遺跡	包含地	縄文・古代
13	上舞野A遺跡	包含地	縄文・古代	28	鶴館跡	城跡	中世	43	熊野遺跡	包含地	古代
14	三ヶ森遺跡	包含地	奈良・平安	29	谷下遺跡	包含地	古代	44	塚越遺跡	包含地	古代
15	結城遺跡	城跡	中世	30	海老沢遺跡	包含地	縄文中				

第１図　遺跡の位置

Ⅲ　文献上の下草古城跡

下草古城については、享保13年（1728年）の『仙台領古城書立之覚』などに記載され、『大和町史』（遠藤・伊藤：1975）にまとめられている。

まず、城主、年代については、伊達政宗の三男で、伊達家の重臣であった飯坂家の後を継いだ宗清が宮城郡松森村から慶長十五年（1610年）に下草に移り、元和二年（1616年）に吉岡に移るまで数年間住んだとされている（遠藤・伊藤：1975）。また、飯坂家の牌所で、現在吉岡にある「天皇寺」の『書上』によると、この寺は飯坂家に従って福島県伊達郡飯坂村から宮城郡松森村に移り、さらに、宗清に一年遅れて、慶長十六年（1611年）に下草に移り、そして元和二年（1616年）に吉岡に移ったことが記され、前記述を裏付けている。

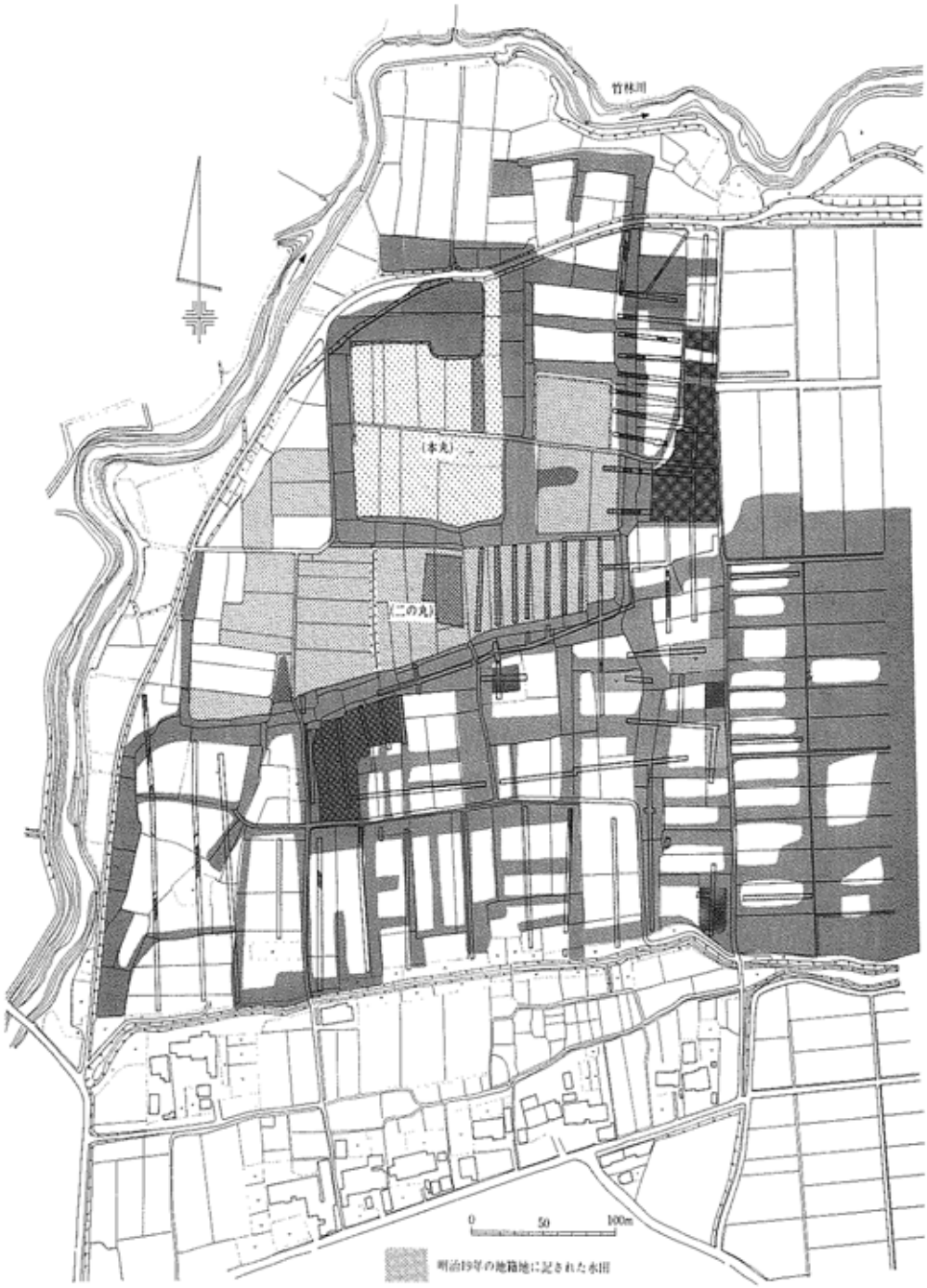
規模は、『仙台領古城書立之覚』によると、

「平　古城　東西四十六間、南北六十八間。但四方ニ土手形上口八間之堀アリ西北ハ川東南ハ幅四間長二百八十間ノ堀アリ」

とある。これは本丸部分が東西約80m、南北約120m、本丸の四方には幅約14mの内堀が巡り、西・北側は竹林川が流れ、東・西側には幅約７m、長さ約500mの外堀がある、と解せ、現地形から推定できる城の構造・規模とほぼ一致する。

なお、文献に記された「下草古城」の城主、年代、規模・構造については上述の通りであるが、これまでの調査結果から宗清が「下草古城」に居城する以前にも町並みが存在していた可能性が高いことが指摘されている（須田：1992・1993）。また、『伊達治家記録』（平：1973）にも、宗清が「下草古城」に居城する以前の天正18・19年（1590･1591年） の大崎葛西一揆平定の時に「下草城」「下草館」の名前が数回現われ、伊達政宗や蒲生氏郷らが立ち寄っていることが記されている（佐野：1980）（註１）。この「下草城」「下草館」と「下草古城」が同一のものであるならば「下草古城」の年代が約二十年遡ることになり、調査結果と矛盾しない。しかし、『伊達治家記録』などに表われる「下草城」「下草館」は16世紀末という年代からも中世の山城である「鶴巣館」を指している可能性もあり、「下草城」「下草館」と「下草古城」が同一のものであるかは不明である。

（註１）仙台市文化財課田中則和氏より御教示いただいた。



第2図　遺跡全体図

第二章　調査に至る過程と方法

Ⅰ　調査に至る過程

今回の調査区は、遺跡の南西部に当たる。この地域の圃場整備に先立ち道水路部分が工事対象となったためその部分の調査を行なった。

調査区は調査着手順に１区・２区・３区…18区というように数字を付してある。昨年度は１～12区まで調査を行なったが、調査期間の関係で、５区は東側半分の精査、７区は確認調査を行なっただけである。このため今年度は13～18区に加えて、５区の西側半分、７区の精査も行なった。調査面積は約12,000㎡である。

13～16区は遺跡の南辺の東西方向の調査区である。15区は遺跡の南西端、16区は南東端にあたる。13区は５区に接続する。

７・17・18区は外堀と推定される部分のすぐ南側の東西方向の調査区である。

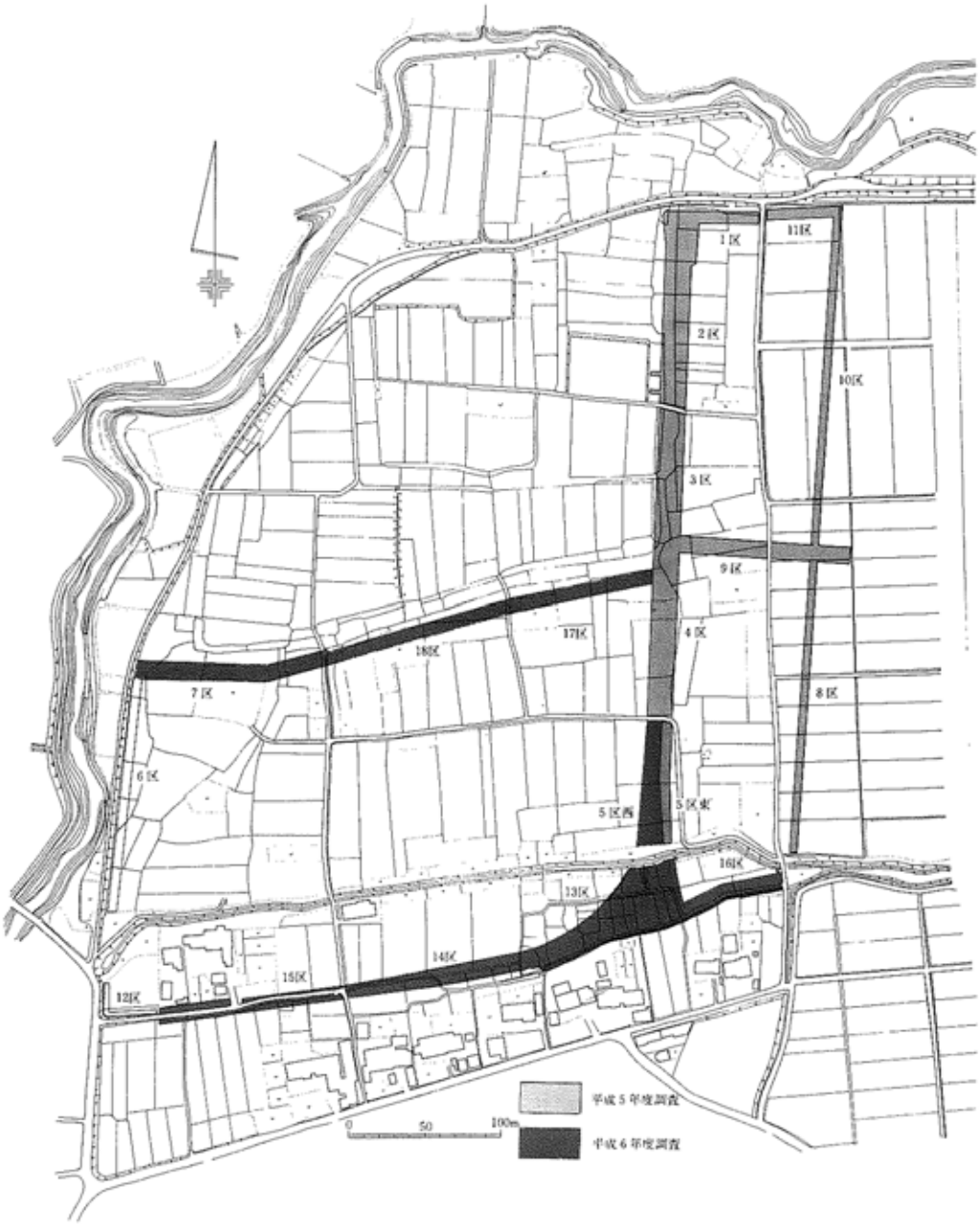
Ⅱ　調査の方法

調査にあたり、５・７・15～18区は、17区南東部の№８杭を座標原点とし、グリッドを設定した。13・14区は測量が間に合わなかったため、圃場整備計画の基準杭をもとに、任意にグリッドを設定した。なお、原点の国家座標は次の通りである。

座標原点（№８杭）　国家座標X=－175273.928　Y=＋6217.872

精査した遺構は、設定したグリッドをもとに簡易遣り方測量、平板測量による平面図を作成し、必要に応じて断面図を作成した。写真記録については35㎜白黒・カラーリバーサル写真、６×７白黒・カラー写真によって行なった。

調査は４月７日に開始し、８月４日に空撮、11月27日に地元の方々を対象に現地説明会を行ない、12月20日に調査を終了した。また、平成６年２月24日には、16区北側部分の緊急工事に伴い、立会い調査を行なった。


1区
11区
2区
10区
3区
9区
4区
17区
18区
7区
8区
6区
5区西
5区東
16区
13区
14区
15区
12区
平成5年度調査
平成6年度調査
0
50
100m

第3図　調査区

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査で多数の遺構が確認されたが、ほとんどが中近世のものである。その他、古墳時代、平安時代の遺構が確認された。

Ⅰ．中近世

１.発見された遺構

掘立柱建物跡、柱穴列跡、道路跡、井戸跡、溝跡、土壙、墓壙、鍛冶遺構、焼け面遺構、炭化物集中遺構、集石遺構、柱穴が確認された。井戸はすべて素掘りであるが、出水や堆積土の崩落で底面まで調査することはできなかった。また、掘立柱建物跡のものと思われる柱穴も各調査区で多数見つかっているが、調査区の幅が広い13区で比較的多く建物跡と認識できたにすぎない。以下、区ごとに主要な遺構の説明を行なう。なお、掘立柱建物跡、柱列跡、井戸、溝、土壙については一覧表（第１表～第8表）を作成したため、区ごとの特徴、特筆すべきことのみ記述する。

(1)　５区面（第５図～第７図）

昨年度調査した５区東の西側未調査部分である。掘立柱建物跡４棟、柱列跡４列、井戸11基、溝15条、土壙３基、焼け面遺構２基、炭化物集中遺構１基、集石遺構１基、柱穴多数が確認された。溝ＳＤ106～111、118は、５区東からの延びが確認されたものである。

また、調査区ほぼ全域にわたり整地層が認められた。整地層は、調査区南部を東西に延びる大溝ＳＤ118を境に、北側の整地層（ＳＸ407）と南側の整地層（ＳＸ420）があるが、両者の関係は確認できなかったため、ＳＸ407とＳＸ420で確認された遺構との関係は不明である。

北側の整地層（ＳＸ407）は、厚さ数㎝～十数㎝、灰黄褐色、黄褐色の砂質シルトで、整地層上下両面で多数の遺構が確認され、上面ではＳ93付近で最大５時期、下面ではＳ138付近で最大３時期にわたる遺構の変遷が認められた。南側の整地層（ＳＸ420）は、厚さ10～20㎝の灰黄褐色の砂質シルト層である。この付近は遺構が少なく、整地層下面で溝１条、井戸１基、柱穴１個が確認されただけである。

これらの整地層が残存していない区域に位置する遺構については、整地層の上面、下面いずれの遺構に属するかは不明である。

《整地層上面で確認された遺構》

柱列跡

【ＳＡ502柱穴列跡】調査区北東部に位置する。南北３間の柱穴列である。柱間寸法は1.9ｍ、掘り方は30～40㎝の円形で、深さは40～50㎝である。柱痕跡は径10㎝の円形である。

【ＳＡ503柱穴列跡】調査区北部に位置する。東西の柱穴列である。ＳＤ428と重複しこれより古い。この柱穴列はＳＤ111南辺に沿って認められ、５区東から連続している。柱間寸法は1.4m、掘り方は40cm前後の不整楕円形で、深さは40～50cmである。柱痕跡は径12cmの円形である。

炭化物集中遺構

【ＳＸ417炭化物集中遺構】調査区南西端に位置する。平面形は直径50cm程の円形を呈していたと推定され、深さ４cmの皿状の窪みに炭化物が層状に堆積していた。

集石遺構

【ＳＸ406集石遺構】調査区中央部西端に位置する。直径2.5m、深さ10cmの窪みに５～30cmの礫が集中していた。窪みには炭化物混じりの暗褐色シルトが堆積していた。

《整地層下面で確認された遺構》

掘立柱建物跡

【ＳＢ501建物跡】桁行２間、梁行１間の東西棟である。建物総長は桁行が3.6m、梁行が2.2m、桁行の柱間寸法は1.8mである。掘り方は40cm前後の円形、深さは20cm前後である。柱痕跡は径12cmの円形である。

柱穴列跡

【ＳＡ504Ａ柱穴列跡】調査区北東部に位置する。南北４間の柱穴列である。柱間寸法は1.6～2.3m、掘り方は長軸50～90cm、短軸30～50cmの円形・楕円形で、深さは40～60cmである。柱痕跡は径12～14cmの円形である。

【ＳＡ504Ｂ柱穴列跡】調査区北東部に位置する。南北４間の柱穴列である。柱間寸法は1.9～2.3m、掘り方は長軸50～60cm、短軸30～50cmの楕円形で、深さは30～40cmである。柱痕跡は径12～14cmの円形である。南から２・３番目の掘り方底面には、径20cm、厚さ５cmの偏平な礫が入れられていた。

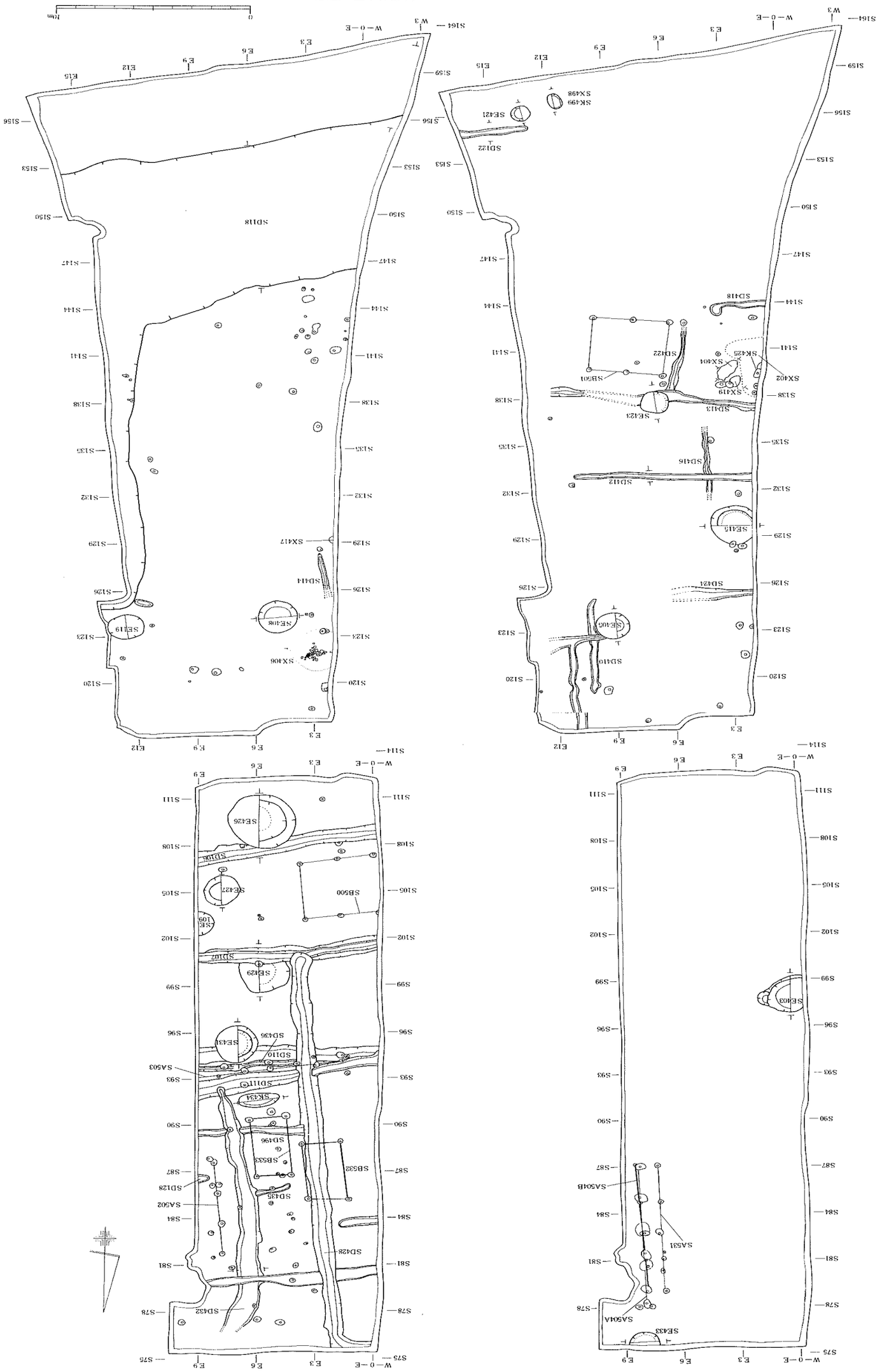
【ＳＡ531柱穴列跡】調査区北東部に位置する。南北４間の柱穴列である。柱間寸法は1.6～2.3mで、掘り方は直径30～40cmの円形、深さは20～30cmである。柱痕跡は径10～12cmの円形である。

炭化物集中遺構

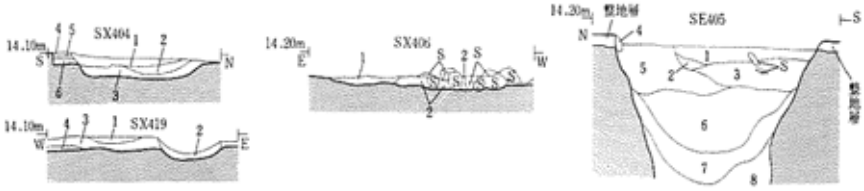
【ＳＸ402炭化物集中遺構】調査区北西部に位置する。ＳＤ413・422と重複しこれより古い。ＳＸ404・ＳＸ419の周辺に不整形に広がり、調査区外に延びている。

焼け面遺構

【ＳＸ404焼け面遺構】調査区北西部に位置する。ＳＸ419と重複しこれより新しい。平面形は長軸150cm、短軸60cmの楕円形で、深さ20cmの皿状の掘り方をもつ。掘り方底面には厚



第5図　5区遺構平面図（右整地上面・不明左　下面）



層No.	土色		土性	備考
SX404 1	2.5Y5/1	黄灰	砂質シルト	粘土ブロック層。固く締まっている。炭化物・焼土粒を多量含む。
2	7.5YR5/1	黒褐	砂質シルト	粘土粒を多量含む。
3	2.5Y5/1	黄灰	砂質シルト	上部は粗砂混。炭化物微量含む。
4	7.5YR5/1	黒	砂質シルト	炭化物・粘土粒含む。下部の炭化物の薄層。
5	10BG1.7/1	黒	砂質シルト	西側でやや厚い。炭混じり。下部の炭化物の薄層ごく少量。
6	2.5Y5/2	暗黄灰	砂質シルト	5の混じる部分あり。

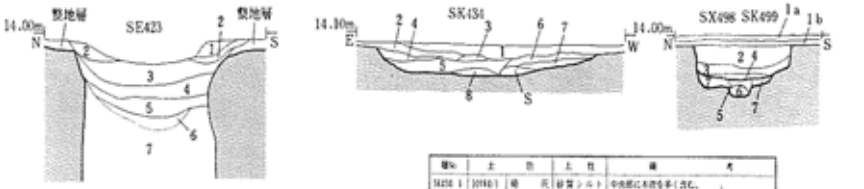
層No.	土色		土性	備考
SX419 1	10BG1/1	暗	粗砂・小礫	シルトを少量含む。粘性・しまりなし。
2	10BG3/1	暗	シルト	小～大礫・少量の炭化物含む。しまりなし。

層No.	土色		土性	備考	
SE405 1	10BG5/2	灰黄褐	シルト	マンガン・炭化物少量含む。少礫含む。	
2	2.5BG2	暗灰黄	シルト	マンガン・炭化物少量含む。	
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトブロック含む。炭化物・少礫含む。	
4	2.5YR3/3	オリーブ褐	シルト	5の混じる部分あり。	自然堆積
5	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	炭化物少量含む。	
6	2.5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	整地層の残存。	
7	5Y5/1	オリーブ黒	粘土質シルト	ブライ化した粘土質シルトブロックを少量含む。	
8	7.5GY3/2	緑	砂質シルト	粘性あり。しまりなし。	
整地	2.5Y6/3	黄	シルト	黄褐色砂質シルト・炭化物を少量含む。粘性なし。しまりあり。	

層No.	土色		土性	備考
1a	10BG2	灰黄褐	砂質シルト	暗黄色砂質シルト・マンガン粒を含む。
1b	2.5Y4/1	黄灰	砂質シルト	マンガン粒を含む。
1c	10BG3	にぶい緑褐	砂質シルト	暗黄色砂質シルト含む。
1d	5Y4/1	灰	砂質シルト	多量の炭化物含む。
SX408 2	2.5Y5/4	黄	砂質シルト	マンガン粒を含む。粘性なし。
3	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	多量の炭化物含む。
4	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	
5	2.5Y4/1	黄灰	シルト	同色の粘土質シルトブロックを少量含む。
6	5Y4/1	灰	粘土質シルト	灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。
7	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
8	7.5Y4/1	灰	粘土質シルト	スクモを互層状に含む。しまりなし。
9	10Y4/1	灰	粘土質シルト	

層No.	土色		土性	備考	
SE415 2	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	炭化物少量含む。粘性あり。	
2	2.5Y4/4	オリーブ黄	砂質シルト	オリーブ褐色粘土質シルトブロック含む。	人為的な埋土
3	5Y6/1	灰	粘土質シルト	オリーブ黄色砂質シルトブロック含む。	
4	7.5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	オリーブ黒色砂質シルトブロック含む。しまりなし。	自然堆積
5	10BG1/1	灰	砂質シルト	整地面上か。粘性・しまりなし。	

層No.	土色		土性	備考
SE421 1	10BG5/2	灰黄褐	砂質シルト	粘化鉄を微量含む。
2	2.5Y6/3	にぶい黄	砂質シルト	上部の酸化が顕著。
3	10BG/1	灰	砂質シルト	黄色シルトブロックを少量含む。
4	7.5Y4/1	灰白	砂質シルト	砂質に富む。
5	10Y4/1	灰白	砂質シルト	1より軟質。
6	2.5Y5/1	灰白	砂質シルト	



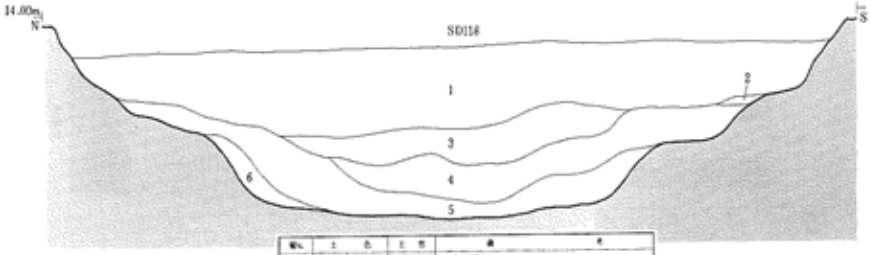
層No.	土色		土性	備考	
SE423 1	2.5Y6/2	暗灰黄	シルト	炭化粒子・マンガン粒・炭化物を少量含む。しまりあり。	
2	10BG6/2	灰黄褐	シルト	炭化物を少量含む。	自然堆積
3	5Y6/1	灰	シルト	炭化物を含む。1・2より粘性あり。	
4	2.5Y6/1	灰	粘土質シルト	炭化物・オリーブ黒色シルトブロックを少量含む。	
5	2.5Y5/1	オリーブ黒	粘土質シルト	灰オリーブ黒色シルトブロックを少量含む。	人為的な埋土
6	2.5Y3/1	オリーブ黒	スクモ	灰オリーブ黒色シルトブロックを少量含む。しまりなし。	
7	2.5Y3/2	黒褐		スクモと粘土質シルトが互層をなす。	

層No.	土色		土性	備考
SX434 1	10YR4/1	暗灰	砂質シルト	中央部に木炭を多く含む。
2	10YR5/1	暗灰	砂質シルト	マンガン粒を含む。
3	2.5Y6/1	黄灰	シルト	マンガン粒を微量含む。
4	2.5Y4/2	暗黄灰	シルト	木炭を微量含む。
5	5Y4/1	灰	シルト	木炭を微量含む。
6	2.5Y5/2	暗黄灰	砂質シルト	マンガン粒を含む。
7	2.5Y4/2	暗黄灰	砂質シルト	マンガン粒を含む。
8	2.5Y4/1	黄灰	シルト	

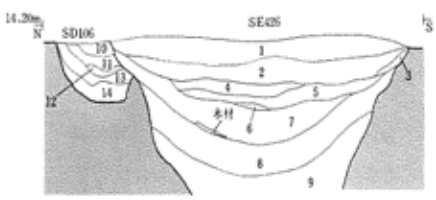
層No.	土色		土性	備考	
1a	10BG5/2	灰黄褐	砂質シルト	整地層。	
1b	10BG5/3	にぶい緑褐	砂質シルト	整地層。1a層をブロック状に含む。	
SX499 2	10BG4/4	暗	砂質シルト	黄色・灰色のシルトブロックを斑状に含む。	
3	10BG4/4	暗	砂質シルト	マンガン粒を含む。	
4	2.5G5/2	黒	シルト	黄色シルトの小ブロックを含む。	人為的な埋土
SX499 5	5Y6/1	灰	シルト	黄色シルトの小ブロックを微量含む。粘性上。	
6	5Y6/3	オリーブ黒	粘土	固くしまっている。	
7	5Y5/1	灰	砂質シルト	マンガン粒を含む。	

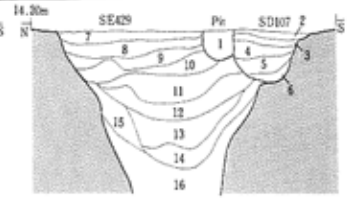
0 1 2m

第6図　5区遺構断面図(1)



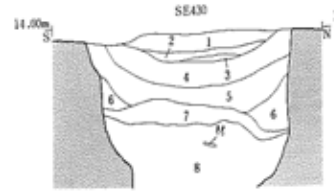
層No.	土	色	土 性	備	考	
SK18 1	1.5Y3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	炭化物を微量含む。		
2	5Y3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	炭化物を含む。		
3	1.5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	炭化物を微量含む。暗緑灰色砂質シルトブロックを含む。		自然堆積
4	5Y4/1	灰	粘土質シルト	灰色小粒砂を少量含む。		
5	1.5Y4/1	灰	粘土質シルト	灰色中～粗砂を少量含む。		
6	10Y3/2	オリーブ黒	砂質シルト	炭化物を少量含む。		

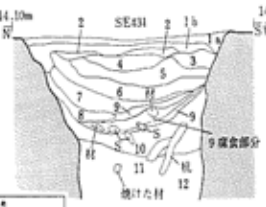


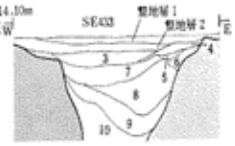


層No.	土	色	土 性	備	考	
SK21 1	2.5Y4/2	暗 灰 黄	シ ル ト	上部は酸化鉄沈着。炭化物を少量含む。しまりなし。		自然堆積
2	10BG/1	暗 灰	シ ル ト	明オリーブ色シルトブロックを多量含む。		
3	2.5Y4/3	オリーブ褐	シ ル ト			人為的な埋土
4	5Y4/1	灰	粘土質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトブロックを含む。		
5	2.5Y4/1	灰	砂質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトブロックを含む。		
6	2.5Y3/1	黒	粘土質シルト	しまりなし。		
7	2.5Y4/1	黄 灰	粘土質シルト	炭化物を微量含む。		
8	7.5Y4/1	灰	粘土質シルト	暗緑灰色砂質シルトと互層をなす。		自然堆積
9	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂質シルト	しまりなくなし。		
SD106 10	2.5Y4/2	暗 灰 黄	シ ル ト	炭化物・炭化物を微量含む。		
11	2.5Y4/3	オリーブ褐	砂質シルト	灰白ブロックを多量に含む。		
12	2.5Y5/2	暗 灰 黄	粘土質シルト	灰白ブロックを含む。		人為的な埋土
13	2.5Y4/2	暗 灰 黄	粘土質シルト	灰白ブロックを含む。		
14	5Y4/1	灰	粘土質シルト	灰白粒を少量含む。		自然堆積

層No.	土	色	土 性	備	考	
1	2.5Y5/3	暗 灰 黄	シ ル ト	ピット埋土		
2	2.5Y5/2	暗 灰 黄	砂質シルト	整地層。灰白砂質シルトを含む。		
SK07 3	10YR4/2	灰 黄 褐	砂質シルト	マンガンを多量含む。		
4	5Y4/1	灰	砂質シルト	灰色ブロックを一部含む。		人為的な埋土
5	5Y4/1	灰	粘土質シルト			
6	5GY4/1	暗オリーブ灰	粘土質シルト			自然堆積
SK09 7	2.5Y5/2	暗 灰 黄	砂質シルト	2と類似。		
8	10YR4/2	暗 灰	砂質シルト	マンガンを多量含む。		
9	10YR5/1	暗 灰	砂質シルト			
10	5Y4/1	灰	砂質シルト	炭化物粒・灰白ブロックを微量含む。		
11	7.5Y4/1	灰	シ ル ト	炭化物粒・灰白ブロックを少量含む。		人為的な埋土
12	5Y4/1	灰	シ ル ト	灰白を微量含む。		
13	5Y3/1	オリーブ黒	シ ル ト	炭化物を微量含む。		
14	10YR3/1	黒 褐	シ ル ト	炭化物をやや多く含む。		
15	5Y3/1	オリーブ黒	砂質シルト			
16	2.5Y3/1	黒 褐	シ ル ト	石ガ小粒含有を含む。		







層No.	土	色	土 性	備	考	
SK08 1	2.5Y4/2	暗 灰 黄	砂質シルト	暗色砂小粒層として生まれる。		
2	2.5Y4/1	黄 灰	砂質シルト	暗色砂を含む。		
3	2.5Y4/3	オリーブ褐	砂	1白粒層上同へ。		
4	2.5Y3/1	黒 褐	砂質シルト	灰色砂質シルトブロックを同様に含む。1・2を少量含む。		人為的な埋土
5	7.5Y4/1	灰	シ ル ト	〃		
6	5Y3/1	灰	シ ル ト	〃		
7	10Y3/2	黒 褐	シ ル ト	腐植を多量含む。木製品出土。		
8	5Y3/1	灰	シ ル ト	腐植されたもの状出。		

層No.	土	色	土 性	備	考	
1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	シ ル ト	整地層。炭化物・灰白粒を少量含む。暗オリーブ褐色砂を含む。		
2	2.5Y4/2	暗 灰 黄	シ ル ト	整地層。炭化物・灰白粒を少量含む。		
SK10 3	2.5Y4/2	暗 灰 黄	粘土質シルト	炭化物・オリーブ褐色砂質シルトブロックを含む。		
4	2.5Y5/2	暗 灰 黄	シ ル ト	炭化物・オリーブ褐色シルトブロックを少量含む。		
5	2.5Y3/2	黒 褐	シ ル ト	灰白粒シルトブロックを少量含む。		人為的な埋土
6	5Y4/1	灰	粘土質シルト	炭化物・灰白粒を少量含む。灰白粒粘土質シルトブロックを多量含む。		
7	2.5GY3	暗オリーブ褐	シ ル ト	炭化物・灰白粒を少量含む。暗灰黄色粘土質シルトブロックを多量含む。		
8	5Y4/1	灰	粘土質シルト	炭化物・灰白粒を含む。灰白粒粘土質シルトブロックを多量含む。		
9	10YR 2/1	黒		炭化物粒。しまりなし。		
10	5Y4/1	灰	粘土質シルト	炭化物を少量含む。		自然堆積

層No.	土	色	土 性	備	考	
SK09 1a	2.5Y5/1	黄 灰	砂質シルト	マンガン含む。酸化鉄含む。		
1b	2.5Y5/1	黄 灰	砂質シルト			
2	5Y4/1	灰	砂質シルト			
3	10YR4/2	灰 黄 褐	シ ル ト	マンガン含む。シルトブロックを多量含む。		
4	5Y4/1	灰	砂質シルト			
5	5Y4/1	灰	シ ル ト			人為的な埋土
6	5Y4/1	灰	砂質シルト	粘土ブロックを少量含む。		
7	5Y5/1	灰	砂質シルト	灰色シルトを含む。		
8	5Y4/1	灰	シ ル ト			
9	10Y4/1	灰	シ ル ト	中間に腐植層（木製品出土）を含む。		
10	5Y4/1	灰	シ ル ト	木製品を含む。		
11	2.5Y3/2	黒 褐	砂質シルト			

第7図　5区遺構断面図（2）

さ10～14㎝の炭化物や焼土を含む黒褐色砂質シルトが堆積し、その上面が厚さ６～８㎝にわたり硬化赤変している。

【ＳＸ419焼け面遺構】調査区北西部に位置する。ＳＸ404と重複しこれより古い。平面形は直径60㎝の楕円形で、深さが８㎝である。掘り方底面には黄灰色砂質シルトが堆積し、その上面が皿状に硬化赤変している。

柱穴

【ＳＸ498柱穴】調査区南西部に位置する。平面形は長軸100㎝、短軸170㎝の楕円形で、深さは40㎝である。ＳＫ499と重複しこれより古い。柱痕跡の底面から、種類は不明だが古銭が３枚重なった状態で出土している。

《不明》

掘立柱建物跡

【ＳＢ500建物跡】桁行２間以上で、梁行１間の東西棟である。建物総長は桁行が3.8m以上、梁行が3.5m、桁行の柱間寸法は1.9mである。掘り方は30㎝前後の円形で、深さは４～５㎝である。柱痕跡は径12㎝の円形である。

(2) ７区（第８図～第10図）

昨年度確認調査を行ない、溝、土壙、柱穴など多数の遺構の存在が知られた。今回の調査の結果、掘立柱建物跡５棟、井戸跡５基、溝跡９条、土壙２基、炭化物集中遺構１基、鍛冶遺構１基、多数の柱穴が確認された。また、調査区中央（W266～296）には、厚さ14～40㎝の整地層（ＳＸ466）が高まり状に残っている。整地層上面では多数の遺構が確認され、W273付近で最大５時期の変遷が明らかとなった。整地層下面では遺構は確認されなかった。

調査区東端では、18区から延びるＳＤ146の南辺とこれに連絡する南北方向の大溝（ＳＤ145、225）が確認され、また、調査区西端ではＳＤ146と連絡すると思われる南北方向の溝２条が確認されただけである。これらと整地層との関係は不明である。

掘立柱建物跡

【ＳＢ505建物跡】調査区中央の整地層上面で確認された。桁行３間以上で、梁行２間の東西棟である。西側部分は耕作によって削平されている可能性がある。ＳＥ489、ＳＫ493、ＳＤ497と重複し、これらより古い。建物総長は桁行が6.6m以上、梁行が3.6m、柱間寸法は桁行2.2m、梁行が1.8mである。掘り方は50㎝前後の円形、深さは50～60㎝である。柱痕跡は径12㎝の円形である。掘り方埋め土には多量の灰白色火山灰がブロック状に入っている。

溝跡

【ＳＤ146溝跡】調査区東端で18区から北東－南西方向に延びる大溝の南辺が確認された。ＳＥ463、古墳時代土器集中地点と重複し、これらより新しい。また、南西方向に延びる大溝ＳＤ256と重複するが新旧関係は認められず、ＳＤ146とＳＤ256は連絡していたものと思われる。ＳＤ146は、調査区東端にあたるW230付近から方向を北西へ変えて延びて行く。調査区の関係で溝の全容は不明だが、断面観察の結果、南辺は緩やかに立ち上がり、南辺から６m北側で深さ２mを計る。下部は水成堆積、上部は人為的に埋め戻されている。

炭化物集中遺構

【ＳＸ490炭化物集中遺構】調査区中央部南端の整地層上面で確認された。直径３mの半円形状に焼土ブロックを含む炭化物層が広がっている。

鍛冶遺構

【ＳＸ549鍛冶遺構】調査区中央部南端の整地層上面で確認された。平面形は直径120㎝の不整形で、深さ15～20㎝の皿状の掘り方をもち、堆積土に炭化物や焼土、鉄滓が認められるため鍛冶遺構と考えられる。堆積土上面は硬化赤変している。

(3) 13区（第11図～第13図）

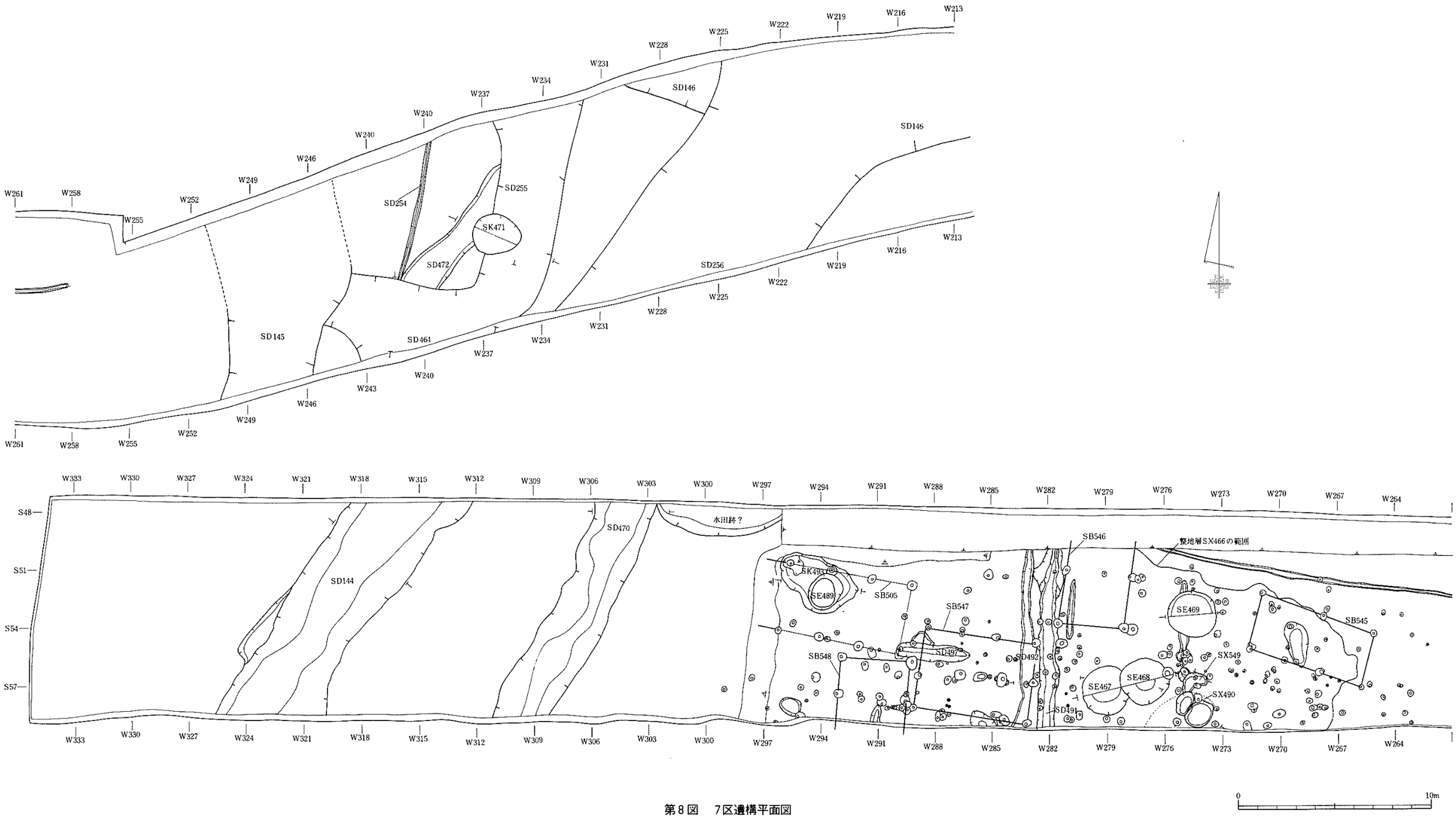
掘立柱建物跡17棟、柱穴列跡２列、井戸跡24基、溝跡14条、土壙１基、柱穴多数が地山面上で確認された。調査区が比較的幅広いため、他の区より多くの掘立柱建物跡17棟が確認された。遺構は調査区の東、南に行くほど密度が低くなる傾向にある。また、調査区南端で一連の可能性がある東西溝ＳＤ487・488の北辺が確認されたが、大溝ＳＤ300との関係は分からなかった。後世の削平のためか整地層は確認されなかった。

掘立柱建物跡

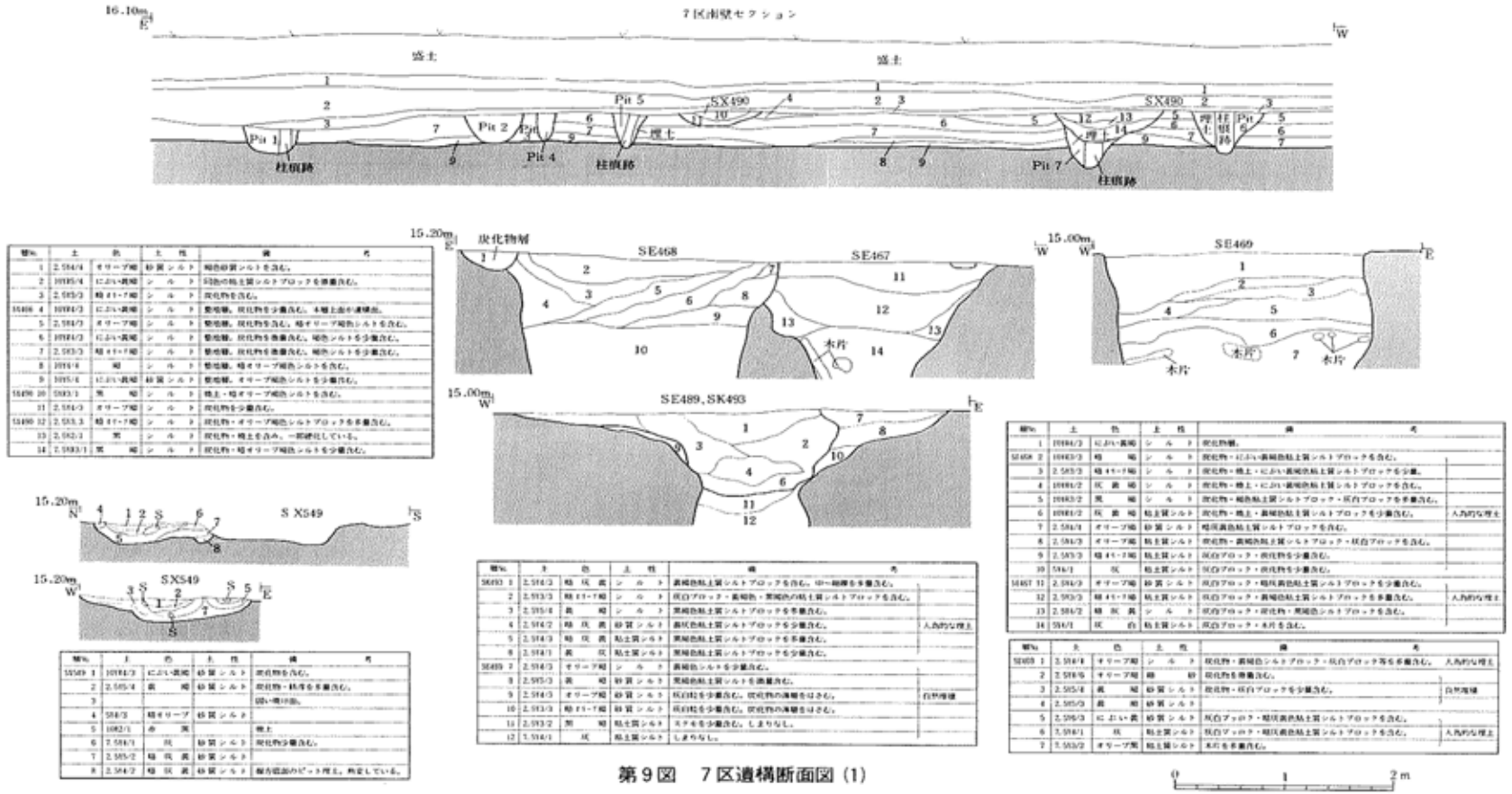
【ＳＢ506建物跡】調査区北東に位置する。桁行１間、梁行１間の南北棟である。柱間寸法は桁行1.8m、梁行0.9mである。掘り方は10～20㎝の円形、深さは10～20㎝、柱痕跡は10～12㎝の円形である。

【ＳＢ507建物跡】調査区北東に位置する。桁行２間以上で、梁行１間の東西棟である。ＳＤ305と重複するが新旧関係は不明である。建物総長は桁行4.8m以上、梁行4.2mである。柱間寸法は桁行2.4m、梁行4.2mである。掘り方は長軸30～40㎝、短軸20～30㎝の楕円形、深さは30～40㎝、柱痕跡は10～12㎝の円形である。

【ＳＢ508建物跡】調査区北部に位置する。桁行５間、梁行１間で、東、南、西に廂をもつ東西棟である。廂は東側は２間、南、西側は１間張り出している。ＳＤ305と重複するが新旧関係は不明である。建物総長は桁行12.3m、梁行6.8mである。柱間寸法は身舎の桁行で1.8～2.0m、廂の張り出し部分では東、南、西とも1.0mである。掘り方は長軸30～60㎝、短軸30～40㎝の楕円形、深さは30～50㎝、柱痕跡は10～20㎝の円形である。また、身舎北


W261
W258
W255
W252
W249
W246
W243
W240
W237
W234
W231
W228
W225
W222
W219
W216
W213
SD146
SD254
SD255
SK471
SD472
SD145
SD464
SD256
W333
W330
W327
W324
W321
W318
W315
W312
W309
W306
W303
W300
W297
W294
W291
W288
W285
W282
W279
W276
W273
W270
W267
W264
S48
S51
S54
S57
SD144
SD470
水田跡？
SK493
SE489
SB505
SB547
SD497
SB548
SD492
SB546
整地層SX466の範囲
SE469
SB545
SX549
SE468
SE467
SX490
SD491
0
10m

第8図　7区遺構平面図



層No.	土色	土性	備考
1	2.5Y4/4 オリーブ褐	砂質シルト	暗色砂質シルトを含む。
2	10YR5/4 にぶい黄褐	シルト	明色の粘土質シルトブロックを微量含む。
3	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	シルト	炭化物を含む。
SE468 4	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	整地層。炭化物を少量含む。4層上面が遺構面。
5	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト	整地層。炭化物を含む。暗オリーブ褐色シルトを含む。
6	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	整地層。炭化物を微量含む。暗色シルトを少量含む。
7	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	シルト	整地層。炭化物を微量含む。暗色シルトを少量含む。
8	10YR4/4 褐	シルト	整地層。暗オリーブ褐色シルトを含む。
9	10YR5/4 にぶい黄褐	砂質シルト	整地層。オリーブ褐色シルトを少量含む。
SE490 10	5YR3/1 黒 褐	シルト	埋土・暗オリーブ褐色シルトを含む。
11	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト	炭化物を少量含む。
SE490 12	2.5Y3.3 暗オリーブ褐	シルト	炭化物・オリーブ褐色シルトブロックを多量含む。
13	2.5Y2/1 黒	シルト	炭化物・埋土を含み、一部硬化している。
14	2.5YR3/1 黒 褐	シルト	炭化物・暗オリーブ褐色シルトを少量含む。

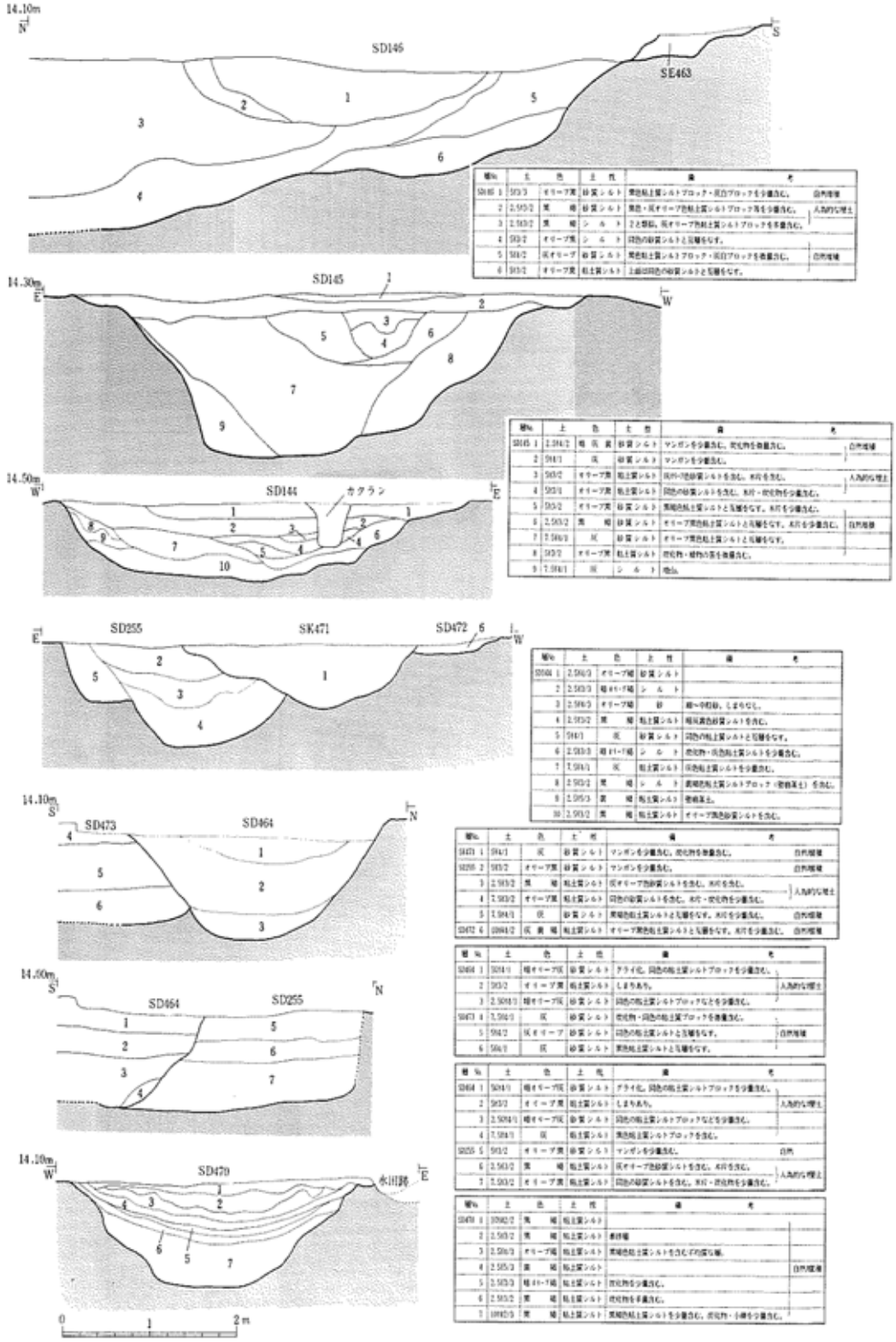
層No.	土色	土性	備考
SK493 1	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを含む。中～細礫を多量含む。
2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	シルト	灰白ブロック・黄褐色・黒褐色の粘土質シルトブロックを含む。
3	2.5Y5/4 黄 褐	シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを多量含む。
4	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	黄灰色粘土質シルトブロックを少量含む。
5	2.5Y4/3 暗灰黄	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを多量含む。
6	2.5Y4/1 黄 灰	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
SE489 7	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト	黄褐色シルトを少量含む。
8	2.5Y5/3 黄 褐	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトを微量含む。
9	2.5Y4/3 オリーブ褐	砂質シルト	灰白粒を少量含む。炭化物の薄層をはさむ。
10	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	砂質シルト	灰白粒を少量含む。炭化物の薄層をはさむ。
11	2.5Y3/2 黒 褐	粘土質シルト	スサを少量含む。しまりなし。
12	2.5Y4/1 灰	粘土質シルト	しまりなし。

層No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 にぶい黄褐	シルト	炭化物層。
SE468 2	10YR3/3 暗 褐	シルト	炭化物・にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
3	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	シルト	炭化物・埋土・にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを少量。
4	10YR4/2 灰黄褐	シルト	炭化物・埋土・にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
5	10YR3/2 黒 褐	シルト	炭化物・暗色粘土質シルトブロック・灰白ブロックを多量含む。
6	10YR4/2 灰黄褐	粘土質シルト	炭化物・埋土・黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 人為的な埋土
7	2.5Y4/4 オリーブ褐	砂質シルト	暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。
8	2.5Y4/3 オリーブ褐	粘土質シルト	炭化物・黄褐色粘土質シルトブロック・灰白ブロックを含む。
9	2.5Y5/3 暗オリーブ褐	粘土質シルト	灰白ブロック・炭化物を少量含む。
10	5Y4/1 灰	粘土質シルト	灰白ブロック・炭化物を少量含む。
SE467 11	2.5Y4/3 オリーブ褐	砂質シルト	灰白ブロック・暗灰黄色粘土質シルトブロックを少量含む。
12	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	粘土質シルト	灰白ブロック・黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。 人為的な埋土
13	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	灰白ブロック・炭化物・黒褐色シルトブロックを含む。
14	5Y4/1 灰 白	粘土質シルト	灰白ブロック・木片を含む。

層No.	土色	土性	備考
SE469 1	2.5Y4/4 オリーブ褐	シルト	炭化物・黄褐色シルトブロック・灰白ブロック等を多量含む。 人為的な埋土
2	2.5Y4/6 オリーブ褐 褐 砂		炭化物を微量含む。
3	2.5Y5/4 黄 褐	砂質シルト	炭化物・灰白ブロックを少量含む。 自然堆積
4	2.5Y5/3 黄 褐	砂質シルト	
5	2.5Y6/3 にぶい黄	砂質シルト	灰白ブロック・暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。
6	7.5Y4/1 灰	粘土質シルト	灰白ブロック・暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。 人為的な埋土
7	7.5Y3/2 オリーブ黒	粘土質シルト	木片を多量含む。

0 1 2 m

第9図　7区遺構断面図（1）



層No.	土色		土性	備考	
SD145 1	5Y3/3	オリーブ黒	砂質シルト	黄色粘土質シルトブロック・灰白ブロックを少量含む。	自然堆積
2	2.5Y5/2	黒褐	砂質シルト	黄色・灰オリーブ色粘土質シルトブロック等を少量含む。	人為的な埋土
3	2.5Y3/2	黒褐	シルト	2と類似。灰オリーブ色粘土質シルトブロックを多量含む。	
4	5Y3/2	オリーブ黒	シルト	同色の砂質シルトと互層をなす。	
5	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト	黄色粘土質シルトブロック・灰白ブロックを微量含む。	自然堆積
6	5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	上部は同色の砂質シルトと互層をなす。	

層No.	土色		土性	備考	
SD145 1	2.5N4/1	暗灰黄	砂質シルト	マンガンを少量含む。炭化物を微量含む。	自然堆積
2	5N4/1	灰	砂質シルト	マンガンを少量含む。	
3	5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	灰オリーブ色砂質シルトを含む。木片を含む。	人為的な埋土
4	5Y3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	同色の砂質シルトを含む。木片・炭化物を少量含む。	
5	5Y5/2	オリーブ黄	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトと互層をなす。木片を少量含む。	
6	2.5Y3/2	黒褐	砂質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトと互層をなす。木片を少量含む。	自然堆積
7	7.5N4/1	灰	砂質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトと互層をなす。	人為的な埋土
8	5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	炭化物・植物の茎を微量含む。	
9	7.5N4/1	灰	シルト	他。	

層No.	土色		土性	備考
SD144 1	2.5N/3	オリーブ暗	砂質シルト	
2	2.5Y3/3	暗オリーブ暗	シルト	
3	2.5N5/3	オリーブ暗	砂	細～中粒砂。しまりなし。
4	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	暗灰黄色砂質シルトを含む。
5	5N4/1	灰	砂質シルト	同色の粘土質シルトと互層をなす。
6	2.5Y3/3	暗オリーブ暗	シルト	炭化物・灰色粘土質シルトを少量含む。
7	7.5N4/1	灰	粘土質シルト	同色粘土質シルトを少量含む。
8	2.5Y3/2	黒褐	シルト	黒褐色粘土質シルトブロック（変質凝土）を含む。
9	2.5Y5/3	黄褐	粘土質シルト	変質凝土。
10	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	オリーブ黒色砂質シルトを含む。

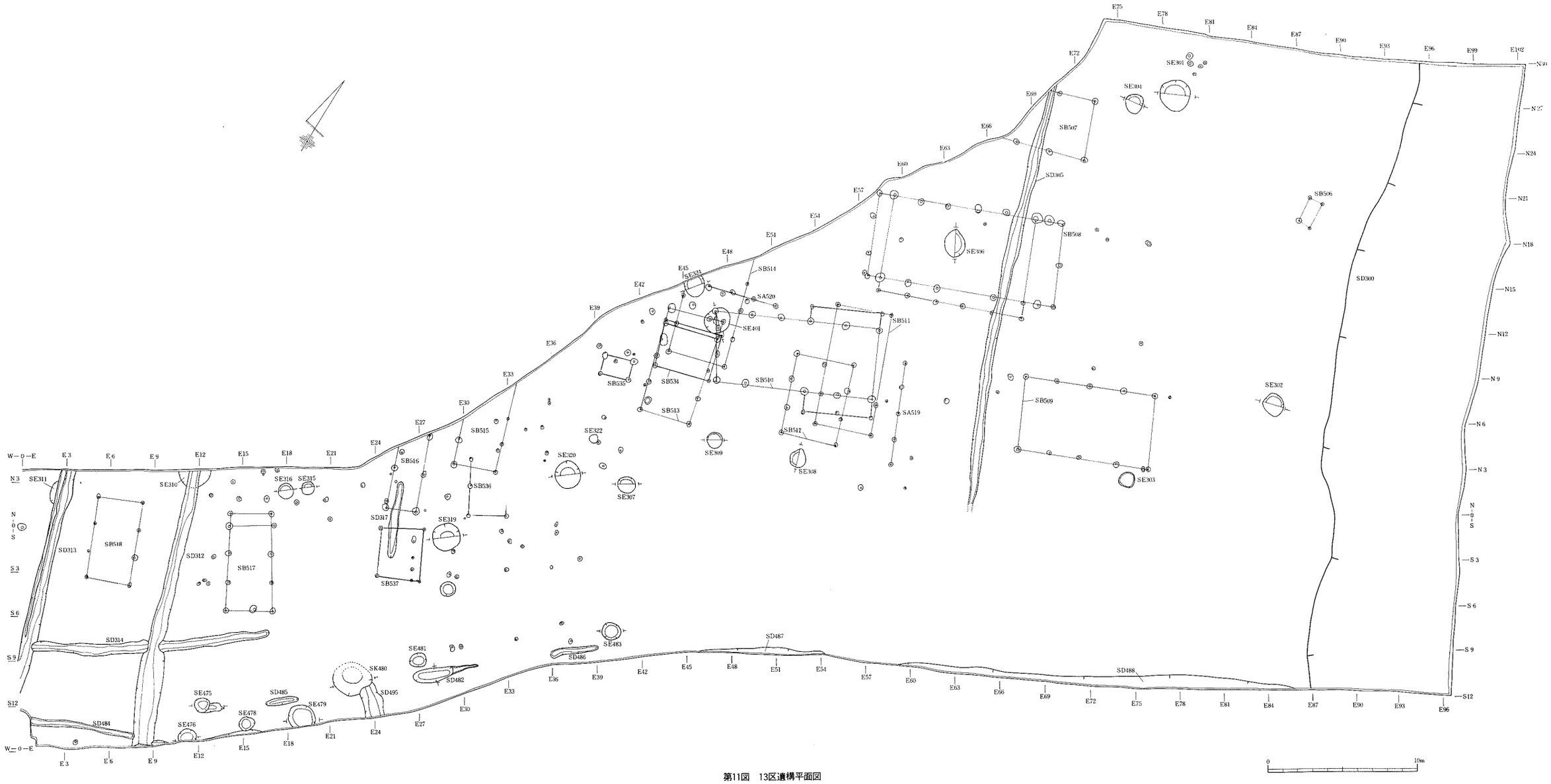
層No.	土色		土性	備考	
SD473 1	5N4/1	灰	砂質シルト	マンガンを少量含む。炭化物を微量含む。	自然堆積
SD255 2	5Y3/2	オリーブ黒	砂質シルト	マンガンを少量含む。	自然堆積
3	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	灰オリーブ色砂質シルトを含む。木片を含む。	人為的な埋土
4	2.5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	同色の砂質シルトを含む。木片・炭化物を少量含む。	
5	2.5N4/1	灰	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトと互層をなす。木片を少量含む。	自然堆積
SD472 6	GLEY1 4/2	灰黄褐	粘土質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトと互層をなす。木片を少量含む。	自然堆積

層No.	土色		土性	備考	
SD464 1	5GY4/1	暗オリーブ灰	砂質シルト	グライ化。同色の粘土質シルトブロックを少量含む。	人為的な埋土
2	5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	しまりあり。	
3	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂質シルト	同色の粘土質シルトブロックなどを少量含む。	
SD473 4	7.5N4/1	灰	砂質シルト	炭化物・同色の粘土質ブロックを微量含む。	自然堆積
5	5N4/2	灰オリーブ	砂質シルト	同色の粘土質シルトと互層をなす。	
6	5N4/1	灰	砂質シルト	黒色粘土質シルトと互層をなす。	

層No.	土色		土性	備考	
SD464 1	5GY4/1	暗オリーブ灰	砂質シルト	グライ化。同色の粘土質シルトブロックを少量含む。	人為的な埋土
2	5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	しまりあり。	
3	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	砂質シルト	同色の粘土質シルトブロックなどを少量含む。	
4	7.5N4/1	灰	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロックを含む。	
SD255 5	5Y3/2	オリーブ黒	砂質シルト	マンガンを少量含む。	自然
6	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	灰オリーブ色砂質シルトを含む。木片を含む。	人為的な埋土
7	2.5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	同色の砂質シルトを含む。木片・炭化物を少量含む。	

層No.	土色		土性	備考	
SD470 1	10YR2/2	黒褐	粘土質シルト		
2	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	耕作層	
3	2.5Y4/3	オリーブ暗	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを含むその他の層。	
4	2.5Y5/3	黄褐	粘土質シルト		自然堆積
5	2.5Y3/3	暗オリーブ暗	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	
6	2.5Y5/2	黒褐	粘土質シルト	炭化物を多量含む。	
7	10YR2/3	黒褐	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを少量含む。炭化物・小礫を少量含む。	

第10図　7区遺構断面図（2）



第11図　13区遺構平面図

辺の東端の掘り方底面には、石臼の上臼が入れられていた。

【ＳＢ509建物跡】調査区東に位置する。桁行４間、梁行１間の東西棟である。建物総長は桁行10.0m、梁行5.0mである。柱間寸法は桁行2.5mである。掘り方は径30～40㎝の円形、深さは20～30㎝、柱痕跡は10～12㎝の円形である。

【ＳＢ510建物跡】調査区中央に位置する。桁行５間、梁行１間の東西棟である。北辺・南辺の東側には１間の張り出しをもつ。ＳＥ401、ＳＢ511、512、513、534と重複し、ＳＥ401より新しいが、ＳＢ511～513･534との新旧関係は不明である。建物総長は桁行17.2m、梁行4.8m、柱間寸法は桁行2.1～2.4mである。掘り方は長軸30～40㎝、短軸20～30㎝の楕円形、深さは30～40㎝、柱痕跡は10～12㎝の円形である。また、南辺の東側から３番目の掘り方底面には、径15㎝の偏平な礫が入っていた。

【ＳＢ511建物跡】調査区中央に位置する。桁行３間、梁行１間の南北棟である。ＳＢ510と重複するが新旧関係は不明である。建物総長は桁行5.4m、梁行3.8mである。柱間寸法は桁行1.9～2.0mである。掘り方は径30㎝の円形、深さは20㎝前後、柱痕跡は10㎝の円形である。

【ＳＢ512建物跡】調査区中央に位置する。桁行３間以上で、梁行１間の南北棟である。ＳＥ401と重複しこれより新しい。建物総長は桁行5.8m、梁行3.9m、柱間寸法は桁行1.9～2.0mである。掘り方は径30㎝の円形、深さは20㎝前後、柱痕跡は10㎝の円形である。

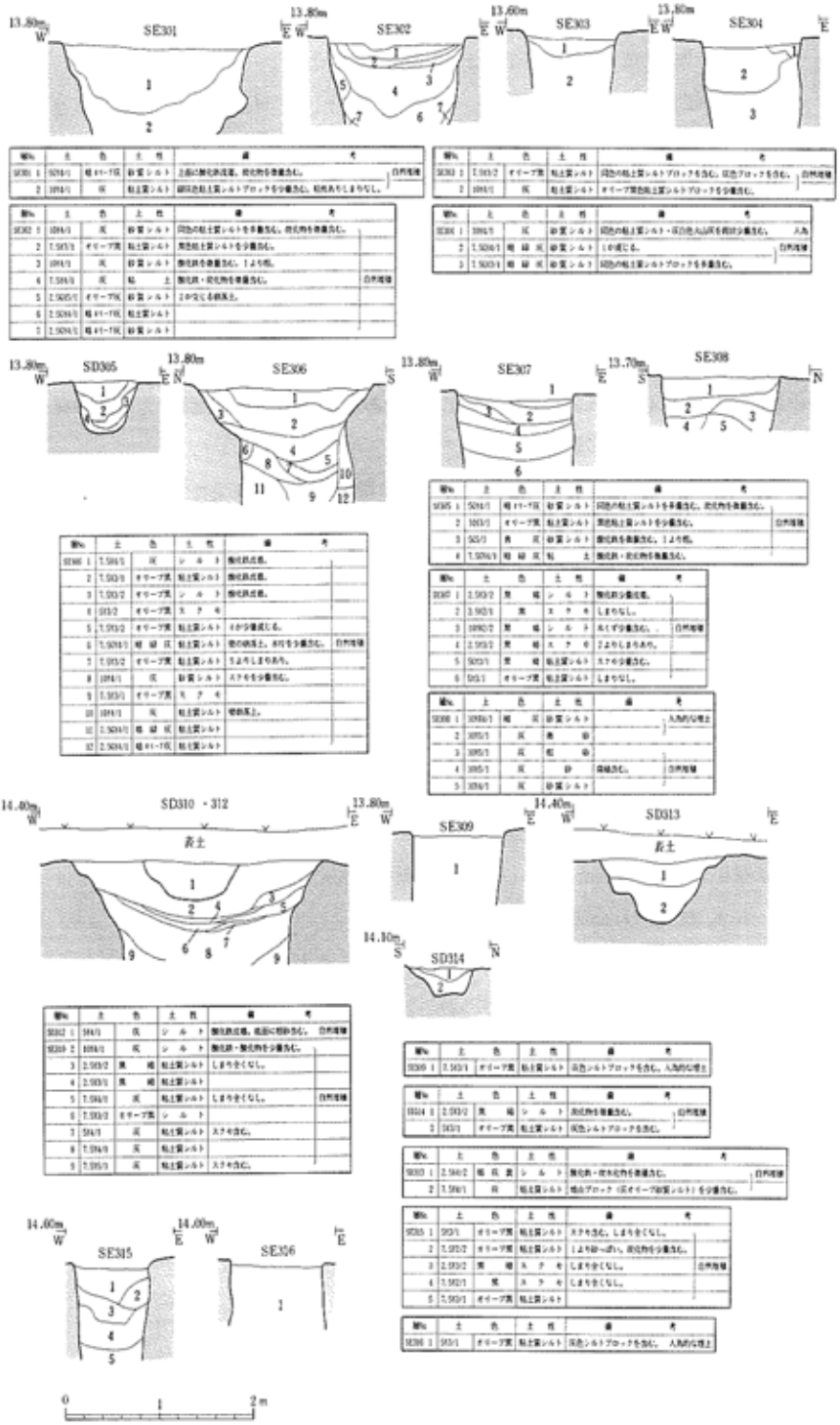
【ＳＢ513建物跡】調査区中央に位鷺する。桁行３間、梁行１間の南北棟で、北側に廂が付く。ＳＥ401、ＳＢ510、512、534と重複し、ＳＥ401より新しいが、ＳＢ510、512、534との新旧関係は不明である。建物総長は桁行7.2m、梁行3.4m、柱間寸法は身舎で桁行1.8m、廂の張り出し部分で0.9mである。掘り方は長軸40～60㎝、短軸30～50㎝の楕円形、深さは30～40㎝、柱痕跡は12㎝前後の円形である。

【ＳＢ514建物跡】調査区中央に位置する。桁行３間以上で、梁行１間の南北棟で、ＳＢ510･513、ＳＡ520、ＳＥ324・401と重複するが、これらとの新旧関係は不明である。掘り方は長軸40～60㎝、短軸30～50㎝の楕円形、深さは30～40㎝、柱痕跡は12㎝前後の円形である。

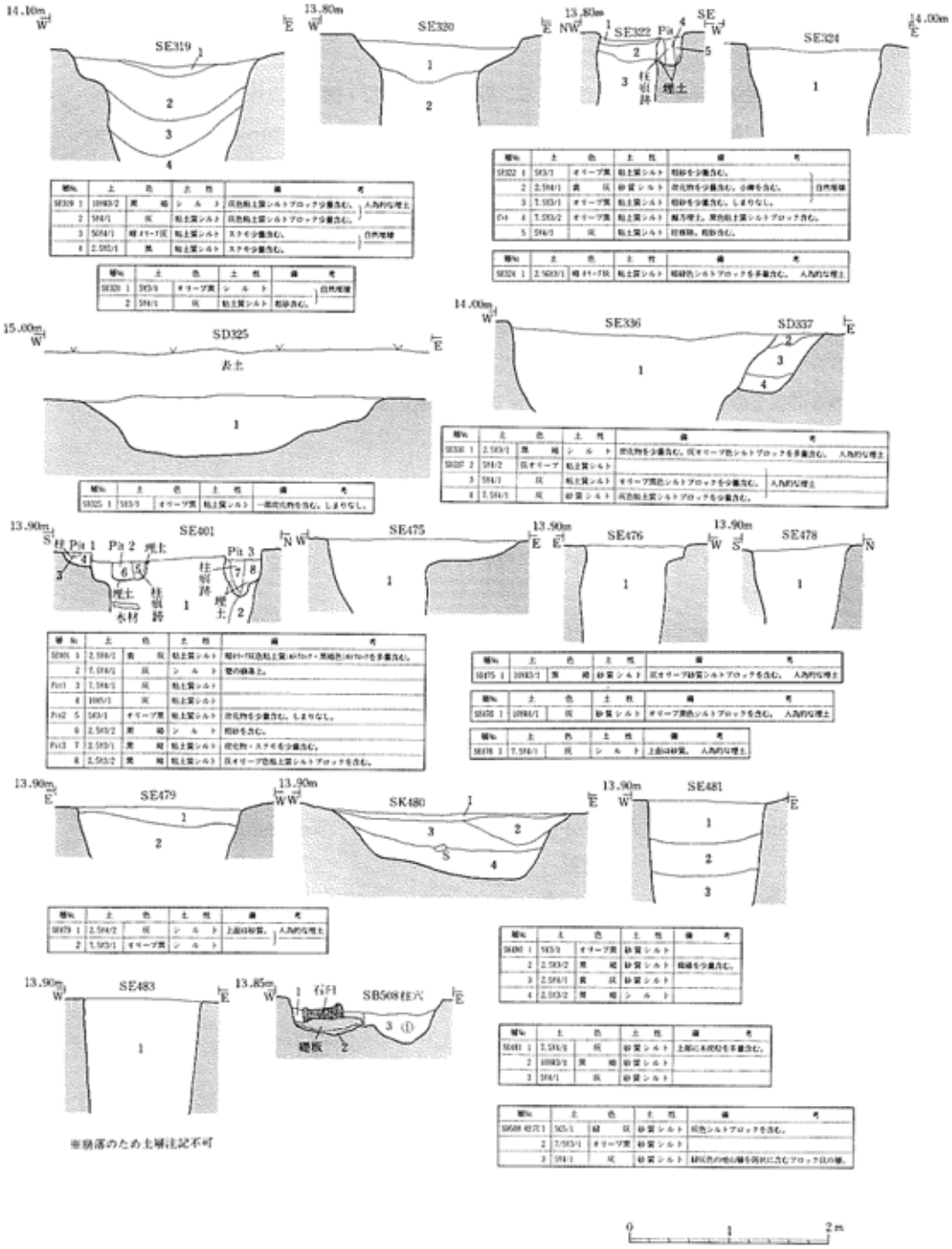
【ＳＢ515建物跡】調査区西部に位置する。桁行２間以上で、梁行１間の南北棟である。柱間寸法は桁行1.8～1.9mである。掘り方は径30～50㎝の円形、深さは20㎝前後、柱痕跡は10㎝の円形である。

【ＳＢ516建物跡】調査区西部に位置する。桁行２間以上で、梁行１間の南北棟である。柱間寸法は桁行2.4～2.6mである。掘り方は径30～50㎝の円形、深さは20㎝前後、柱痕跡は10㎝の円形である。

【ＳＢ517建物跡】調査区西部に位置する。桁行３間、梁行１間の南北棟で、北側に廂が付く。建物総長は桁行6.4m、梁行3.2m、柱間寸法は身舎で桁行1.8～1.9m、廂の張り出し部



第12図　13区遺構断面図（1）



第13図　13区遺構断面図（2）

分で0.8mである。掘り方は径30～50㎝の円形、深さは20㎝前後、柱痕跡は10㎝の円形である。

【ＳＢ518建物跡】調査区西端に位置する。桁行３間、梁行１間の南北棟である。建物総長は桁行5.8m、梁行2.9m、柱間寸法は桁行1.9mである。掘り方は径20～40㎝の円形、深さは20㎝前後、柱痕跡は10～12㎝の円形である。

柱列跡

【ＳＡ519柱列跡】調査区中央に位置する。南北３間のもので、柱間寸法は1.8mである。掘り方は径20～40㎝の円形、深さは20㎝前後、柱痕跡は10～12㎝の円形である。ＳＢ512と方向を揃えるもので、位置的にＳＢ512の目隠し塀と考えられる。

【ＳＡ520柱列跡】調査区中央に位置する。ＳＢ514と重複するが新旧関係は不明である。東西３間以上のもので、柱間寸法は1.8mである。掘り方は径20～40㎝の円形、深さは30㎝前後、柱痕跡は10㎝前後の円形である。

(5)　14区（第14図～第16図）

掘立柱建物跡７棟、柱列跡２列、道路跡１条、井戸15基、溝26条、土壙12基、柱穴多数が地山面で確認された。後世の削平のためか整地層は認められなかった。

掘立柱建物跡

【ＳＢ521建物跡】調査区の東側に位置する。桁行１間、梁行１間の東西棟である。ＳＡ523柱列跡と重複するが、新旧関係は不明である。建物総長は桁行3.6m、梁行1.8mである。掘り方は径30～40㎝の円形、深さは40㎝前後、柱痕跡は12㎝前後の円形である。

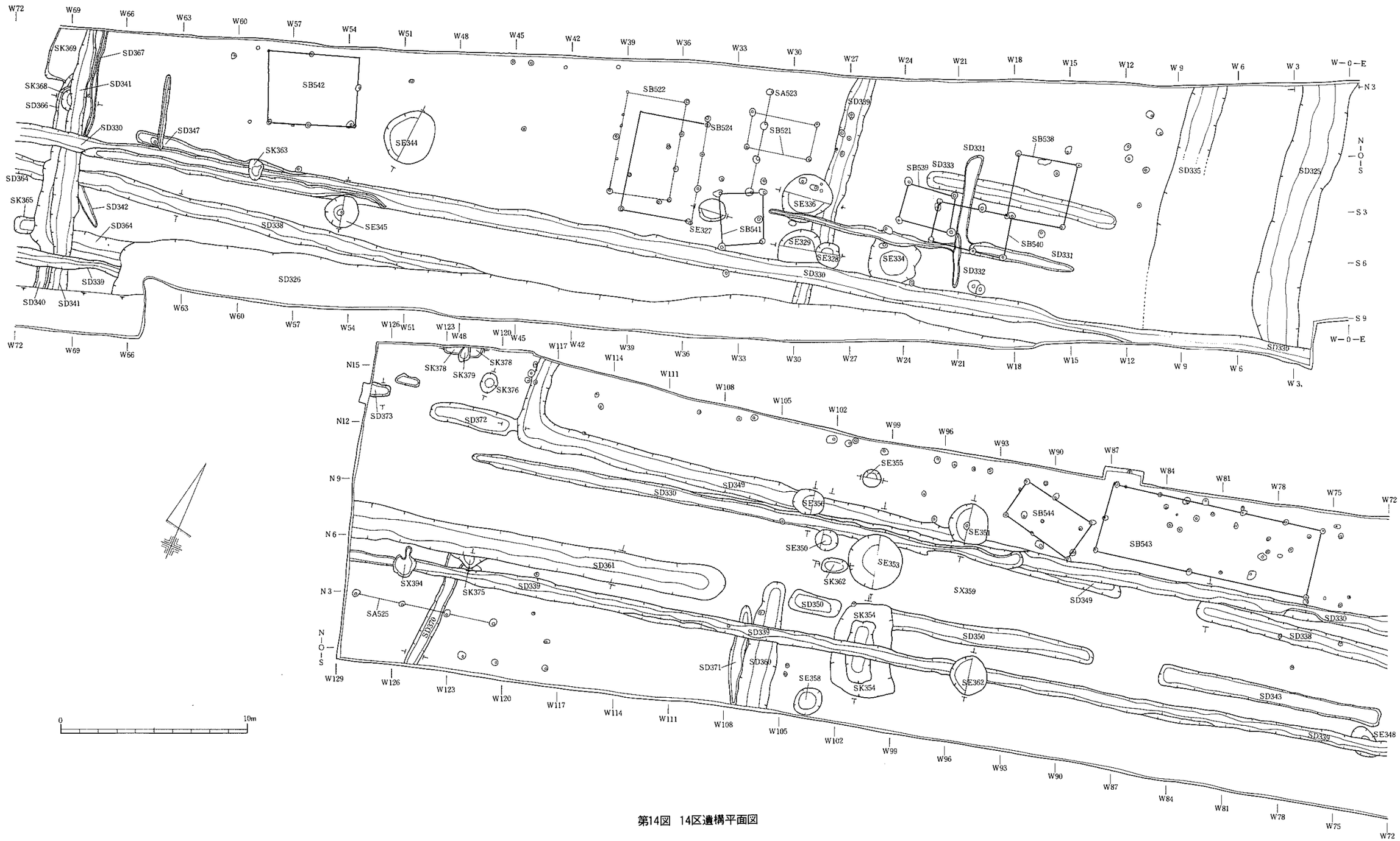
【ＳＢ522建物跡】調査区の東側に位置する。桁行３間、梁行１間の南北棟である。ＳＢ524建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。建物総長は桁行5.4m、梁行3.6m、柱間寸法は桁行1.8mである。掘り方は径20～40㎝の円形、深さは20～40㎝、柱痕跡は10㎝前後の円形である。

【ＳＢ524建物跡】調査区の東側に位置する。ＳＢ522と重複するが新旧関係は不明である。桁行３間、梁行１間の南北棟である。建物総長は桁行3.6m、梁行1.8m、柱間寸法は桁行1.8mである。掘り方は平面形が径30～50㎝の円形、深さは30～40㎝、柱痕跡は12㎝前後の円形である。

柱列跡

【ＳＡ523柱列跡】調査区の東側に位置する。ＳＢ521と重複するが新旧関係は不明である。南北３間で、柱間寸法は1.8mである。掘り方は径50㎝前後の円形、深さは30㎝前後、柱痕跡は10㎝前後の円形である。

道路跡



第14図　14区遺構平面図

【ＳＸ359道路跡】調査区を東西方向に平行に延びる溝が認められた。その溝の新旧関係から２時期の変遷が認められた。これらの溝はほぼ一定の間隔を保っていること、部分的に途切れており、取水・排水溝としては機能していないこと、溝の間に遺構がほとんど認められないことなどから、南北両側に素掘りの側溝をもつ東西方向の道路跡と考えられる。古い時期の道路をＳＸ359Ａ、新しい時期の道路をＳＸ359Ｂとする。これらに伴う側溝は次の通りである。

ＳＸ359Ａ北側溝：ＳＤ338・349	ＳＸ359Ｂ北側溝：ＳＤ330・346
南側溝：ＳＤ343・350・361・364	南側溝：ＳＤ339

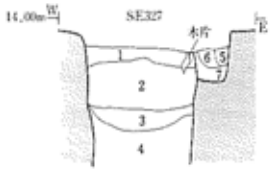
ＳＸ359Ａは14区W48付近～15区東壁で確認され、長さは約85㎝である。道路の方向はW－５°－Ｓである。路幅は南北側溝の心心で4.0～5.5mを計り東側ほど狭くなっている。側溝の深さは50～80㎝で、上部は人為的に埋め戻されている。また、調査区西端のW117付近で北側溝ＳＤ349が北へ向きを変え、南側溝ＳＤ349が西方向（15区）へ延びていくことが確認されたことから、この付近は北方向へ道路が分岐する交差点の可能性がある。しかし、15区では痕跡的に認められるだけである。

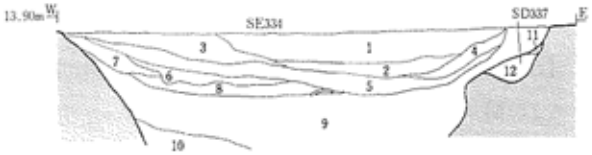
ＳＸ359Ｂは14区W－0－Ｅ付近～15区W230付近で確認された。15区では痕跡的に認められるのみであるが、これも含め長さは約170mある。道路の方向はW－10°－Ｓである。路幅は南北側溝の心心で6.5mを計る。側溝の深さは20～40㎝で堆積土はすべて自然堆積である。またW51～68、87～97付近で北側溝ＳＤ330と同方向で重複するＳＤ346が確認され、部分的に作り直された可能性がある。

ＳＸ359Ａ・Ｂは多数の遺構と重複するが、代表的な遺構で古いほうからＳＸ359Ａ道路跡→ＳＫ354土壙跡→ＳＸ359Ｂ道路跡→ＳＥ353井戸跡の変遷を示している。このことから、ＳＸ359Ａ・Ｂは連続して存在していたものではなく、また、長期間存続していたものでもないことが分かる。

土壙跡

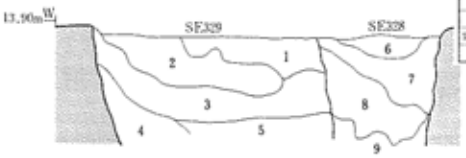
【ＳＫ354】調査区南西部に位置する。ＳＤ339、350と重複し、ＳＤ339より古く、ＳＤ350より新しい。平面形は長軸5.0m、短軸3.0mの隅丸長方形で、深さは1.2mである。下部（16～19層）は自然堆積、上部（5～15層）は人為的な埋め土、最上層（３～４層）は自然堆積土である。５・６・14・15層からは伊達家の家紋である「三ツ引両」が描かれた漆塗りの蓋のほか、漆塗りの蓋、箸、下駄、曲げ物など多数の木製品が出土している。

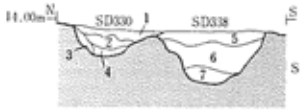




層No.	土色	土性	備考	
SE327 1	10BG1/2	にぶい青緑	砂	地山層などを含む。
2	5Y4/1	オリーブ黒	砂	2を斑状に含む。
3	5Y3/1	黒褐	シルト	2を少量含む。
4	2.5Y4/1	灰	砂	粗粒系土。
Fig. 5	2.5Y4/1	灰	砂	炭化物、黒褐色シルトブロック・褐色砂等を含む。
6	2.5Y4/1	灰	シルト	縞状堆土。黒色シルトを斑状に含む。
7	2.5Y4/1	灰	砂質シルト	縞状堆土。

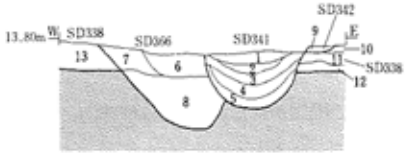
層No.	土色	土性	備考	
SE334 1	10BG2/2	黒褐	シルト	炭化物を多く含む。
2	2.5BG2/1	黒	シルト	腐植を多く含む。炭化物を微量含む。
3	5Y4/2	灰オリーブ	砂	同色のシルトブロック等を含む。
4	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト	人為的な埋土
5	10BG1/1	黒褐	シルト	灰オリーブ色砂を含む。
6	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト	灰オリーブ色砂や炭化物を含む。
7	2.5BG1/2	黒褐	シルト	比較的均質。
8	10BG1/1	黒褐	シルト	灰オリーブ色砂を含む。
9	5G3/2	オリーブ黒	シルト	炭化物を含む。灰オリーブ色シルトブロックを含む。 自然堆積
10	5Y4/2	灰オリーブ	砂	粗粒系土。
SD337 11	2.5G4/2	灰	シルト	自然堆積
12	2.5G3/2	オリーブ黒	シルト	

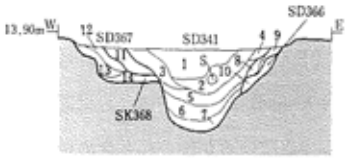




層No.	土色	土性	備考	
SE329 1	2.5G3/1	オリーブ黒	砂質シルト	砂・灰オリーブ色シルト等を斑状に含む。
2	2.5G3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	オリーブ黒色シルトブロックを多く含む。 人為的な埋土
3	2.5G3/1	灰	シルト	黒色シルトブロックを含む。1・2より古い。
4	5BG1/1	灰	砂質シルト	粗粒系土。 自然堆積
5	2.5G4/1	暗オリーブ灰	シルト	同色の砂質シルトを含む。 人為的な埋土
SE328 6	2.5G3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	炭化物を少量含む。オリーブ黒色シルトブロックを含む。
7	2.5G3/1	黒褐	スナキ	炭化物を少量含む。しまりなし。 自然堆積
8	2.5G3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	同色砂質シルトブロックを含む。 人為的な埋土
9	2.5G3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	8程よりしまりなし。

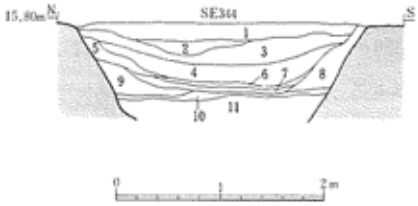
層No.	土色	土性	備考	
SD330 1	2.5G4/2	暗灰黄	砂質シルト	酸化鉄成層。マンガンを含む。 自然堆積
2	5G3/1	オリーブ	粘土質シルト	マンガンを含む。
3	5Y4/1	灰	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロック・灰オリーブ粘土質シルトブロック等を含む。 人為的な埋土
4	5G3/1	オリーブ	粘土質シルト	白色ブロック・灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。 自然堆積
SD338 5	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	
6	2.5Y4/1	灰	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロックを含む。 人為的な埋土
7	2.5Y3/2	黒	粘土質シルト	





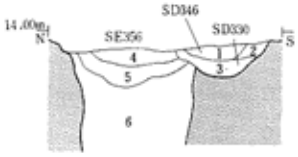
層No.	土色	土性	備考	
SD341 1	7.5Y3/1	黒褐	シルト	木片を少量含む。
2	2.5Y6/1	黄灰	粘土質シルト	粘質あり。
3	5Y4/1	灰	粘土質シルト	炭化物を少量含む。 自然堆積
4	5Y4/1	灰	スナキ	
5	5Y4/1	灰	スナキ	灰オリーブ色シルトブロックを少量含む。
SD366 6	5G3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	灰オリーブ色シルトブロックを多量含む。
7	5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	灰オリーブ色シルトブロックを少量含む。 人為的な埋土
8	5Y4/2	灰オリーブ	粘土質シルト	灰オリーブ色シルトブロックを含む。
SD342 9	5Y4/2	灰オリーブ	シルト	灰オリーブ色シルトを少量含む。 自然堆積
SD338 10	2.5G3/2	黒褐	シルト	マンガンを少量含む。
11	5G3/1	オリーブ黒	粘土質シルト	灰オリーブ色シルトを少量含む。 自然堆積
12	7.5G3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	灰オリーブ色粘土質シルトを少量含む。
13	2.5G3/2	オリーブ黒	シルト	下部に同色の黄褐色の粘土質シルトブロックを含む。

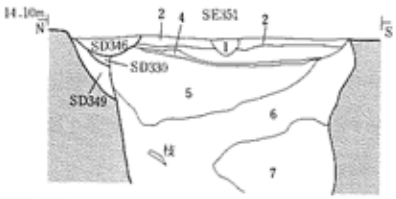
層No.	土色	土性	備考	
SD341 1	5Y4/1	灰	シルト	炭化物を少量含む。黄褐色シルトブロックを多量含む。 人為的な埋土
2	2.5G3/2	黒褐	粘土質シルト	径10cm程の木材を含む。
3	2.5G3/2	黒褐	シルト	マンガンを少量含む。オリーブ褐色シルトブロックを少量含む。
4	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	マンガンを少量含む。 自然堆積
5	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	スナキを少量含む。しまりなし。
6	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	黄褐色シルトブロックを少量含む。
7	2.5Y4/1	灰	粘土質シルト	
SD366 8	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	しまりなし。
9	2.5Y4/1	黄灰	シルト	オリーブ褐色砂質シルトを少量含む。 自然堆積
10	2.5Y4/1	灰	シルト	厚さ約1cmの炭化物層を含む。にぶい黄色シルトブロックを含む。
SD367 11	2.5Y4/3	オリーブ褐	粘土質シルト	灰色シルトブロックを含むザックリした層。
SK368 12	2.5Y4/1	黄灰	シルト	マンガンを少量含む。にぶい黄色シルトブロックを少量含む。 人為的な埋土
13	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	にぶい黄色シルトブロックを多量含む。粘性あり。
14	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを含む。しまりあり。



層No.	土色	土性	備考	
SE344 1	5Y4/1	灰	シルト	酸化鉄成層。炭化物を微量含む。
2	5.5Y4/1	灰	砂質シルト	地山層・黒色シルトの小ブロックを含む。
3	10Y4/1	灰	砂質シルト	1・2・地山層が混合する。
4	5Y4/1	灰	シルト	比較的均質。 人為的な埋土
5	5G3/1	オリーブ黒	砂質シルト	地山層・黒色シルトが混在する不均質な層。
6	2.5G3/2	オリーブ黒	シルト	比較的均質。
7	2.5G3/1	オリーブ黒	シルト	黒褐色シルトを局部的に多く含む。
8	5G3/1	オリーブ黒	シルト	地山層を多く含む。黒色シルトを微量含む。
9	5Y4/1	灰	シルト	地山層を多く含む。黒色シルトを微量含む。
10	5.5Y4/1	灰	シルト	均質。 自然堆積
11	10Y4/1	灰	砂質シルト	地山層を含む。

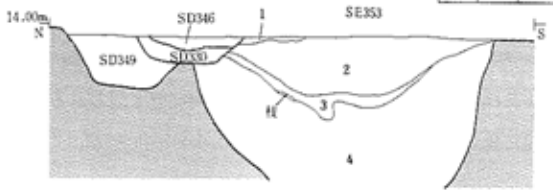
第15図　14区遺構断面図（1）

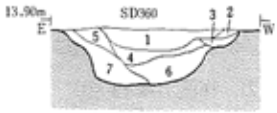




層No.	土色		土性	備考	
SE356 1	10BG1/1	暗灰	シルト	黄褐色細砂を含む。炭化物を少量含む。	自然堆積
2	2.5G4/2	暗灰黄	シルト	黄褐色細砂を含む。灰白粒を少量含む。	
SD330 3	2.5G3/1	黒	粘土質シルト	暗灰黄色粘土質。40%ｶﾚ・炭化物・灰白粒を少量含む。	自然堆積
SE356 4	10BG1/3	黒	シルト	暗灰黄色粘土質。40%ｶﾚ・炭化物・灰白粒を少量含む。	人為的な埋土
5	10BG2/2	黒	スクモ	炭化物を含む。	自然堆積
6	10BG2/2	黒	粘土質シルト	灰白70%ｶﾚ・灰白10~15%（40%ｶﾚ・1%）を多量含む。	人為的な埋土

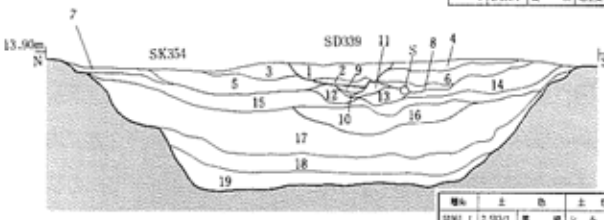
層No.	土色		土性	備考	
SE351 1	2.5G3/1	黒褐	砂質シルト	ピット埋土。暗黄灰色砂質シルト・炭化物を斑状に含む。	
2	10Y4/1	灰	シルト	暗黄灰色砂質シルト・黒色シルト・炭化物を斑状に含む。	
3	10Y4/1	灰	シルト	暗黄灰色砂質シルト・黒色シルト・炭化物を斑状に含む。	
4	10BG2/2	黒褐	シルト	褐鉄を多量含む。	人為的な埋土
5	10Y4/1	灰	シルト	黄灰色シルト・黒色シルトを含む。	
6	10Y4/1	灰	シルト	黒色シルト・灰をブロック状に含む。	
7	7.5Y4/1	灰	シルト	下部は緑灰色シルト。黒色シルトブロックを少量含む。	

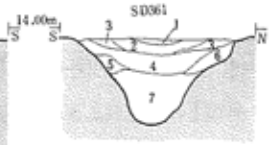




層No.	土色		土性	備考	
SD353 1	10BG1/1	暗灰	砂質シルト	酸化鉄流動。	人為的な埋土
2	10BG1/2	灰黄褐	シルト	黒色シルト・灰色シルト等を斑状に含む。	
3	2.5G3/1	黒褐	シルト	黒色シルトブロックを少量含む。植物遺体を含む。木製品出土。	自然堆積
4	5Y4/1	灰	シルト	黒色シルト・灰色シルト等を斑状に含む。木製品出土。	人為的な埋土

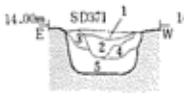
層No.	土色		土性	備考	
SD360 1	2.5Y6/2	暗灰黄	シルト	炭化物を少量含む。砂質シルト・炭化物を斑状に含む。	
2	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト	黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を斑状に含む。	
3	2.5G3/2	黒褐	粘土質シルト	2cm少量混じる。黒色シルト・炭化物を斑状に含む。	
4	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	灰オリーブ色粘土質シルトを含む。	自然堆積
5	2.5Y4/1	黒灰	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	
6	2.5Y5/2	暗灰黄	粘土質シルト	しまりなし。	
7	2.5Y4/1	黒灰	粘土質シルト	しまりなし。	

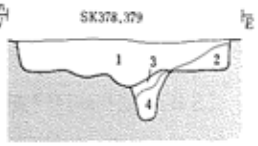




層No.	土色		土性	備考	
SD339 1	2.5G2/2	暗灰黄	シルト	炭化物を多量含む。にぶい黄褐色細砂を含む。	自然堆積
2	2.5G2/2	黒褐	粘土質シルト	炭化物を多量含む。明黄褐色細砂・炭化物等を含む。	
SD339 3	10BG3/1	黒褐	シルト	酸化鉄流動。炭化物を少量含む。	自然堆積
4	10BG2/2	暗黄褐	シルト	炭化物・黄褐色シルトを少量含む。	
5	10BG2/1	黒	粘土質シルト	遺物出土層。明黄褐色細砂・炭化物等を含む。	人為的な埋土
6	2.5Y3/1	黒褐	粘土質シルト	遺物出土層。炭化物・植物の葉・木片等を多量含む。	
7	2.5Y3/2	黒褐	シルト	暗灰黄色シルトブロックを含む。	自然堆積
8	2.5Y3/2	黒褐	スクモ	にぶい黄色細砂を少量含む。	
9	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	小礫を含む。	
10	10Y4/1	灰	礫砂		
11	2.5G3/1	黒褐	砂質シルト	炭化物を少量含む。	人為的な埋土
12	2.5G3/2	黒褐	シルト	炭化物・木片・植物の葉を含む。	
13	2.5Y4/1	黒灰	粘土質シルト	オリーブ黒色細砂をブロック状に含む。	
14	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを含む。	
15	2.5Y3/1	黒褐	スクモ	炭化物・木片・植物の葉を多量含む。	
16	5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	灰白ブロック・灰オリーブ粘土質シルトブロックを含む。	
17	5Y4/1	灰	粘土質シルト	灰白ブロックを少量含む。	自然堆積
18	2.5Y4/1	黒灰	粘土質シルト	木片を少量含む。	
19	2.5Y3/1	黒褐	粘土質シルト		

層No.	土色		土性	備考	
SD361 1	2.5G3/1	黒褐	シルト	オリーブ褐色砂質シルトを少量含む。	
2	2.5G3/2	黒褐	シルト	炭化物を少量含む。	
3	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	オリーブ黒色粘土質シルトを少量含む。	
4	2.5G3/2	黒褐	粘土質シルト	暗灰黄色粘土質シルトブロック・炭化物を少量含む。	自然堆積
5	2.5Y6/1	灰	粘土質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトブロックを少量含む。	
6	2.5Y6/2	暗灰黄	粘土質シルト	暗灰黄色粘土質シルト・黒褐色粘土質シルトのブロックを少量含む。	
7	2.5Y5/2	暗灰黄	粘土質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトブロックを少量含む。	





層No.	土色		土性	備考	
SD371 1	5Y4/1	灰	砂質シルト	黒色シルト・灰オリーブ砂質シルトを斑状に含む。	
2	10Y4/1	灰	砂質シルト	一部砂層を含む。	
3	5Y4/1	灰	砂質シルト	暗オリーブ砂質シルト・灰層を含む。	人為的な埋土
4	5Y4/1	灰	砂質シルト	黒色シルトのパックを含む。	
5	2.5G3/1	オリーブ黒	シルト	黒色シルト・緑灰色シルト等をブロック状に含む。	

層No.	土色		土性	備考	
SK378 1	2.5G3/2	黒褐	砂質シルト	灰白ブロック・黒色シルトブロックを斑状に含む。	人為的な埋土
2	2.5Y6/2	暗灰黄	砂質シルト	暗赤褐ブロックを多量含む。	
SK379 3	10YR5/1	黒	シルト	灰白ブロック・灰色シルトを含む	人為的な埋土
4	10Y4/1	灰	シルト	粘質でしまりあり。遺構底面から下位出土。	

0　10m

第16図　14区遺構断面図（2）

(6)　15区（第17図～第18図）

遺跡の南西端に当たる。調査区内に生活道路が含まれていたため、この道路の北側、南側を調査する形になった。掘立柱建物跡１棟、井戸５基、溝13条、土壙４基、炭化物集中遺構１基が地山面で確認された。

15区南東部で、14区から延びる道路南側溝（ＳＤ339）が東壁断面で確認されたがこれ以西では後世の削平で痕跡的に確認されたに過ぎない。また、これらより古いＳＤ381が確認された。ＳＤ381は調査区が限られており全容は不明であるが、南から北へ延びてきて、ＳＤ530と重複する直前で西に直角に曲がる。ＳＤ530からはニホンジカ・イノシシの骨が出土している。このほかの溝については、全容は明かでない。

【ＳＢ526建物跡】調査区南東で確認された。桁行２間、梁行１間以上の南北棟と思われる。いずれも残りが悪く、柱穴が痕跡的に見られるだけである。

(7)　16区（第19図）

遺跡の南東端に当たる。井戸２基、溝４条が地山面で確認されただけである。溝は南葉－北西方向３本、東西方向１本である。調査区西部の大溝ＳＤ443は、最大幅７ｍで、方向を南東－北西から東西へ変えている。ＳＤ443堆積土上面では東西３本づつの杭跡が確認された。溝に簡単な橋がかけられていた可能性がある。また、13区で確認された大溝ＳＤ300の東辺は確認できなかった。

(8)　17区（第20図～第22図、第51図）

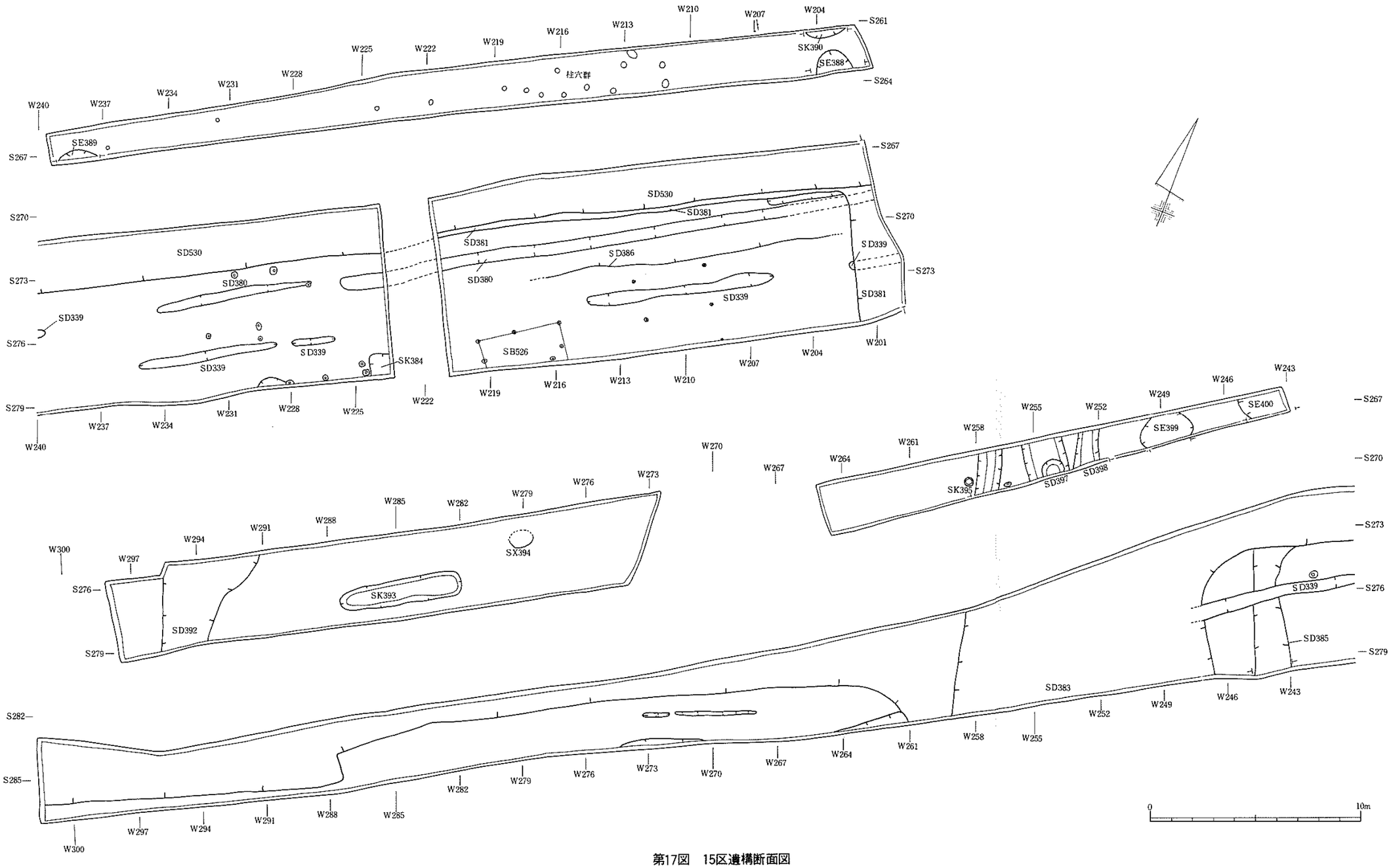
外堀と推定される部分の南側に当たる。掘立柱建物跡1棟、柱列跡２列、井戸３基、溝10条、土壙１墓、墓壙１基、多数の柱穴が確認された。W65～87付近に厚さ25～35㎝の整地層が高まり状に残り、整地層上下面で遺構が認められたが、そのほとんどは上面で確認されたものである（第51図）。遺構は整地層上下面およびその周辺に集中しており、それ以外の部分の遺構の分布は稀薄である。また、整地層が残存していない部分で確認された遺構と整地層との関係は不明である。

掘立柱建物跡

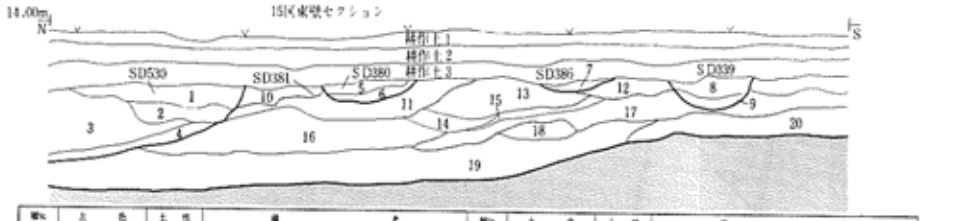
【ＳＢ527建物跡】整地層上面で確認された。桁行３間、梁行１間以上で、北に廂をもつ建物と思われる。建物総長は桁行6.0m、柱間寸法は身舎の桁行、北側の柱列で2.0m、東側で1.0mである。柱穴は長軸30～50㎝、短軸30～40㎝の楕円形で、深さは40～50㎝、柱痕跡は径12～16㎝である。

柱列跡

【ＳＡ528柱列跡】整地層上面で確認された。東西３間の柱列である。柱間寸法は、2.6～4.0ｍで一定ではないが、柱穴が40㎝前後の円形を基調としている。掘り方埋め土に灰白色火

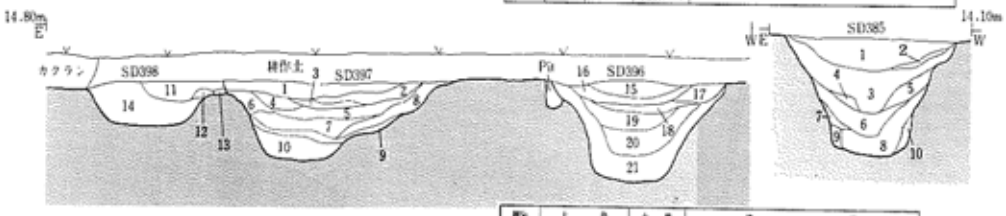


第17図　15区遺構断面図



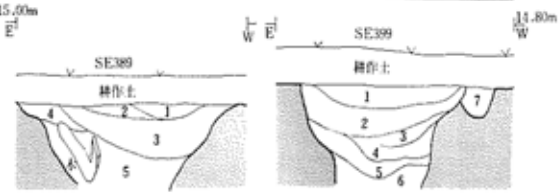
層No.	土色	土性	備考	
SD381 1	2.5Y3/2 黒褐	砂質シルト	地山ブロック・黒色シルトブロックを含む。	人為的な埋土
2	7.5Y3/1 オリーブ黒	シルト	地山ブロック・黒色シルトブロックを含む。	
3	7.5Y3/2 オリーブ黒	シルト	地山ブロックを多量含む。黒色シルトブロックを含む。	
4	7.5Y3/2 オリーブ黒	粘土質シルト	木片を多量含む。	自然堆積
SD380 5	2.5Y3/1 黒褐	砂質シルト	地山ブロックを含む。	人為的な埋土
6	2.5Y3/1 黒褐	シルト	5が少量混じる。	自然堆積
SD380 7	2.5Y3/2 黒褐	砂質シルト	炭化物を微量含む。	自然堆積
SD339 8	5Y3/1 オリーブ黒	砂質シルト	地山ブロック・黒色シルトを微量含む。	人為的な埋土
9	2.5Y3/2 黒褐	砂質シルト		自然堆積

層No.	土色	土性	備考	
SD386 10	7.5Y3/1 灰	砂質シルト	地山ブロック・黒色シルトを同程に含む。	
11	10Y4/1 灰	シルト	砂礫を含む。	自然堆積
12	5Y3/1 オリーブ黒	砂質シルト	地山層の小ブロックを少量含む。	
13	7.5Y4/1 灰	砂質シルト	地山層・灰白ブロック・黒色シルトを多量含む。	人為的な埋土
14	5Y3/1 オリーブ黒	シルト	上部には砂混じる。	自然堆積
15	7.5Y6/1 灰	砂質シルト	地山層を少量含む。	
16	7.5Y6/1 灰	砂質シルト	地山層・灰白ブロック・黒色シルトを多量含む。	人為的な埋土
17	5Y3/1 オリーブ黒	シルト	地山ブロックを少量含む。	自然堆積
18	10Y4/1 灰	砂質シルト	地山ブロックを含む。	人為的な埋土
19	2.5Y3/2 黒褐	シルト	木片を含む。遺物出土層。	自然堆積
20	10Y4/1 灰	粘土質シルト		

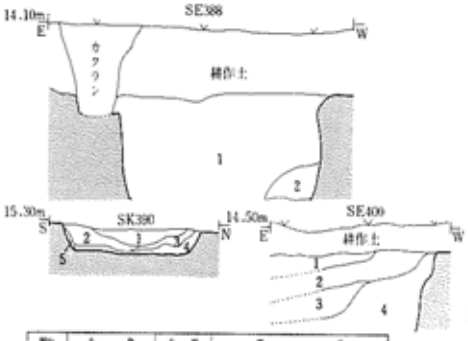


層No.	土色	土性	備考	
SD397 1	2.5Y3/1 黒褐	粘土質シルト	黄褐色シルトブロックを少量含む。	
2	5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	灰色砂質シルトを少量含む。	
3	2.5Y3/1 黒褐	粘土質シルト		
4	5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトを多量含む。	
5	5Y4/1 灰	粘土質シルト		自然堆積
6	10BG1.7/1 黒	砂質シルト	黄褐色シルト を含む。	
7	5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	
8	2.5Y3/1 黒	砂質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトブロックを含む。	
9	10YR1.7/1 黒	砂質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトを少量含む。	
10	5GY4/1 暗オリーブ灰	砂質シルト	9を含む。	
SD396 11	5Y4/1 黄灰	砂質シルト	黄褐色シルトブロック含む。黒色粘土質シルトを含む。	人為的な埋土
12	10YR5/1 褐灰	粘土質シルト		
13	2.5Y4/1 黄灰	粘土質シルト	黄褐色シルトブロック を含む。	自然堆積
14	10BG4/2 灰黄褐	砂質シルト	オリーブ黄色シルトブロック を含む。	
SD396 15	5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。	
16	2.5Y3/2 黒褐	粘土質シルト	灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。	
17	2.5Y4/1 黄灰	粘土質シルト	灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。	
18	5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	灰色・オリーブ黒色粘土質シルトブロックを多量含む。	自然堆積
19	5Y4/1 灰	粘土質シルト	スクモ・灰色粘土質シルトブロックを含む。	
20	5Y5/1 灰	粘土質シルト	スクモ・灰色粘土質シルトブロックを含む。	
21	2.5Y4/1 黄灰	粘土質シルト	灰色粘土質シルトブロックを含む。しまりなし。	

層No.	土色	土性	備考	
SD385 1	5Y4/1 灰	砂質シルト	地山の小ブロックを微量含む。	
2	5Y3/1 黒 灰	シルト	砂礫層上。	
3	5Y4/1 灰	シルト	灰色の砂層とオリーブ黒色シルトを互層状に含む。	
4	2.5Y4/1 灰	砂質シルト		
5	7.5Y4/1 灰	砂質シルト	砂礫層上や黒色シルトを互層状に含む。	
6	7.5Y4/1 灰	シルト	地山層が多量混じる。灰白を微量含む。	自然堆積
7	10Y4/2 灰	砂	砂礫層上。	
8	7.5Y6/1 灰	シルト	黒色シルトを含む。下部に地山ブロックを含む。	
9	7.5Y6/1 灰	シルト	砂礫層上。	
10	10Y4/1 灰	砂質シルト		



層No.	土色	土性	備考	
SE388 1	2.5Y3/2 黒褐	シルト	灰白ブロック・黒色・黄褐色シルトブロックを多量含む。	人為的な埋土
2	5Y4/1 灰	砂質シルト	砂礫層上。地山層・灰白ブロックを含む。自然堆積	



層No.	土色	土性	備考	
SE399 1	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	炭化物を少量含む。	
2	2.5Y3/2 暗オリーブ褐	シルト	炭化物・黄褐色シルトを含む。	
3	5Y4/1 灰	粘土質シルト	炭化物・灰白ブロック・黄褐色シルトブロックを少量含む。	自然堆積
4	2.5Y3/1 黒褐	粘土質シルト	灰白ブロック・黄褐色シルトブロックを含む。	
5	5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	炭化物・灰色粘土質シルトブロックを少量含む。	

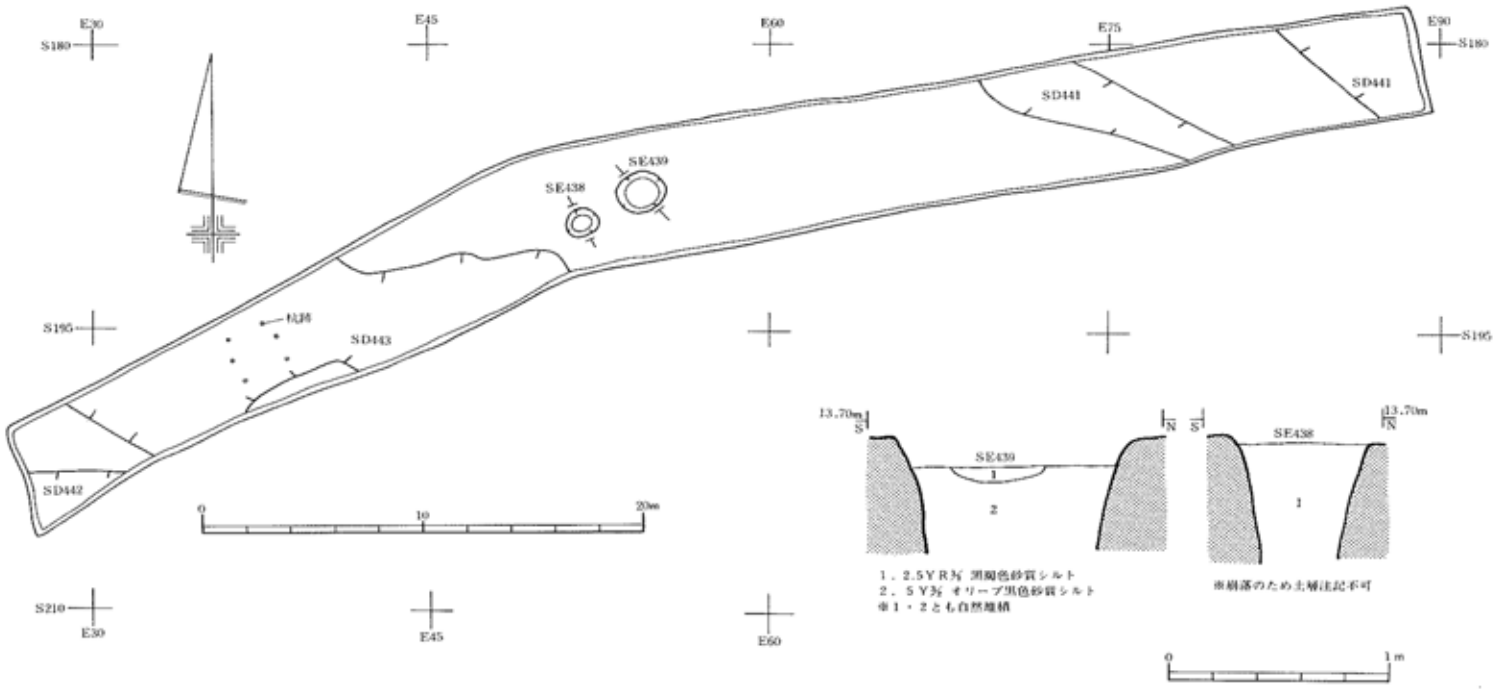
層No.	土色	土性	備考	
SE400 1	5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	黄褐色シルトブロックを少量含む。	
2	5Y4/1 灰	シルト		
3	7.5Y4/1 灰	シルト		自然堆積
4	2.5GY4/1 暗オリーブ灰	シルト	しまりなし。	
5	7.5Y3/1 オリーブ黒	粘土質シルト		
6	10Y4/1 オリーブ黒	粘土質シルト		
Pit 7	10Y3/1 オリーブ黒	シルト	ピット埋土。灰色シルトブロックを含む。	

層No.	土色	土性	備考	
SK390 1	7.5Y4/1 灰	シルト	黄褐を微量含む。	
2	5Y4/1 灰	砂質シルト	砂礫を互層状に含む。	
3	5Y4/1 灰	砂質シルト	下部に灰色シルトブロックを含む。	自然堆積
4	7.5Y4/1 灰	シルト		
5	10YR3/1 黒褐	シルト	腐植層。	

層No.	土色	土性	備考	
SE400 1	2.5Y4/1 黄灰	粘土質シルト	オリーブ色シルトを少量含む。	
2	2.5Y3/2 黒褐	砂質シルト	炭化物を少量含む。	自然堆積
3	2.5Y3/1 黒褐	粘土質シルト		
4	2.5Y3/2 黒褐	シルト	灰オリーブ色シルトブロックを多量含む。 人為的な埋土	

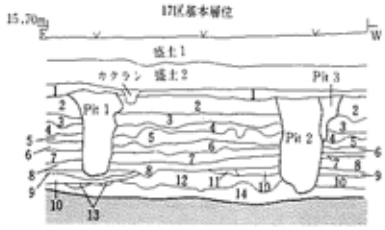
0 2m

第18図　15区遺構断面図

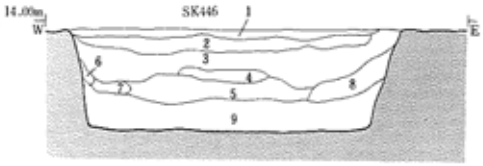


第19図　16区遺構平面図

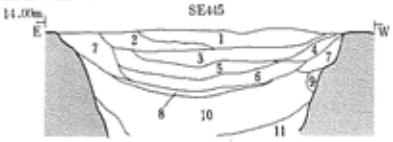
第20図　17区遺構平面図

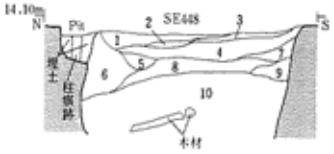


層No.	土色	土性	備考
1	10BR/4 褐	シルト	整地面の生活層。炭化物・灰白粒を少量含む。
2	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト	整地層。炭化物を少量含む。
3	10BR/4 にぶい黄褐	砂質シルト	整地層。炭化物・灰白粒を少量含む。黄褐色砂質シルトを多量含む。
4	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	マンガンを含む。黒褐色シルトブロックを含む。
5	2.5Y3/3 黒 褐	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
6	2.5Y5/3 黄 褐	シルト	うが見える。
7	2.5Y5/2 暗灰黄	シルト	灰白粒を微量含む。
8	2.5Y5/3 黄 灰	シルト	
9	2.5Y6/2 灰 白	火山灰	
10	2.5Y4/2 暗灰黄	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
11	2.5Y5/2 暗灰黄	シルト	暗灰黄色シルトブロックを少量含む。
12	2.5Y3/2 黒 褐	粘土質シルト	遺物多数出土。暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。
13	2.5Y4/1 黄 灰	粘土質シルト	炭化物を多量含む。
14	10BR/3 灰黄褐	シルト	



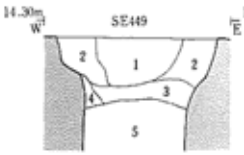
層No.	土色	土性	備考	
SK446 1	2.5Y5/2 暗灰黄	砂質シルト	マンガン含む。	自然堆積
2	2.5Y5/3 黄 褐	砂質シルト	木炭を微量含む。	
3	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	木炭を含む。黄褐色シルトのブロックを斑状に含む。	
4	5Y4/2 灰オリーブ	砂質シルト	木炭を含む。黄褐色シルトのブロックを斑状に含む。	
5	5Y3/2 オリーブ黒	シルト		
6	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	地山ブロックを含む。	人為的な埋土
7	2.5Y6/1 灰 白	火山灰	管軸埋土。	
8	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	地山ブロックを含む。	
*9	10Y4/1 灰	シルト	地山層・灰白色火山灰を斑状に含む。	

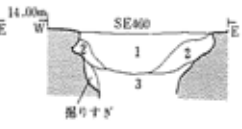


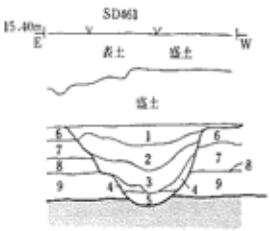


層No.	土色	土性	備考	
SE445 1	10BR/2 灰黄褐	シルト	灰白粒・にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	
2	10BR/3 にぶい黄褐	シルト	灰白ブロック・褐色砂質シルトブロック等を含む。	
3	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	
4	10BR/3 にぶい黄褐	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	
5	2.5Y5/2 暗灰黄	粘土質シルト	灰白ブロック・にぶい褐色粘土質シルトブロックを多量含む。	人為的な埋土
6	2.5Y3/2 黒 褐	粘土質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトを含む。	
7	10BR/3 にぶい黄褐	シルト	地山層を少量含む。	
8	2.5GY4/1 暗オリーブ灰	砂質シルト	地山層を少量含む。	
9	2.5Y4/2 暗灰黄	粘土質シルト	管軸埋土。地山層を少量含む。	
10	2.5Y4/1 黄 灰	砂質シルト	灰白粒を少量含む。灰色粘土質シルトブロックを含む。	
11	2.5Y3/1 オリーブ黒	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。	自然堆積

層No.	土色	土性	備考	
SE448 1	2.5Y3/2 暗オリーブ褐	シルト	オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。	
2	2.5Y4/3 にぶい黄褐	シルト	灰黄褐色シルトブロックを含む。	
3	10BR/2 にぶい黄褐	砂質シルト	灰色砂質シルトブロックを少量含む。	
4	2.5Y5/3 黄 褐	シルト	炭化物を少量含む。暗灰黄色シルトブロックを少量含む。	
5	2.5Y5/2 暗灰黄	シルト	灰色砂質シルトブロックを少量含む。	人為的な埋土
6	7.5Y6/1 灰	砂質シルト	灰白ブロック・黒褐色砂質シルトブロック等を多量含む。	
7	2.5Y5/2 暗灰黄	粘土質シルト	炭化物・灰色砂質シルトブロックを少量含む。	
8	2.5Y5/2 黄 褐	粘土質シルト	木材片を含む。暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。	
9	2.5Y4/1 黄 灰	粘土質シルト	暗灰黄色粘土質シルトブロック等を含む。	
10	5Y4/1 灰	砂質シルト	暗灰黄色シルトブロック・黒褐色粘土質シルトブロックを含む。	







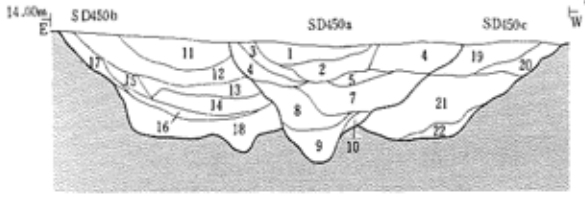
層No.	土色	土性	備考	
SE449 1	10BR/3 にぶい黄褐	砂質シルト	炭化物・灰白粒・にぶい黄色砂質シルトブロックを少量含む。	
2	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト	炭化物・灰白粒・にぶい黄色シルトブロックを少量含む。	人為的な埋土
3	2.5Y5/2 暗灰黄	砂質シルト	灰白粒を微量含む。暗灰色粘土質シルトブロックを少量含む。	
4	2.5Y5/2 暗灰黄	粘土質シルト	灰白を含む。	自然堆積
5	2.5Y6/1 灰 白	粘土質シルト	炭化物を微量含む。灰白ブロックを少量含む。	

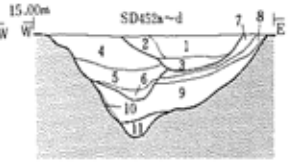
層No.	土色	土性	備考
SE460 1	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	灰白ブロック・黒褐色シルトブロック等を含む。
2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	シルト	灰白粒・黒褐色粘土質シルトブロックを多量含む。
3	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。

層No.	土色	土性	備考	
SD461 1	10BR/4 褐	シルト	黒褐色砂質シルトブロックを微量含む。	
2	10BR/3 にぶい黄褐	シルト	灰黄褐色砂質シルトを含む。	人為的な埋土
3	10BR/3 にぶい黄褐	シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。	
4	10BR/2 灰黄褐	粘土質シルト		
5	10BR/2 黒 褐	粘土質シルト		
6	10BR/4 褐	シルト		自然堆積
7	10YR/3 にぶい黄褐	砂質シルト	基本層位	
8	10YR/2 灰黄褐	砂質シルト		
9	10YR/2 黒 褐	粘土質シルト		

層No.	土色	土性	備考
SK462 1	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	黒褐色・暗褐色の粘土質シルトブロックを多量含む。しまりなし。
2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを多量含む。
3	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。

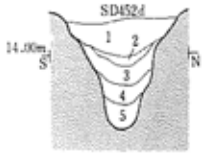
第21図　17区遺構断面図（1）



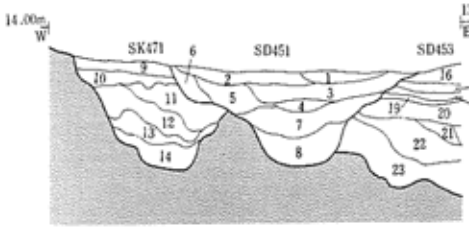


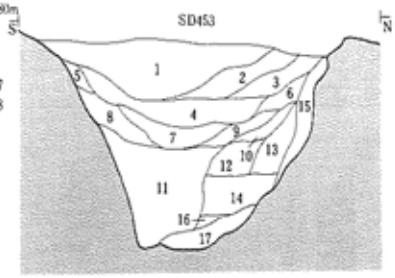
層No.	土色	土性	備考	
SD450a 1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	灰白粒を微量含む。	
2	2.5G3/3	暗オリーブ褐	シルト	小砂を少量含む。	
3	2.5Y5/3	黄褐	砂質シルト		
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	砂質シルト	黄褐色砂質シルトを含む。	
5	2.5Y5/3	明黄褐	細砂	暗オリーブ褐色砂質シルトを含む。	自然堆積
6	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	灰白粒を微量含む。シルトブロックを多量含む。しまりなし。	
7	2.5Y5/2	暗灰黄	細～中粒砂		
8	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	暗黄黄色細砂を含む。	
9	2.5G3/2	黒褐	粘土質シルト	灰色・黄褐色の粘土質シルトを含む。	
10	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	炭化物を微量含む。	
SD450d10	2.5Y4/4	オリーブ褐	粘土質シルト	灰白ブロックを含む。黄褐色粘土質シルトブロックを含む。	人為的な埋土
12	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト		自然堆積
13	2.5Y5/2	暗灰黄	粘土質シルト	灰白ブロックを含む。灰色の砂質シルトブロックを含む。	人為的な埋土
14	2.5Y5/2	暗灰黄	粘土質シルト	灰白ブロック・炭化物・木片等を含む。	
15	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	炭化物を微量含む。	
16	5Y4/2	灰オリーブ	細砂		自然堆積
17	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト	灰白粒を含む。	
18	2.5Y5/2	黄褐	粘土質シルト	灰白ブロック・灰オリーブ色粘土質シルトブロックを含む。	人為的な埋土
SD450e19	2.5Y4/2	オリーブ褐	シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。	
20	2.5G3/3	暗オリーブ褐	シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。	人為的な埋土
21	2.5Y5/3	明オリーブ褐	粘土質シルト	灰白ブロック・オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。	
22	5Y5/1	灰	中粗砂		自然堆積

層No.	土色	土性	備考	
SD452a 1	2.5Y5/2	暗灰黄	砂質シルト	炭化物を微量含む。	
2	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	灰白粒を微量含む。	自然堆積
3	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	灰白粒を微量含む。	
SD452b 4	10YR5/4	にぶい黄褐	砂質シルト	灰白ブロック・黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。	
5	10YR4/4	褐	シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。	人為的な埋土
6	2.5Y5/1	黄灰	粘土質シルト	灰白ブロックを少量含む。	
SD452c 7	2.5Y5/3	黄褐	シルト	マンガンを含む。	
8	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト	炭化物を少量含む。マンガンを含む。	自然堆積
9	2.5Y5/3	明オリーブ褐	粘土質シルト	灰白・炭化物を含む。暗灰黄色砂質シルトを含む。	
10	2.5Y5/2	灰黄	粘土質シルト	灰白の流入土。	
SD452d11	2.5Y5/2	黒褐	粘土質シルト	マンガンを含む。	自然堆積



層No.	土色	土性	備考	
SD452d 1	5Y4/2	灰オリーブ	シルト	灰白ブロックを含む。オリーブ色・オリーブ黄色シルトブロックを含む。	人為的な埋土
2	5G3/2	オリーブ黒	シルト		
3	5Y4/2	灰オリーブ	シルト	褐色の粘土質シルトを含む。しまりなし。	自然堆積
4	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト	褐色の粘土質シルトと互層をなす。	
5	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト	オリーブ黄色粘土質シルトブロックを含む。	人為的な埋土

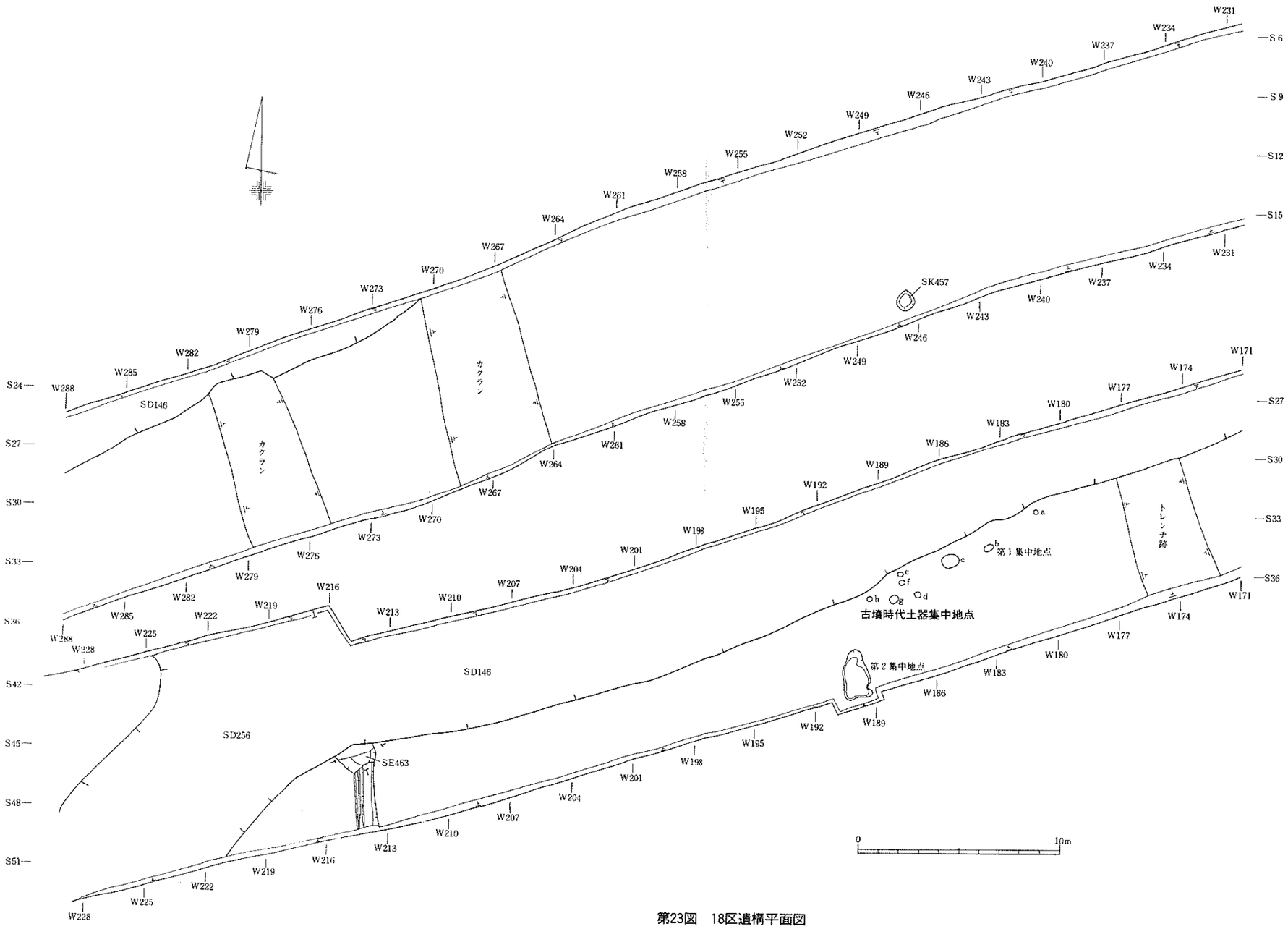




層No.	土色	土性	備考	
SD451 1	10YR6/3	にぶい黄褐	シルト	灰白粒を微量含む。	
2	2.5Y3/2	暗オリーブ褐	シルト	灰白粒を微量含む。	
3	2.5Y5/3	黄褐	砂質シルト	灰白ブロックを少量含む。	
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	砂質シルト	細砂～中粒砂を含む。	自然堆積
5	2.5Y5/2	暗灰黄	細砂	オリーブ褐色細砂～中粒砂を含む。	
6	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	オリーブ褐色細砂～中粒砂を含む。	
7	2.5Y5/2	暗灰黄	細～中粒砂	木片を少量含む。オリーブ褐色砂質シルトを少量含む。	
8	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	黄褐色粘土質シルトブロック等を含む。	人為的な埋土
SK471 9	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト	灰白粒を微量含む。マンガンを含む。	自然堆積
10	2.5Y5/2	黄褐	シルト	灰白ブロックを少量含む。	
11	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	灰白粒 灰白ブロックを少量含む。	人為的な埋土
12	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	灰白ブロックを含む。黄色粘土質シルトブロック等を含む。	
13	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	灰白粒・黄色粘土質シルトブロックを含む。	
14	10YR4/1	褐灰	粘土質シルト	灰白粒を微量含む。しまりなし。	自然堆積
SK471 15	2.5Y4/3	オリーブ褐	粘土質シルト	灰白ブロック・にぶい黄色粘土質シルトブロックを多量に含む。	人為的な埋土
16	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト	灰オリーブ色砂質シルトを含む。	自然堆積
17	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	褐色の粘土質シルトを含む。	
18	5Y5/2	黄褐	粘土質シルト		自然堆積
19	5Y4/2	灰オリーブ	粘土質シルト	灰白ブロック・黄色粘土質シルトブロックを少量含む。	
20	2.5Y4/3	オリーブ褐	粘土質シルト	灰白粒・黄褐色粘土質シルトブロックを微量含む。	
21	2.5Y4/3	オリーブ褐	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。	人為的な埋土
22	5Y3/2	オリーブ黒	粘土質シルト	灰白粒・黄褐色シルトブロックを含む。	
23	5Y4/2	灰オリーブ	シルト	灰白ブロック・黄色粘土質シルトブロックを多量含む。	

層No.	土色	土性	備考	
SD453 1	10YR4/2	灰黄褐	シルト	灰白ブロック・黒色・灰オリーブ粘土質シルトブロックを多量含む。	人為的な埋土
2	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	炭化物を少量含む。	
3	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	木片を少量含む。	
4	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	木片を少量含む。オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。	
5	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	灰白粒を含む。	
6	2.5Y4/1	黄灰	粘土質シルト	炭化物・灰白粒を少量含む。	自然堆積
7	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	黄灰色砂質シルトと互層をなす。	
8	2.5Y3/2	黒褐	シルト	炭化物・黄灰色粘土質シルトと互層をなす。	
9	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	木片を少量含む。	
10	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	灰白粒を含む。黒色・暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。	人為的な埋土
11	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	灰白ブロック・黄色粘土質シルトブロック等を含む。	
12	5Y4/2	灰オリーブ	粘土質シルト		
13	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロックを少量含む。しまりあり。	
14	2.5Y4/3	黄灰	砂質シルト	しまりなし。	自然堆積
15	2.5Y3/1	灰白	火山灰	噴出流入土。	
16	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	灰白ブロックを少量含む。しまりなし。	
17	2.5Y3/2	黒褐	粘土質シルト	灰白ブロックを少量含む。しまりなし。	

第22図　17区遺構断面図（2）



第23図　18区遺構平面図

山灰ブロックが多量に入っている。北側のＳＡ529柱列跡と方向を揃え、掘り方の特徴も類似しているが、建物としては歪みが大きいため別の遺構と考えたい。

【ＳＡ529柱列跡】整地層上面で確認された。東西３間の柱列である。柱間寸法は、2.0～2.6ｍで、柱穴は40㎝前後の円形、深さ30㎝である。掘り方埋め土には灰白色火山灰ブロックが多量に含まれていた。

溝跡

【ＳＤ450～453溝跡】調査区西部で確認された。整地層との関係は不明である。切り合い関係からＳＤ450、452はそれぞれＳＤ450ａ～ｃ、ＳＤ452ａ～ｄに分かれる。新旧関係は、新しいほうからＳＤ450・451・452ａ～ｃ→ＳＤ453→ＳＤ452ｄの順である。南北方向のＳＤ450～452は調査区北側の外堀と連絡していると思われる。また、東西方向のＳＤ453は単独で存在していたとは考えにくく、これらの溝とほぼ同時期に機能していたものと思われる。

墓壙

【ＳＫ454】整地層上面で確認された。平面形は直系１ｍ前後の不整円形、深さ50～60㎝で、人為的に埋め戻してあり、底面から人間の奥歯が出土した（第12表・第13表）。

(9)　18区（第22図）

７区と17区と連続する調査区で外堀と推定される部分の南側に当たる。土壙１基、ＳＤ146の南辺が確認されただけである。

区＼遺構	掘立柱建物跡	柱列跡	井戸跡	溝跡	土壙	墓壙	焼け面遺構	炭化物集中遺構	鍛冶遺構	集石遺構	竪穴住居跡	土器集中地点
5 上層		2	2 } 11	3 } 15	1 } 4					1		
下層	1 } 4	2	4	8	3		2	2				
不明	3		5	4								
7 上層	5		4 } 5	6 } 9	1 } 2			1	1			
不明			1	3	1							
13	17	2	24	14	1							
14	7	2	15	26	12							
15	1		5	13	4			1				
16			2	4								
17	1	2	3	10	1	1	1				1	
18				2	2							1
計	35	10	65	93	26	1	3	4	1	1	1	1

第１表　各地で確認された遺構数

遺跡名	区	位置	棟方向	規模（桁×梁）	柱間寸法（桁×梁）	重複	備考
SB 500	5西	W-0-E S105	東 西	2間以上×1間	1.9m. 3.5m		整地層の上面か下面か不明
501	〃	E6 S141	〃	2間×1間	1.8m. 2.2m		〃 下面
532	〃	E3 S87	南 北	1間×1間	3.6m. 1.8m	SD428 より古い	〃 上面
533	〃	E5 S88	〃	1間×1間	3.6m. 1.8m	SD496 と重複新旧不明	〃 上面
505	7	W290 S52	東 西	3間以上×2間	2.2m. 1.8m	SE489, SX493, SD497 より古い	〃 上面
545	〃	W270 S54	〃	2間×1間	2.8～3.4m. 2.8m		〃 上面
546	〃	W279 S52	南北？	1間以上×1間	2.6m. 3.6m	SD497 より新しい	〃 上面
547	〃	W285 S55	東 西	3間×2間	1.8m. 1.8～2.2m	SD491 より新しい	〃 上面
548	〃	W291 S57	南北？	1間以上？×1間	1.8m. 3.6m	SD492 より新しい	〃 上面
506	13	E90 N21	南 北	1間×1間	1.8m. 0.9m		
507	〃	E70 N27	東 西	2間以上×1間	2.4m. 4.2m	SD305 と重複新旧不明	
508	〃	E66 N18	〃	5間×1間	6.8m. 1.8～2.0m	〃	東・南・西に廂. 柱穴から石臼上臼が出土
509	〃	E75 N6	〃	4間×1間	2.5m. 5.0m		
510	〃	E54 N10	〃	5間×1間	4.8m. 2.1×2.4m	SE401 より新しい	南・北の東側に張出し
511	〃	E57 N12	南 北	3間×1間	5.4m. 1.8m		
512	〃	E54 N9	〃	3間×1間	1.9～2.0m. 3.9m		
513	〃	E45 N9	〃	3間×1間	3.4m. 1.8m	SB534 より古い	北側に廂
514	〃	E48 N15	〃	3間以上×1間	1.8m. 3.6m		
515	〃	E30 N6	〃	2間以上×1間	1.8～1.9m. 3.0m		
516	〃	E27 N6	〃	2間以上×1間	2.4～2.6m. 1.8m		
517	〃	E15 S3	〃	3間×1間	1.8～1.9m. 3.2m		北側に廂
518	〃	E6 N-0-S	〃	3間×1間	1.9m. 2.9m		
534	〃	E45 N12	東 西	1間×1間	3.6m. 3.0m	SB513 より新しい	
535	〃	E40 N10	〃	1間×1間	2.0m. 1.4m		
536	〃	E31 N3	南 北	2間以上×1間	2.0m. 1.4m		
537	〃	E26 N-0-S	〃	1間×1間	3.6m. 3.0m	SD317 と重複新旧不明	
521	14	W30 N-0-S	東 西	1間×1間	3.6m. 1.8m		
522	〃	W37 N-0-S	南 北	3間×1間	1.8m. 3.2m		
524	〃	W35 S3	〃	3間×1間	1.8m. 3.6m		
538	〃	W15 S3		1間×1間	3.2m. 3.2m	SB540 より新しい	
539	〃	W21 S4	東 西	1間×1間	2.0m. 2.6～3.0m		
540	〃	W20 S6	〃	2間×1間	1.6～2.2m. 2.0m	SD331 より新しい SB538 より古い	
541	〃	W33 S5	南 北	1間×1間	2.6m. 2.2m	SD330 より古い	
526	15	W216 S279	南北？	2間以上×2間以上	1.8m～2.2m. ？		
528	17	W27 S9	南 北	1間以上×3間	？ 1.8m		北南廂部分？

第２表　掘立柱建物跡

遺構名	区	位置	方向	規模・柱間寸法	重複	備考
SA 502	5西	E8 S82～88	南 北	3間 1.9～2.0m	SA504Aより新しい	整地. 上面
503	〃	W-0-E S93	東 西	5間以上 1.4～1.6m		〃 SD111に沿って5区東から続く
504A	〃	E8 S78～87	南 北	4間 1.6～2.5m	SA502, 504Bより古い	整地層下面
504B	〃	〃 〃	〃	〃 2.0～2.2m	SA503Aより新しい	〃
531	〃	E7 S79～90	〃	5間 1.8～2.5m		〃
519	13	E60 N3～10	〃	4間 1.6m		
520	〃	E47～51 N15	東 西	3間以上 1.6～1.7m	SB514 と重複 新旧不明	
523	14	W31 N2～54	南 北	3間 1.8m	SB521 と重複 新旧不明	
525	〃	W120～128 N3	東 西	3間以上 2.4m	SB371 と重複 新旧不明	
528	17	W69～75 N-0-S	〃	2間 2.8～4.0m		整地層上面
529	〃	W69～76 N6	〃	3間 2.0～2.5m		〃

第３表　柱列跡

区	No	平面形態	大きさ	深さ	断面	下部の径	切合い	備考
5	405	円	径 1.8	1.2 以上	ロート状（大きく開く）	1.1	SD410 より新しい	確認面は整地層の上面
	408	円	径 2.0	1.2 以上	ロート状（小さく開く）	1.4		〃　下面　陶器片
	415	円	径 2.5	1.0 以上	逆円錐状			〃　下面
	421	円	径 1.0	1.2 以上	ロート状（大きく開く）	1.1		〃　下面磁器
	423	隅丸方形	1.6×1.4	1.2 以上	ロート状（小さく開く）	1.3		〃　上面
	426	円	径 3.5	1.6 以上	逆円錐状	1.6	SD105 より新しい	すり鉢
	427	円	径 1.9	1.4 以上	ロート状（大きく開く）	0.9		
	429	不整楕円	（長 2.6）	1.6 以上	ロート状（大きく開く）	1.0	SD107 より古い	
	430	不整楕円	（長 2.4）	1.5 以上	ロート状（片側に軽い段がつく）	1.4		路面下駄痕　西半分は調査区外
	431	楕　円	2.4×2.1	1.5 以上	ロート状（小さく開く）	1.4		連歯下駄、路面下駄　木片が多量に入る
	433	（円）	（径 1.5）	1.0 以上	ロート状（大きく開く）	0.7		北半分は調査区外
7	463	（円）	径 1.7	0.9 以上	ロート状（大きく開く）	0.9	SD140 より古い	
	467	円	径 2.3	1.3 以上	逆円錐状	0.9	SE468 より古い	
	468	円	径 2.3	1.3 以上	ロート状（軽い段がつく）	1.9	SE467 より新しい，SD490 より古い	
	469	円	径 2.5	1.3 以上	円筒状（片側が小さく開く）	2.1	SD494 より新しい	
	489	（円）		1.4 以上	（ロート状）（大きく開く）	1.0	SK493 より古い	SK493 に上部をこわされている
13	301	円	径 2.0	0.9 以上	ロート状（大きく開く）	1.3		
	302	円	径 1.5	0.9 以上	ロート状（小さく開く）	1.0		
	303	円	径 1.0	0.6 以上	円筒状（わずかに開く）	0.6		
	304	円	径 1.0	0.8 以上	円筒状	1.0		
	306	楕　円	1.9×1.4	1.0 以上	ロート状（大きく開く）	1.2		漆器
	307	円	1.8×1.6					
	308	楕　円	1.3×1.0					
	309	円	径 1.4					
	310	（円）	径 2.2				SD312 より古い	北半分は調査区外　上臼、上製品、フイゴ
	311	（円）					SD313 より古い	漆器、椀
	315	円	径 0.9	1.0 以上	円筒状	0.7		漆器、椀、瓦質土器
	316	円	径 1.0	0.8 以上	円筒状	1.0		
	319	円	径 1.9	1.1 以上	逆円錐状（片側に段がつく）	1.0		
	320	楕　円	1.8×1.6	1.0 以上	ロート状（大きく開く）	1.0		
	322	不整楕円	0.7×0.6	0.7 以上	円筒状	0.6		漆器、椀
	324	円	径 1.4	1.0 以上	ロート状（小さく開く）	1.0		
	401	不整楕円	1.8×1.4	0.7 以上	ロート状（片側に軽い段がつく）	1.4		
	403	円	径 1.0					崩落のため詳細不明
	475	円	径 1.0	0.8 以上	ロート状（片側に大きな段がつく）	0.7		
	476	（円）	径 1.2	1.0 以上	ロート状（片側に軽い段がつく）	0.8		
	478	円	径 1.0	0.8 以上	逆円錐状	0.7		
	479	円	径 1.8	0.6	逆円錐状	1.1		未完成の井戸
	481	楕　円	1.2×1.0	1.0 以上	円筒状	1.0		
	483	円	径 1.2	1.1 以上	円筒状	1.0		
14	327	円	径 1.3	1.2 以上	筒状			漆椀出土
	328	不整楕円	1.5×1.2	1.0	逆円錐状	0.9	SE329　SD330　337 より新しい	
	329	（楕円）	（長 2.5）	1.0 以上	（ロート状）	（2.1）	SD337 より新しい　SE328　SD330より古い	
	334	不　整	（長 3.0）	1.2 以上	ロート状（大きく開く）	2.0	SD330　331より古い	陶器、美濃皿、砥石、磁器椀？
	336	不整楕円	2.8×2.0	0.8 以上	ロート状（大きく開く）	1.7	SD337 より新しい　SD331 より古い	
	344	（円）	径 2.8	1.0 以上	ロート状（大きく開く）	1.0		
	345	楕　円	（長 1.8）	1.2 以上	ロート状（大きく開く）	0.7	SD346 より古い	
	348	（楕円）	1.6×1.3				SD339 より古い	SD339 にほとんど壊されている
	351	円	径 2.2	1.4 以上	ロート状（片側が小さく開き，段がつく）	2.0	SD349 より新しい　SD330　346より古い	
	352	円	径 2.0	1.0 以上	筒状	2.0	SD339 より古い	
	353	円	径 2.9	1.3 以上	ロート状（大きく開く）	1.7	SD330 より古い	漆器、椀、連歯下駄、曲げ物、底板、曲げ物、折敷、木製品、円柱状、木製品、椀？、下駄痕
	355	円	径 1.0	0.7 以上	ロート状（小さく開く）	0.6		
	356	楕　円	（長 1.7）	1.0 以上	ロート状（小さく開く）	1.0	SD349 より新しい　SD330　346より古い	
	357	楕　円	（長 1.3）	1.0 以上	筒状	1.0	SD330　346より古い	
	358	楕　円	1.5×1.2					崩落のため詳細不明　陶器、緑釉、瓦
15	382	（円）						調査区域のため詳細不明
	388	円	径 1.9	0.8 以上	ロート状（小さく開く）	1.7		
	389	（円）	径 2.1以上	0.8 以上	ロート状（大きく開く）	0.9		磁器片
	399	（円）	径 1.60以上	0.9 以上	ロート状（大きく開く）	0.8		土製品、ルツボ、陶器、カメのようツボ、陶器、鉢のようカメ、下駄痕
	400	（円）		0.7 以上	ロート状（軽い段がつく）			調査区域のため詳細不明
16	438	円	径 1.4	1.4 以上	ロート状（小さく開く）	0.7		
	439	楕　円	2.4×2.2	1.2 以上	ロート状（小さく開く）	1.5		
17	445	隅丸方形	3.0×2.3	1.0 以上	ロート状（大きく開く）	1.9		陶器片
	448	円	径 2.2	1.0 以上	筒状	1.9		灰白色火山灰より新しい　陶器片
	449	円	径 1.6	1.0 以上	ロート状（小さく開く）	1.0		茶臼、下臼、陶器片カメ？

第４表　井戸属性表（単位：ｍ）

区	No.	平面形態	長径	短径	深さ	埋積土	切合い	備考
5	411	長楕円	1.0	0.4	0.2			整地剤　上面で確認
	425	不整楕円	0.8	0.4	0.1	黄灰色砂質シルト、焼土含む		〃　下面　〃
	434	長楕円	2.1	0.9	0.2	暗灰色、暗黄灰色砂質シルト		〃　下面　〃
	497	楕円	1.0	0.7	0.3			〃　下面　〃
7	471	楕円	0.5	0.4			SD255 472 より新しい	
	493	不整形	2.8	2.1	0.8	暗黄灰色～黄褐色シルト（人為）	SE489 より新しい	
13	480	（円）	2.5		0.7	黒褐色砂質シルト～シルト（自然）		
14	354	隅丸長方形	5.0	3.2	1.2	黒色～黄灰色シルト、粘土質シルト	SD339 より古い	陶磁器、木製品多数出土　ゴミ穴
	362	（長楕円）	2.5			黒褐色シルト（自然）		調査区端のため詳細不明
	363	（円）	1.0		0.6	黒褐色粘土質シルト（自然）	SD330 346 より古い	上半分は壊されている
	365	（隅丸方形）	0.7		0.3	黒褐色～暗褐色シルト（人為）	SD340 364 より古い	
	368	（円）	0.7		0.1	暗灰黄色シルト	SD336 367 より古い	ほとんど残っていない
	369	（隅丸長方形）	2.3		0.1		SD341 より古い	北側は調査区外
	374	不整形	1.5	1.0	0.1		SD339 より新しい	
	375	（隅丸方形）	1.1 以上		0.4		SD371 より新しい　SD361 より古い	
	376	円	1.2		0.2	灰色砂質シルト		
	377	長楕円	1.3	0.5	0.1			
	378	（隅丸方形）	1.8		0.4	黒褐色～暗黄灰色砂質シルト（人為）	SK379 より新しい	北側は調査区外
	379	楕円	0.8 以上	0.5	0.4 以上	黒色、灰色シルト（人為）	SK378 より古い	〃　縄文下駄出土
15	384	（隅丸方形）	1.0 以上		0.1 以上			調査区端のため詳細不明
	390	（円）	1.6 以上		0.4 以上	黄灰色シルト、木片含む（自然）		〃　〃
	393	長楕円	5.7	1.0				浅い土壙　曲げ物　底板、折敷側板
	395	円	0.5					浅い土壙
17	446	隅丸長方形	3.4		0.9	暗灰黄色、灰オリーブ色、砂質シルト		
	454	円	0.9	0.8	0.7	暗オリーブ褐色～暗灰黄色シルト（人為）		墓壙、人間の頭骨、貝殻出土
18	457	楕円	1.1	0.8				

第５表　土壙属性表（単位：ｍ）

区	No.	幅	長さ	深さ	方向	平面形態	埋積土	切合い	備考
5	409	0.3～0.6	9.0 以上	0.1	南－北　南－東	「L」字状を呈する	黄灰色砂質シルト	SD410　SE405より新しい	整地層の下面で確認
	410	0.2～0.5	6.0	0.02～0.06	南－北		暗オリーブ褐色シルト	SD409 より古い	〃　下面
	412	0.3～0.55	9.0 以上	0.08～0.2	東－西		黒褐色～黄灰色砂質シルト	SD416 より新しい	〃　下面
	413	0.3～0.7	16.00以上	0.1	東－西		暗灰黄色砂質シルト	SD418　SE423 より古い SD422 より新しい	〃　下面
	414	0.3	3.0 以上	0.07	北北西－南南東			SD424 より新しい	〃　上部陶器片
	416	0.2～0.4	4.0	0.04	南－北		暗灰色・黄灰色砂質シルト	SD412 より古い	〃　下面
	418	0.2～0.3	3.0	0.1	東－西				〃　下面
	422	0.2～0.5	3.0	0.17	南－西			SD413 より古い	〃　下面
	424	0.85～0.7	3.0	0.05	東－西			SE408　SD414より古い	〃　下面
	428	1.2	27.00以上	0.6	北北西－南南東 東－西	「L」字状を呈する		SD105　107　110　111　436 より新しい	〃　上部土日
	432	0.6～1.3	15.0	0.2	南－北		暗灰色・黄灰色砂質シルト		〃　上面
	435	0.24	1.8	0.2	東北東－西南西			SD432 より古い	
	436	0.5	7.0	0.12	東－西		黒褐色シルト	SD430 より新しい　SD111 より古い	
	437	0.6	1.8 以上	0.1	東－西				
	496	0.7	5.0	0.1	東－西			SD428 より古い　SD432 との関係は不明	
7	464	7.0 以上		1.1	東－西		暗オリーブ灰色砂質シルト	SD433　255より新しい	
	470	3.4	12.00以上	1.0	北北東－南南東		黒褐色粘土質シルト（自然）		陶器　例
	472	1.3～2.0	7.5	0.1	北東－南東				
	473	0.8 以上		0.9	西北－南東		灰色砂質シルト	SD464 より古い	調査区端のため詳細不明
	474	0.3	3.0	0.1	南－北				
	491	0.7～1.5	10.00以上	0.3	南－北		黒褐色～オリーブ褐色	SD492 より新しい	陶器　カメ？
	492	0.5～1.2	10.00以上	0.3	南－北		オリーブ褐色・にぶい黄褐色シルト	SD491 より古い	
	494	0.4	4.5	0.1	南－北			SE489 より古い	
	497								
13	305	0.8	26.00以上	0.5	南－北		暗オリーブ灰色・オリーブ黒色砂質シルト	SBとの関係は不明	
	312	0.8	12.00以上	0.4	南－北		灰色シルト（自然）	SE310 より新しい	
	313	1.3	12.00以上	0.6	南－北		暗灰黄色シルト・灰色粘土質シルト（自然）	SE311 より新しい　SD314 との関係は不明	
	314	0.8	12.00以上	0.3	東－西		黒褐色シルト・オリーブ黒色粘土質シルト（自然）	SD312　313との関係は不明	
	317	0.6	5.0	0.2	南－北				
	325	2.9	16.00以上	0.7	南－北		オリーブ黒色粘土質シルト	SE478 より古い	
	477				東－西				調査区端のため詳細不明
	482	1.0	4.2	0.35	東－西		灰色砂質シルト		
	484	0.45	7.0 以上	0.1	東－西			SD312 より古い	
	485	0.5	2.0	0.07	東－西				
	486	0.5	3.2	0.06	東－西				
	487		8.0 以上	0.4 以上	東－西				調査区端のため詳細不明
	488	1.0 以上	27.00以上		東－西				〃
	495	1.3	2.0 以上	0.3 以上	南－北			SK480 より古い	

第６表　溝属性表（１）（単位：ｍ）

区	No.	幅	長さ	深さ	方向	平面形態	埋積土	切合い	備考
16	326	2.8 以上	50 以上		東－西			SD338 より新しい	
	330	1.0	120 以上	0.3	東－西		黒褐色～灰色シルト・砂質シルト（自然）	SD338 349 SE345 より新しい	新しい段階の道路側溝 畿内下駄、曲げ物、底板、建築
	331	0.4～0.6	16.0	0.2	東－西		灰色・灰黄褐色シルト（自然）	SD332 より古い SE334 336 SD337 より新しい	
	332	0.3～0.6	7.0 以上	0.1	南－北			SD331 333より新しい	
	333	1.0	8.0	0.5	東－西		黒褐色シルト（人為）	SD332 より古い	土器
	335	1.7	10.0以上	0.5	南－北		黒褐色～灰色砂質シルト（自然）		カクランされている
	337	1.3	12.0以上	0.3～0.6	南－北		灰色・オリーブ黒色シルト（自然）	SD328 329 336 SD338より古い	
	338	1.2	40.0以上	0.5	東－西		黒褐色～オリーブ黒色（自然）	SD341 358 326 より古い	古い段階の道路側溝
	339	0.8	60.0以上	0.2	東－西		黒褐色・暗灰黄色シルト（自然）	SD340 341 SD348 352 SD360 371 SK354 374より新しい	新しい段階の道路側溝 建築、木器、土製品、フイゴ
	340	0.6	1.0	0.2	南－北			SD339 341より古い	
	341	1.0	13.5以上	0.6	南－北		黒褐色～灰色シルト・スクモ（自然）	SD330 339より古い SD366 367 338 364 340 より新しい	建築、鋤、曲げ物、作業痕、建築
	342	0.5	1.5	0.03	北西－南東		灰オリーブ色シルト（自然）	SD343 に切られる	
	343	1.0	11.5	0.1	東－西		黒褐色シルト（人為）		古い段階の道路側溝 永楽通宝
	346	0.6	14.5	0.2～0.4	東－西		暗灰色・暗灰黄色シルト（自然）	SD330 と重複（新しい）する	新しい段階の道路側溝　永楽通宝、陶器
	347	0.7	6.5 以上	0.1	東－西			SD330 より古い	
	349	1.3	42.0以上	0.6	東－西　南－北	「L」字形を呈する	暗黄灰色～灰色シルト（人為）	SD330 SE351 350 より古い	古い段階の道路側溝 町路で北に曲がる
	350	1.0	15.0	0.2	東－西		（人為）	SK354 より古い	古い段階の道路側溝
	360	1.4～1.9	6.8 以上	0.5	南－北		黒褐色～暗灰黄色粘土質シルト（自然）	SD339 より古い　SD371 より新しい	漆器、箸、畿内下駄、曲げ物、底板、 陶器
	361	2.0	20.0以上	0.8	東－西		黒色～オリーブ黒色砂質シルト（自然）	SK355 より新しい	古い段階の道路側溝 漆器椀、下駄歯、木杯、陶器カメ？ 弁慶、建築、木製品、椀
	364	1.5	5.0 以上	0.6 以上	東－西　南－北	「L」字形を呈する	黒褐色～灰色	SD339 339 341 より古い	古い段階の道路側溝
	366	0.7 以上	2.0	0.8	南－北		灰色シルト（自然）	SD367 より新しい　SD341 より古い	
	367	0.5 以上	2.0 以上	0.4	南－北		黒灰色シルト・粘土質シルト（人為）	SD366 367より古い　SK369 より新しい	
	370	0.8	6.0 以上	0.4	南－北			SD329 SK375より古い	漆器、箸、椀、連歯下駄、クサビ、 フイゴ
	371	0.7	5.2 以上	0.4	北北西－南南東		灰色砂質シルト（人為）	SD360 より古い	漆器
	372	1.2	4.3 以上	0.4	東－西		灰色～暗緑灰色シルト	SD349 より古い	
	373	0.7 以上	1.0 以上	0.3	東－西		暗緑灰色・灰色シルト		カクランされている SD372 のつづきか？
15	318				東－西				記録化できず
	380	0.4～0.7	8.5 以上	0.1	東－西		黒褐色～オリーブ黒色砂質シルト（自然）	SD と重複するが新旧関係不明	
	381	8.0 以上	25.0以上	0.9 以上	東－西　南－北	「L」字状を呈する	オリーブ黒色～灰色砂質シルト	SD329 363 380 381 389 より古い	連歯下駄、木杯、陶器
	383	12.0		－	南－北		〃	SD381 と重複するが新旧関係不明	フタ、カワラ、瓦？
	385	1.0～3.8	6.0 以上	－	南－北		灰色シルト～砂質シルト（自然）	SD381 より古い	陶器　唐津　椀、下駄歯、下目
	388	0.7		0.3	東－西		黒褐色砂質シルト（自然）	SD381 より新しい	断面でのみ確認
	389				東－西				記録化できず
	391	0.3 以上	7.0 以上	－	東－西			SD381 より古い	
	392	4.0	4.0 以上	0.8	南－北				下目、陶器灯、杯、畿内下駄
	396	1.2	1.5 以上	0.3	南－北		黒褐色～灰色粘土質シルト（自然）		連歯下駄
	397	1.9		0.8	南－北		黒褐色～灰色砂質シルト～粘土質シルト（自然）	SD398 より新しい	陶器　唐津　椀
	398	1.2 以上		0.4	南－北		灰黄褐色～黒灰色砂質シルト～粘土質シルト（人為）	SD397より古い	
	530								建築　中国産瓦、建築
16	440	2.2～8.4	30.0以上		北西－南東				
	441	5.0 以上	6.6 以上		北西－南東				
	442	3.0 以上	4.4 以上		東－西				
	443	5.0～14.0	23.0以上		北西－南東				
17	444	0.6	12.0以上	0.1	南－北				
	450 a	2.3	8.0 以上	1.1	南－北			SD453 より新しい	曲げ物、底板、陶器片、漆器
	450 b	2.7	〃	1.0	〃			〃	
	450 c	1.0	〃	1.0	〃			〃	
	451	2.4	12.0以上	8.0	〃		黄褐色～暗灰色粘土質シルト	〃	漆器
	452 a	3.2	8.0 以上	0.3	〃		暗灰黄色シルト～砂質シルト（自然）	SD452bより新しい	曲げ物、底板、石杵、陶器片 のメ？
	452 b	0.8	〃	0.6	〃		にぶい黄褐色・暗褐色シルト（人為）	〃	
	452 c	1.6	〃	0.6	〃		暗オリーブ褐色・黄褐色シルト（自然）	〃	
	452 d	1.0	〃	1.3	東西－南北		黒褐色粘土質シルト（自然）	SD452a～c　SD453より古い	北側に曲がる
	453	3.0	8.0	1.0	東－北				
	455	〃							
18	458								確認のみ
	461	1.8		0.7	南－北		黒褐色～暗色シルト（自然）		平面図なし・断面のみ

第７表　溝属性表（２）（単位：ｍ）

No	遺構名	区	No	遺構名	区	No	遺構名	区	No	遺構名	区	No	遺構名	区	No	遺構名	区	No	遺構名	区	No	遺構名	区
300	SD	13	334	SE	14	368	SK	14	402	SX	5下	436	SD	5不明	470	SD	7不	504	SA	5西下	538	SB	14
301	SE	13	335	SD	14	369	SK	14	403	SE	13	437	SD	5不明	471	SK	7不	505	SB	7	539	SB	14
302	SE	13	336	SE	14	370	SD	14	404	SX	5下	438	SE	16	472	SD	7不	506	SB	13	540	SB	14
303	SE	13	337	SD	14	371	SD	14	405	SE	5上	439	SE	16	473	SD	7不	507	SB	13	541	SB	14
304	SE	13	338	SD	14	372	SD	14	406	SX	5上	440	SD	16	474	SD	7上	508	SB	13	542	SB	14
305	SD	13	339	SD	14	373	SD	14	407	SX	5不明	441	SD	16	475	SE	13	509	SB	13	543	SB	14
306	SE	13	340	SD	14	374	SK	14	408	SE	5下	442	SD	16	476	SE	13	510	SB	13	544	SB	14
307	SE	13	341	SD	14	375	SK	14	409	SD	5下	443	SD	16	477	SD	13	511	SB	13	545	SB	7
308	SE	13	342	SD	14	376	SK	14	410	SD	5下	444	SD	17	478	SE	13	512	SB	13	546	SB	7
309	SE	13	343	SD	14	377	SK	14	411	SK	5上	445	SE	17	479	SE	13	513	SB	13	547	SB	7
310	SE	13	344	SE	14	378	SK	14	412	SD	5下	446	SK	17	480	SK	13	514	SB	13	548	SB	7
311	SE	13	345	SE	14	379	SK	14	413	SD	5下	447	SI	17	481	SE	13	515	SB	13	549	SX	7
312	SD	13	346	SD	14	380	SD	15	414	SD	5上	448	SE	17	482	SD	13	516	SB	13			
313	SD	13	347	SD	14	381	SD	15	415	SE	5下	449	SE	17	483	SE	13	517	SB	13			
314	SD	13	348	SE	14	382	SE	15	416	SD	5下	450	SD	17	484	SD	13	518	SB	13			
315	SE	13	349	SD	14	383	SD	15	417	SX	5上	451	SD	17	485	SD	13	519	SA	13			
316	SE	13	350	SD	14	384	SK	15	418	SD	5下	452	SD	17	486	SD	13	520	SA	13			
317	SD	13	351	SE	14	385	SD	15	419	SX	5下	453	SD	17	487	SD	13	521	SB	14			
318	SD	13	352	SE	14	386	SD	15	420	SX	5不明	454	SK	17	488	SD	13	522	SB	14			
319	SE	13	353	SE	14	387	SD	15	421	SE	5下	455	SX	17	489	SE	7上	523	SA	14			
320	SE	13	354	SK	14	388	SE	15	422	SD	5下	456	SX	17	490	SX	7上	524	SA	14			
321	欠	13	355	SE	14	389	SE	15	423	SE	5上	457	SK	18	491	SD	7上	525	SA	14			
322	SE	13	356	SE	14	390	SK	15	424	SD	5下	458	SD	18	492	SD	7上	526	SB	15			
323	欠	13	357	SE	14	391	SD	15	425	SK	5下	459	欠	18	493	SK	7上	527	SB	17			
324	SE	13	358	SE	14	392	SD	15	426	SE	5不明	460	SE	18	494	SD	7上	528	SA	17			
325	SD	13・14	359	欠	14	393	SK	15	427	SE	5不明	461	SD	18	495	SD	13	529	SA	17			
326	SD	14	360	SD	14	394	SX	15	428	SD	5上	462	SK	18	496	SD	5	530	SD	15			
327	SE	14	361	SD	14	395	SK	15	429	SE	5不明	463	SE	7不	497	SD	7上	531	SA	5			
328	SE	14	362	SK	14	396	SD	15	430	SE	5不明	464	SD	7不	498	SX	5西下	532	SB	5			
329	SE	14	363	SK	14	397	SD	15	431	SE	5不明	465	SD	17	499	SK	5西	533	SB	5			
330	SD	14	364	SD	14	398	SD	15	432	SD	5上	466	SX	7	500	SB	5不明	534	SB	13			
331	SD	14	365	SK	14	399	SE	15	433	SE	5下	467	SE	7上	501	SB	5西下	535	SB	13			
332	SD	14	366	SD	14	400	SE	15	434	SK	5下	468	SE	7上	502	SA	5西上	536	SB	13			
333	SD	14	367	SD	14	401	SE	15	435	SD	5不明	469	SE	7上	503	SA	5西上	537	SB	13			

第８表　遺構番号対照表

２．発見された遺物

発見された遺物には陶磁器、木製品、鉄製品、銅製品、古銭、石製品、土製品、動物遺体がある。

①陶磁器（第24図５～第25図）無釉陶器、施釉陶器、染付磁器がある。

【無釉陶器】（第24図５～７）３点ある。５は甕または壷、６は鉢または甕、７は摺鉢で底面に擦痕が認められる。

【施釉陶器】（第24図３・８～13、第25図７）８点ある。第23図３は須恵器質の瓶、８は瀬戸の菊花皿、９・12は唐津で９は皿、12は鉢である。10・11は美濃で10は菊皿、11は皿である。13は碗で漆状の付着物が認められ補修痕と思われる。第25図７は大堀相馬の土瓶である。

【染付磁器】（第24図14～第25図６）８点ある。第24図14・15、第25図４は肥前の皿である。第25図１～３は中国産の皿である。６は青磁の大皿である。

②木製品（第26図～第37図）漆器の蓋・椀、下駄、木鉢、曲げ物、折敷、塔婆？、将棋の駒、浮子？または鏃？、箸、不明木製品がある。

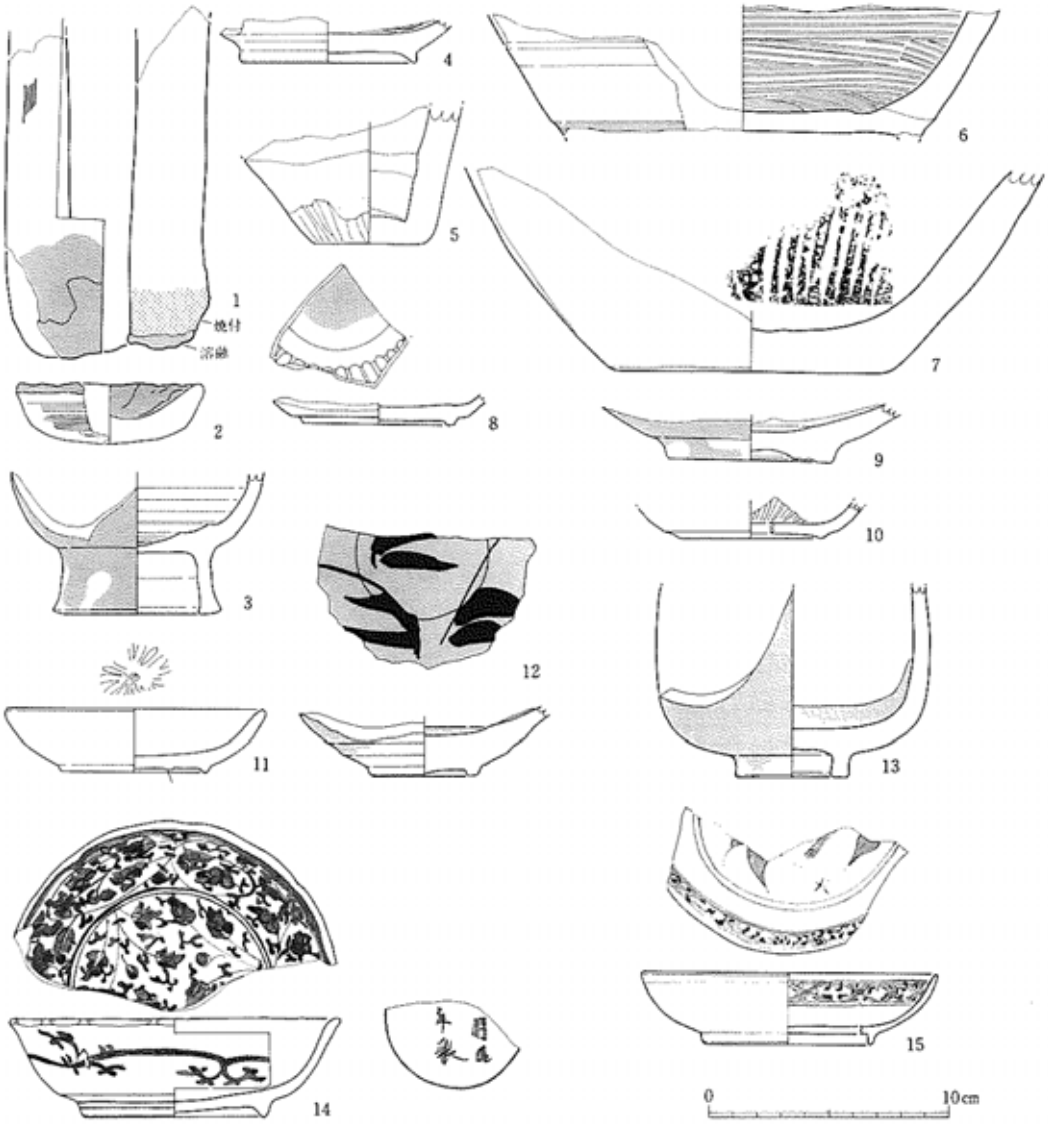
【漆器の蓋・椀】（第26図・第27図）漆器の藍７点（第26図１～７）、漆器の椀12点（第26図８～第27図）がある。漆は内面朱漆・外面黒漆のもの（第26図３～６、10、第27図１・２・７・８）が最も多く、他に全面朱漆のもの（第26図11）、全面黒漆のもの（第26図２・７・８、第27図３・５）、高台裏のみ黒漆で他は朱漆のもの（第26図１・９）がある。文様は外面に黒漆が施された後朱漆で描かれており、文様が分かるものには植物文（第26図５・６・９、第27図２）、鳥文（第26図４・８）、巴文（第27図7）がある。第26図４には伊達家の家紋「三ツ引両」が描かれている。また、高台裏に文字や文様が描かれているものもある（第26図３・６・７、第27図１）。

【下駄】（第28図～第31図６）連歯下駄９点（第28図～第30図６）、露卯下駄６点（第31図～第32図）、露卯下駄の歯６点（第33図１～６）がある。

【木鉢】（第33図７～第34図２）４点ある。口縁部はいずれも外傾するが、口縁部が肥厚しない小型のもの（第33図７・８）と、肥厚する大型のもの（第34図１・２）がある。

【曲げ物・折敷】（第34図３～第36図６）曲げ物２点（第35図１・２）、曲げ物の側板・底板13点（第34図３～第36図３）、折敷の側板、底板３点（第36図４～６）がある。

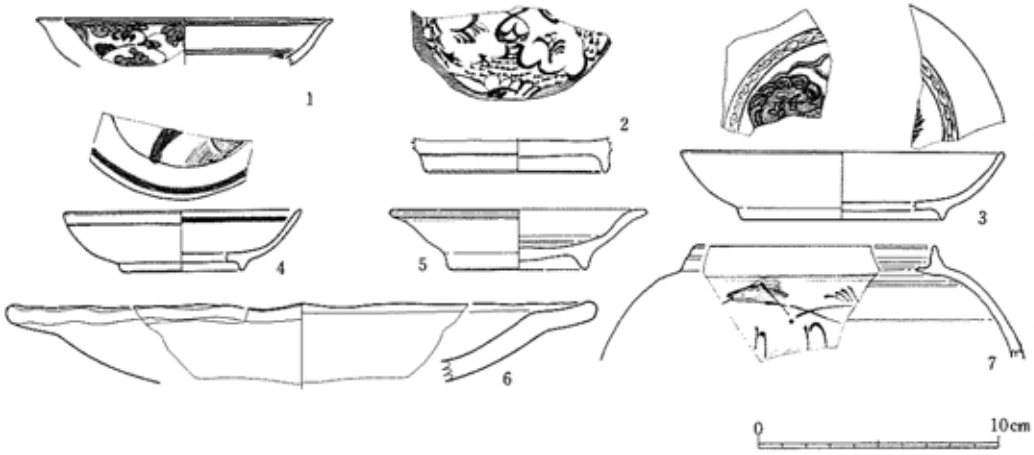
【箸】（第36図７～11）190点あるが完形のものは34点である。すべて面取りしてあり、一方の先端が太く、他方が細くなるもの（７）、中央が太く両先端が細くなるもの（８～11）がある。断面形は正方形、長方形を呈する。



	種別	区	出土地点	備考		種別	区	出土地点	備考
1	フイゴ羽口	7	SK490	図下端部の熱変色跡著	9	鉢？	14		高台径7.1　陶器（唐津）灰釉　胎土赤褐色
2	ルツボ	15	SE399 堆積土	口径(7.8) 底径(6.4) 高(2.6) 鉄滓状付着物	10	鉢	14		高台径5.8　陶器（美濃）灰釉　胎土白色
3	板？	14	SE358 堆積土	底径 7.1　陶器　須恵器質　緑釉	11	皿	14	SE334 堆積土	口径10.7　高台径6.1 高2.7 陶器（美濃）灰釉　胎土白色発泡質
4	碗	7	SD470 堆積土	底径 7.4　土師器質　内面黒色	12	鉢	15	SD397 堆積土	高台径4.5　陶器（唐津）灰釉　胎土赤褐色　鉄釉草文
5	焙または壺	15	SE399 堆積土	陶器　外面ハケ目	13	茶碗	15	SD385 堆積土	高台径4.9　陶器　鉄釉　胎土黄白色　赤鉄鉱顔料による縞模様
6	鉢または壺	15	SE399 堆積土	陶器　内面刷毛目・指ナデ	14	蓮花皿	14	表土	口径(13.7)　高台径(7.6) 高(4.0) 磁器（肥前）染付　花唐草文
7	擂鉢		不明	陶器　瓦質　底面横方向の擦痕	15	皿	14	SK334 堆積土	口径(12.4)　高台径(7.1) 高(3.0) 磁器（肥前）染付
8	菊花皿	14	SK334 堆積土	図版8-1　底径 6.3　陶器（瀬戸）スクリーン部地ハケ					見込み　草花文　口縁内面　雷紋ダスキ文　図版8-1

（単位：cm）

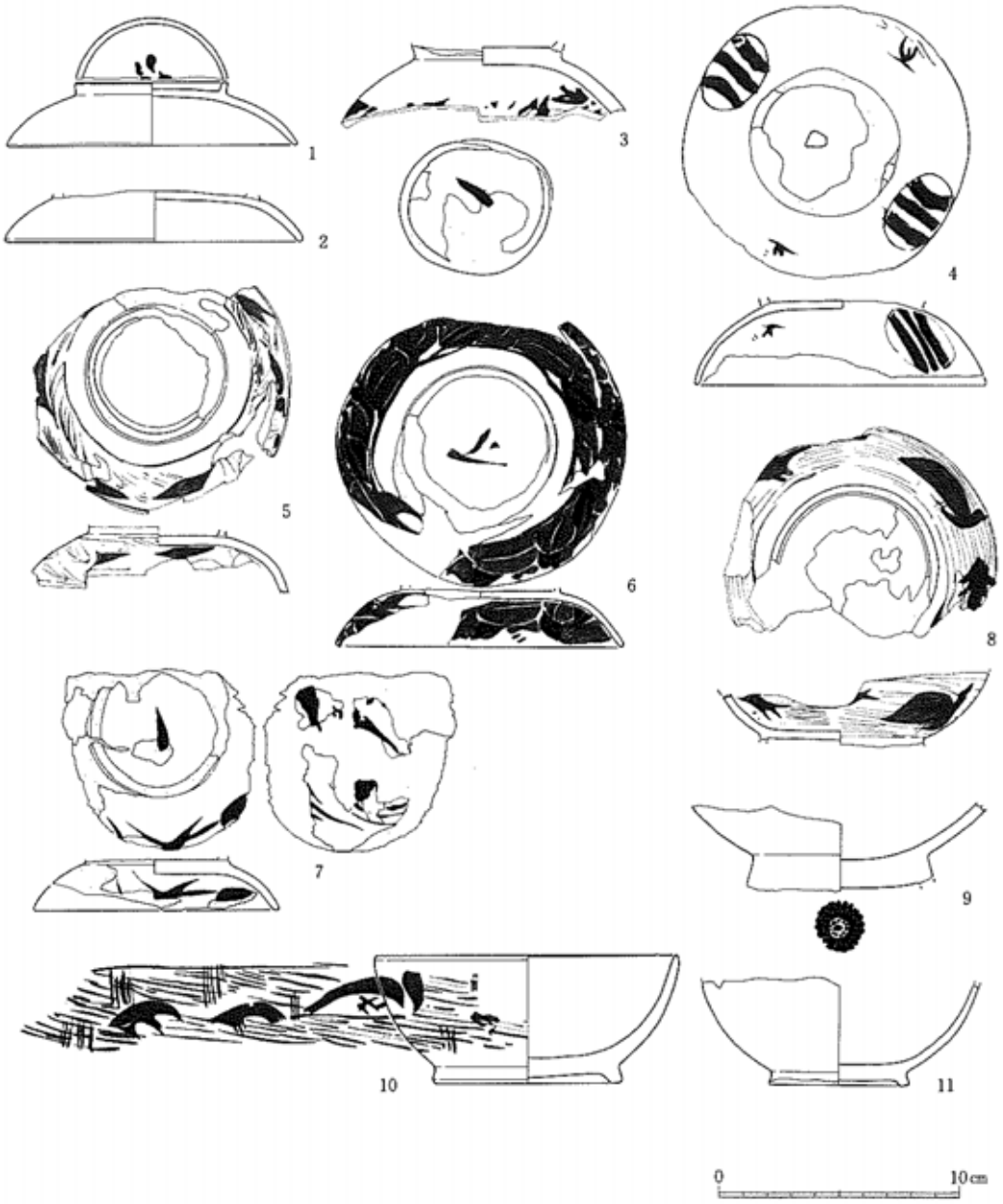
第24図　土製品・陶磁器（1）



	種別	区	出土地点	備考	図版
1	磁器 皿	15	SD380 堆積土	口径(12.4) 磁器（中国産）染付 外面 花唐草文 見込部 圏線＋花文	
2	磁器 皿	14	SK354 堆積土	高台径(6.4) 磁器（中国産）染付 見込部 花文 見込部に膠着物	8－5
3	磁器 皿	14	SK354 堆積土	口径(13.4) 高台径(8.3) 高(2.9) 磁器（中国産）染付 見込部 圏線＋渦繋文 花文 赤状膠着物による補修痕	8－4
4	磁器 皿	14	SK354 堆積土	口径(9.9) 高台径(5.1) 高(2.6) 磁器（肥前）染付	8－3
5	磁器 皿	14	SD341 堆積土	口径(10.6) 高台径(5.7) 高(2.5) 磁器 見込部釉ハギ 釉厚い	
6	磁器 大皿	15	SD339 堆積土	口径(24.5) 磁器 青磁 二次加熱をうけ釉が変質している	
7	陶器 土瓶	16	表 土	口径(10.0) 陶器（大堀相馬） 色絵山水文	8－6

（単位：cm）

第25図 陶磁器（2）



	種別		区	出土地点	口径	高台径	器高	塗り・文様の特徴	備考	図版
1	漆器	蓋	14	SK354	堆積土	(12.1)	(6.2)	高台裏褐色系の地に朱で文字　他は全面朱		8－7
2	漆器	蓋	14	SK354	堆積土	12.4		全面黒地	内面一部炭化	8－10
3	漆器	蓋	14	SK354	堆積土	(12.5)		内面朱　外面黒地に朱で文様　高台裏に文字？		8－8
4	漆器	蓋	14	SK354	堆積土	(12.1)		内面朱　外面黒地に朱で三引両文・千鳥文		8－9
5	漆器	蓋	14	SK354	堆積土			内面朱　外面黒地に朱で松葉その他		8－11
6	漆器	蓋	14	SD360	堆積土	(12.1)		内面朱　外面黒地に２種の朱で木葉文　高台裏に朱で「上」の字		8－12
7	漆器	蓋	14	SE327	堆積土	(10.2)		全面黒地　内外面朱で文様　高台裏に朱で「一」の字		8－13
8	漆器	椀	14	SD361	堆積土			全面黒地　外面朱で横線と鳥		8－14
9	漆器	椀	13	SE322	堆積土			高台裏黒地　他全面朱　高台裏中央に朱で菊花		8－15
10	漆器	椀	14	SD361	堆積土	(12.7)	(7.6)	(5.5)	内面朱　外面黒地に朱で文様	8－16
11	漆器	椀	14	SD361	堆積土		(5.8)		全面朱	8－17

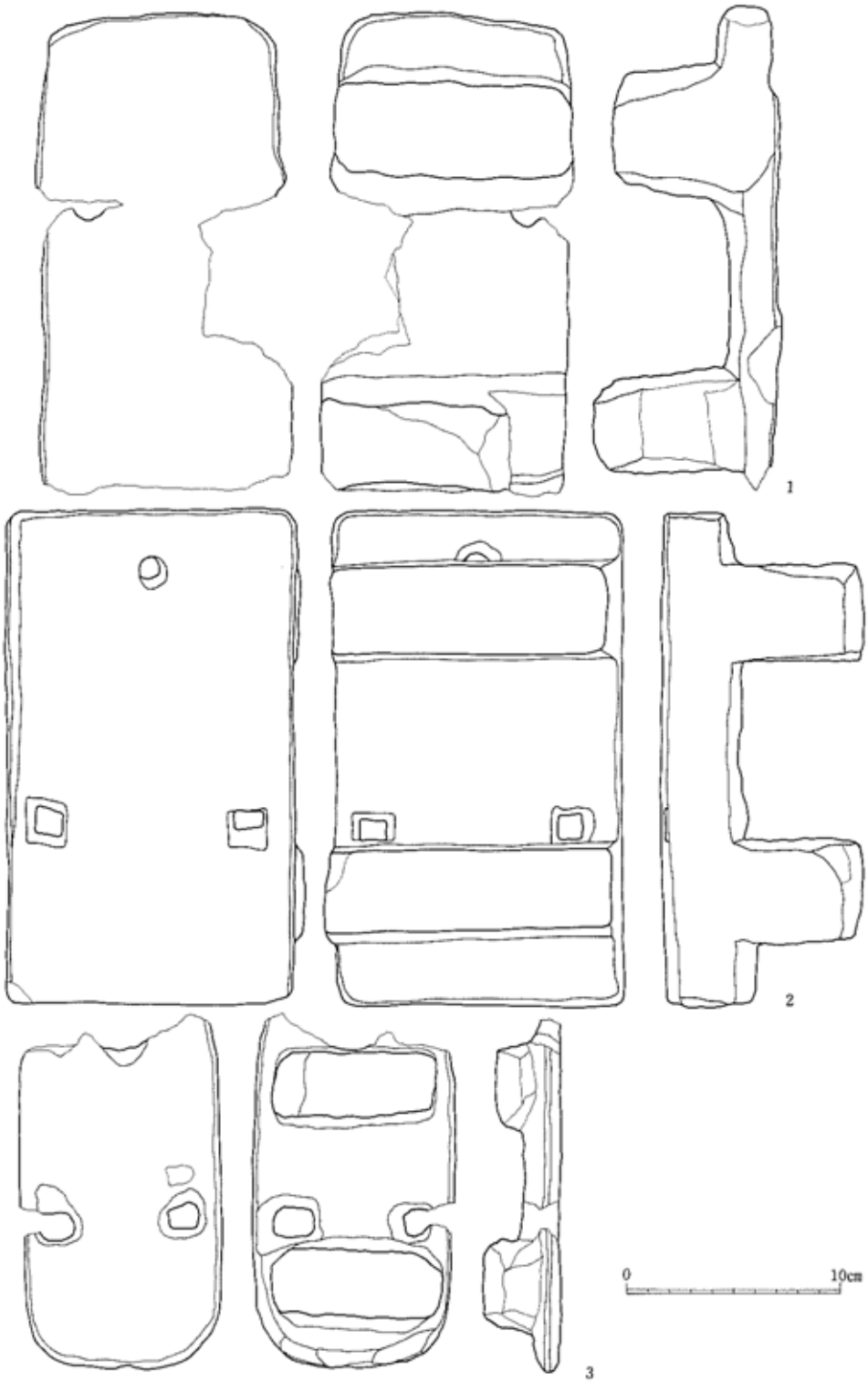
（単位：cm）

第26図　木製品(1) 蓋・椀

	種別	区	出土地点	口径	高台径	器高	塗り・文様の特徴	備考	写真図版
1	漆器 椀	14	SE353 堆積土	(14.6)	(7.4)	(5.1)	内面朱 外面黒地に朱で文様 高台裏に朱で記号？	高台裏剥離	8－18
2	漆器 椀	14	SE353 堆積土	13.2	7.0	5.6	内面朱 外面黒地に朱で草花文		8－20
3	漆器 椀	14	SE315 堆積土	(12.5)			全面黒 内外面・見込に朱で文様（筆描きの線）		8－19
4	漆器 椀	14	SE353 堆積土	(13.2)	(6.8)	(5.2)	外面黒地に朱で文様	内面剥離	8－21
5	漆器 椀	14	SE354 堆積土	(13.2)	(7.9)	(6.2)	全面黒地	剥離多い	
6	漆器 椀	14	SE361 堆積土	(15.0)	(8.0)	(6.4)	内面朱 外面黒地	剥離多い	
7	漆器 椀	14	SE361 堆積土	(14.3)			内面朱 外面黒地に朱で巴文		8－22
8	漆器 椀	13	SE311 堆積土	(14.2)	(8.0)		内面朱 外面黒地に2種の朱で文様		8－23

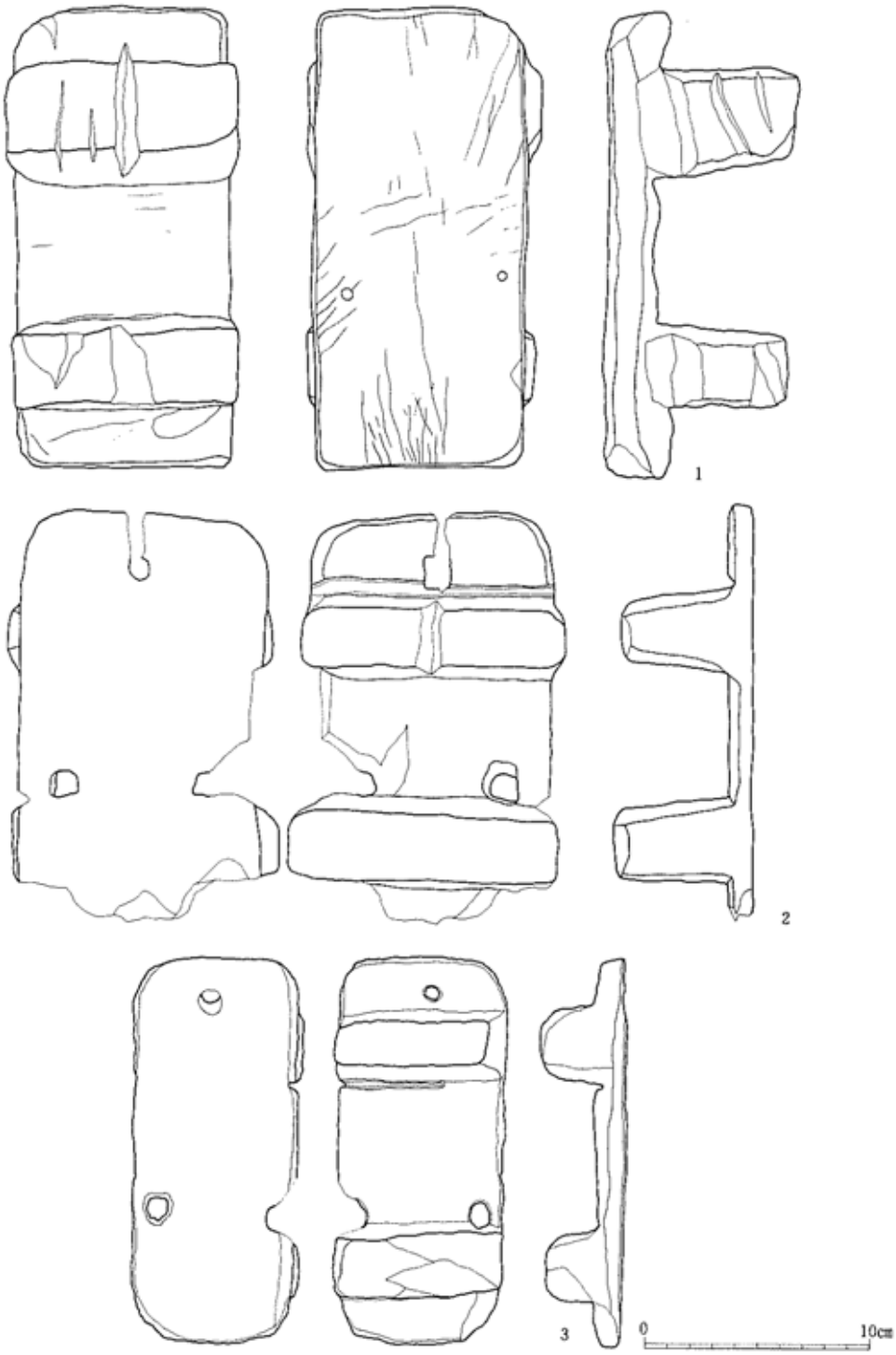
（単位：cm）

第27図　木製品(2) 椀



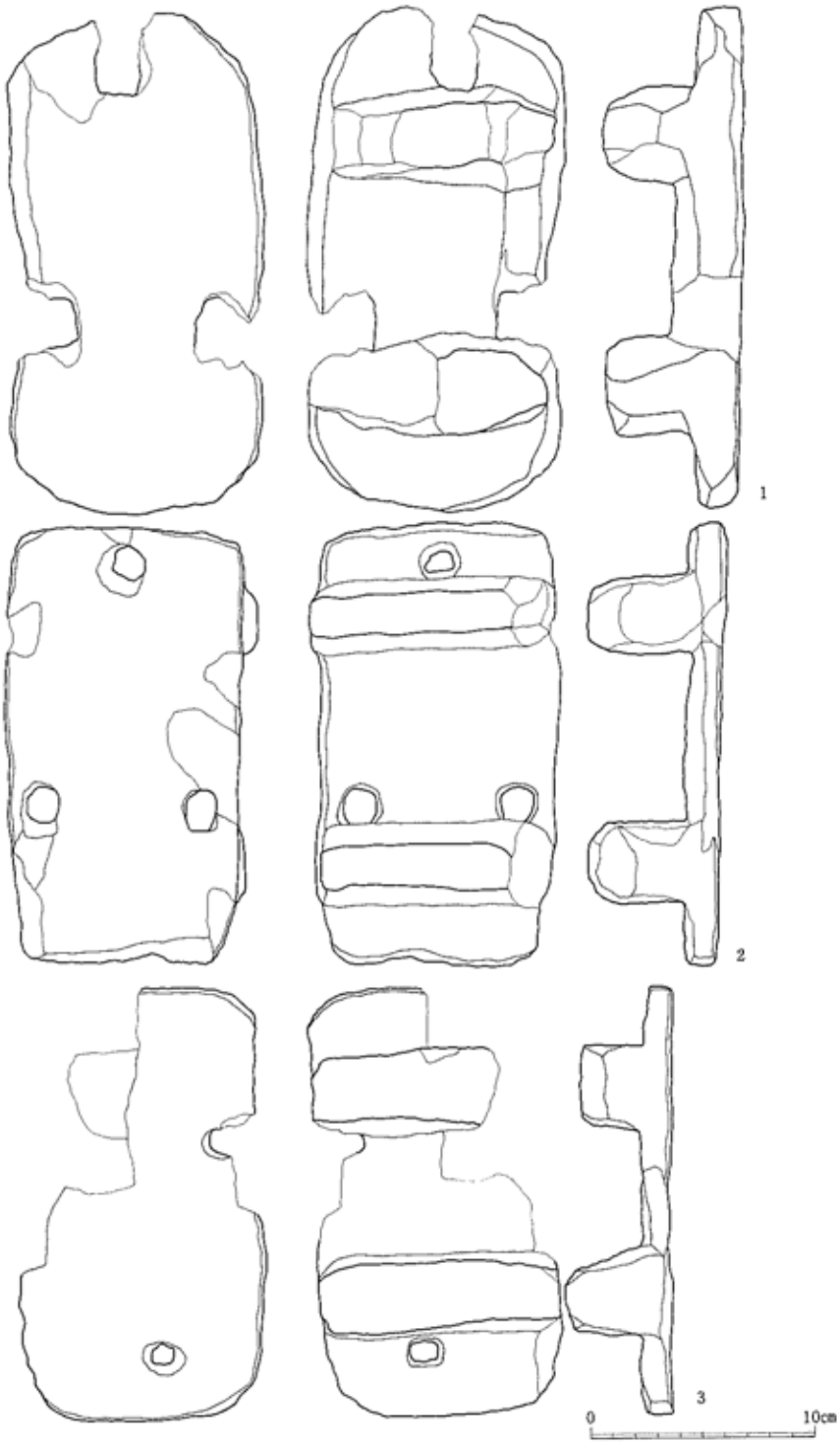
	種別	区	出土地点	長さcm	幅 cm	特徴	写真図版
1	連歯下駄	5	SE431 堆積土	22.3	(11.5)	台部・歯部欠損　鼻緒孔なし	9－3
2	連歯下駄	5	SE431 堆積土	23.0	13.4	台裏部右下隅がやや窪んでいる	9－1
3	連歯下駄	14	SF353 堆積土		9.4	爪先部欠損	9－2

第28図　木製品(3)連歯下駄



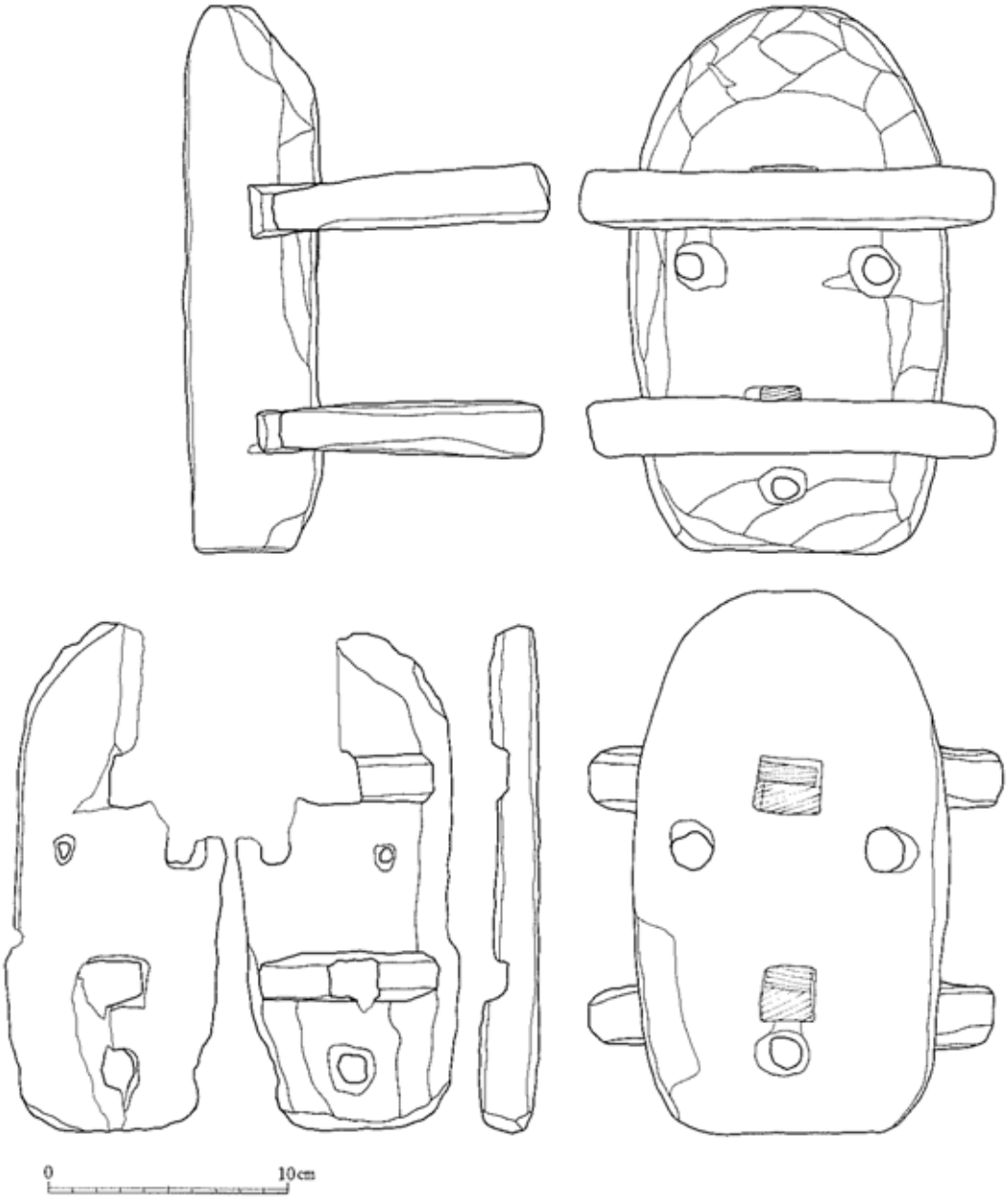
	種別	区	出土地点	長さcm	幅 cm	特徴	写真図版
1	連歯下駄	5	SE431 堆積土	20.3	9.4	鼻緒孔なし　台表に焼け火箸様の道具による刺突痕２ヵ所　未製品か	10－1
2	連歯下駄	14	SX354 堆積土		10.3	歯部最大幅12cm　踵部欠損あり	10－2
3	連歯下駄	15	SD390 堆積土	17.2	7.7	鼻緒孔一部欠損あり	

第29図　木製品(4)連歯下駄



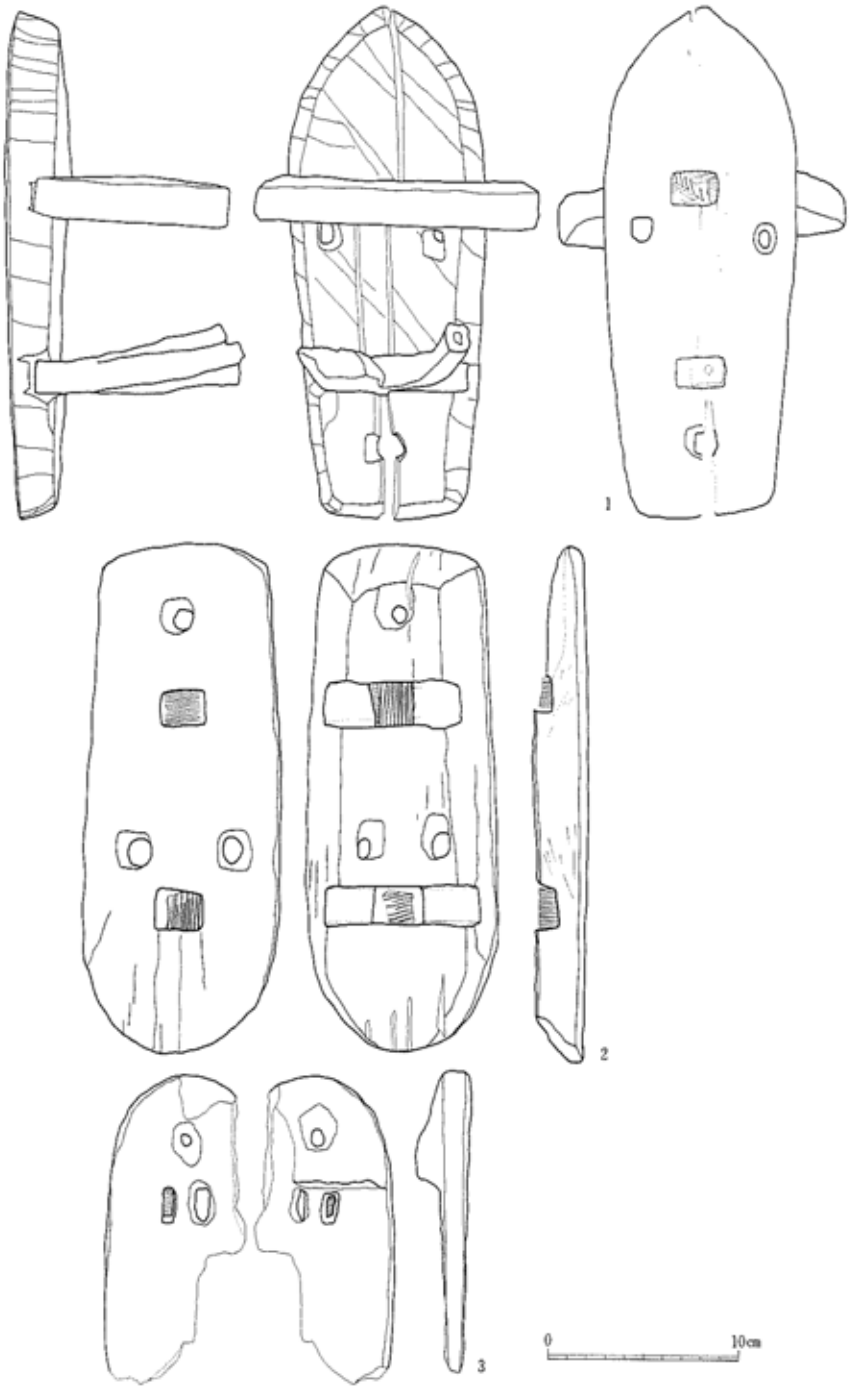
	種別	区	出土地点	長さcm	幅 cm	特徴	写真図版
1	連歯下駄	14	SK354 堆積土	(22.6)	11.3	鼻緒孔部欠損　歯部欠損あり	10－3
2	連歯下駄	14	SK381 堆積土	19.4	10.6	歯部最大幅11cm　歯部欠損あり	
3	連歯下駄	14	SK374 堆積土	19.2	11.0	台部・歯部欠損あり	10－4

第30図　木製品(5)連歯下駄



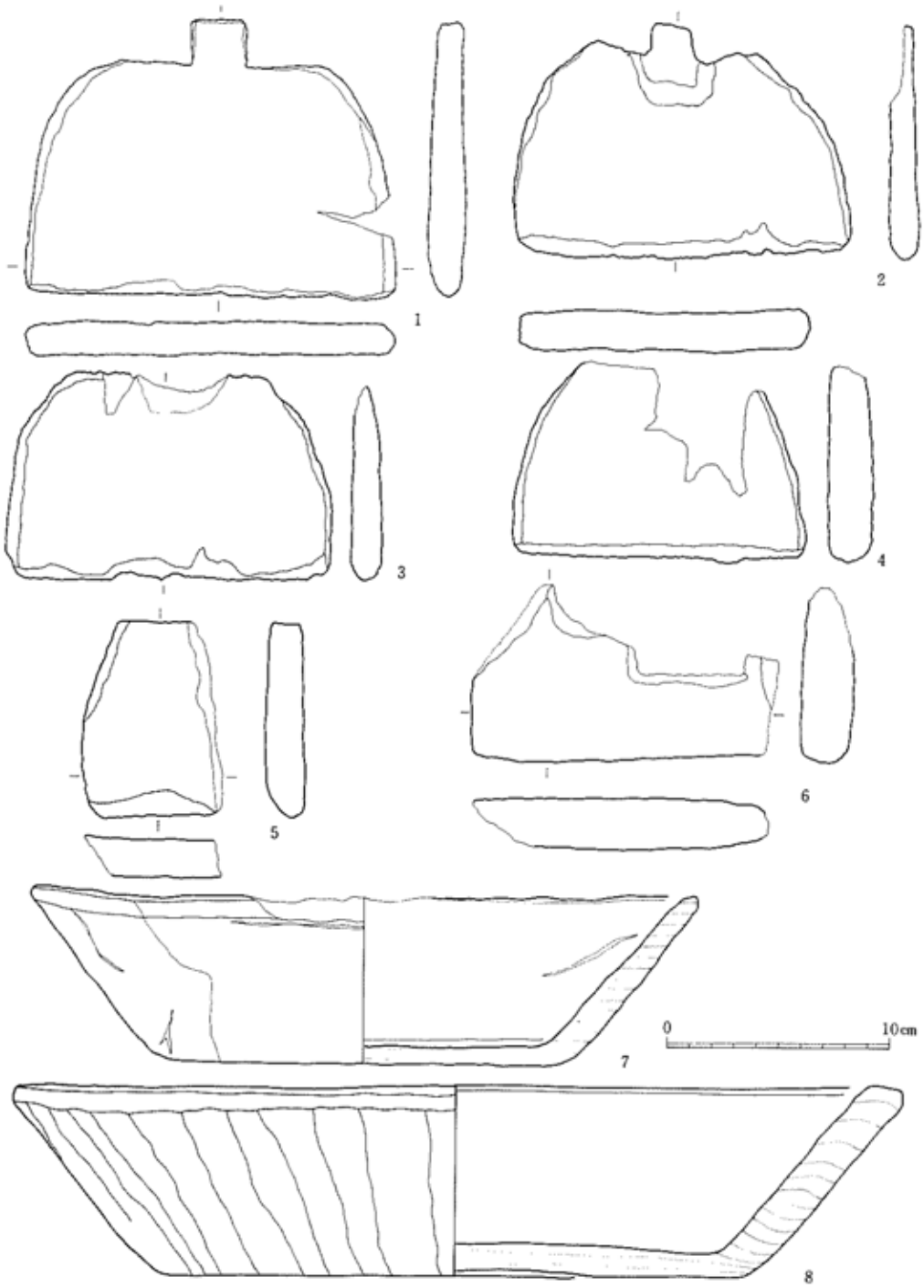
	種別	区	出土地点	長さcm	幅 cm	特徴	写真図版
1	露卯下駄	14	SK379 堆積土	22.7	13.2	歯部最大幅17.1cm 台表部ホゾ穴に模材1～2本	12－1
2	露卯下駄	14	SD360 堆積土	21.2	9.0	爪先部欠損あり	12－2

第31図　木製品(6)露卯下駄



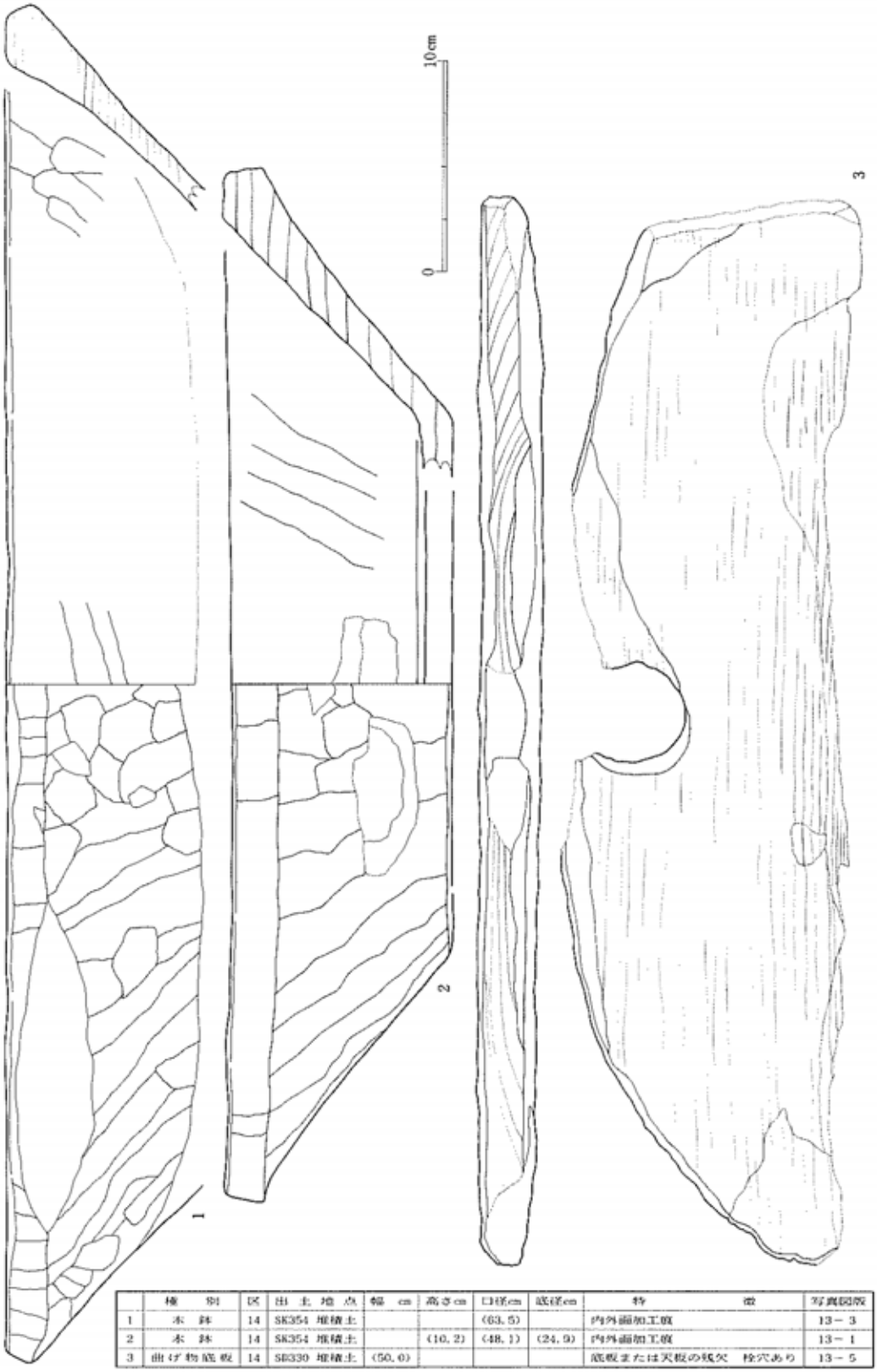
	種別	区	出土地点	長さcm	幅cm	特徴	写真図版
1	露卵下駄	5	SE431 堆積土	22.4	10.0	後部最大幅14.8cm　爪先側鼻緒穴周側に指痕ふしき深み　踵側ホゾ穴に楔	11－1
2	露卵下駄	5	SE431 堆積土	22.5	10.3	後部・台裏踵側欠損　ホゾ残存	11－2
3	露卵下駄	14	SK330 堆積土			爪先部分のみ残存　後端付部分に段あり　ホゾ穴2	11－3

第32図　木製品(7) 露卵下駄



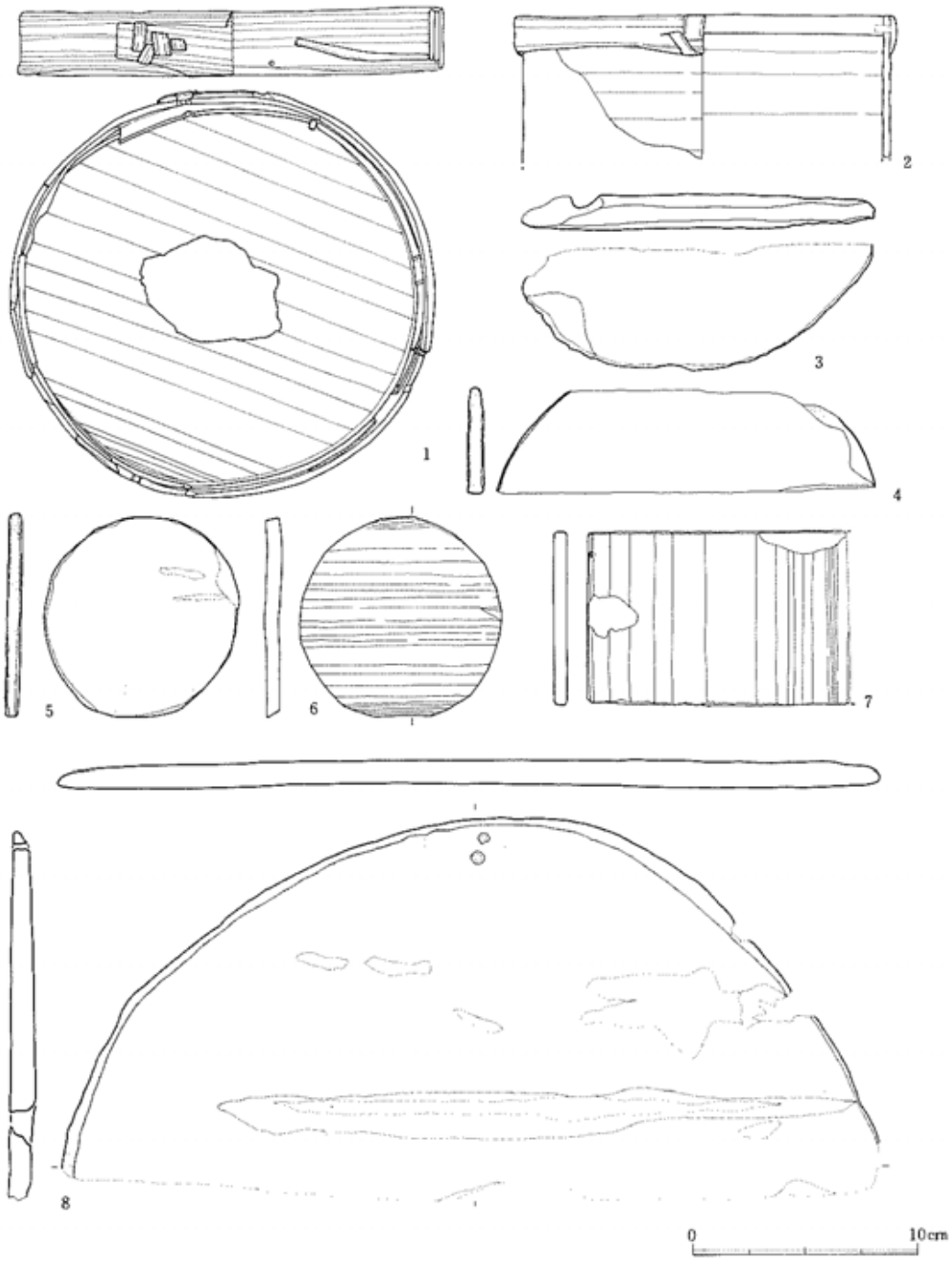
	種　別	区	出土地点	幅 cm	高さ cm	口径 cm	底径 cm	特　徴	写真図版
1	露卯下駄　歯	14	SK354　堆積土	16.7	12.2				
2	露卯下駄　歯	14	SD361　堆積土	15.1	10.6			ホゾ部分欠損あり	10－5
3	露卯下駄　歯	14	SD361　堆積土	14.6				上部欠損　露卯下駄の歯	
4	露卯下駄　歯	15	SD385　堆積土	12.9				上部欠損	10－6
5	露卯下駄　歯	15	SE399　堆積土					残欠	
6	露卯下駄　歯	5	SE430　堆積土					残欠	
7	木　鉢	14	SD361　堆積土		(7.9)	(30.0)	(16.0)		13－4
8	木　鉢	15	SD381　堆積土		(8.5	(39.8)	(26.0)		13－2

第33図　木製品(8)　露卯下駄の歯・木鉢



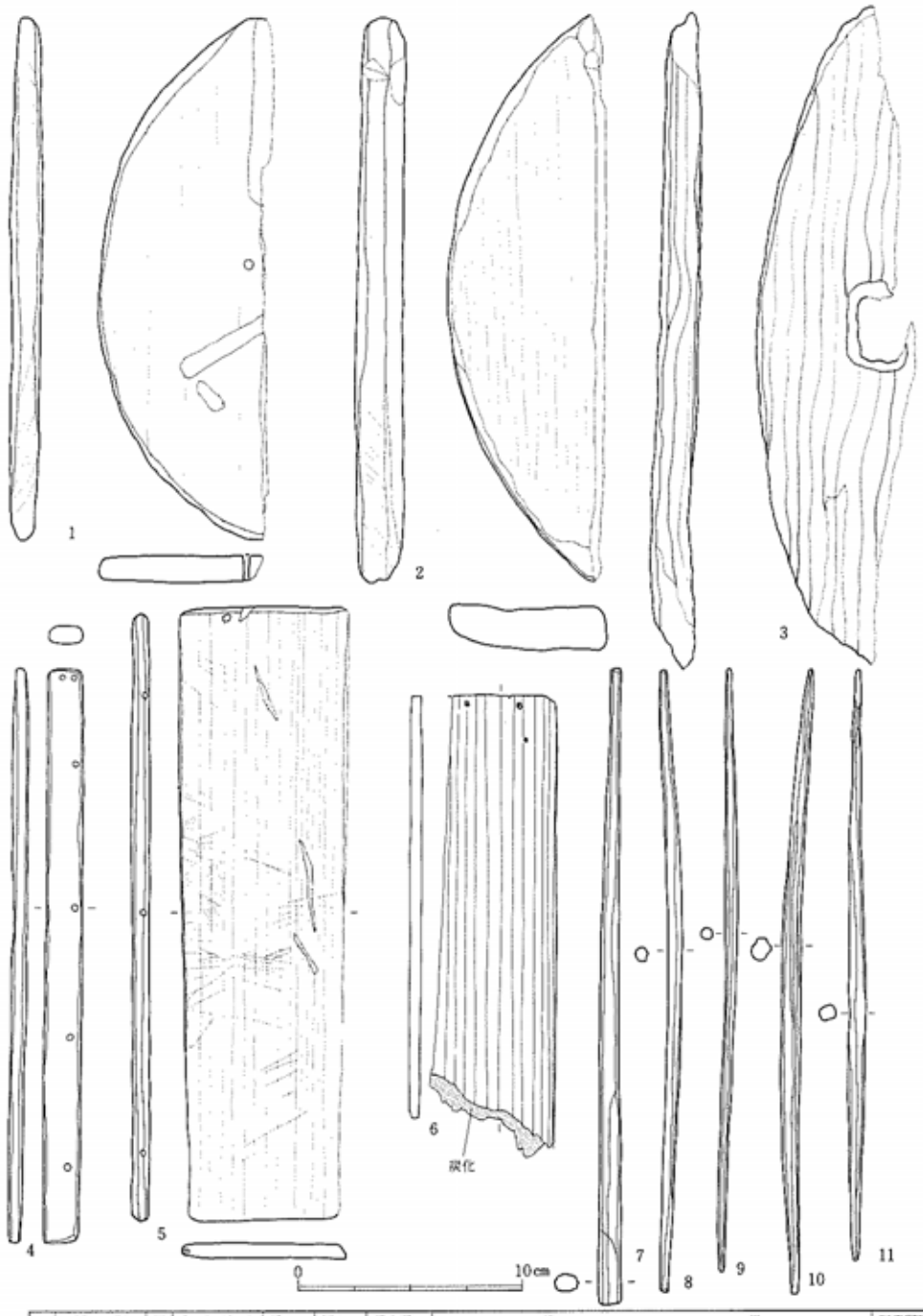
	種別	区	出土地点	幅 cm	高さ cm	口径cm	底径cm	特徴	写真図版
1	木鉢	14	SK354 堆積土			(63.5)		内外面加工痕	13－3
2	木鉢	14	SK354 堆積土		(10.2)	(48.1)	(24.9)	内外面加工痕	13－1
3	曲げ物底板	14	SB330 堆積土	(50.0)				底板または天板の残欠　桧穴あり	13－5

第34図　木製品(9) 木鉢・曲物



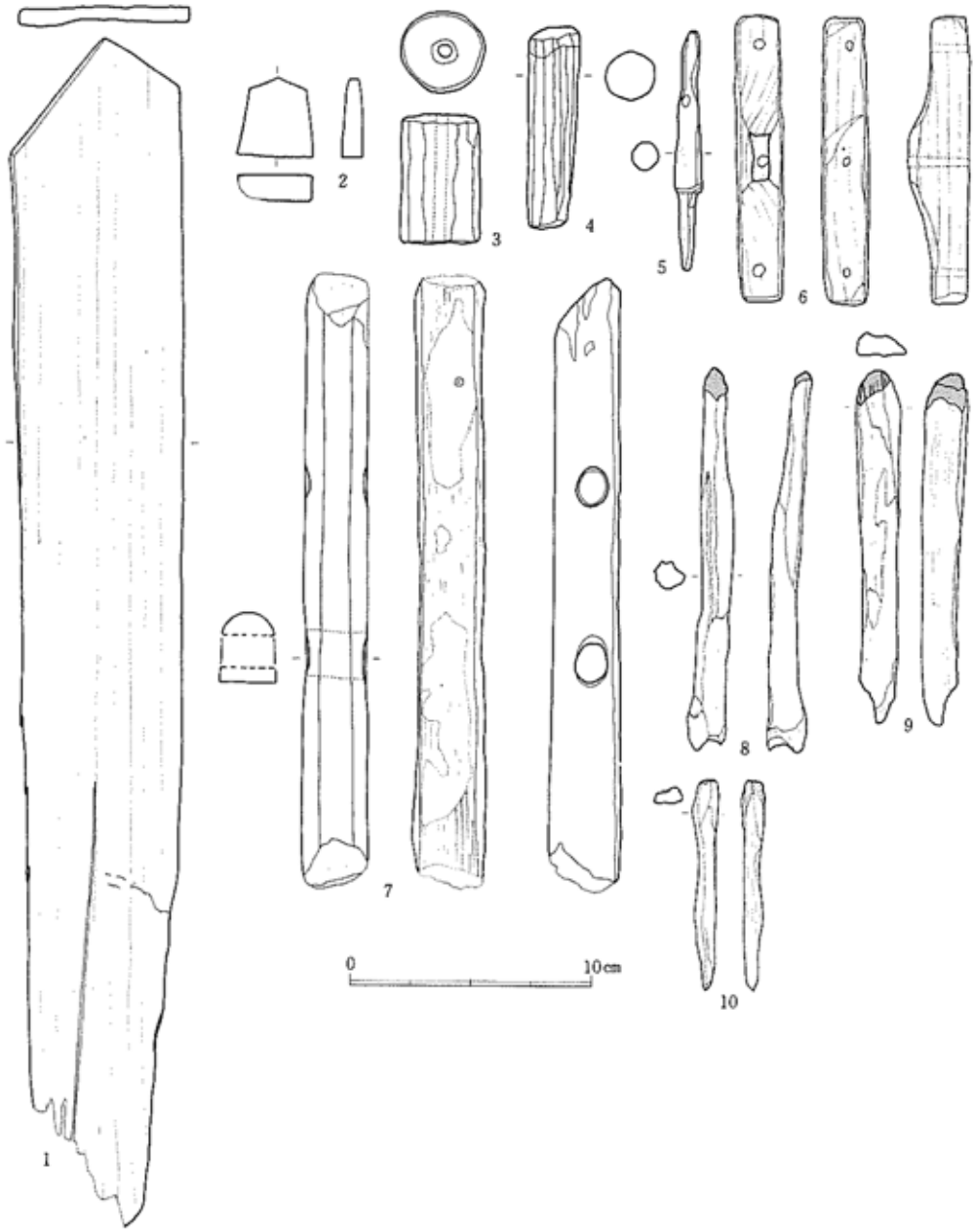
	種別	区	出土地点	厚さcm	高さcm	口径cm	底径cm	特徴	写真図版
1	曲げ物	14	SD341 2層		(2.9)	18.9		底板おさえの木釘穴痕4箇所 1カ所に木釘残存 底板欠損部変化	13－6
2	曲げ物	14	SE353 堆積土			16.0	16.8	底板おさえの木釘穴5箇所 側板は1枚もの 底板外面変化	
3	曲げ物底板	14	SD360 堆積土	1.5				残欠	13－9
4	曲げ物底板	17	SD452 堆積土	0.8				残欠	13－10
5	曲げ物底板	7	SB255 堆積土	0.6				長径8.9cm 短径8.6cm	13－7
6	曲げ物底板	17	SD450 堆積土	0.6				直径9.0cm 外周に工具痕跡著	13－8
7	曲げ物底板	15	SK393 堆積土	0.7	7.8			左側辺欠損 右側辺下部に釘穴あり	13－11
8	曲げ物底板	14	SK354 堆積土	1.2				直径（39.6cm） 外縁部に貫通孔2カ所	13－1

第35図　木製品(10)　曲げ物



	種別	区	出土地点	長さcm	厚さcm	長大径cm	特徴	写真図版
1	曲げ物底板	14	SD353 堆積土		1.2		貫通孔1カ所あり	14－3
2	曲げ物底板	14	SD330 堆積土		1.9			14－2
3	曲げ物底板	14	SD353 堆積土		1.8		貫通孔1カ所あり	
4	折敷側板	14	SK354 堆積土	25.7	0.8		幅1.6cm　短辺～長辺に木釘穴6カ所（一部木釘残存）	14－4
5	折敷底板	14	SK354 堆積土	27.5	0.7		右側辺は欠損　左側辺に木釘穴3カ所　短辺に木釘穴1カ所　表面に横線	14－5
6	折敷底板	15	SK393 堆積土		0.5		最大幅5.5cm　短辺～長辺に木釘穴3カ所　欠損部炭化	14－6
7	箸	14	SK354 堆積土	28.3		1.2	一端が先細	
8	箸	14	SK354 堆積土	27.8		0.7	両端が先細	14－8
9	箸	14	SK354 堆積土	27.1		0.5	両端が先細	14－9
10	箸	14	SK354 堆積土	28.0		1.1	両端が先細	14－10
11	箸	14	SK354 堆積土	26.6		0.9	両端が先細	14－11

第36図　木製品(11)曲げ物・折敷・箸



	種別	区	出土地点	長さcm	幅cm	厚さcm	長大径cm	特徴	写真図版
1	不明	14	SK354 堆積土		7.0	0.8		下部欠損	15－1
2	将棋駒	14	SD041 堆積土	3.3	3.2	0.9		一部欠損	15－2
3	円柱状木製品	14	SE353 堆積土	5.4			3.5	面取り状の整形　貫通孔径0.5cm	15－3
4	円柱状木製品	14	SK354 堆積土	8.3			2.0	面取り状の整形	15－4
5	不明	14	SK354 堆積土	10.0			1.2	浮子または銛か？	15－5
6	把手	14	SK354 堆積土	11.9	1.9			中央部につまみを作出　木釘孔3カ所	15－6
7	不明	14	SK354 堆積土		2.3	3.0		下部欠損　表面黒漆塗り　裏面に膠着物（接着剤）と穴1カ所	15－10
8	不明	14	SK354 堆積土	14.6	1.8			一端が焦げている	15－7
9	不明	14	SK354 堆積土	15.0	1.6			一端が焦げている	15－8
10	不明	14	SK354 堆積土	8.7	1.2			一端が焦げている	15－9

第37図　木製品(12)その他の木製品

【その他の木製品】（第37図）１は塔婆？、２は将棋の駒と思われるが文字が消えており、種類は不明である。３・４は円柱状のもので外面に加工痕が認められる。５は浮子？または鏃？と思われる。６・７は把手状のもので、７の表面には黒漆塗が施され、裏面には接着痕と穴が１個認められる。胴部には長径18㎜、短径13㎜の楕円形の貫通孔が１個認められる。８～10は長さ、形態とも規則性がなく、加工痕も認められない不明木製品で100点出土している。先端が焦げているものと焦げていないものがある。

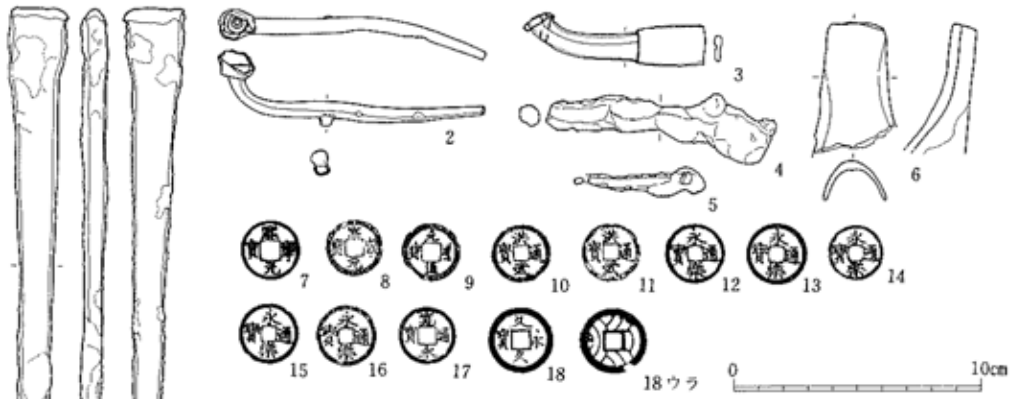
③金属製品（第38図１～６）くさび１点（１）、煙管２点（２・３）、釘２点（４・５）、不明鉄製品１点（６）がある。

④古銭（第38図７～18）熙寧元宝２点、元豊通宝１点、洪武通宝２点、永楽通宝５点、寛永通宝１点、文久永宝１点がある。

⑤石製品（第39図～第42図）石鉢1点（第39図２）、石臼の上臼４点（第39図１、第40図１～３）、石臼の下臼６点（第40図４～第42図２）、硯１点（第42図３）、砥石３点（第42図４～６）がある。第40図４は茶臼である。

⑥土製品（第24図１・２）鞴（フイゴ）の羽口１点（1）、坩堝（ルツボ）１点（２）がある。

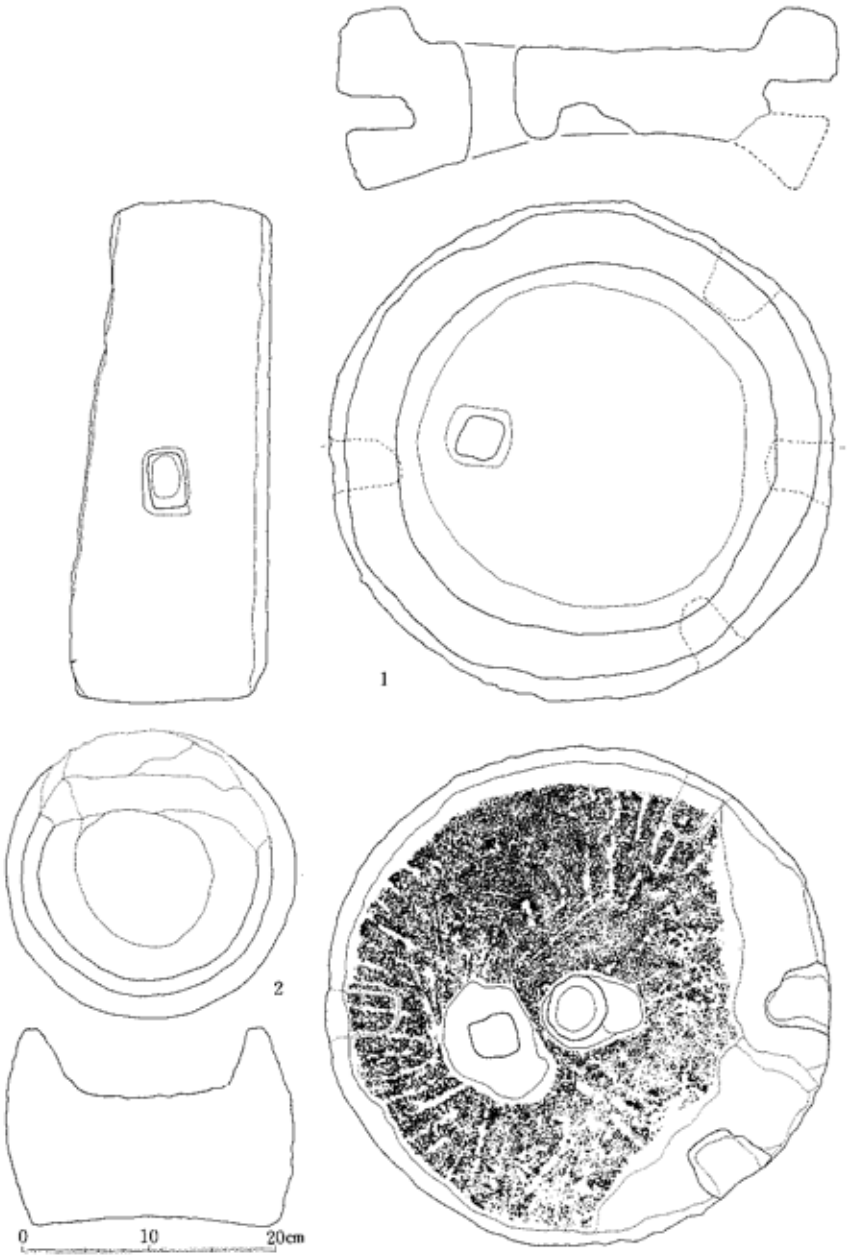
⑦動物遺体（第12表～第14表）魚類1種（カツオ）、鳥類1種（ガンカモ類）、哺乳類５種（イヌ・ニホンジカ・イノシシ・ウマ・ヒト）がある。



	種別	区	出土地点	長さcm	特徴	写真図版
1	クサビ	14	SK354 埋積土	18.4	鉄製　幅2.4cm　厚さ0.7cm	15－11
2	煙管	14		10.9	銅製　内骨形　火皿径(1.4cm)　火皿高(0.9cm)　首部最大径0.7cm　首部下端に環状のつくりだし	15－12
3	煙管	14	M9571ピット	7.2	銅製　吸口　補強帯あり　つぶれている	15－13
4	釘	7	SX490 埋積土		鉄製　断面長方形	15－14
5	釘	7	SX490 埋積土		鉄製	
6	不明	14	SK354 埋積土		鉄製　断面逆U字状　下部はラッパ状にひらく	

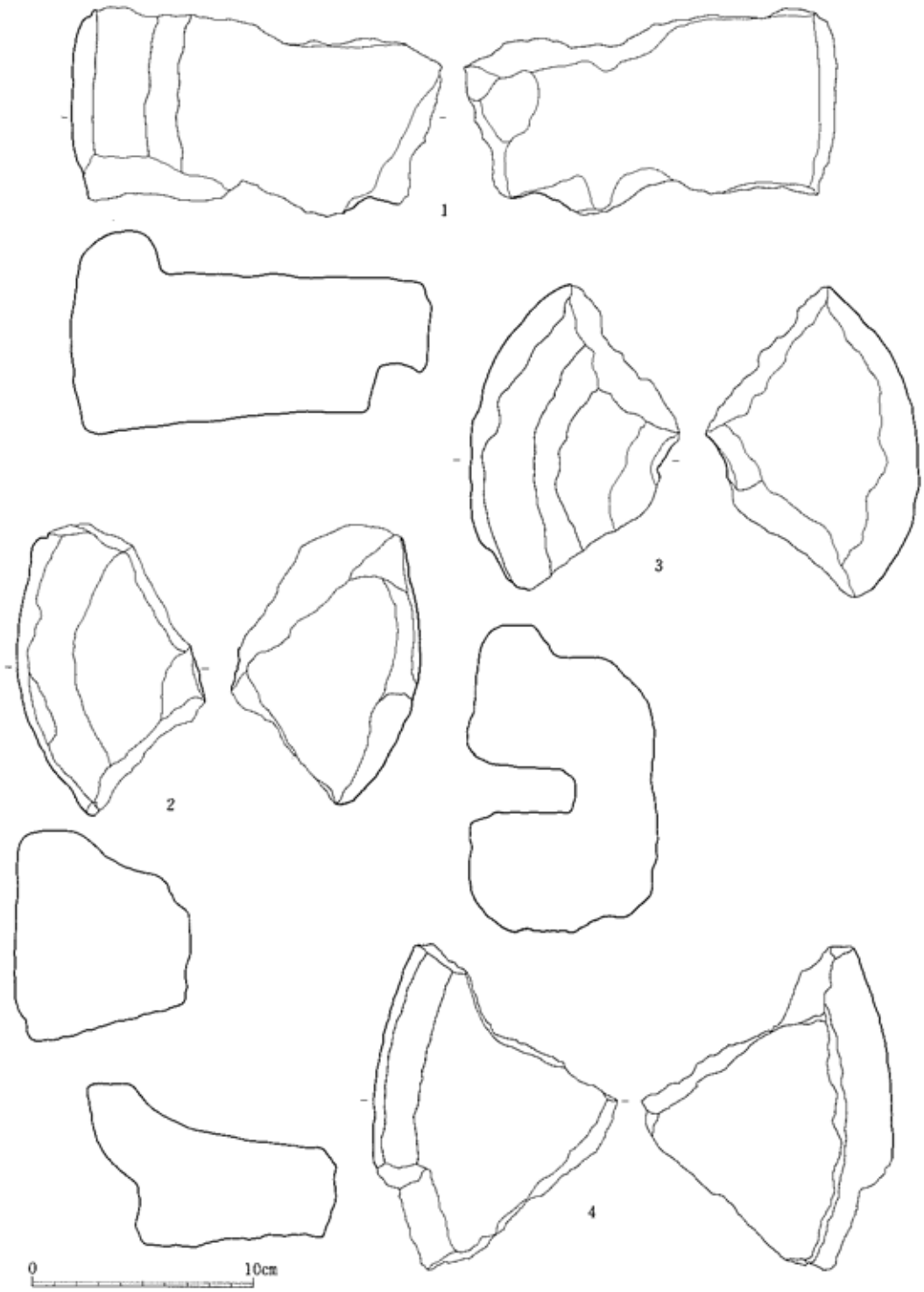
	銭貨	区	出土地点	特徴	外径cm	厚径cm	初鋳年	鋳造地	写真図版
7	熙寧元寶	5西	SD118	中国北宋時代の渡来銭	2.4	0.8	熙寧元 /1068	中国	15－15
8	熙寧元寶	5西	整地層上面	〃　〃	2.3	0.75	熙寧元 /1068	中国	15－16
9	元豊通寶		不明	〃　〃	2.4	0.8	元豊年 /1078	中国	15－17
10	洪武通寶	14	SK354	中国明時代の渡来銭	2.4	0.6	洪武元 /1368	中国	15－18
11	洪武通寶	14	SK354	〃　〃	2.3	0.6	洪武元 /1368	中国	15－19
12	永楽通寶	13	地山面	〃　〃	2.4	0.65	永楽6 /1408	中国	15－20
13	永楽通寶	14	SD346	〃　〃	2.4	0.65	永楽6 /1408	中国	15－21
14	永楽通寶	14	SD343	〃　〃	2.2	0.65	永楽6 /1408	中国	15－22
15	永楽通寶	14	SK354	〃　〃	2.4	0.65	永楽6 /1408	中国	15－23
16	永楽通寶	14	SK354	〃　〃	2.4	0.65	永楽6 /1408	中国	15－24
17	寛永通寶	14	表土	(新)寛永通宝	2.3	0.75	元文2 /1737	武蔵国江戸亀戸	15－25
18	文久永寶	15	表土	草文体　4文銭	2.0	0.8	文久3 /1863	武蔵国江戸真崎・小菅	15－26

第38図　金属製品・古銭



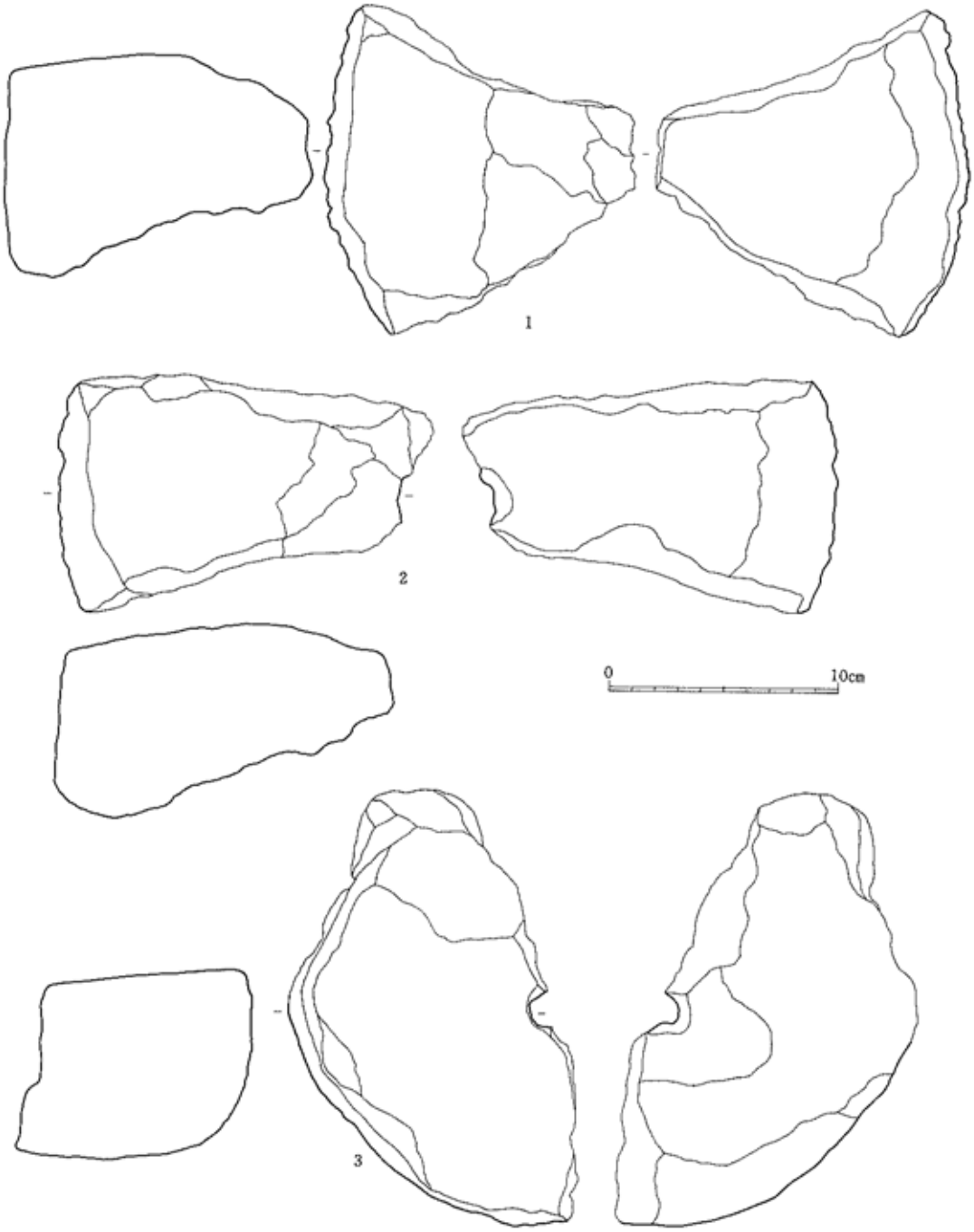
	種別	区	出土地点	石材	特徴	写真図版
1	石臼	13	SB508 柱穴	安山岩	上臼　最大径39.5cm　高さ15.5cm　受け皿部内径26cm　深さ3.0cm 物配り穴最大径5.0cm　軸穴径5cm　深さ2.5cm　方形の挽手穴4カ所（深さ4～5cm）	10－1
2	石鉢	17	SD452 縄積土	安山岩	手水鉢か　最大径22.8cm　高さ15.7cm　窪み部の内径11.5cm　深さ約5cm	10－2

第39図　石製品(1)　石臼・石鉢



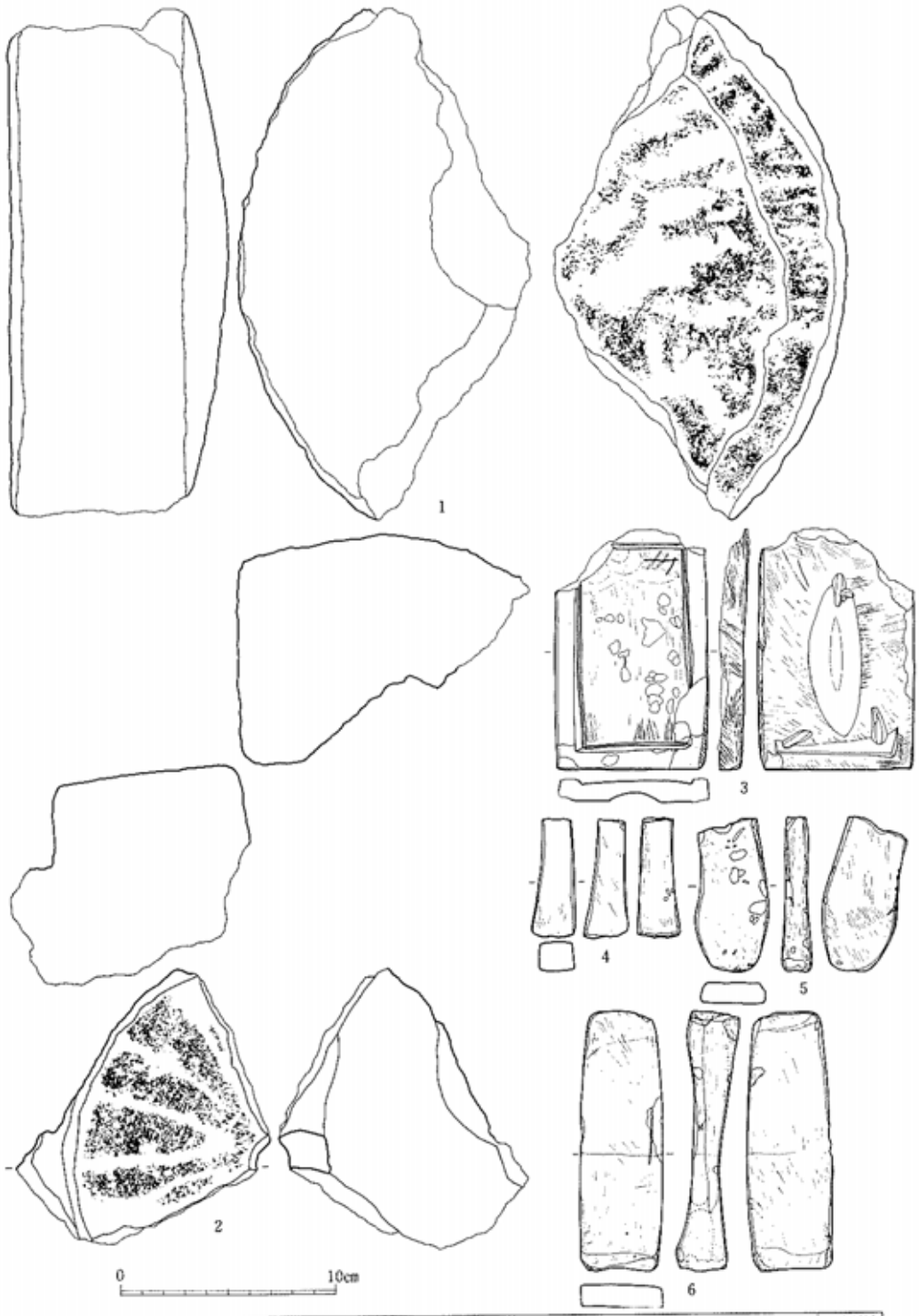
	種別	区	出土地点	石材	特徴	写真図版
1	石臼	13	SE310 堆積土	安山岩	上臼破片　高さ9cm　受け皿部深さ2.5cm　軸穴深さ2.2cm	17－1
2	石臼	5	SB428 堆積土	安山岩	上臼破片　高さ9.4cm　受け皿部の凹線なだらか	
3	石臼	14	SK333 堆積土	安山岩	上臼破片　高さ14cm　受け皿部深さ1.1cm　挽手穴深さ4.5cm	17－3
4	石臼	17	SE449 堆積土	安山岩	茶臼の下臼破片　高さ7.2cm　受け皿部深さ2.0cm	17－4

第40図　石製品(2)　石臼(上臼)



	種別	区	出土地点	石材	特徴	写真図版
1	石臼	15	SD392 堆積土	安山岩	下臼破片　高さ9.8cm	17－5
2	石臼	15	SD392 堆積土	安山岩	下臼破片　高さ8.1cm	18－1
3	石臼	15	SD385 堆積土	安山岩	下臼破片　高さ8.2cm	18－2

第41図　石製品(3)　石臼(下臼)



	種別	区	出土地点	石材	特徴			写真図版
1	石臼	15	SD392 堆積土	安山岩	下臼破片　高さ10.1cm　下面に製作時の工具痕			18－3
2	石臼	14	SK354 堆積土	安山岩	下臼破片			17－2
	種別	区	出土地点	石材	長さcm	幅 cm		
3	硯	14		粘板岩		7.1	剥離・欠損著い　側面・裏面に擦痕　裏面中央部・下端部に浅い窪み	19－2
4	砥石	13	SE334 堆積土	凝灰岩		1.6	上端欠損　下端に折損後の擦痕　使用による摩滅著	19－5
5	砥石	7	SD114 堆積土	凝灰岩		3.4	上端欠損　下端部に敲打痕	19－4
6	砥石	7	SD145 堆積土	凝灰岩	12.0	3.9	表裏とも使用痕が顕著　側面に擦痕と製作時の工具痕（両面の状の敲工）	19－3

第42図　石製品(4)　石臼(下臼)・硯・砥石

Ⅱ　その他の時期の遺構と遺物

１．古墳時代

◎古墳時代土器集中地点

(1) 位置と出土状況（第43図）

18区、W180～190付近で、古墳時代前期の土器集中地点が確認された。確認面は、18区の基本層位11層上面で、灰白色火山灰層から50～70㎝下層になる。土器が出土した地点は、いずれもわずかに窪んでいたものの遺構とは認識できない。

出土地点は、第１集中地点と第２集中地点に大別でき、第１集中地点はさらにａ～ｈ地点に細分される。出立状況から第１集中地点ａ～ｈ地点は土器集中部分の南端と思われ、本来は北側に広がっていたものと考えられる。しかし、第１集中地点のすぐ北側にはＳＤ146があり、ＳＤ146構築時にいくつかの地点が破壊されていると思われる。また、第２集中地点の南側にも土器集中地点が広がっている可能性もある。

第１集中地点では、ａ～ｃ地点では器種を識別できる状態であった。特にｃ地点ではミニチュア土器がほぼ完形でまとまって出土している。しかし、ｄ～ｈ地点では、土器片が少量出土したに過ぎない。これらの土器は、ａ～ｈ各地点間で接合関係が認められたが、ほとんどはすぐ近くから出土した土器と接合する傾向にあり、第２集中地点出土土器との接合関係は認められなかった。

第２集中地点である長軸2.5m、短軸1.5m、深さ10㎝前後の窪みからは、25個体の土器が折り重なる状況で一括出土した。

(2) 出土土器

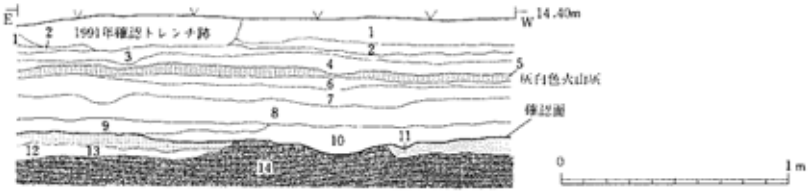
Ａ．第１集中地点出土土器（第44図～第46図）

器種は、甕、壺、坏、器台、甑、ミニチュア土器がある。

【甕】３点出土している（第44図１～３）。①口縁部が外反し胴部が張りのある球形の平底甕で、器高と胴部最大径がほぼ等しく、口径が17㎝前後のもの（１・２）、②口縁部が外傾し頸部のくびれが弱く、やや張りの弱い球形のもの（３）がある。

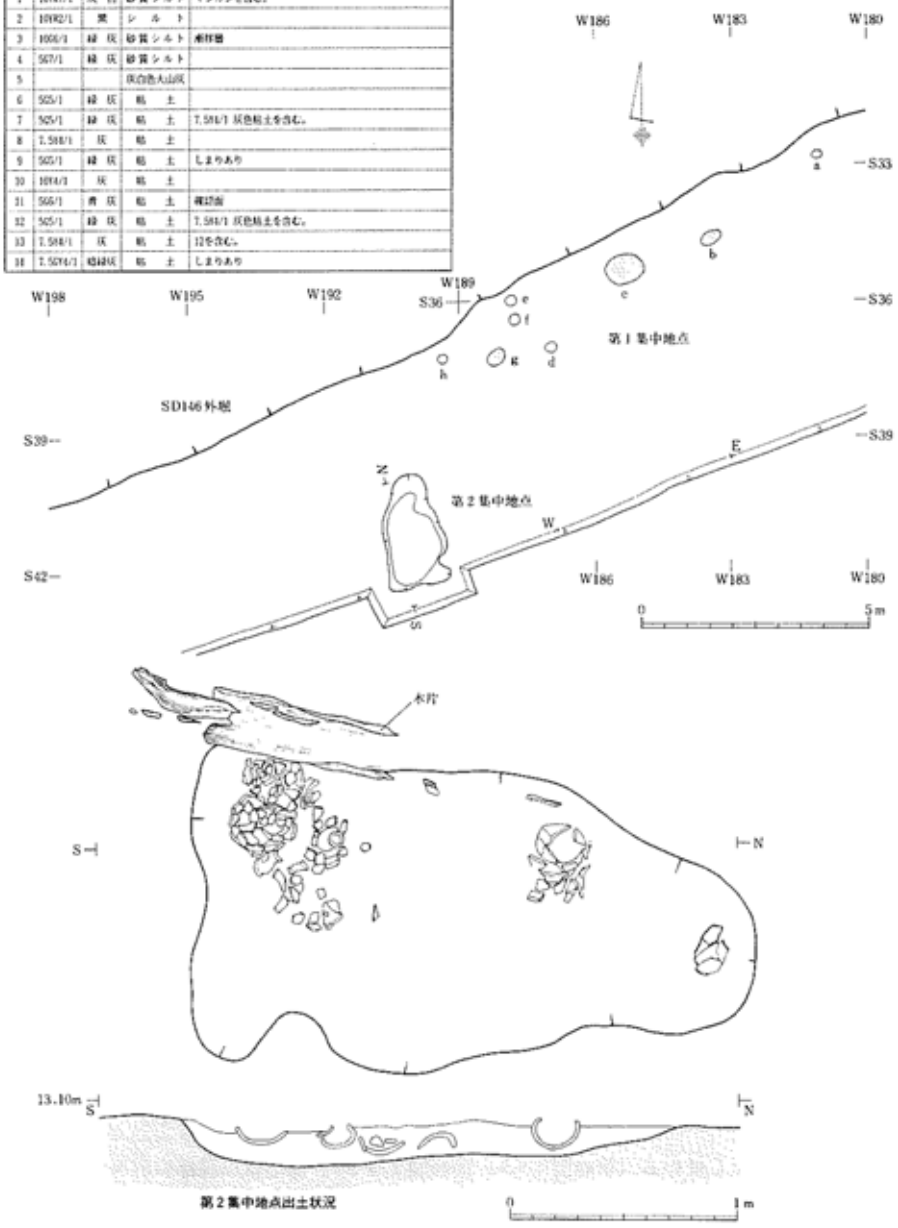
２の底面はやや揚底風である。外面調整は、口縁部は１～３とも刷毛目→ヨコナデ、頸部～底部は刷毛目を基調とし、このあとに１はヘラナデ、３はヘラケズリを加えている。１の外面は火はねによる剥離が激しい。内面調整は、口縁部は１～３とも刷毛目→ヨコナデ、頸部～底部も刷毛目を基調とし、このあとに１・３は丁寧なヘラナデを加えている。刷毛目は１単位が長く、丁寧であり、装飾的な印象をもつものである。

【壺】５点出土している（第44図４・５、第45図１～３）。器形は口縁部の形態により①有段口縁のもの（第44図４）、②複合口縁のもの（第44図５）、③単純口縁のもの（第45図2・



18区基本層位

層No.	土色		土性	備考
1	10YR7/1	灰白	砂質シルト	マンガンを含む。
2	10YR2/1	黒	シルト	
3	10G4/1	緑灰	砂質シルト	表土層
4	5G7/1	緑灰	砂質シルト	
5			灰白色火山灰	
6	5G5/1	緑灰	粘土	
7	5G5/1	緑灰	粘土	7.5YR/1 灰色粘土を含む。
8	7.5YR/1	灰	粘土	
9	5G5/1	緑灰	粘土	しまりあり
10	10Y4/1	灰	粘土	
11	5G6/1	青灰	粘土	確認面
12	5G5/1	緑灰	粘土	7.5YR/1 灰色粘土を含む。
13	7.5YR/1	灰	粘土	12を含む。
14	7.5GY4/1	暗緑灰	粘土	しまりあり



第43図　18区古墳時代土器集中地点

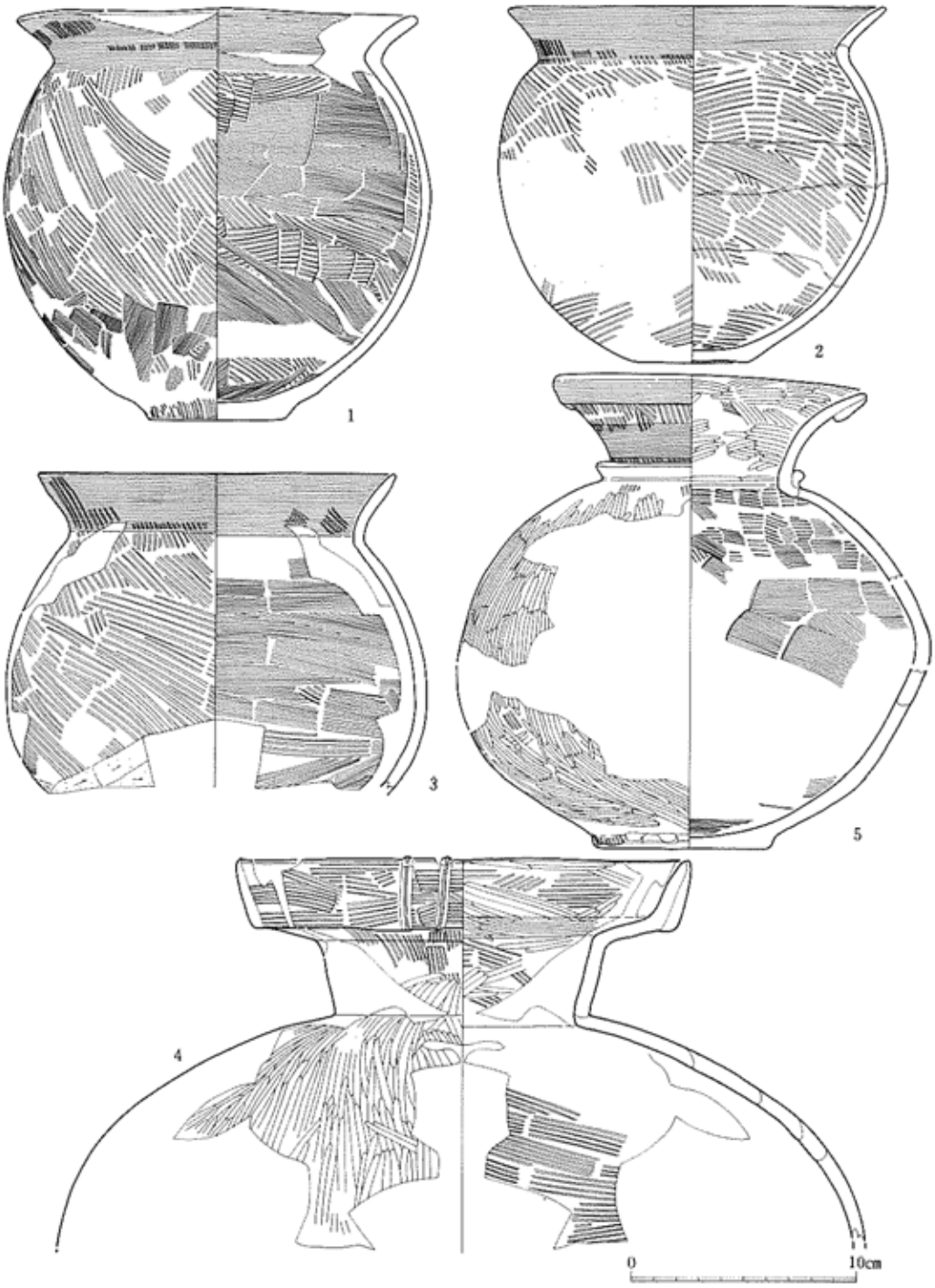
３）がある。①は外傾する有段口縁をもち、口縁部には２本１組の縦位浮文が４単位認められ、胴部は膨らみのある球形のものである。②は外反する複合口縁で、胴部は胴中央に最大径をもつ多少押し潰された球形で、頸部に隆帯が認められる。③はさらに口縁部が外反し、胴部は多少押し潰された球形で、胴部中央に最大径があるもの（第45図１・２）、口縁部がやや外反し、胴部中央よりやや下部に最大径をもつ玉ねぎ型で、頸部に隆帯が認められるもの（第45図３）がある。底部が残っているものはいずれも平底で、第45図２・３の底面には木葉痕が認められる。外面調整はいずれも刷毛目を基調とし、このあとに口縁部～頸部にはミガキやヨコナデ、胴部～底細にはヘラケズリやミガキが加えられている。第45図２の口唇部には棒状工具による４単位の刻目が入っている。

【坏】２点出土している（第 46 図１・２）。器形は、口縁部と眉間部とのくびれをもたず、やや内弯気味に立ち上がる平底のもの（１）と、口縁部が内弯気味に外傾し、胴部が膨らみながらすぼむ丸底のもの（２）がある。外面調整は１・２とも口縁部が刷毛目→ヘラナデ、胴部～底部は刷毛目→ミガキである。内面調整は口縁部はヨコナデを基調とし、２はこの後ミガキが加えられている。胴部～底部は１・２ともヘラナデである。

【器台】１点出土している（第 46 図３）。３は受け部が弱い段が付く小皿状で、脚部は八の字に広がるものである。脚部には円窓が３個ある。受け部と脚部の聞には貫通孔がある。外面調整は口縁部がヨコナデ、脚部は丁寧なミガキである。内面調整は受け部上部がヨコナデ、受け部下部がミガキ、脚部はヨコナデである。貫通孔付近はヨコナデ→ナデツケである。

【甑】２点出土している（第46号４・５）。単純口縁のもの（４）と複合口縁のもの（５）がある。両者とも胴部～口縁部はやや内弯気味に外頃して立ち上がる鉢状を呈し、底部は単孔平底である。４の外面調整は口縁部が刷毛目、胴部が刷毛目→ミガキである。内面調整は刷毛目→ヘラナデ→ミガキである。５の外面調整は口縁部分が指頭によるおさえ、胴部はミガキ、底部はヘラケズリである。内面調整は口縁部～胴部が刷毛目→ミガキ、底部がヘラケズリである。

【ミニチュア土器】Ｃ地点から９点出土している（第46図６～14）。器形は底部～口縁部が①外傾するもの（６～11）、②内弯気味に外傾するもの（12）、③内弯気味に立ち上がり、口縁端で外傾するもの（13・14）がある。底部はすべて平底であるが、①の器形６～９は底部が厚く、10･11は比較的薄い。外面調整は指ナデ・指オサエでを基調とし、９は刷毛目を加える。内面調整は指ナデを基調とし、刷毛目を加えるもの（10･11）、ヘラナデ→刷毛目のもの（６）がある。



	種別	分類	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	壺	A②	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴上半) 刷毛目 (胴下半) 刷毛目→ヘラナデ	(口) 刷毛目→ヨコナデ (体部上半) 刷毛目 (体部下半) 刷毛目→ヘラナデ	17.8	6.1	18.4		20－1
2	壺	A②	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) ヘラナデ→刷毛目	(口) 刷毛目→ヨコナデ (頸部～胴部) 刷毛目	16.7	5.1	15.4	火ネ・煤減	20－2
3	壺	B	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴上半) 刷毛目 (胴下半) 刷毛目→ヘラナデ	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目→ヘラナデ	15.7				20－3
4	壺	A	(口) 刷毛目 (頸部) 刷毛目→ヘラ削り (胴上半) ヘラ削り	(口～頸部) 刷毛目→ヘラ削り (胴上半) 刷毛目	19.9				21－1
5	壺	B	(口) ヨコナデ (頸部) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目→ヘラ削り (底部) 圧痕	(口) 刷毛目→ヘラ削り (胴部) 刷毛目→ヘラナデ	14.8	7.9	21.0	底部木葉痕	22－1

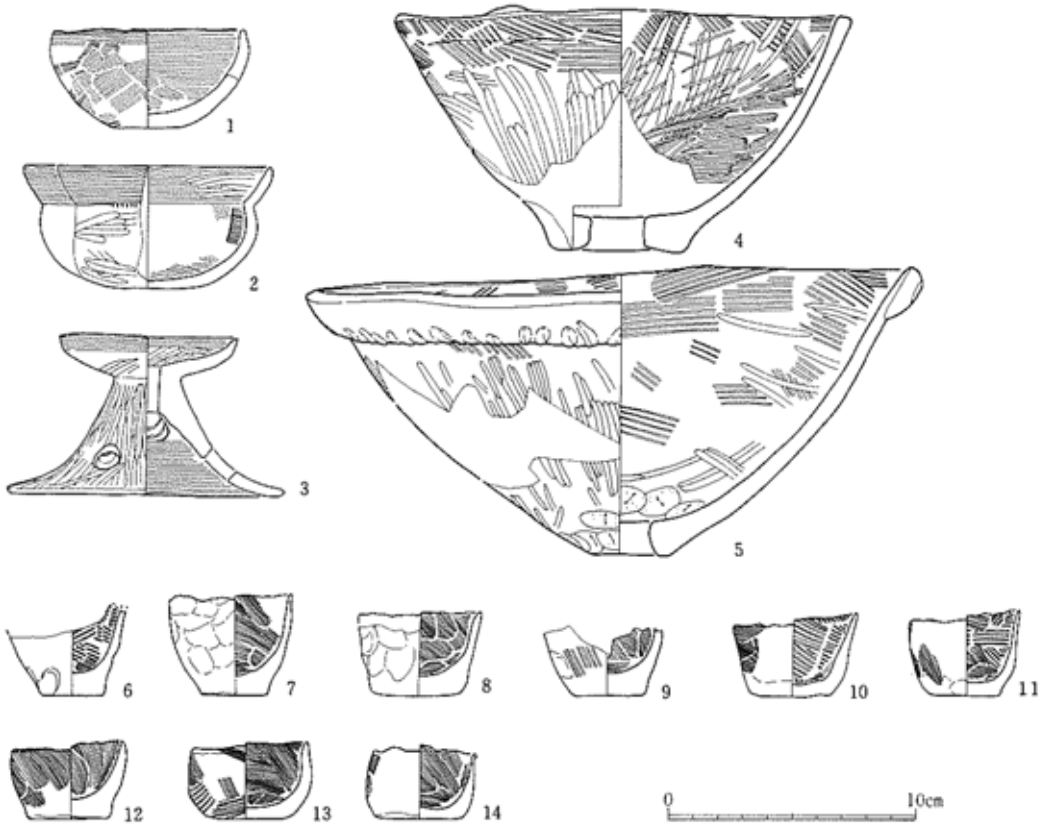
(単位：cm)

第44図　第1集中地点出土土器 (1)

	種別	分類	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	壺		(頸部) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目→ヨコナデ→ヘラ磨	(頸部) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目→ヨコナデ (底部付近) 刷毛目		(7.4)			21－2
2	壺	C③	(口) 刷毛目→ヨコナデ→ヘラ磨 (胴部) 刷毛目→ヨコナデ→ヘラ磨	(口) ヨコナデ→ヘラ磨 (頸部付近) 刷毛目→指ナデ (胴部) ヘラ磨	10.9	7.2	15.2	口縁部刻み4単位 底部木葉痕	22－3
3	壺	C②	(口) 刷毛目→ヘラ磨 (胴部) 刷毛目→ヘラ磨	(口) ヘラ磨 (胴部) ヨコナデ→ヘラ磨	15.4	8.6	36.0	底部木葉痕	22－2

(単位：cm)

第45図　第１集中地点出土土器 (2)



	種別	分類	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	坏	A ①	(口) 刷毛目→ヨコナデ (体部) 刷毛目→ヘラナデ	ヨコナデ→ナデ	7.7	2.8	4.0		22－4
2	坏	A②b	(口) 刷毛目→ヨコナデ (体部) 刷毛目→ヘラミガキ	(口) ヨコナデ→ヘラミガキ (体部) ヘラナデ	(10.6)	(2.5)	(5.6)		22－5
3	器台		(受) ヨコナデ→ヘラミガキ (脚) ヘラミガキ	(受) ヨコナデ→ヘラミガキ (脚) ナデツツ→ヨコナデ	7.2	11.2	6.5	円窓3	22－6
4	鉢	A	刷毛目→ヘラミガキ	刷毛目→ヘラナデ→ヘラミガキ	18.8	5.9	9.7		22－7
5	鉢	B	(口) 指頭によるオサエ (底部付近) ヘラケズリ	(口～体部) 刷毛目→ヘラミガキ (底部付近) ヘラケズリ	24.9	3.2	11.4		22－8
6	ミニチュア土器	A	指オサエ	ヘラナデ→刷毛目		2.6			22－9
7	ミニチュア土器	A	指オサエ	指ナデ	5.0	2.7	3.1		22－10
8	ミニチュア土器	A	指オサエ	指ナデ	5.0	4.0	3.6		22－11
9	ミニチュア土器	A	指オサエ →刷毛目	指ナデ		2.9			22－12
10	ミニチュア土器	A	指ナデ	指ナデ→刷毛目	5.1	3.7	3.5		22－13
11	ミニチュア土器	A	指オサエ →指ナデ	刷毛目→指ナデ	4.5	2.8	3.5		22－14
12	ミニチュア土器	B	指ナデ	指ナデ	4.8	3.5	3.2		22－15
13	ミニチュア土器	C	刷毛目→指ナデ	指ナデ	4.8	2.5	3.2		22－16
14	ミニチュア土器	C	指ナデ	指ナデ	3.4	3.5	3.0		22－17

(単位：cm)

第46図　第1集中地点出土土器 (3)

Ｂ．第２集中地点出土遺物（第47～50図）

器種は、甕、台付甕、高坏、壺、坏、器台がある。

【甕】10点出土している（第47図～第50図１）。①口縁部が外反し胴部が張りのある球形のもの（第47図～第49図）、②口縁部が外傾し頸部のくびれが弱く、やや張りの弱い球形のもの（第50図１）がある。①には、ａ．器高と胴部最大径がほぼ同じで口径が22㎝前後のもの（第47図～第49図２）、ｂ．器高より胴部最大径の方が大きく口径が17㎝前後のもの（第49図３～５）がある。全体の器形が分かるものはすべて平底であるが、揚底風平底のもの（第47図２、第48図２）もある。第49図４・５は内外面に赤彩が施され、器面調整も非常に丁寧である。また、外面に炭化物が付着し第49図４は火はねも認められる。

外面調整は口縁部は刷毛目・ヨコナデ、胴部から底部は刷毛目を基調とし、このあとヘラケズリ、ヘラナデ、ミガキが加えられる。内面調整は口縁部は刷毛目・ヨコナデである。胴部～底部は刷毛目を基調とし、このあと丁寧なヘラナデやミガキが加えられている。刷毛目は1単位が長く、横方向に丁寧に施され、装飾的な印象を受ける。

【台付甕】1点出土している（第50図２）。広口の甕に八の字に開く台が付く。頸部のくびれは小さく、口縁部は外傾する。口縁部はやや肥厚している。外面調整は口縁部～頸部は刷毛目→ヨコナデ、胴部～台上部は刷毛目、台下部はヨコナデである。内面調整は口縁部は刷毛目→ヨコナデ、胴上部はヨコナデ、胴下部は指オサエ？、台上部は指オサエ→ヘラナデ、台下部はヨコナデである。

【高坏】１点出土している（第50図３）。内弯気味に外傾する無段丸底の坏部と八の字に開く脚部からなる。円窓は認められない。外面調整はヨコナデ、刷毛目調整後、丁寧なミガキが加えられている。内面調整は坏部はヨコナデ、刷毛目調整後、丁寧なミガキ、脚部はミガキで裾部にはヨコナデが加えられている。

【壺】１点出土している（第50図４）。口縁部が直立気味に外傾しながら高くのび、胴部は滑らかな玉ねぎ状である。外面調整は刷毛目調整後、丁寧なミガキが加えられている。内面調整は、口縁部が刷毛目・ヨコナデ→ミガキ、胴部がヘラナデである。

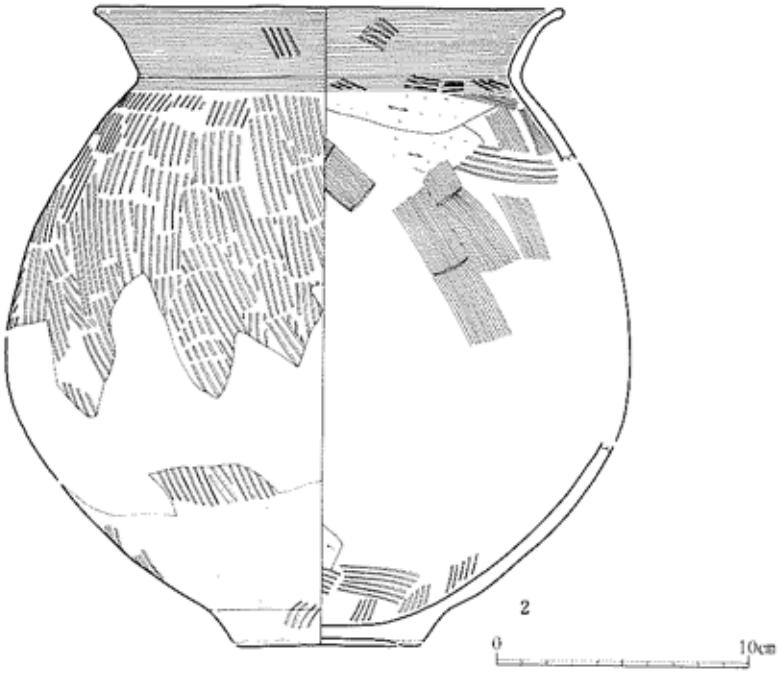
【坏】４点出土している（第50図５～８）。①単純口縁のもの（５～７）と②有段口縁のもの（８）がある。①には体部上部でくびれ、口縁部が外反し胴部がすぼまるもの（５･６）、体部中央でくびれ、口縁部が外傾し胴部がすぼまるもの（７）がある。６は丸底風平底である。②は体部上部でくびれ、口縁部は外傾し胴部は膨らみながらすぼまるものである。底部は丸底風平底であるが底面中央部は揚底になっている。外面調整は口縁部が刷毛目→ヨコナデ（５･６）、ヨコナデ→ヘラナデ（７）、ヨコナデ（８）、体部はすべて刷毛目･ヘラナデ→ミガキである。

内面調整は口縁部が刷毛目→ヨコナデ（７）、ヨコナデ→ミガキ

	種別	分類	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	壺	A①	[口] 刷毛目→ヘラ磨 [頸上半] 刷毛目 [頸下半] ヘラ磨	[口] 刷毛目→ヘラ磨 [頸部] 刷毛目 [底部付近] ヘラ磨	22.4	9.8	28.1	摩滅・剥離	23－1
2	壺	A①	[口] 刷毛目→ヘラ磨 [頸部] 刷毛目	[口] 刷毛目→ヘラ磨 [頸部] 刷毛目	21.3	7.4	25.2		23－2

（単位：cm）

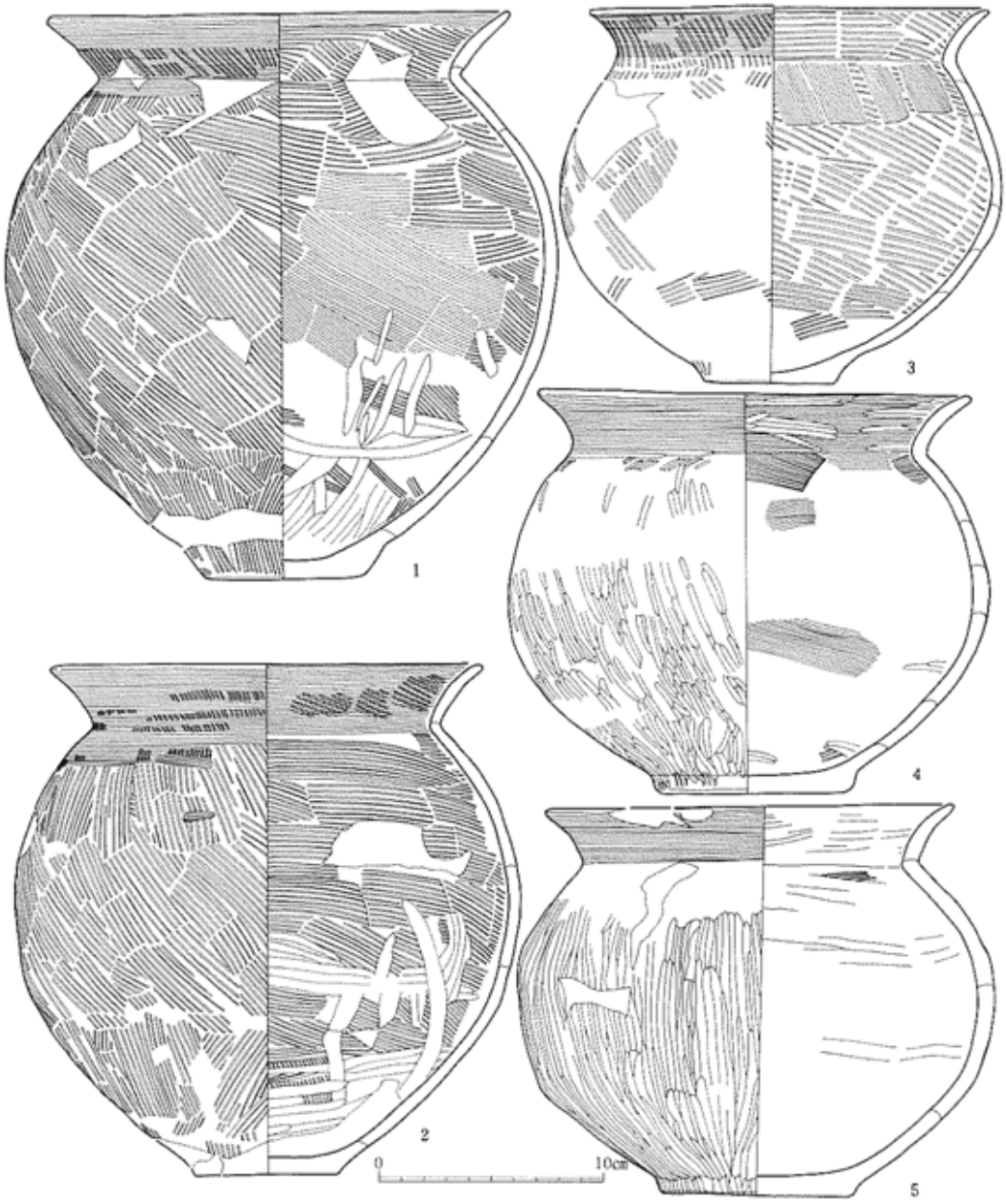
第47図　第２集中地点出土土器（1）



	種別	分類	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	甕	A①	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目 (底部付近) ヘラナデ	26.8	7.3	28.6		24－1
2	甕	A①	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目	(口) 刷毛目→ヨコナデ (胴部) 刷毛目→ヘラナデ →ヘラナデ	18.7	8.6	25.5	摩滅・底部剥離	

(単位：cm)

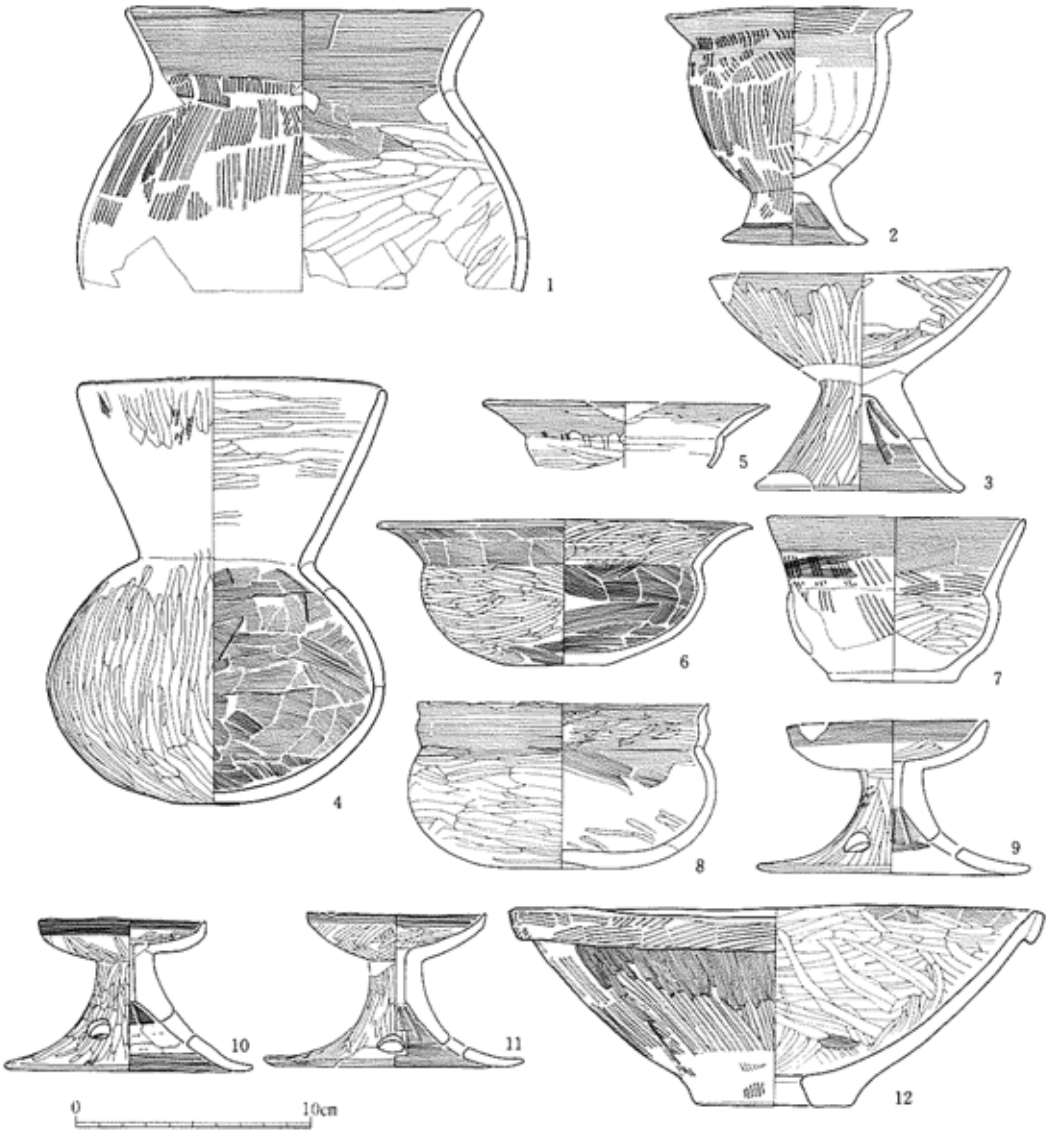
第48図　第２集中地点出土土器 (2)



	種別	分類	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	壺	A①D	(口)～(肩上端) 刷毛目→ヨコナデ (肩部) 刷毛目	(口) 刷毛目→ヨコナデ (肩上半) 刷毛目 (肩下半) 刷毛目→ハケ目	20.6	7.2	25.3	大ハネ	24－2
2	壺	A①D	(口)～(肩上端) 刷毛目→ヨコナデ (肩部) 刷毛目→ハケ目	(口) 刷毛目→ヨコナデ (肩部) 刷毛目→ハケ目	19.2	6.4	22.7		
3	壺	A②D	(口) 刷毛目→ヨコナデ (肩部) 刷毛目	(口) 刷毛目 (肩上端) 刷毛目→ヨコナデ (肩部) 刷毛目	17.8	5.9	16.9	大ハネ	25－2
4	壺	A①D	(口) ヨコナデ→ハケ目 (肩部) 刷毛目→ハケ目	(口) ヨコナデ→ハケ目 (肩上半) ヨコナデ→ハケ目 (肩下半) 刷毛目→ハケ目	19.4	8.9	17.9	外面・口縁内面赤彩	25－3
5	壺	A②D	(口) ヨコナデ→ (肩上半) 刷毛目→ハケ目 (肩下半) ハケ目→ハケ目	(口) 刷毛目→ハケ目 (肩部) 刷毛目→ハケ目 木葉痕	18.1	8.4	17.6	外面・口縁内面赤彩	25－4

(単位：cm)

第49図　第２集中地点出土土器 (3)



	種別	分類	内面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	壺	B	(口)刷毛目→ヨコナデ(胴部)刷毛目	(口)刷毛目→ヨコナデ(肩上部)刷毛目→ヨコナデ(胴部)刷毛目→ヨコナデ	15.2				25-5
2	台付壺		(口)~(体部上部)刷毛目→ヨコナデ(体部~台部)刷毛目→ヨコナデ	(口)刷毛目→ヨコナデ(体部)ポロ→ヨコナデ(台部)ポロ(ヨコ)ヨコナデ→ヨコナデ	10.5	6.2	10.2		26-1
3	高杯		(杯部)ヨコナデ→ヨコナデ(脚部)刷毛目→ヨコナデ	(杯部)刷毛目→ヨコナデ(脚部)ヨコナデ→ヨコナデ	32.7	8.9	9.6		26-2
4	壺	C②	(口上部)刷毛目→ヨコナデ→ヨコナデ(口下部)刷毛目→ヨコナデ(体部)刷毛目→ヨコナデ	(口上部)刷毛目→ヨコナデ→ヨコナデ(口下部)刷毛目→ヨコナデ(体部)ヨコナデ	13.2	3.4	13.2		26-3
5	坏	A②a	(口)刷毛目→ヨコナデ→ヨコナデ(体部)刷毛目→ヨコナデ	(口)刷毛目→ヨコナデ→ヨコナデ(体部)刷毛目→ヨコナデ→ヨコナデ	(12.2)				
6	坏	A②a	(口)ヨコナデ→ヨコナデ(体部)ヨコナデ→ヨコナデ	(口)ヨコナデ→ヨコナデ(体部)ヨコナデ	16.0	4.2	6.3	外面・口縁内面赤彩	26-4
7	坏	A②	(口)刷毛目→ヨコナデ(体部)刷毛目	(口)刷毛目→ヨコナデ(体部)ヨコナデ	(11.6)	(5.4)	(6.9)		26-5
8	坏	B	(口)ヨコナデ(体部)ヨコナデまたはヨコナデ→ヨコナデ	(口)ヨコナデ→ヨコナデ(体部)ヨコナデ→ヨコナデ	12.8	5.4	7.1		26-6
9	器台		(受)ヨコナデ(脚部)ヨコナデ 上部に対行する五角板	(受)ヨコナデ→ヨコナデ→ヨコナデ(脚部)貫通孔部ヨコナデ、以下→ヨコナデ	8.6	11.6	6.6	円窓3	26-7
10	器台		(受)ヨコナデ 又たはヨコナデ→ヨコナデ(脚部)ヨコナデ	(受)ヨコナデ→ヨコナデ(脚部)ヨコナデ→ヨコナデ	7.3	10.6	7.0	円窓3	26-8
11	器台		(受)刷毛目→ヨコナデ→ヨコナデ(脚部)刷毛目→ヨコナデ	(受)ヨコナデ→ヨコナデ(脚部)ヨコナデ→ヨコナデ	7.6	11.0	6.5	円窓3	26-9
12	鉢	B	(口)刷毛目(体部)刷毛目→ヨコナデ	刷毛目→ヨコナデ→ヨコナデ	22.7	6.8	8.6		26-10

(単位：cm)

第50図　第２集中地点出土土器（4）

（５・６・８）、体部がヘラナデで（６～８）、８はさらにミガキが加わる。

【器台】３点出土している（第50図９～11）。９～11とも弱く段が付く小皿状の受け部と八の字状に大きく広がる脚部からなる。脚部には３つの円窓、受け部と脚部の間には貫通孔が認められる。外面調整は口縁部がヨコナデ、脚部にかけてはミガキ（９･11）、刷毛目→ミガキ（10）である。内面調整は口縁部がヨコナデ、ミガキ、脚上部がヘラケズリ→ヘラナデ（11）、ヘラナデ（９・10）、裾部はヨコナデである。

２．平安時代

◎ＳＩ447　（第51図）。

【位置・重複】17区、Ｎ９・W66付近の地山上面で確認された。灰白色火山灰より新しい。ＳＸ455・456と重複し、これらよりも新しい。

【平面形・規模】調査区端であるうえ暗渠に壊されているため、全体の1/5程度しか分からないが、平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。残存部は南辺4.0m、東辺1.2mである。南辺東寄りに煙道が認められる。

【堆積土】１～７は住居廃絶後の堆積土・崩落土、８は住居掘り方埋め土でこの上面が床面となる。９は周溝埋め土である。

【壁】地山を壁とし、緩やかに立ち上がる。東壁で約20㎝ある。

【床面】部分的に残っており、にぶい黄褐色土を貼り床としている。

【柱穴】柱穴が予想される位置が攪乱されているため確認できなかった。

【周溝】東辺、南辺で幅22～34㎝、深さ10～15㎝の周溝が巡っている。かまど部分は暗渠になっている。

【かまど】南壁の東寄りにかまどが付設されている。右側壁の一部が痕跡的に残っているだけである。煙道は奥壁からトンネル状に水平に掘り込まれ、末端部は多少窪んでおり、径20㎝の円形の煙出しピットがある。

【出土遺物】図示できるものはない。

◎ＳＸ455遺物包含層

【位置・重複】17区、Ｎ３～Ｓ３・W63～66付近で確認された。灰白色火山灰直下の基本層位10～13層に多数の土師器、須恵器が含まれていた。ＳＸ456焼土遺構と重複しこれより古い。東・西・北側には包含層は広がっていなかったが、調査区南側に広がっていると予想される。

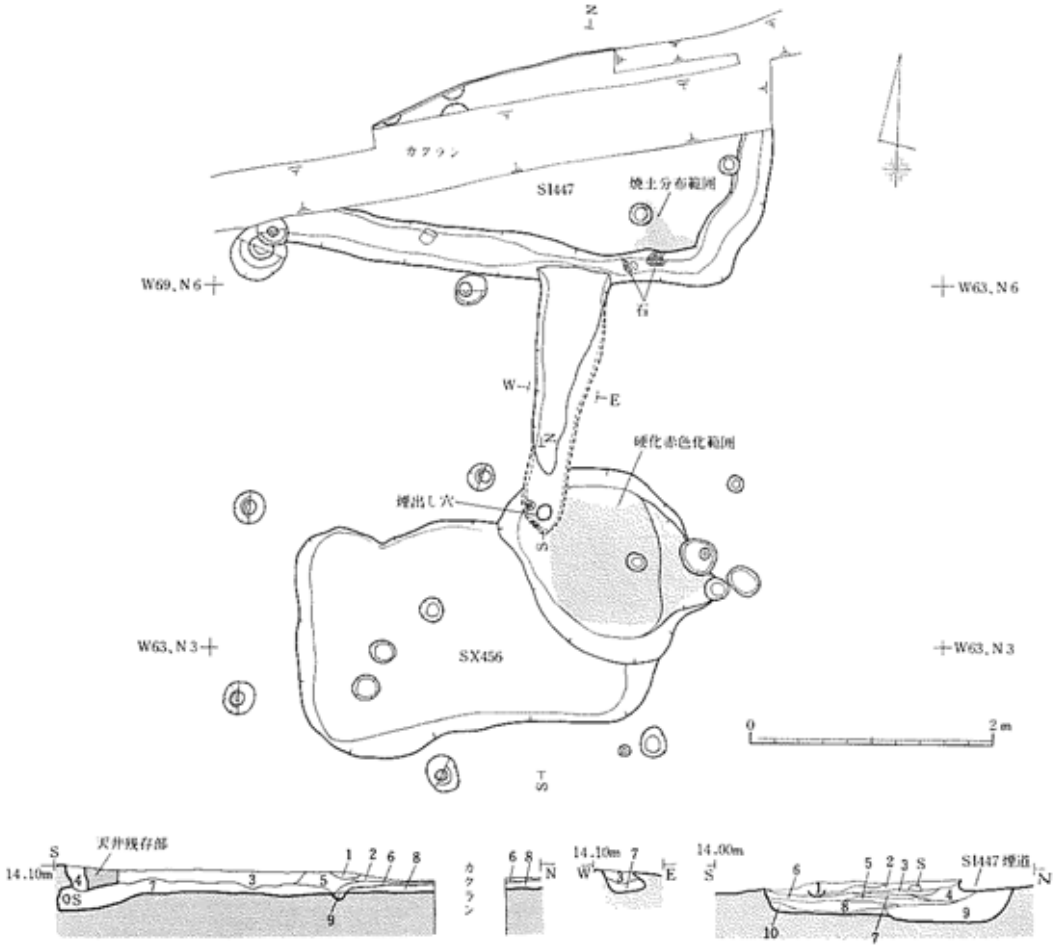
【出土遺物】図示できるものには須恵器の坏、高台付坏、甕、壷がある（第52図）。

◎ＳＸ456焼け面遺構

【位置・重複】17区、Ｎ３・W66付近の基本層位12層上面で確認された。ＳＩ447の煙道、ＳＸ455と重複し、ＳＩ447より古く、ＳＸ455より新しい。平面形は長軸3.6m、短軸1.6mの不整長方形、深さは10～30㎝で東側ほど窪んでおり、人為的に埋め戻されている。東側の窪みの底面が硬化赤変し、その上を炭化物、灰が薄く被っている。

【出土遺物】図示できるものには土師器の坏、須恵器の坏・蓋・甕がある（第53図）。

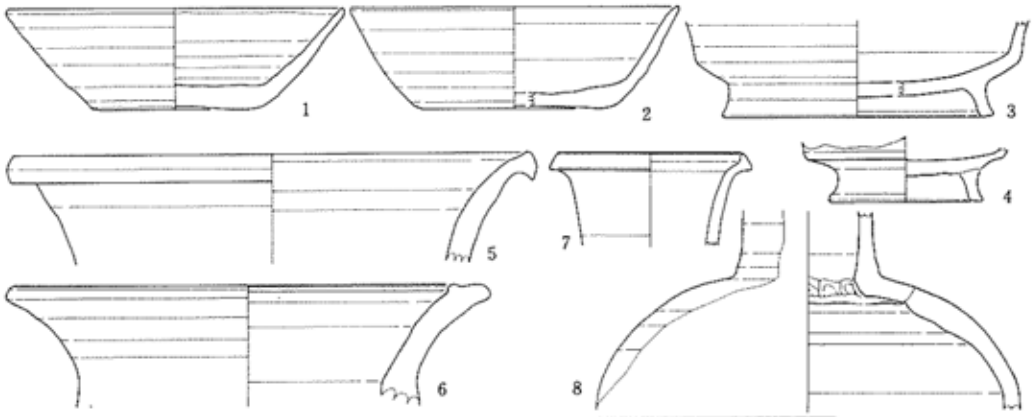
◎**その他の遺物**　地山上面から出土したものである（第54図）。



層No.	土色	土性	備考
SI447 1	10BG5/3 にぶい黄褐	砂質シルト	
2	10BG4/2 灰黄褐	砂質シルト	炭化物、焼土含む。
3	2.5Y5/3 黄褐	砂質シルト	煙道部天井崩落土、焼土ブロック含む。
4	10BG4/2 灰黄褐	砂質シルト	煙出し部埋積土
5	2.5Y3/1 黒褐	砂質シルト	焼土ブロックを多量に含む。
6	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	
7	2.5YR3/1 暗赤灰	砂質シルト	煙道内埋積土、焼土ブロック含む。
8	10BG5/4 にぶい黄褐	砂質シルト	掘り方埋土、この上面が床面
9	10BG4/2 灰黄褐	砂質シルト	明黄埋土

層No.	土色	土性	備考
SX456 1	10BG5/1 緑灰	砂質シルト	灰白粒、炭化物、焼土を少量含む
2	10BG5/1 にぶい黄緑	砂質シルト	炭化物、焼土を少量含む
3		灰褐	
4		焼土層	
5		灰褐	人為的な埋土
6	10BG4/2 灰黄褐	砂質シルト	炭化物を微量含む
7	10BG5/2 灰黄褐	砂質シルト	硬化している
8	10BG5/4 にぶい黄褐	砂質シルト	灰白ブロックを微量含む
9	2.5Y5/2 暗灰黄	砂質シルト	炭化物を微量含む
10	10BG5/6 黄褐色	シルト	炭化物、砂を含む

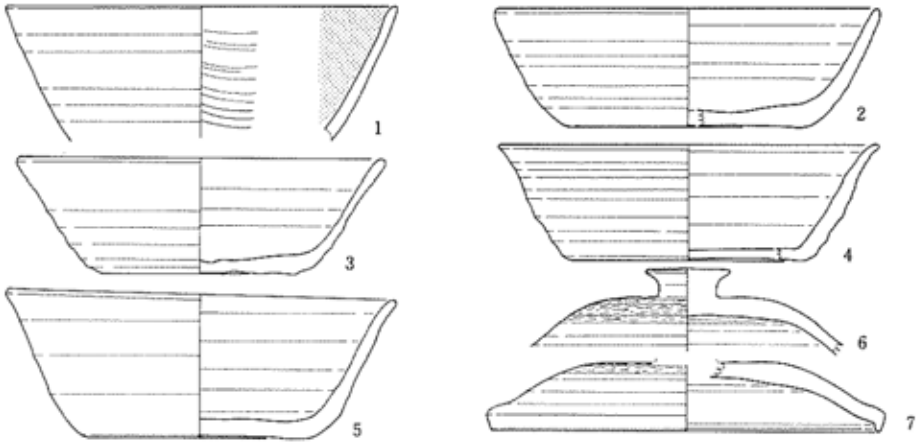
第51図　SI447住居跡、SX456焼け面遺構



	種別	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	須恵器 坏	13.4	7.6	4.2	口縁部内面ロクロナデ→ナデ ヘラ切り	27－1
2	須恵器 坏	13.8	4.2	4.2	ロクロナデ→ナデ ヘラ切り	27－2
3	須恵器 高台付坏		11.1		回転ヘラケズリ	27－5
4	須恵器 高台付坏		6.2		回転ヘラケズリ	27－3
5	須恵器 甕	21.4				
6	須恵器 甕	19.9				
7	須恵器 長頸壺	7.6				27－4
8	須恵器 長頸壺				頸部内面指頭圧痕	27－6

（単位：cm）

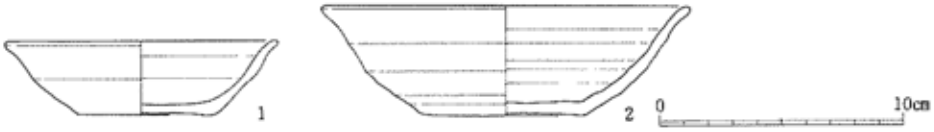
第52図　SX455遺物包含層



	種別	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	土師器 坏	16.0			ロクロ成形 内面ヘラミガキ・黒色処理	
2	須恵器 坏	15.8	10.0	4.9	ヘラ切り	27－7
3	須恵器 坏	15.0	8.0	4.7	ヘラ切り	
4	須恵器 坏	13.2	7.0	4.8	ヘラ切り	27－8
5	須恵器 坏	15.8	9.4	6.2		27－9
6	須恵器 蓋				天井部回転ヘラケズリ 宝珠状ツマミ	27－10
7	須恵器 蓋	16.0			天井部回転ヘラケズリ	27－11

（単位：cm）

第53図　SX456焼け面遺構



	種別	区	出土地点	口径	底径	器高	備考	写真図版
1	須恵器 坏	13	地山面	15.1	6.2	4.5	回転糸切り	27－13
2	須恵器 坏	17	W18N18地山面	11.1	5.0	3.0	回転糸切り 灰白色火山灰層上面出土	27－12

（単位：cm）

第54図　その他の出土遺物

第四章　考　　察

今回の調査で、古墳時代、平安時代、中近世の遺構が確認された。ここでは、時代ごとに遺物の年代、遺構の性格について考察する。

Ⅰ　古墳時代

１．土器の分類

出土した土器は、第１集中地点出土土器と第２集中地点出土土器がある。器種と点数は、土師器の甕13点、台付甕１点、高坏１点、壷６点、坏６点、器台４点、甑３点、ミニチュア土器９点の合計43点である。分類は主に器形を基にして行なった。

【甕】

A類：口縁部が外反し胴部が張りのある球形で底部が平底のもの。

①器高と胴部最大径がほぼ同じで口径が22㎝前後のもの（第47図～第49図１・２）

②器高と胴部最大径がほぼ同じで口径が17㎝前後のもの（第44図１・２）。

③器高より胴部最大径のほうが大きく口径が17㎝前後のもの。

内外面に刷毛目を基調とするもの（第49図３）、外面に丁寧なミガキが施され、内外面に赤彩が施されるもの（第49図４・５）がある。

B類：口縁部が外傾し頸部のくびれが弱く、胴部がやや張りが弱い球形で、底部が平底のもの（第44図３、第50図１）。

【台付甕】

広口の甕で八の字に開く台が付き、頸部のくびれは小さく口縁部は外傾するもの（第50図２）。

【高坏】

内弯気味に外傾する無段丸底の坏部と八の字に開く脚部からなり、脚部に円窓は認められないもの（第50図３）。

【壺】

A類：有段口縁で、口縁部に２本１組の縦位浮文が４単位認められ、胴部は膨らみのある球形のもの（第44図４）。

B類：複合口縁で、口縁部が外反し、胴部は多少押し潰された球形で最大径が胴部中央にあり、頸部に隆帯をもつ平底のもの（第44図５）。

C類：単純口縁のもの。

①口縁部が外反し、胴部は多少押し潰された球形で最大径が胴部中央にある平底のもの（第45図2）。

②口縁部がやや外反し、最大径が脚部中央よりやや下部にある玉ねぎ型で、頸細に隆帯をもつ平底のもの（第45図３）。

③口縁部が直立気味に外傾しながら高く伸び、胴部が玉ねぎ状で底部が丸底状平底のもの（第50図４）。

その他、口縁部の形態は分からないが、口縁部が外反し、胴部は多少押し潰された球形で最大径が胴部中央にある平底のもの（第45図１）がある。

【坏】

A類：単純口縁のもの。

①口縁部と胴部とのくびれをもたず、やや内弯気味に外傾して立ち上がる平底のもの（第46図１）。

②体部上部でくびれ胴部がすぼまる平底のもの。

ａ　口縁部が外反するもの（第50図５・６）。

ｂ　内弯気味に外傾するもの（第46図２）。

③体部中央部でくびれ、口縁部が外傾し胴部がすぼまる平底のもの（第50図７）。

B類：有段口縁のもので体部上部でくびれ口縁部が外傾し胴部がすぼまる平底のもの（第50図８）

【器台】

受け部は弱い段が付く小皿状で、脚部は八の字に強く開き、脚部には円窓が３個認められ、受け部と脚部の間には貫通孔があるもの（第46図３、第50図９～11）。

【甑】

A類：単純口縁で口縁部が内弯気味に外傾する単孔平底のもの（第46図４）。

B類：複合口縁で口縁部が内弯気味に外傾する単孔平底のもの（第46図５、第50図12）。

【ミニチュア土器】

A類：口縁部が外傾する平底のもの（第46図６～11）。

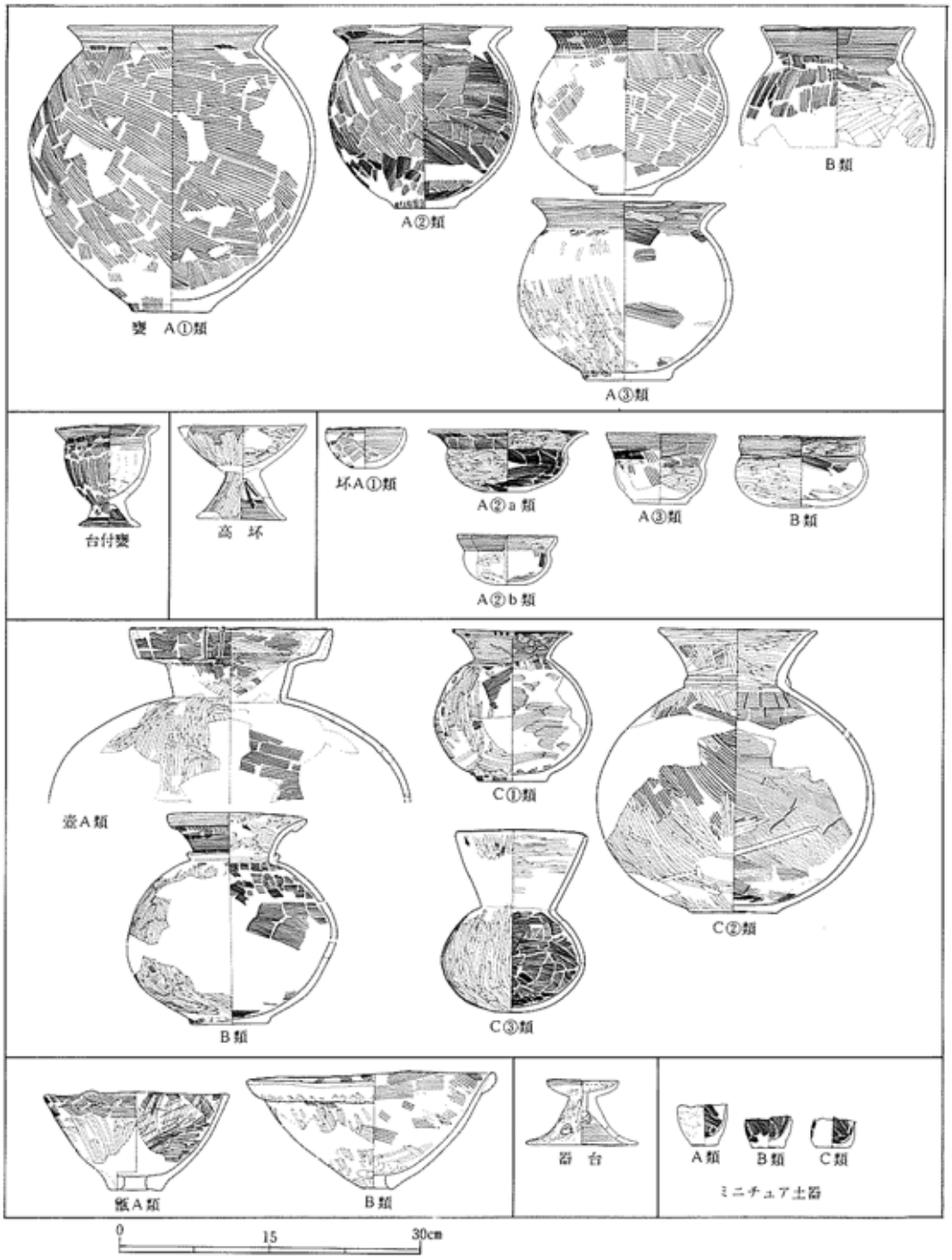
B類：口縁部が内弯気味に外傾する平底のもの（第46図12）。

C類：口縁部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部で外反する平底のもの（第46図13・14）。

分類 / 地点	甕				台付甕	高坏	壺					坏					器台	甑		ミニチュア			計
	A			B			A	B	C			A				B							
	①	②	③						①	②	③	①	② a	② b	③			A	B	A	B	C	
第１集中地点		2					1	1	1	1				1			1	1		6	1	2	18
第２集中地点	6		2	3	1	1					1	1	2		1	1	3	1	1				24(25)
計	13				1	1	5				※(6)	6					4	3		9			42(43)

（　）は器形が不明な壺１点を含めた点数

第９表　土器組成



第55図　古墳時代土器分類図

２．共伴関係

第１集中地点からは甕Ａ－②、壷Ａ・Ｂ・Ｃ－①②、坏Ａ－②ｂ、器台、甑Ａ、ミニチュア土器Ａ～Ｃが出土している。第２集中地点からは甕Ａ－①③・Ｂ、台付甕、壷Ｃ－③、坏Ａ－①②ａ③・Ｂ、器台、甑Ａ・Ｂが出土している（第９表）。

これらの土器は第１・第２集中地点からまとまって出土した。このうち第１集中地点出土土器は８ブロックに分かれていたが、それぞれ接合関係が認められることから、本来は一括土器であったと考えられる。また、第２集中地点出土土器は窪みに一括廃棄されたものであり一括土器と考えられる。両者は同一層位から出土しており、時間的に大きな隔たりはないものと思われる。

３．編年的位置

このような土師器は器種構成、器形、器面調整の特徴から、古墳時代前期の塩釜式に位置づけられる（氏家：1957）。塩釜式は近年細分化が試みられており（丹羽:1985、次山：1992、辻：1993）、丹羽は３段階に区分し、さらに第Ⅱ段階を第ⅡＡ段階、第ⅡＢ段階に細分している。

今回出土した土器についてみてみると、第１集中地点出土土器は、器種構成、点数ともに乏しいが、甕は胴部が張りのある球形のもので、長胴気味球形のものは見られないこと、壷は顕著な有段口縁をもつものが存在し、体部が長胴化したものが見られないこと、器台は口縁部がやや内弯気味に外傾し、受け部と脚部の間に貫通孔が認められることなどから、丹羽編年の第ⅡＡ段階に位置づけられるものと考えられる。

第２集中地点出土土器は、甕は胴部が張りのある球形のものが主体をなし長胴気味球形のものは見られないこと、坏は口径に対して器高が低いこと、器台は口縁部がやや内弯気味に外傾し、受け部と脚部の間に貫通孔が認められることなどから、同様に丹羽編年の第Ａ段階に位置づけられるものと考えられる。

ところで、第１・第２集中地点出土土器は、ともに第ⅡＡ段階に位置づけられたが、土器組成が異なる（第９表）。これは第ⅡＡ段階のなかでの時期差によるもの、土器の捨てられ方の違いによるものなどが考えられるが、具体的には不明である。

４．土器集中地点の性格

土器集中地点から甕13点、台付甕１点、高坏１点、壷６点、坏６点、器台４点、甑３点、ミニチュア土器９点の合計43点が出土し、古墳時代前期塩釜式第ⅡＡ段階に比定された。

第１集中地点の性格を示すものとしては、出土状況から土器が埋納されたものではなく、ほぼ一括廃棄と考えられること、土器組成にミニチュア土器が含まれることであり、これらは一般的に祭祀に関係するものと考えられている。

第２集中地点の性格は不明であるが、赤彩された土器が３点出土しており祭祀に関係する可能性もあるが、これらには炭化物付着や火はねなど日常生活に使われていた痕跡が認められることや、土器組成が一般の住居跡から出土するものと類似していることから、日常生活に使用していた土器類をなんらかの理由によって一括廃棄した可能性がある。

ところで、このことは祭祀の場が近くに存在し、祭祀終了後、一括廃棄した可能性が高いことを示し、また、周辺に祭祀に伴う遺構やこの祭祀を行なった人々の集落跡の存在を予想させるものである。

本地点周辺の旧地形は河川改修や耕作、中近世の築城などにより現状からは明かではないが、遺跡の西側・北側を竹林川が流れており、大局的にみて竹林川右岸の自然堤防側、つまり本地点の西側・北側の標高が相対的に高く、東側・南側が低かったと推定できることから、集落跡などの遺構は本地点の西側・北側に存在している可能性が強い。

Ⅱ　平安時代

◎ＳＩ447住居跡

本住居跡は灰白色火山灰より新しいものである。出土した遺物は９世紀前半のもので、住居に伴うものではない。住層の年代もおおまかに平安時代の灰白色火山灰降下以降としておく。

◎ＳＸ455遺物包含層

須恵器の坏、高台付坏、甕、長頸壷が出土している。全体の器形が分かるものは坏のみである。坏は底部が口径の1/2程度で、口縁部が外傾して立ち上がるもので、底部は回転ヘラ切りで無調整である。このような特徴をもつ坏は９世紀前半に位置づけられ、包含層が形成された年代もほぼ同時期と思われる。

◎ＳＸ456焼け面遺構

土師器の坏、須恵器の坏、蓋が出土している。土師器の坏はロクロ成形されており、内面はヘラミガキ、黒色処理されている。須恵器の坏は底部が口径の1/2よりやや大きく、外傾して立ち上がるもので、底部は回転ヘラ切りで無調整である。蓋は宝球状つまみをもつもので、体部は天井から口縁部にかけて膨らみをもち、口縁端部は丸くやや内側に屈曲し、回転ヘラケズリが施されるものである。このような特徴をもつ土器は９世紀前半に位置づけられるが、切り合い関係から同じ年代が与えられたＳＸ455より新しい。

Ⅲ　中近世

１．遺構

今回、確認された遺構は、第１表～第８表の通りである。以下、遺構毎に考察する。

(1) 掘立柱建物跡

16・18区以外で合計35棟確認された。調査区の幅が広い13区では1/2にあたる17棟が確認されているが、その他の区では調査区の制限もあり、建物として認識できたのは少数であった。５・７・17区では整地層が残存している範囲に掘立柱建物跡のものと思われる多数の柱穴が集中していた。14区ではＳＸ359道路跡の北側に柱穴が集中しており、今後の調査によって当時の町並みが明かになる可能性がある。

13区の建物の方向は、真北から数度西に偏しているものが多い。建物の規模は、桁行が２～４間で梁行１間の長方形を呈する単純なものが多い。廂や張り出しをもつものは4棟と少数であるが、このうち３棟は13区で確認され、全体の規模も明らかとなっている（ＳＢ508・513・517）。このような傾向は、昨年調査した４・５・８・９区と類似している。

建物は、新旧関係は不明であるが《ＳＢ510・513・514・534》が重複しており、最低４時期の変遷を示している。

建物の方向を見てみると、Ａ：真北から数度西に偏しているもの（ＳＢ507～510）、Ｂ：ほぼ真北方向のもの（ＳＢ511～516・518・534・535）、Ｃ：Ａ：Ｂと方向が異なるもの（ＳＢ506ほか）に大別される。Ａ・Ｂはそれぞれほぼ同時期に存在していたものと思われる。Ａ期の建物はいずれも東西棟でＢ期の建物より規模が大きく、Ｅ50～70付近に重複せずにまとまって分布し、Ｂ期の建物は桁行３間×梁行１間の南北棟のものが多い。

(2) 柱列跡

10列確認された。掘立柱建物跡の近くで方向を揃えているものが多い。方向、位置から同時期に建物と柱列が存在していたと考えられるのは、13区の〈ＳＡ519・ＳＢ512〉〈ＳＡ520・ＳＢ513〉、14区の〈ＳＡ523・ＳＢ522〉である。今回は柱列跡としたが今後の調査によって建物になる可能性があるものは17区のＳＡ528である。また、５区西のＳＡ502・504Ａ・Ｂは昨年調査した５区東にも建物の柱として組み合うものはなく、柱列として存在していたものといえる。

(3) 井戸跡

65基と非常に多く、18区を除く各区で確認された。柱穴が認められない16区でも確認された。本遺跡の井戸の特徴として、①建物、柱穴が集中しているところにまとまって分布する傾向にあること、②構造はすべて素掘りであること、③断面形は大きく開くものや段をもつ漏斗型ものが多いこと、④堆積土の上部が人為的に埋め戻されているものが多いこ

と、などがあげられる。遺物は、ＳＥ353など特定の井戸の堆積土や埋め土から下駄や曲げ物などの木製品が多量に出土しているものの、全体的には少ないと言える。

（4）道路跡

14区で確認された道路は側溝の切合い関係から道路ＳＸ359Ａ・Ｂの２時期あることがわかった。しかし、ＳＸ359ＡとＢの間に土壌ＳＫ354などの遺構が存在する時期があることから、ある程度の時間、生活の場となり、その後ＳＸ359Ａよりも5°南に偏し、幅を1.0～2.5m広げてＳＸ359Ｂを作ったものと考えられる。さらに、ＳＸ359ＢはＳＥ353井戸跡などに壊されて再び生活の場となっていることから、長期間存在していたものではないと思われる。また、14区西端では、ＳＸ359Ａの北側溝ＳＤ349が北に曲がり、南側溝ＳＤ361が15区に延びていくのが確認されており、この付近が東西・南北へのＴ字路となっていた可能性がある。

（5）溝跡

溝も88条と多く確認された。規模によって幅５m以上の大溝、幅数十㎝～３m前後の小規模の溝に大別できる。

大溝には、昨年５区東で確認されたＳＤ118の延長、13区のＳＤ300、15区のＳＤ383、16区のＳＤ441～443、７･18区のＳＤ146などがある。ＳＤ146はこれまで表面観察から推測していた外堀の位置とずれていないこと、断面観察から６m以上の大溝であったことから二の丸を画す外堀であることは明確である。その他の溝は、方向、規模とも不明な点も多いが、独立して機能していたものとは考えにくく、外堀ＳＤ146や竹林川などと連絡する取水・排水施設であると推定される。

小規模な溝の性格としては、（4）の道路側溝以外には、①区画施設、②取水・排水施設などが考えられ、なかには複数の性格をもつものもあると思われる。

①区画施設として考えられるものは、５区の東西溝ＳＤ105～107･110、13･14区の南北溝ＳＤ305・311・312・325・339・341・349である。５区の東西溝は昨年５区東で確認された溝の延長で、区画施設の可能性が示されたものであるが、本年もその全体像は見えてこなかった。13・14区の南北溝は東からＳＤ305・311・312・325・339・341・349である。ＳＤ349はW120付近で北に曲がった後の南北溝を指す。これらの間隔は溝の心心で52.0m、8.4m、4.5m、6.2m、18.0m、8.1m、52.0mとなっている。調査区の制限もありこれらの溝が同時に存在したものか、また、いくつかの溝がセットとなり時間をおいて存在しているのかは十分には検討できなかったが、一間（1.8m）の倍数を基準とした区画が予想されるものである。また、14区のＳＤ349は古い段階の道路ＳＸ359Ａの北側溝と考えられるものであることから、道路による区画が行なわれていた可能性がある。しかしながら、調査

区が制限されていたため、区画の基準、規模、範囲などは、明確にできず、今後の調査に期待したい。

②取水・排水施設として考えられるものは、外堀ＳＤ146南側の調査区である７･17区のＳＤ144・145・254～256・450～453・470である。これらは２～３ｍの幅をもち比較的幅が広いもので、明らかに外堀ＳＤ146と連結するものである。ＳＤ145・255はすぐ西側の竹林川と連絡することが予想できるが、その他の溝の方向性などは不明である。

（6）土壙

26基確認されたが性格が分かるものは14区のＳＫ354と17区のＳＫ454である。ＳＫ354から下駄、曲げ物、箸、伊達家の家紋「三ツ引両」が描かれた漆塗りの蓋などの木製品が多量に出土した。これらは人為的に埋め戻された土から出土しており、ゴミ穴と考えられる。ＳＫ454は底面付近から人間の奥歯が出土し、人為的に埋め戻されていることから墓壙と考えられる。その他は分布、平面形、断面形、堆積土などの属性に特別な傾向は見られず、また、性格を推定しうる遺物も出土していない。

（7）焼け面遺構・炭化物集中遺構・鍛冶遺構

焼け面遺構は２基（ＳＸ404・419）確認された。いずれも深さ20㎝前後の皿状の掘り方をもち、底面付近の堆積土上面が熱で硬化赤変したものである。平面形はいずれも楕円形を呈しているが、規模は長径60～150㎝、短径60㎝ほどで一定していない。また、周辺に多数のピットが認められるが、焼け面遺構に伴う施設などは確認できなかった。

炭化物集中遺構は４基確認された。狭い範囲に炭化物が集中し単独で存在するもの（ＳＸ394・417）と、広範囲に炭化物が広がり焼け面遺構・鍛冶遺構を伴なっているもの（ＳＸ402、ＳＸ490）がある。前者は平面形が40～50㎝の円形で、掘り方は認められず、痕跡的に認められるだけである。出土遺物はなく性格は明確ではない。後者は焼け面遺構（ＳＸ404・419）、鍛冶遺構（ＳＸ549）の周辺に広がっていることから、これらに伴うものと考えられる。セット関係は《ＳＸ404･419とＳＸ402》《ＳＸ490とＳＸ519》である。《ＳＸ404・419とＳＸ402》については、遺物や鉄滓などは認められないが、《ＳＸ490とＳＸ549》と類似した状況であり鍛冶が行なわれていた可能性がある。

（8）集石遺構

１基確認された。これまでの調査では確認されていない。平面形は直径約2.5ｍの不整形で、深さ約10㎝の窪みに5～30㎝の礫が集中している。周辺に遺構に伴う施設等は認められない。石には焼けた痕跡も認められない。出土遺物もなく遺構の性格は不明である。

（9）遺構のまとめ

今回の調査で遺構の分布範囲やその様相の一端が明かとなった。外堀のすぐ南側の東西

区である７・17・18区では、これまで地形から推定していた外堀とそれに連絡する溝が確認された。外堀のすぐ南側には高まり状に整地層が残存しており、整地層上下面の建物、井戸、鍛冶遺構の様子が明かとなった。

5区西は、昨年調査した5区東と類似した遺構の様相を示している。つまり、整地層が残存し、整地層上下面で建物、井戸の様子が明かとなるとともに、区画溝と考えられる溝の延長が確認された。しかしながら、具体的に地割りを示すまでには至らなかった。

13～16区は、13・14区で遺構が密集し、遺跡の西端である15区や東端である16区に向かうほど遺構の密度が低くなる傾向にある。

13区では最低４時期以上の建物の変遷が明らかとなり、ある程度同時に存在する建物を捉えることができた。また、これより東、南では建物が確認されていないことから、城下町の南東端の可能性もある。また、南端で溝ＳＤ487・488の北側のプランが確認されたが、大溝ＳＤ300との関係も含め性格は不明である。

14区は代表的な遺構で古いほうから①ＳＸ359Ａ道路跡→②ＳＫ354土壙→③ＳＸ359Ｂ道路跡→④ＳＥ353井戸跡と大きく４時期あることが分かった。道路北側に多数の柱穴が確認され、南側にはほとんど柱穴が見られないことから、この道路を境に町並みが途切れている可能性がある。道路北側部分に関しては、今後の調査で道路の延びや町並みが明かになるものと思われる。

15区・16区は溝のほかに柱穴や井戸が少数見られる程度で遺構の密度は低い。また、溝は方向、規模など不明の点が多い。

以上のことが明かとなったが、調査区の制限があり遺構の全体像や性格を十分に把握することはできず、今後の調査に期待したい。

２．遺物

今回の調査では陶磁器、木製品、鉄製品、銅製品、古銭、石製品、土製品、人間の前歯・奥歯、動物遺体が出土した。ＳＥ353、ＳＫ354などで木製品がまとまって出土している他は、調査面積が広い割に遺物量は少ない。

【陶磁器】無釉陶器、施釉陶器、染付陶器がある。産地・年代の分かるものは少ないが瀬戸、美濃、唐津産の施釉陶器、肥前産の染付磁器は16世紀中頃～17世紀初頭、大堀相馬焼の土瓶は19世紀に位置づけられよう。

【漆器の椀、蓋】内外面に黒漆、または内面に朱塗が施され、外面には黒漆が施された後、朱漆で文様が描かれている。外面に朱漆で伊達家の家紋である「三ツ引両」が描かれている蓋もあり、本遺跡の性格を反映するものである。

【下駄】15点出土している。製作上の特徴によりＡ類：『連歯下駄』、Ｂ類：『露卯下駄』に大別され、さらに細部の形態により細分できる。

１．分類と特徴

〈Ａ類：連歯下駄〉（第28図～第30図）

９点出土している。いずれも台部と歯を柾目でくりだしたものである。平面形は角張った長方形のもの（第28図１・２、第29図１・２、第30図２）、①隅丸長方形のもの（第28図３、第29図３、第30図１・３）がある。

台部の長さは17～23㎝で20㎝前後のものが多く、台帳は８～13㎝で11㎝前後のものが多い。台部の長さと台幅の比はいずれも２：１となっている。台幅と歯幅を比較すると、台幅＞歯幅のもの（第28図３ 第30図１）台幅　歯幅のもの（第28図１・２、第29図３ 第30図３）、台幅＜歯幅のもの（第29図１・２、第30図２）があり、特に偏りは見られない。歯の高さは2～6㎝であるが、5㎝程度のものが多く、いずれも摩滅のため歯の角がとれて丸まっている。また、第29図３は鼻緒孔が認められず、台部中央に５m程の円形の窪みが２個見られるだけである。摩滅もほとんど認められず、未製品の可能性がある。

〈Ｂ類：露卯下駄〉（第31図～第32図）

５点出土している。いずれも柾目の台部と板目の接地面をもつ歯を組み合わせたものである。台部の平面形は①爪先側が直線的で踵側が曲線的なもの（第31図、第32図１、２）、②爪先側が曲線的なもの（第32図３）がある。①は踵側がやや幅広に作られている。また、①の鼻重能は台部と平行に造り出されているのに対し、②は台部から斜めに造り出されている。

①の台部の長さは21～23㎝とまとまっている。台幅は第31図１が13㎝と比較的幅広であるほかは10㎝前後となっている。歯が残存しているものは第31図１、第32図1のみだが、高さは11～12㎝、歯幅は台幅の1.4倍程度広くそれぞれ17㎝、15㎝を計り、これらはほとんど摩減していない。第32図1の後歯は、木の枝が分岐した部分を差し込んで使用しており、応急処置と考えられる。台部の断面形はいずれも逆台形状で、裏面に加工痕が明白なものもある（第31図１、第32図１）。②の台部の長さ、台幅は不明であるが小型のものと思われる。前歯のホゾ孔は2個認められ、①と異なる。

２．まとめ

今回、連歯下駄９点、露卯下駄６点が出土した。両者には共通点と相違点が見出せる。

共通点は台部の大きさに見られる。すなわち、（1）台部の長さが20～21㎝のものが主体となっていること、（2）台部の長さと台帳の比が２：１になっていること、（3）台部の長さが最

大23㎝であることである。

相違点は、下駄の歯の摩耗の度合いが異なることである。連歯下駄の歯は摩耗し角が取れて丸まっているのに対し、露卯下駄の歯はほとんど摩減していない。これは連歯下駄の歯は原木から台部と一緒に柾目でくりだしたものであるため摩耗しやすく、露卯下駄の歯は接地面が板目になっているため摩耗しにくいという構造の違いがはっきり表われたものと考えられる。

一方､摩耗･破損している露卯下駄の歯が単独で６点出土していることから(第33図１～６)、摩耗・破損した場合は歯のみ交換して繰り返し使用したことがわかる。

このように特徴が異なる下駄は、目的に応じて使い分けられていたものと思われるが、下駄の用途を限定することはできなかった。しかし、第31図１の第32図１の露卯下駄は、歯の高さが12㎝程あること、爪先側が直線的になっているため前屈みになりやすいことなどから、水仕事用や便所下駄など特定の目的で使われていたものと推定できる。

今回出土した連歯下駄９点、露卯下駄６点の年代については、これらの下駄が宗清時代のものと考えられている遺構から出土していること、連歯下駄が主体をなし露卯下駄が併用される傾向は江戸時代前半に見られるものである（牧野：1988）ことから、17世紀前半としておく。

【箸】14区ＳＫ354から190本出土した。このうち完形の34本を対象に分類を行なった。

１．分類

[Ａ類]一方の先端が太く、他方が尖っているものである。4本ある。長さは19.3㎝～25.0㎝のものがあり、19～20㎝のものと24～25㎝のものに細分される。最大径は7.0～8.0㎜とまとまっている。断面形は角が取れた正方形を呈する。

[Ｂ類]中央に最大径があり、両端が尖っているものである。30本ある。長さは20.0㎝～30.3㎝のものがあり、23～26㎝のもので過半数を占める。最大径は5.0～10.0㎜とバラツキが見られるものの、大半は5.0～7.0㎜のものである。また、長さと最大径の間に相関関係は認められなかった。断面形は角が取れた正方形、長方形を呈する。

２．まとめ

箸は形態からＡ類、Ｂ類に大別され、さらに細分されたことから数種類の箸が使用され、また、量的にはＢ類が圧倒的に多いことがわかった。

箸の用途については、祝い事用と日常用、個人用と来客用というように使い分けされていると言われている（本田：1983）。

Ａ類は「天太先細」の片口箸で、日常的に個人が使用するものである。Ｂ類は「中太両細」の両口箸で、正月や小正月には「太箸」「俵箸」「はらみ箸」と呼び、五穀豊穣、子孫

繁栄の象徴として祝い箸、雑煮箸に用いられるものである。また、今回は、太さがほとんど変わらない「中平両細」のもので、来客をもてなすには最高とされる「利休箸」は出土していない。

これらの箸は「三ツ引両」が描かれた漆器の蓋などとＳＫ354から出土していることから、宗清時代に使用され、その後、漆器の椀や下駄などと一緒に廃棄されたものと考えられるが、分類対象となった箸が少数であったため、これらが祝い事に用いられたものかは不明である。

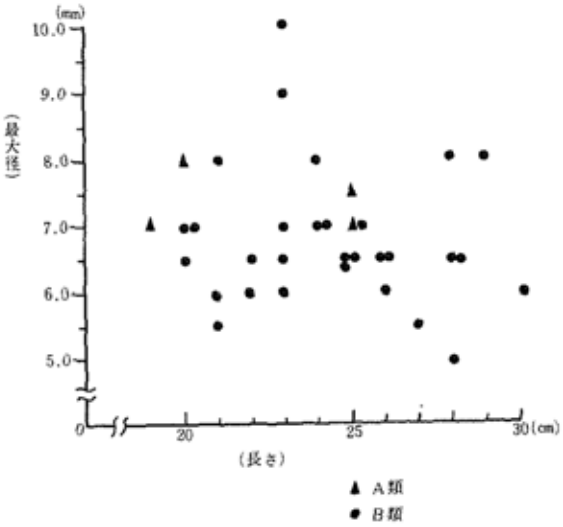
分類＼長さ(cm)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	計
A	1	1					2						4
B		3	3	1	5	3	4	4		4	1	1	30

第10表　箸の長さと点類

※ 長さは四捨五入

分類＼最大径(cm)	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5	10.0	計
A					2	1	1					4
B	1	2	5	10	6		4		1		1	30

第11表　箸の最大径と点類



第56図　箸の長さと最大径の関係

【古銭】熙寧元宝、元豊通宝、洪武通宝、永楽通宝、寛永通宝、文久永宝が出土している。後２者は本邦銭で今国初めて出土した。寛永通宝は1737年以降流通した新寛永通宝で、文久永宝は19世紀以降流通したものであるが、両者とも現在の集落付近の表土から出土したものであり、直接本遺跡に関係する可能性は低いものと思われる。

【動物遺体】

13～15区、17区、18区の井戸跡、溝跡、土壙から出土した。いずれも手掘りサンプリングによって任意に採集されたもので、第12表に示したように魚類１種、鳥類１種、哺乳類５種がある。検出された資料は比較的保存状況の良好なものが多い傾向にあり、しかも解体痕とみられる横位切痕が認められるものもあるなど、これらの多くは食用され、「ゴミ」として一括廃棄されたものと考えられる。年代的には、16世紀末～17世紀初頭のものとみられる。

以下、今回出土した動物遺体について概要を述べていくが、各遺構ごとの出土量はもとより、全体の種類や出土量も少なく、これらの利用状況を知る上においてはかなり部分的なものと思われる。

脊椎動物門　Phylum Vertebrata	
硬骨魚綱　Class Osteichthyes	
カツオ　*Euthynnus pelamis*	
鳥綱　Class Aves	
ガンカモ科の一種　Anatidae sp.indent.	
哺乳綱　Class Mammalia	
イヌ　*Canis famirialis*	ウマ　*Equus caballus*
ニホンジカ　*Cervus nippon*	ヒト　*Homo sapiens*
イノシシ　*Sus scrofa*	

第12表　出土動物種名表

①魚類

ＳＫ354土壙からカツオの尾椎骨が出土した。椎体長13.9㎜、椎体高13.4㎜で、体長は50～60㎝程のものと推定される。今回の調査では、破片を含め椎骨が３点出土しただけであるが、中・近世遺跡においては、マダイやマグロなどとともにごく一般的に検出される魚種である。

②鳥類

ＳＫ354土壙からガンカモ科の一種とみられる左上腕骨が１点出土した。マガモ・カルガモ相当の大きさのもので、遺跡周辺で捕獲されたものと思われる。

③哺乳類

イヌ

ＳＤ530溝跡から頭骨（頭蓋骨・上顎骨、左右下顎骨）、環椎、軸椎、第５頚椎、腰椎がまとまって出土した。頭蓋骨は左側の頬骨弓から吻端にかけての部分を欠損しているが、その他の部位はほぼ完存資料であり、解体・調理等の痕跡は認められない。頭骨については、上顎と下顎の咬合が適合することから、同一個体のものとみられる。各部位の計測値は第13･14表に示した。頭蓋最大長は197.2㎜と大きく、長谷部（1952）の型区分では中大級型に属する。年齢はすべての永久歯が萌出しているが、前頭骨頭頂間縫合が完全に閉鎖していないことから、少なくとも２歳に満たない若い個体とみられる。また、矢状稜の発達状況からみて雄の可能性が高い（註２）。前頭骨から吻部にかけてのくぼみ、いわゆる額段（ストップ）は、頭蓋骨の大きさに比して小さい。頬骨弓は頑丈であるが、左右への張

区	遺構	種・部位
13	SD 333	ニホンジカ　大腿骨R(s)
14	SD 334	ニホンジカ　上腕骨L(p-d, Bd=45.0mm) イノシシ　橈骨L(s)
	SD 358	ニホンジカ　大腿骨L(p-d)
	SK 354	カツオ　尾椎 ガンカモ科　上腕骨L(p-d) ガンカモ科? 上腕骨L(s) イヌ　頭蓋骨（頬骨側頭突起破片） イヌ?　四肢骨破損 ニホンジカ　上腕骨R(s)，橈骨R(p, Bp=57.5mm)，大腿骨R(p)，脛骨R(p, Bp=37.3mm)
	SD 339	ニホンジカ　頭蓋骨（前頭～後頭骨，P^2-M^2）
	SD 341	ニホンジカ　上腕骨R(d)
	SD 360	イヌ　下顎骨R(P^2-M^3)，肩甲骨R(GL=122.3mm, GLP=26.4mm) ニホンジカ　上腕骨L(p)，橈骨R(d, Bd=40.7mm)，大腿骨L不明(s)，中足骨R(p, Bp=27.6mm, 加工痕有) イノシシ　肩甲骨L ウマ　中手骨L(p-d, Bp=43.0mm)
14	SD 361	ニホンジカ　第5頸椎，上腕骨R(p-d, Bd=40.8mm)，橈骨L(d, Bd=40.6mm) 橈骨R(p)，大腿骨L(d)，脛骨L(d, Bd=31.5mm)，腓骨L(GL=81.2mm)，腓骨L イノシシ　脛骨L(p-d, 近位端未癒合) 種不明　脛骨L不明
15	SD 530	イヌ　頭蓋骨，下顎骨L(C-M_3)・R(C-M_1)，環椎 (GL=43.0mm, GB=87.0mm)，軸椎 (GL=56.7mm)，第5頸椎 (GL=55.0mm)，腰椎 ニホンジカ　上腕骨R(d)，脛骨R(d, Bd=36.9mm)，腓骨 (GL=81.5mm)，距骨R(GL=25.7mm, GB=33.0mm)，基節骨 イノシシ　橈骨L(d, 解体痕有)
	SD 385	ニホンジカ　橈骨L(p-d, 解体痕有)，橈骨L(p)，脛骨L(p-d, Bd=40.0mm, 解体痕有)，中心第4足根骨，腓骨L(GL=39.7mm)，距骨R, 距骨L(GL=30.4mm, GB=44.1mm) ウマ　上腕骨L(p-d)，橈骨L(p-d, Bp=73.8mm)，中手骨R(p-d, Bd=45.1mm) 基節骨R
17	SK 454	ニホンジカ　脛骨L(p) ヒト　臼歯
18	SD 146	ニホンジカ　上腕骨L(d, Bd=45.5mm)

※1 L：左，R：右，d：遠位，p-d：近位～遠位，s：中位破片
※2 GL：最大長，GB：最大幅，Bp：近位端幅，Bd：遠位端幅，GLP：遠位端長，計測方法は，Driesch A(1976)および斎藤(1963)に従った。

第13表　動物遺体の同定・計測結果一覧

		下草 SD530 (16～17C) ♂?	三ノ丸跡 (17C) ♂?	シバイヌ (現生) ♂	田柄貝塚 (縄文晩期) ♂
頭蓋骨	頭蓋最大長	197.2	176.4	159.5	163.0
	基底全長	185.0	169.4	150.6	152.4
	頬骨弓幅	(110.8)	105.5	94.1	88.3
	頭蓋幅（頭頂側頭縫合上）	57.4	54.2	49.4	52.4
	頭蓋高（矢状稜を含む）	(57.0)	50.0	49.3	49.0
	最小前頭幅	34.7	31.2	29.5	31.7
	前頭骨頬骨突起端幅	(52.0)	46.9	43.1	42.8
	後頭三角幅	68.5	65.7	56.1	59.5
	最小眼窩間幅	(35.0)	29.9	28.0	28.7
	吻長（眼窩縁まで）	84.6	76.6	66.9	68.3
	吻幅（犬歯部）	(38.6)	36.8	31.3	34.5
	鼻骨前端深	4.5	6.4	6.4	4.9
	破口蓋長	96.4	87.3	76.5	78.5
上顎歯	I^1（長／幅）	4.7/4.8	4.9/－	5.0/5.1	5.0/4.6
	I^2（長／幅）	6.2/5.0	6.1/4.8	5.9/5.2	6.0/4.5
	C（長／幅）	8.8/5.6	9.6/5.8	8.6/5.0	9.3/5.3
	P^1（長／幅）	5.2/3.6	5.5/3.2	5.2/3.6	5.0/3.5
	P^2（長／幅）	8.0/3.6	9.0/3.5	7.7/3.5	8.2/3.5
	P^3（長／幅）	10.6/4.3	11.2/4.7	10.7/4.9	10.5/4.3
	P^4（長／幅）	18.1/9.4	18.1/10.2	17.5/9.1	17.6/17.4
	M^1（長／幅）	12.4/15.1	11.7/15.6	11.2/14.7	11.1/15.3
	M^2（長／幅）	7.1/9.3	7.1/10.0	6.4/9.0	6.0/9.5

		下草 SD530 (16～17C) ♂?	下草 SD360 (16～17C) ?	三ノ丸跡 (17C) ♂?	シバイヌ (現生) ♂
下顎骨	下顎骨全長（角より）	L 149.2	－	133.5	115.8
	下顎骨全長（髁より）	149.3	－	132.5	116.9
	下顎枝高	57.9	－	53.6	44.7
	下顎枝幅	38.9	－	33.3	27.2
	下顎体高（M_2後部）	29.7	R 28.2	26.3	19.3
	下顎体高（M_2中央）	29.0	26.3	24.9	19.2
	下顎体高（P_4とM_1の間）	27.0	23.4	23.9	18.9
	下顎体深（M_1中央下方）	12.9	14.5	11.3	9.1
	咬筋窩深	9.6	9.6	8.5	4.9
下顎歯	C（長／幅）	9.3/5.8	－	11.0/6.2	9.3/5.6
	P_1（長／幅）	4.1/3.1	－	4.1/3.0	4.1/3.0
	P_3（長／幅）	7.3/3.9	－	8.6/4.1	6.7/3.5
	P_3（長／幅）	9.7/4.2	9.9/4.5	10.1/4.7	9.4/4.7
	P_4（長／幅）	10.8/5.2	11.9/6.2	11.2/5.8	10.3/5.8
	M_1（長／幅）	20.0/8.0	20.2/8.6	20.0/8.8	18.5/7.6
	M_2（長／幅）	8.7/6.6	9.0/6.9	8.0/6.5	7.5/5.9
	M_3（長／幅）	－	4.6/4.3	4.8/4.0	3.8/3.6

※1 単位：mm，（　）：推定値
※2 計測方法は，斎藤（1963）に従った。
※3 仙台城三ノ丸跡，現生シバイヌ，田柄貝塚の各計測値は，茂原・小野寺（1985）による。

第14表　出土イヌ頭骨の計測値と比較資料

り出しはさほど大きくなく、頭骨示数（頬骨弓幅/頭蓋最大長）でみると仙台城三ノ丸跡や現生シバイヌよりも、むしろ田柄貝塚出土のものに近い値を示している。後頭骨頭頂部には病変によるとみられる骨増殖が認められる。下顎骨は全長が140.2㎜、下顎体厚が12.9㎜と大きく頑丈である。咬筋窩深は9.6㎜と深く、かなり強力な咀嚼筋をもっていたと推測される。ただし、歯は上下顎歯ともほとんど磨耗しておらず、柔らかい食物を摂取していた可能性が考えられる。

このほか、ＳＫ354土壙から頭蓋骨の破片、ＳＤ360溝跡から右下顎骨および右肩甲骨が出土している。このうちＳＤ360出土の下顎骨は、ＳＤ530溝跡出土のものと同様に、骨体が大きく頑丈である。

以上、本遺跡出土のイヌについて特徴を述べたが、当時としてはかなりの大型犬に属するものである。比較資料が乏しく、現段階で結論付けることはできないが、大きさや形態的な特徴からみて西洋犬の可能性も考えられる（註３）。

ニホンジカ

最も出土量が多く、動物遺体を検出したすべての遺構から出土している。頭骨および胴骨（椎骨・肋骨）は極めて少なく、四肢骨が大半を占める。前肢では上腕骨と橈骨、後肢では大腿骨、脛骨、踵骨、距骨の出土が目立つ。解体痕や二次加工の痕跡が認められる資料もあるが、全体的に保存状況が良く、部位による偏りは当時の解体や廃棄のあり方を反映したものである可能性が高い。とくに、頭骨・胴骨の欠落は狩猟地など別の場所で一次的に解体されたことを示している可能性が高く、足根骨が比較的多く出土している点については四肢骨が関節した状態で本遺跡内に持ち込まれ、さらに解体された後すぐ、近くの井戸や溝などに廃棄されたことを示しているものと思われる。なお、四肢骨の関節部が残存する資料はすべて癒合状態にある。また、各部位骨ともかなり大きい個体のものが多く、ニホンジカについてみれば成獣のみで構成されていた可能性が高い。

イノシシ

ＳＤ334溝跡から左橈骨、ＳＤ360溝跡から左肩甲骨、ＳＤ361溝跡から左脛骨、ＳＤ530溝跡から左橈骨が出土した。ニホンジカとは異なり、関節部が未癒合状態のものや明らかに幼個体のものとみられる資料も含まれる。

ウマ

ＳＤ360溝跡から左中手骨、ＳＤ385溝跡から左上腕骨、左橈骨、右中手骨、右基節骨が出土した。各部位の計測値は第13表に示した。これらの計測値から推定される体高は、いずれも120～130㎝程で、この時期としてはごく平均的な小型～中型馬に属する大きさのものである（西中川他：1991）。

ヒト

ＳＫ454土壙から、臼歯のみが出土した。歯根部は欠損し、歯冠部のエナメル質が残存しているだけで、上下顎歯や部位、年齢などについては不明である。（菅原弘樹）

（註２）獨協医科大学茂原信生氏、奈良国立文化財研究所松井章氏に御教示頂いた。

（註３）註２と同じ。

３．推定される遺跡の構造と年代

今回の調査で新たに外堀南辺と遺跡南辺の様子が明かとなり、これまでの調査も含め次第に城下町の構造が見えてきた。

城下町の北部、南西部、南東部にあたる７、15～18区では、竹林川や外堀ＳＤ146と連絡し、取水・排水の機能を果たす比較的大きな溝が存在するが、その他の遺構の分布は稀薄または一部に遺構が集中するという傾向にある。

一方、これらの溝に囲まれる５区西、13・14区は、広範囲に遺構が分布し、大きく４時期以上の変遷が認められることから町場が形成されていた区域と考えられる。南部の14区では道路跡が確認され、今後の調査で町並みが明かになる可能性もある。また、昨年、５区東では区画溝による地割りの可能性が指摘されたが、今回５区西でその延長が確認され、さらに５区の南側である13・14区でも地割りを予想できる溝の配置が明らかとなった。このことから、遺跡の南東側は地割りが行なわれていた可能性が高いものと考えられる。しかし、地割りの基準、規模、範囲などは明確にできなかった。

遺構の年代については、16～17世紀の陶磁器、17世紀前半の下駄、「三ツ引両」が描かれた漆器の蓋などが出土していることから17世紀初頭を中心とするものと思われるが、遺構の存続期間を明確に示せる資料は得られなかった。しかし、これまでも指摘されていたように本遺跡で確認された遺構は、数時期以上の変遷を示していることから、文献で示された宗清居城の数年足らずの間に残されたものではないことは明らかであり、宗清居住の以前にも町並が存在していたと考えられる。また、これまで出土していなかった寛永通宝、文久永宝、19世紀の大堀相馬焼きの土瓶が皮土しているが、これらは調査区南端部の表土から出土したものであり、直接遺跡と関係するものではないと思われる。

第五章　まとめ

今回の調査結果をまとめると以下のようになる。

1．中近世・平安時代の遺構のほかに、新たに古墳時代前期塩釜式期の土器集中地点が確認され、本遺跡が古墳時代前期まで遡ることが明らかとなった。

2．外堀の南側と遺跡の南辺を調査し、城下町の様子がより明確となった。

3．外堀南郷、遺跡の南西端、南東端にあたる７・15～18区は整地層残存部で遺構が集中していた他は、竹林川や外堀と連絡し取水・排水を目的とする溝が確認された程度であり、遺構の分布は稀薄である。一方、５区西・13・14区では広範囲で遺構が確認され、４時期以上の変遷が明かとなった。

4．５区西・13・14区では溝の配置から地割りが予想されるが、具体的な規模、基準などは明らかにできなかった。

5．14区では東西方向の道路跡が確認された。道路北側には多数の柱穴が確認され、今後の調査により町並が明らかになるものと思われる。

6．今回確認された遺構の年代は、出土した遺物の多くが17世紀初頭頃のものであることから、宗清が居城した時期頃のものと思われる。しかし、これまでの調査で確認された遺構は数時期の変遷を示していることから、宗清が層城した数年間に残されたものでないことは明らかであり、宗清居城以前にも町並が存在していたと思われる。

7．寛永通宝、文久永宝、大堀相馬の土瓶が出土したが、これらは遺跡南端の表土から出土したものであり、遺跡と関係する可能性は低いと思われる。

引用・参考文献

阿部恵・須田良平・岩見和泰：「新峰崎遺跡」村田町文化財調査報告書第９集

遠藤巌・伊藤信ほか（1975）：『大和町史』上巻

加藤　道男（1989）：「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢Ⅱ』

斎藤　弘吉（1963）：『犬科動物骨格計測法』

佐藤　則之（1992）：「伊治城跡」築館町文化財調査報告書第5集

佐久間光平（1993）：「上野館跡」宮城県文化財調査報告書第156集

佐野　養吉（1980）：「黒川氏の史寶」『仙臺郷土研究５』p641～646、仙台郷土研究会

茂原信生・小野寺覚（1985）：「仙台城三ノ丸跡出土の17世紀犬骨について」『仙台城三ノ丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集　仙台市教育委員会

茂原信生（1991）：「日本犬に見られる時代的形態変化」『国立歴史民族博物館研究報告』第29集共同研究「動物考古学の基礎的研究」

須田　良平（1992）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書第146集

須田　良平（1993）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書第154集

須田良平・吾妻俊典ほか（1992）：「野田山遺跡」宮城県文化財調査報告第145集

平　　重道（1973）：「伊達治家記録二」、宝文堂

次山　　淳（1992）：「塩釜式土器の変遷とその位置づけ」『究班』埋蔵文化財研究会

辻　　秀人（1993）：「東北南部の古墳出現期の様相」『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会1993年度新潟大会シンポジウム２

西中川駿・松元光晴（1991）：「古代遺跡骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」鹿児島大学農学部獣医学科

丹羽　　茂（1993）：「今熊野遺跡」宮城県文化財調査報告書第104集

長谷部言人（1952）：「犬骨」『吉胡貝塚』

本田総一郎（1983）：「箸の変遷」『食の科学』№75、丸ノ内出版

牧野　久美（1988）：「増上寺子院群　光学院・貞松院跡・源興院跡p387～390、東京都教育委員会

結城慎一・佐藤洋ほか（1985）：「仙台城三ノ丸跡」仙台市文化財調査報告書第76集

渡辺信夫・大藤修ほか（1977）：『大和町史』下巻

Driesch A（1976）：「A guide t0 the measurerment0 0f animal b0nes fr0m archae0l0gical sites」Peab0dy Museam Bulletin I.

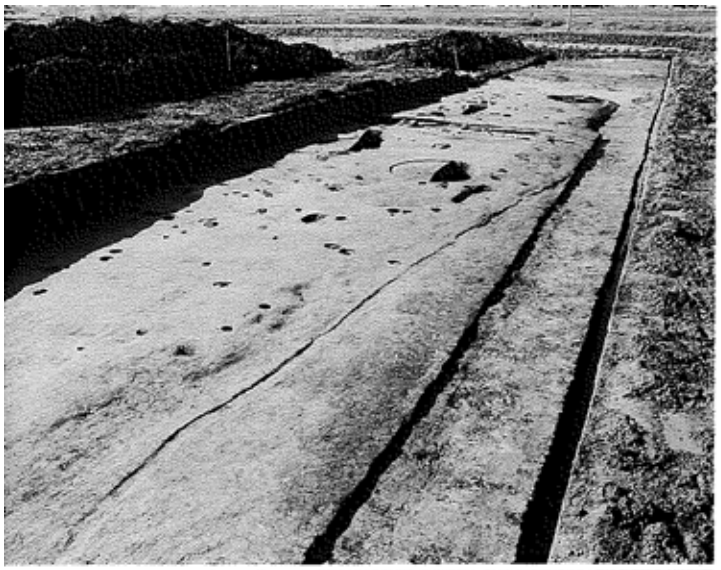
写　真　図　版

5区南西部（北から）

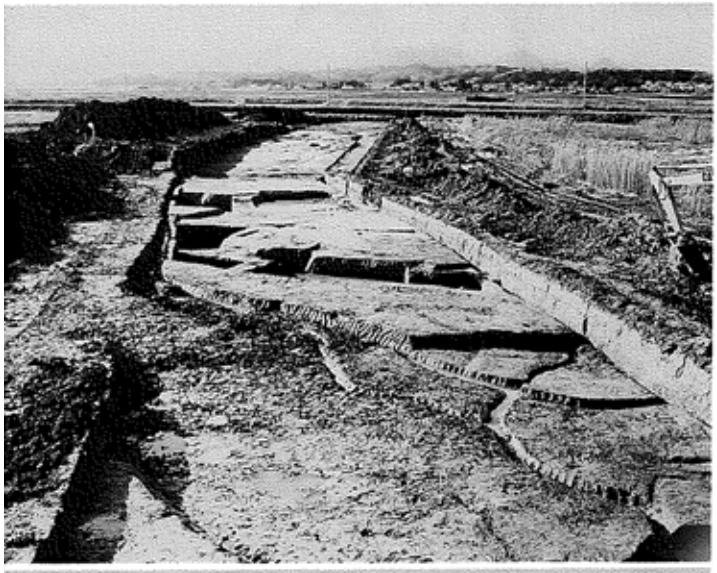
5区北西部（南から）

5区SX406集石遺構

写真図版1



7区整地層上面の遺構（東から）

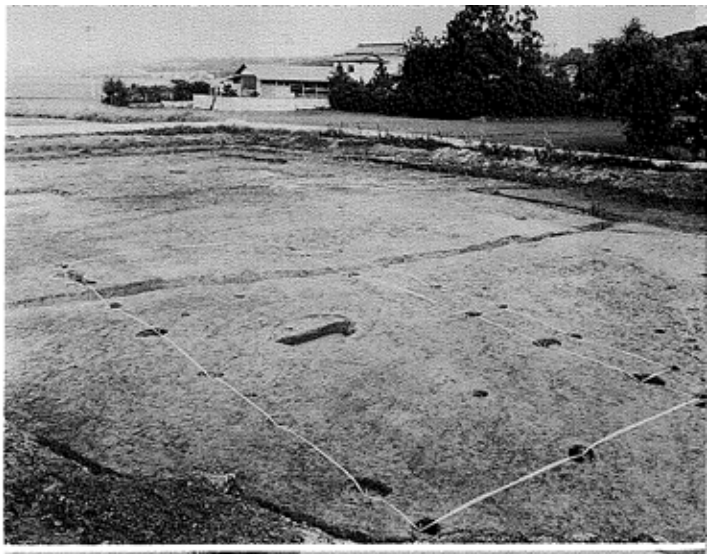


7区全景（東から）

13区西側（北から）

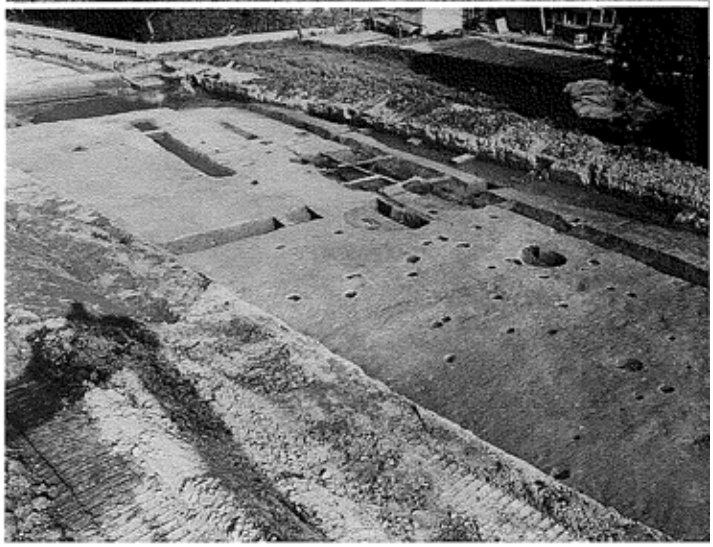
写真図版2

13区南東部（北西から）

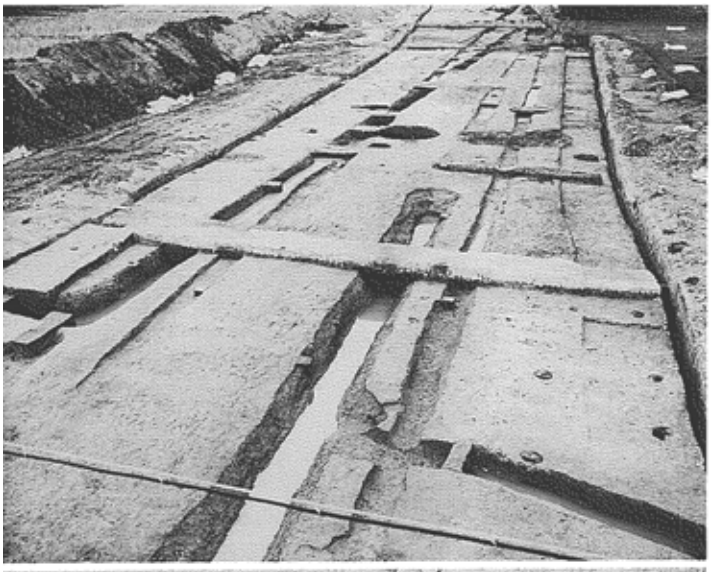


13区ＳＢ508柱穴に入れられた石臼（上臼）

14区東側（北西から）

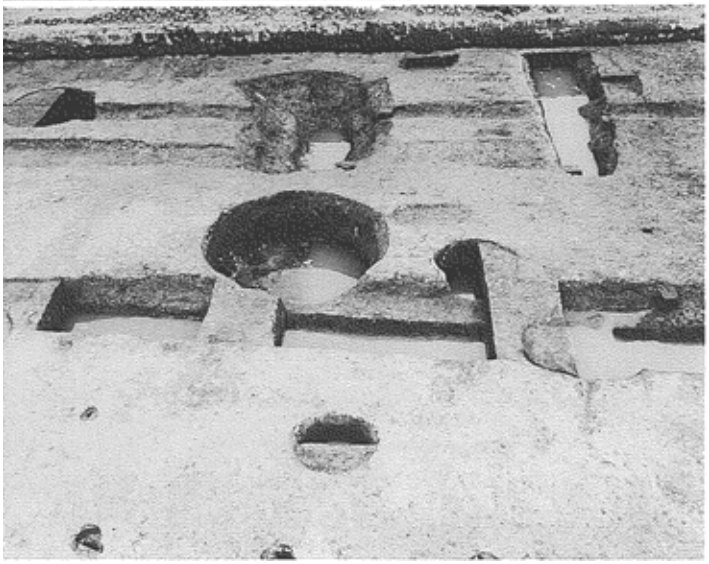


写真図版３



14区西側ＳＸ359道路跡ほか

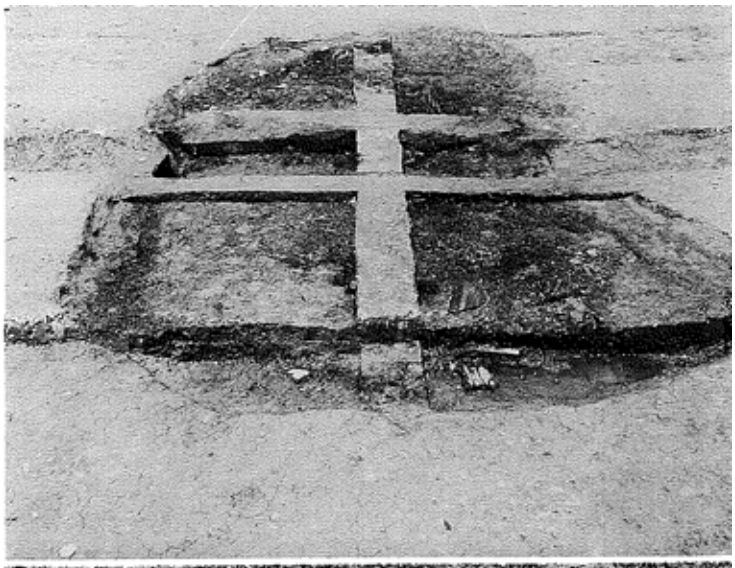
14区SK378・379
露卵下駄出土状況



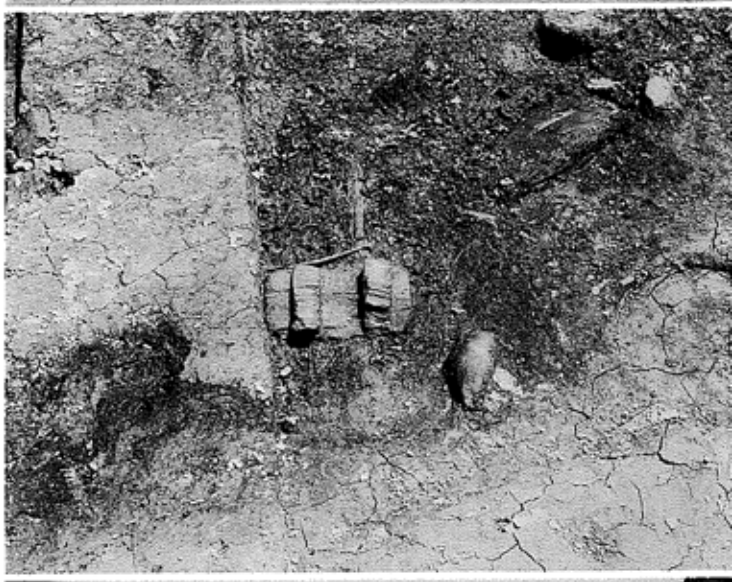
14区ＳＫ354（中央上）ほか

写真図版4

14区SK354（南から）

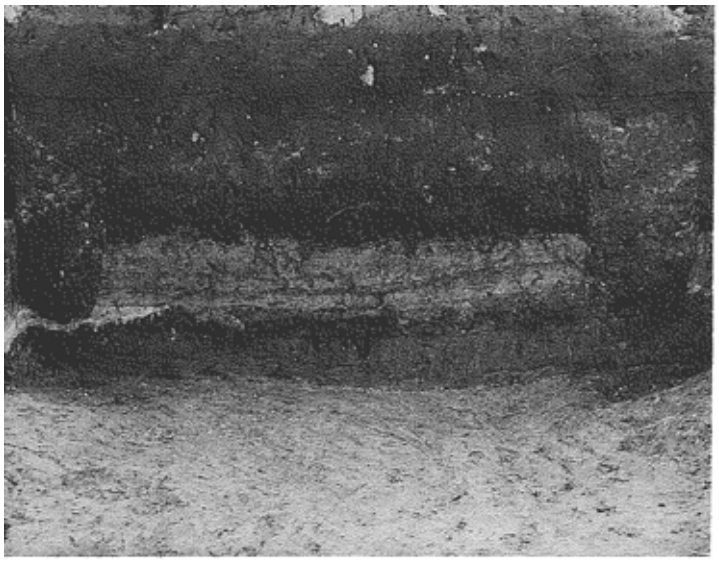


14区SK354木製品出土状況

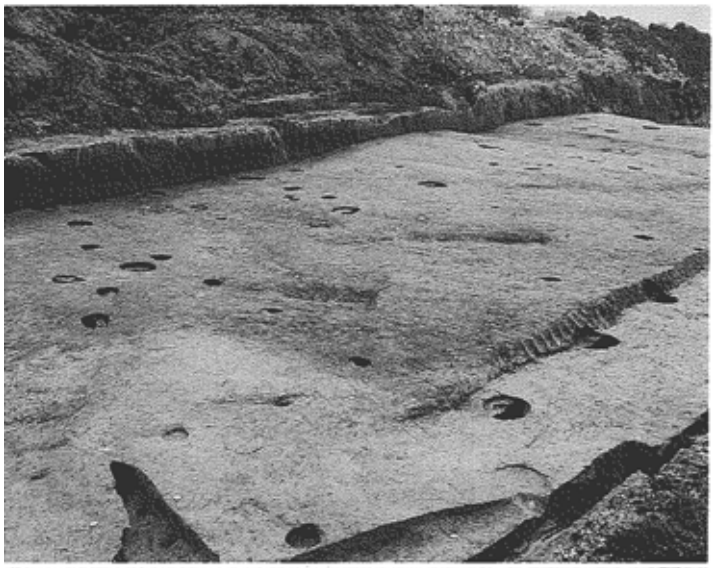


15区全景（東から）

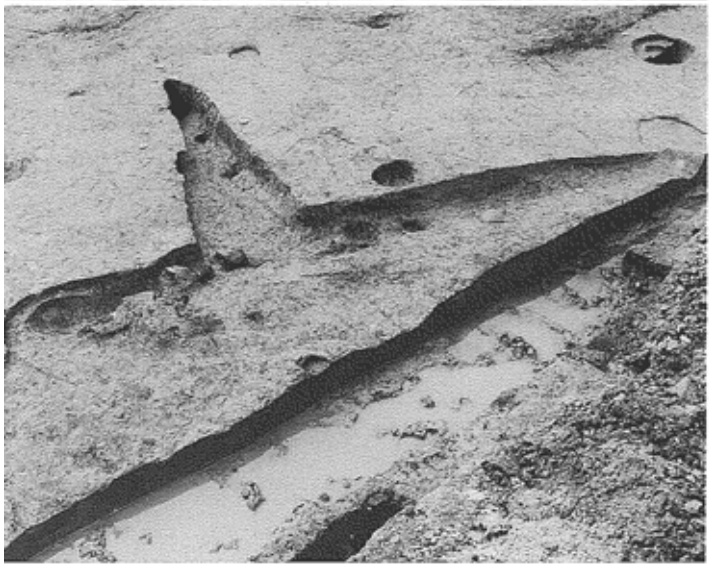
写真図版 5



17区基本層位（北から）



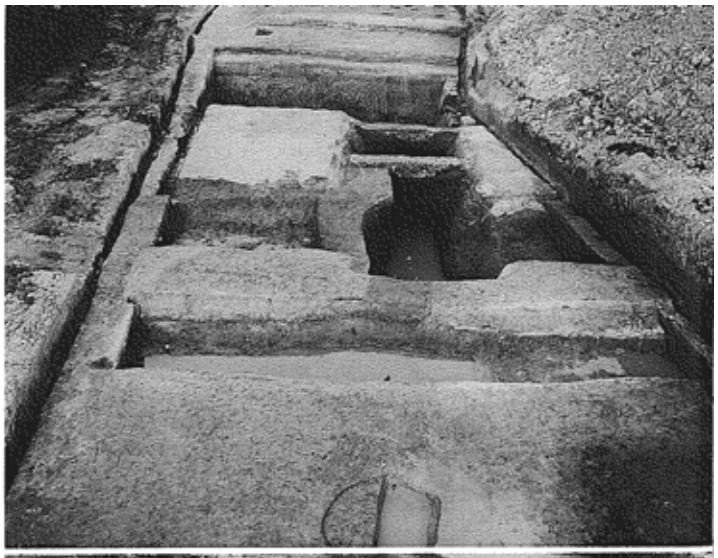
17区整地層上面の遺構



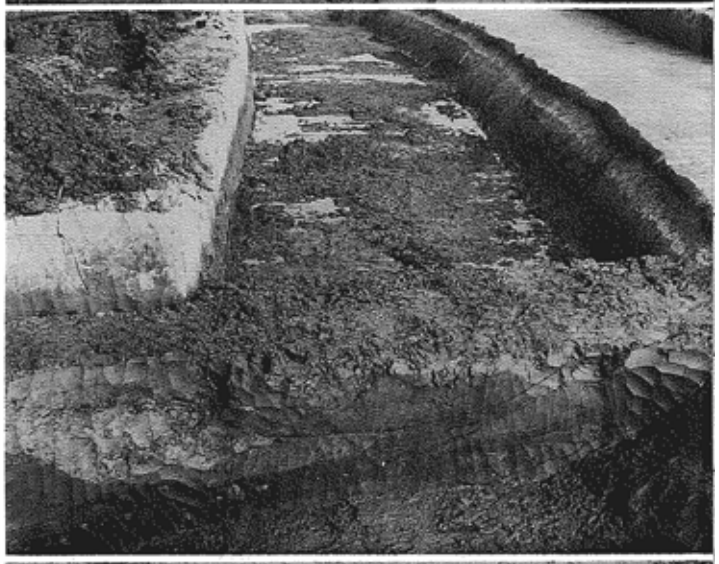
17区 SI447

写真図版 6

17区 SD450～453（西から）



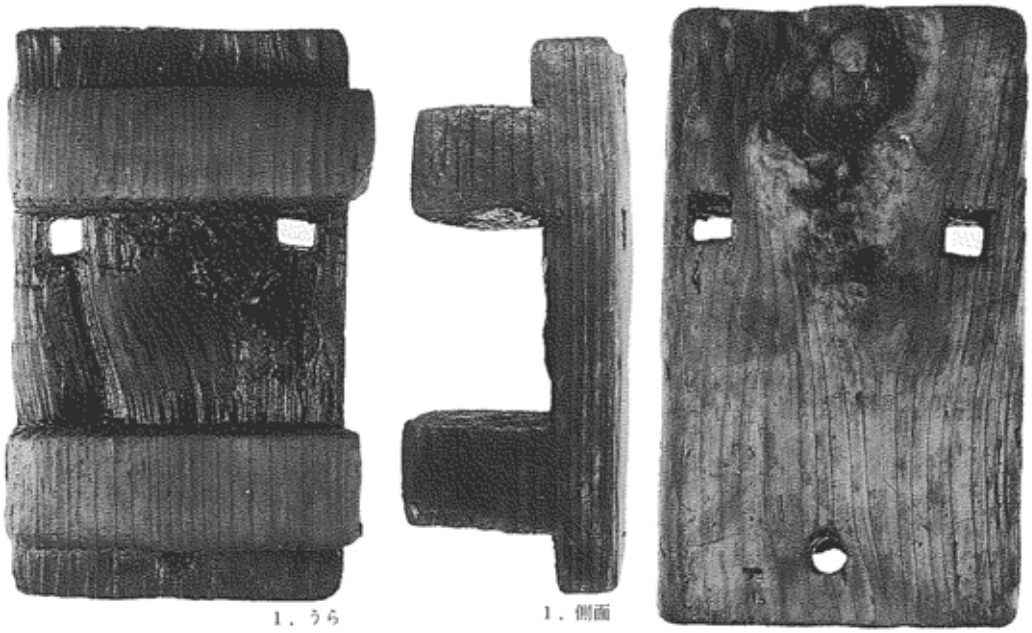
18区外堤 SD146（西から）



18区古墳時代土器集中地点
第２集中地点土器出土状況

写真図版７

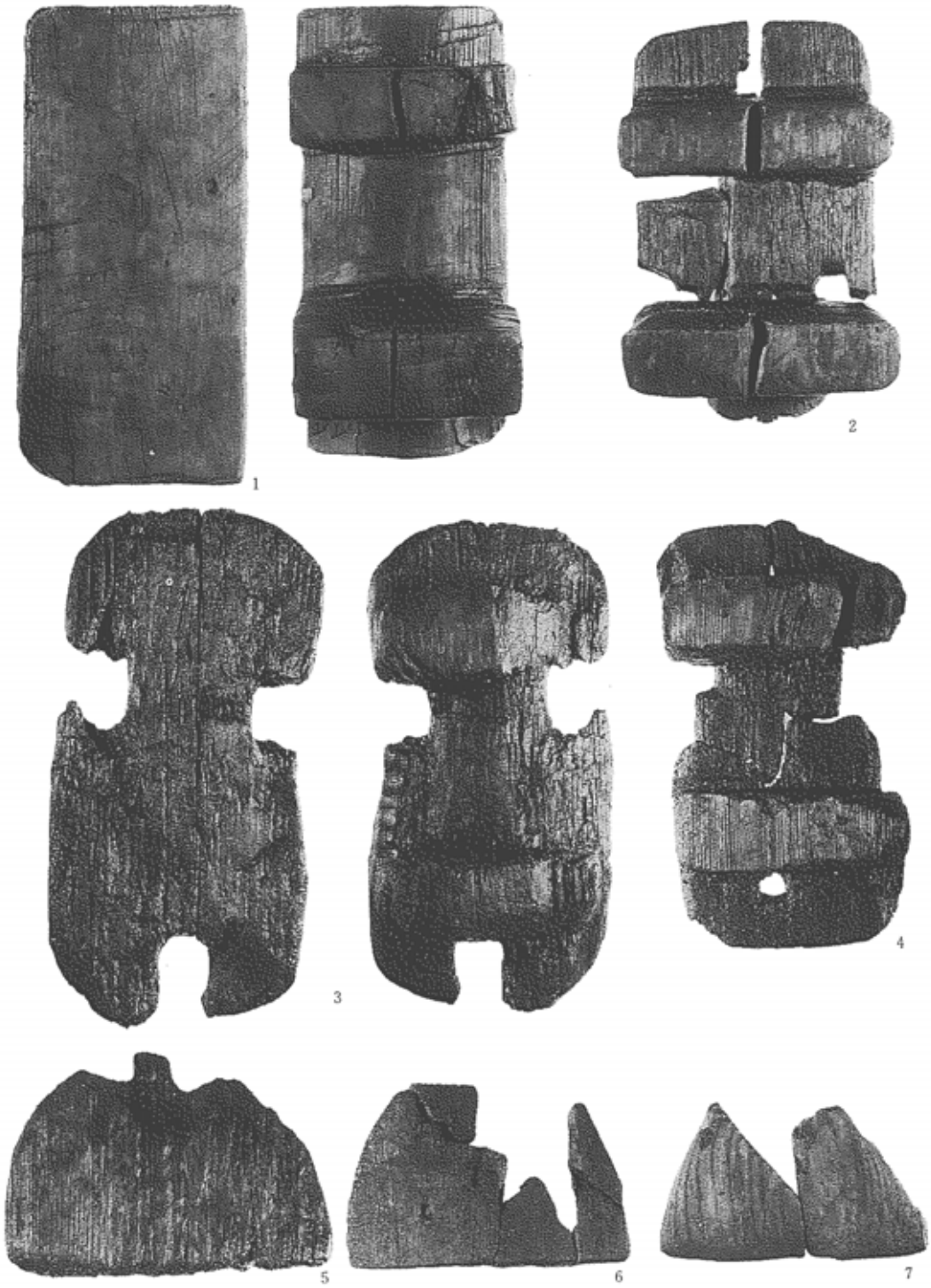
写真図版8　陶磁器・木製品（椀・蓋）



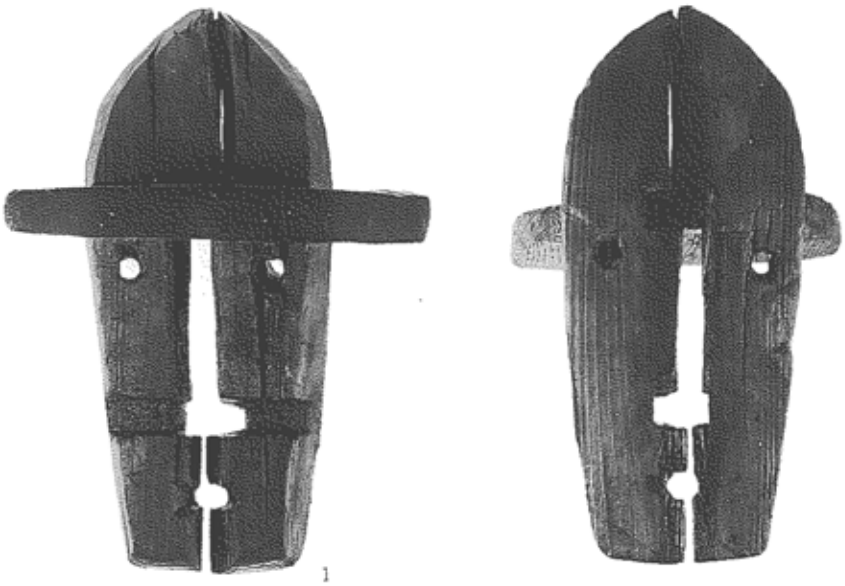
1．うら　　1．側面　　1．表

2　　3

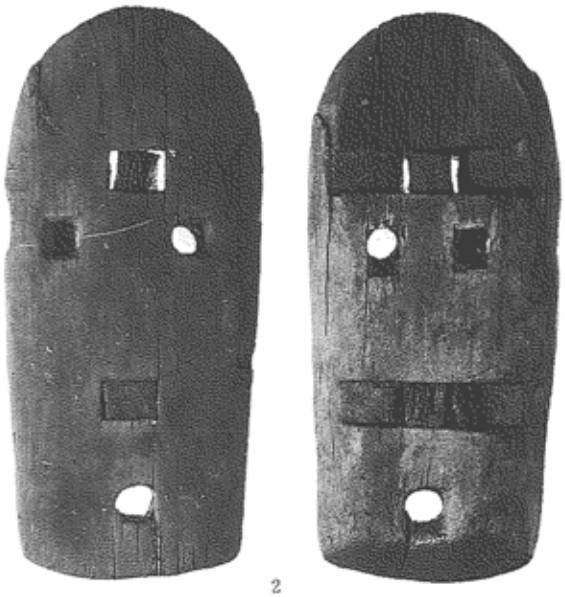
写真図版9　木製品（連歯下駄）



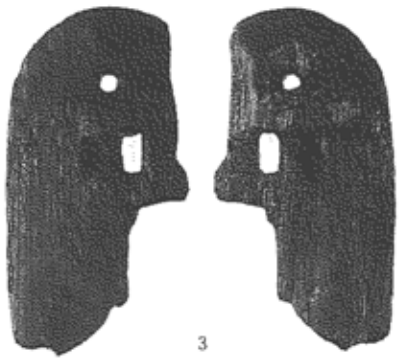
写真図版10　木製品（連歯下駄・露卯下駄の歯）



1

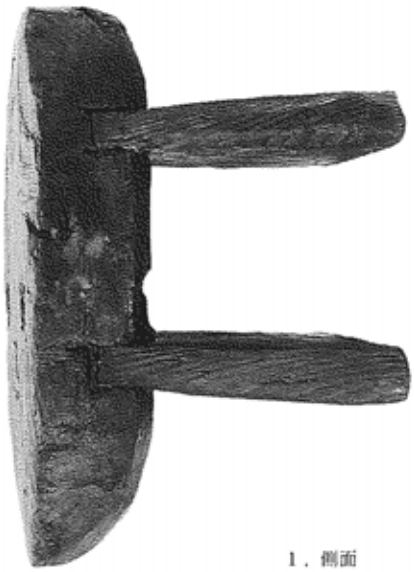


2



3

写真図版11　木製品（露卯下駄）



1．側面

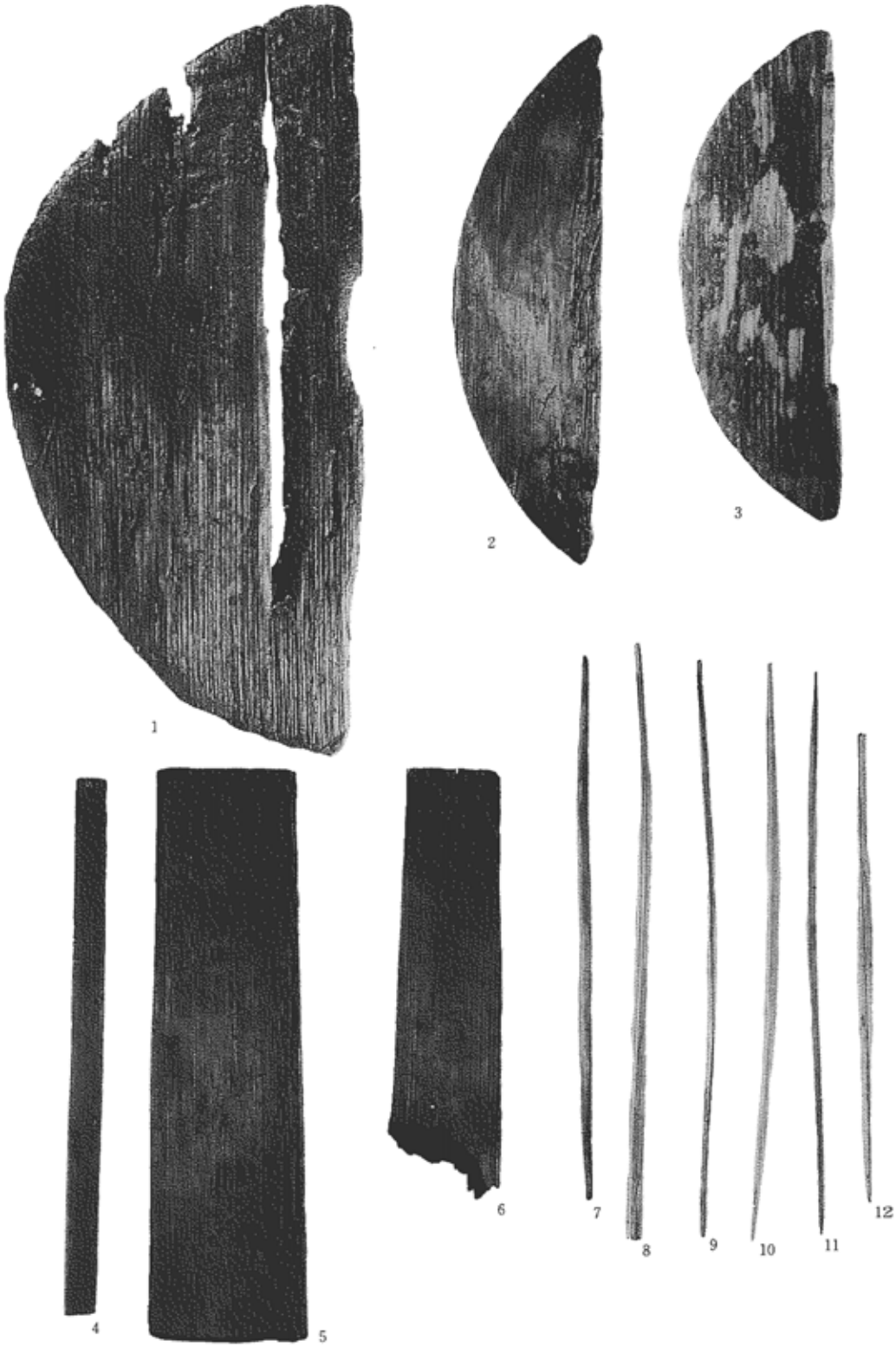
1．うら

2

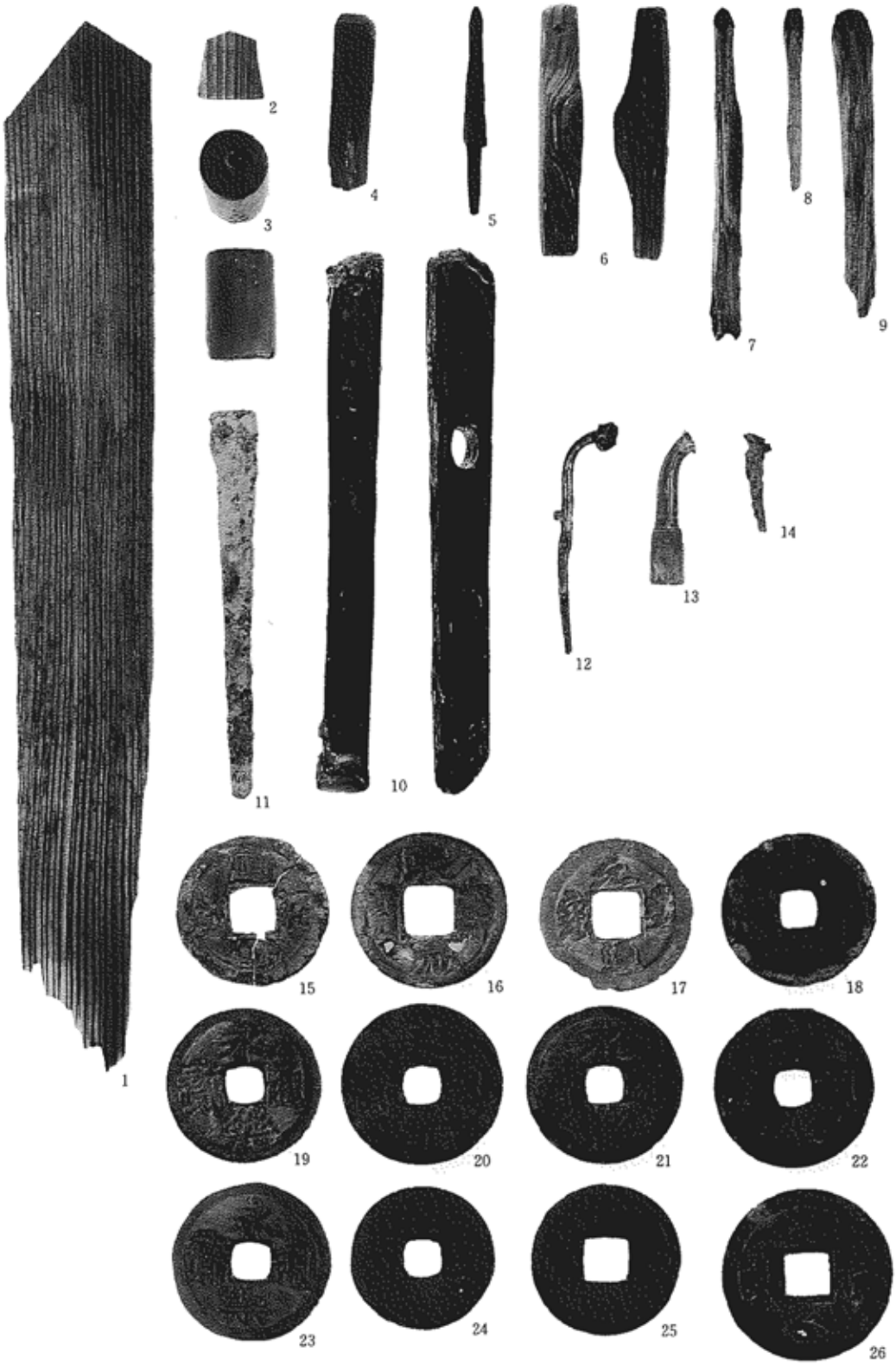
1．表

写真図版12　木製品（露卯下駄）

写真図版13 木製品（木鉢・曲げ物・折敷）



写真図版14　木製品（曲げ物・折敷・箸）

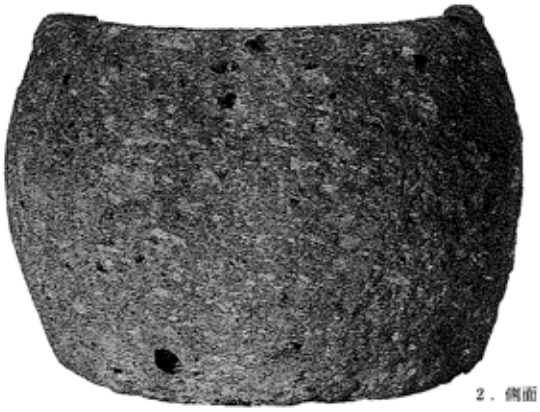


写真図版15　木製品・金属製品・古銭
（古銭は原寸大）

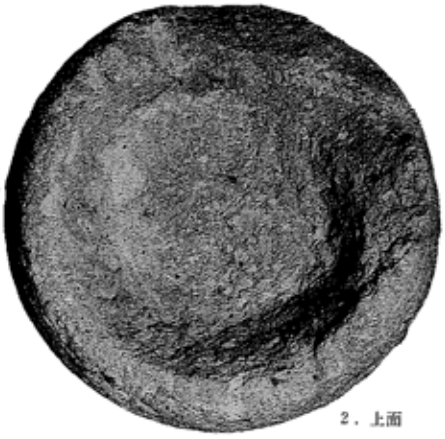
1．側面

1．表

1．うら

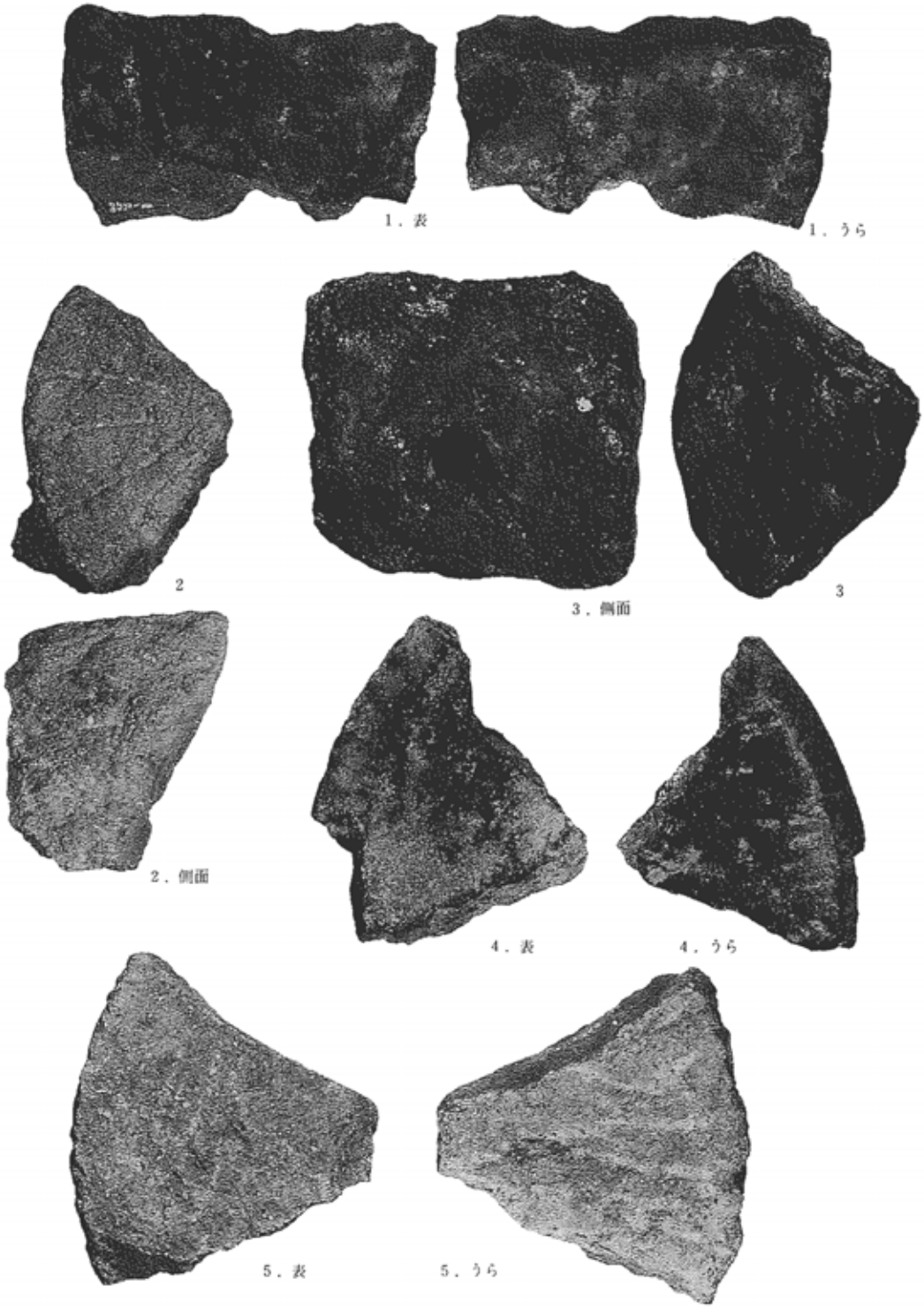


2．側面

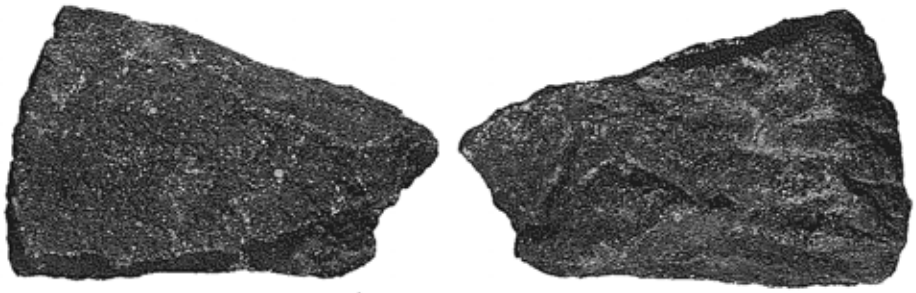


2．上面

写真図版16　石製品（石臼上臼・石鉢）　S＝1/6

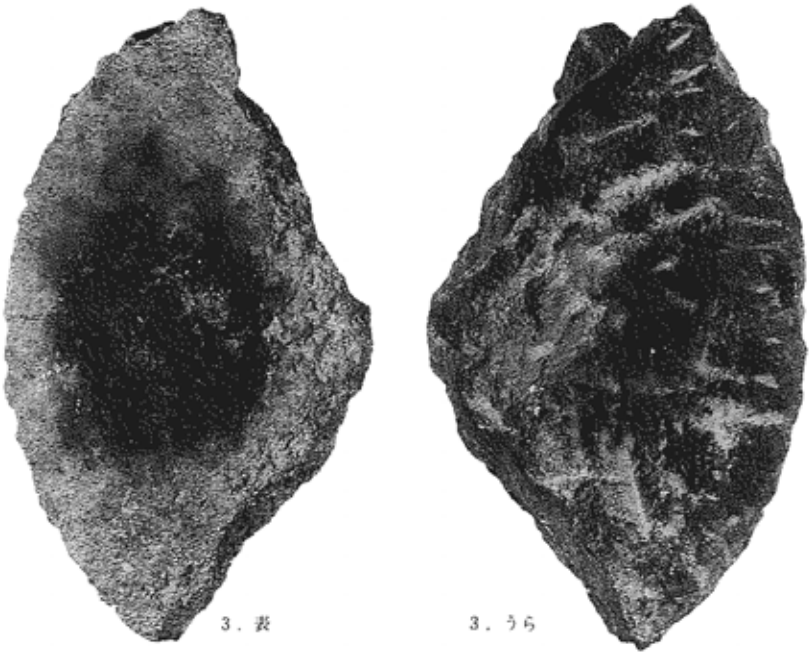


写真図版17　石製品（石臼上臼）



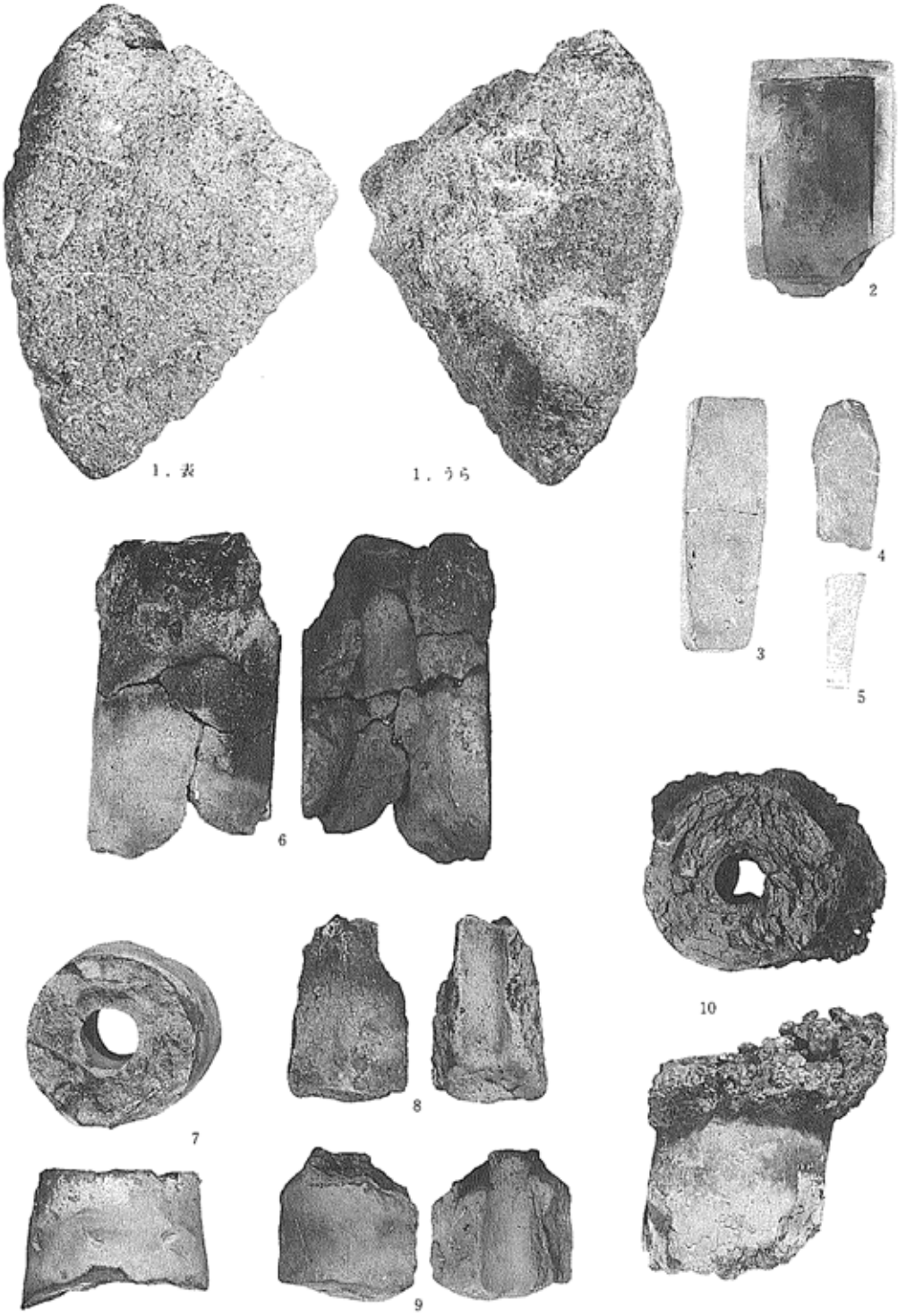
1．表　　1．うら

2．表　2．うら



3．表　　3．うら

写真図版18　石製品（石臼下臼）



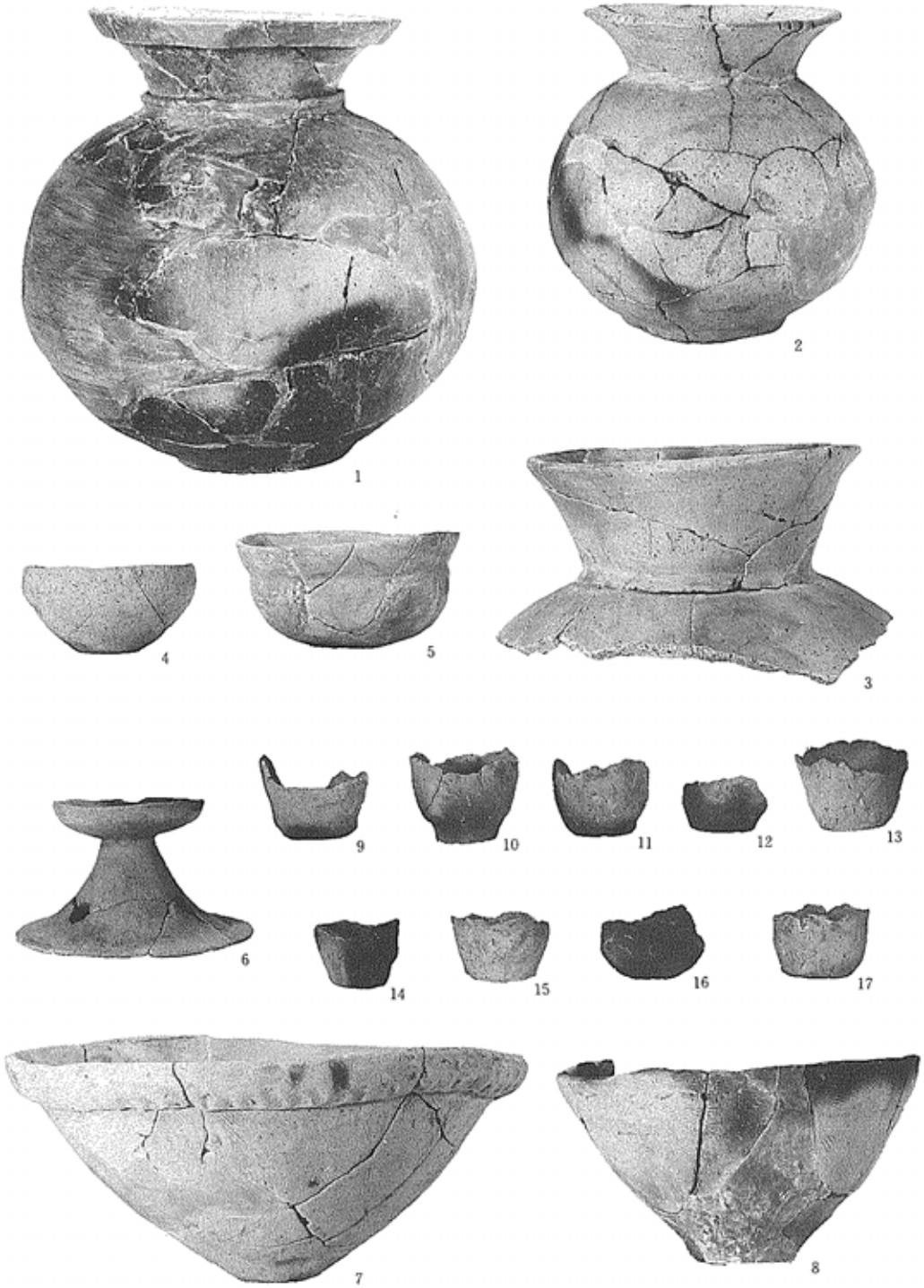
写真図版19　石製品（石臼下臼・硯・砥石）
土製品（フイゴの羽口）

写真図版20　古墳時代第１集中地点出土土器（1）

1

2

写真図版21　古墳時代第１集中地点出土土器（2）

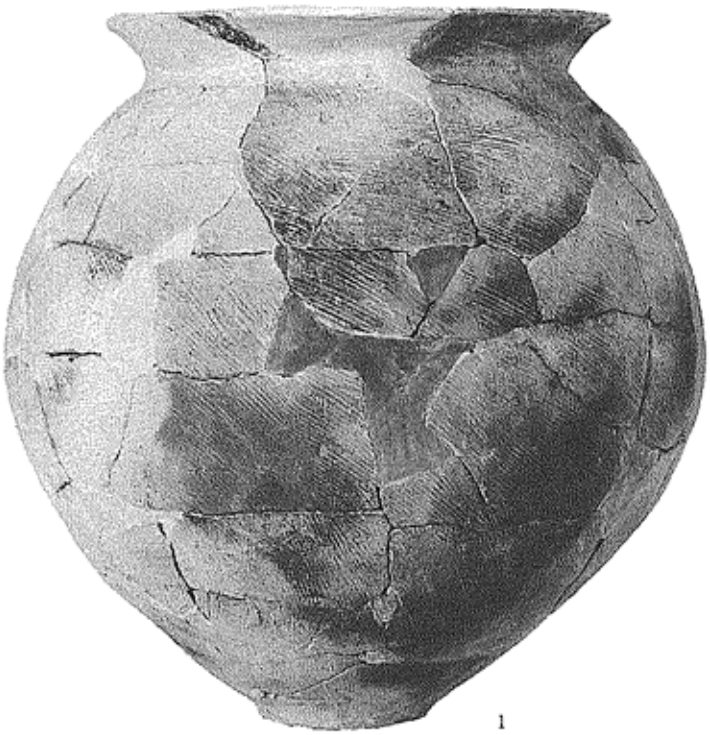


写真図版22　古墳時代第１集中地点出土土器 (3)

1

2

写真図版23　古墳時代第２集中地点出土土器（1）

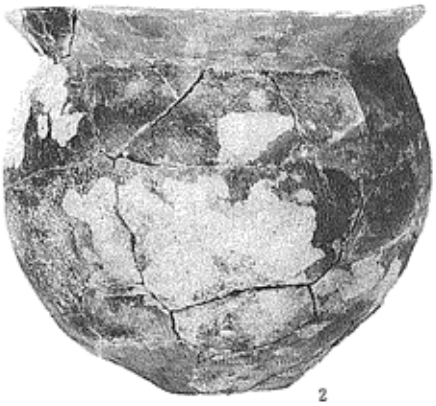


1

2

写真図版24　古墳時代第２集中地点出土土器（2）

1


2

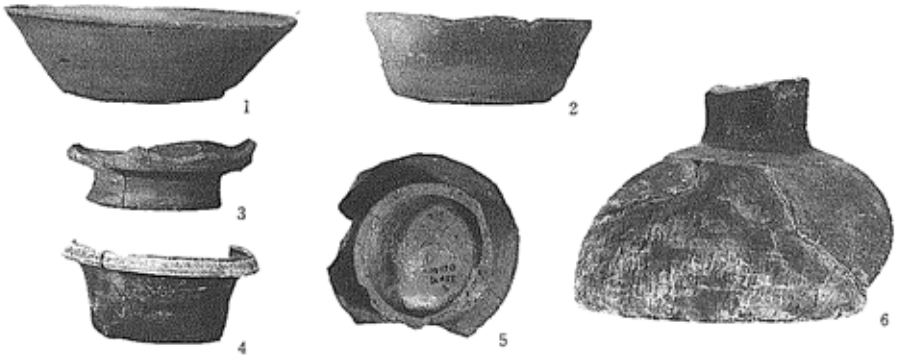
3

4

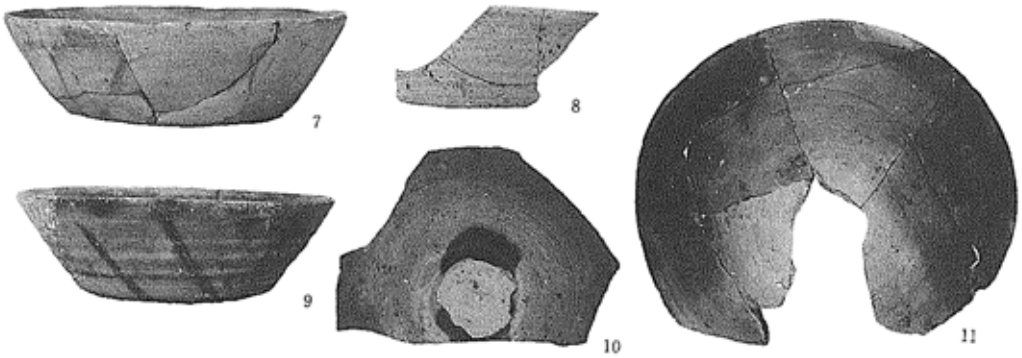
5

写真図版25　古墳時代第２集中地点出土土器（3）

写真図版26　古墳時代第２集中地点出土土器（4）



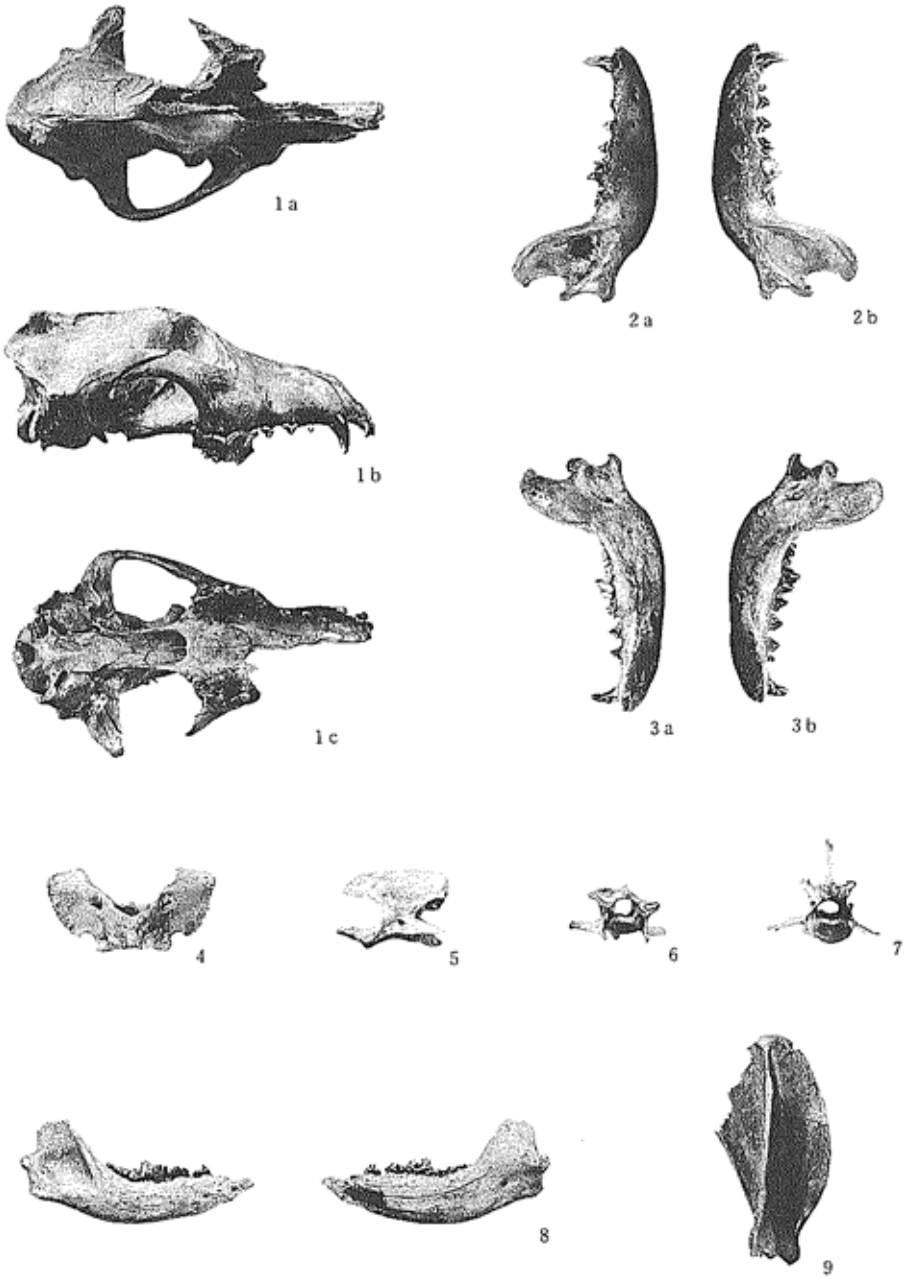
SX455出土土器



SX456出土土器

その他の出土土器

写真図版27　平安時代の出土土器



イヌ（1～7 SD361溝跡一括出土，8・9 SD360溝跡出土）　（縮尺1／3）

写真図版28　動物遺体（1）

1～14ニホンジャ，15～18イノシシ，19～23ウマ(縮尺1／4)，24カツオ，25ガンカモ科(縮尺1／2)

写真図版29　動物遺体（2）

新 谷 地 遺 跡

目　　次

Ⅰはじめに 133
Ⅱ発見された遺構と出土遺物 133
Ⅲまとめ 138
引用・参考文献
写真図版

調　査　要　項

遺　跡　名：新谷地遺跡（しんやちいせき）
　　宮城県遺跡地名表登載番号：27057
遺跡記号：0T
所　在　地：宮城県古川市小林字新谷地・塚原・狐壇・新塚原・要害、宮沢字牛沼
調査原因：県営ほ場整備事業
調査面積：約66500㎡
調査期間：平成５年11月８日～30日
調査主体：宮城県教育委員会
調査担当：宮城県教育庁文化財保護課
調　査　員：斉藤吉弘、阿部　恵

新谷地遺跡（しんやちいせき）

Ⅰ　はじめに（第１・２図）

新谷地遺跡は古川市小林字新谷地・塚原・要害・狐壇・新塚原、宮沢字牛沼などの広い範囲に所在する遺跡で、東北自動車道古川インターチェンジの北北西約３キロメートルの地点に位置している（第１図）。

本遺跡の所在する古川市は宮城県の北西部に位置している。その地形を見ると市の北部には築館丘陵が東に展開し、起伏の少ない丘陵地帯を形成している。中央部から南部にかけては、丘陵地帯の南麓を東南方向に流れる江合川や市の西端を東流する鳴瀬川とその支流多田川によって形成された肥沃で広大な大崎低地が広がっており、水田として利用され県内有数の穀倉地帯となっている。また、河川の流域には各所に自然堤防が発達している。

新谷地遺跡は築館丘陵のほぼ南端、大崎平野に接する標高32～39mのなだらかな南斜面に立地しており、現状は大部分が水田で、一部が宅地や畑、杉林などになっている。

今回の調査は、県営ほ場整備事業（宮沢地区小林工区）に伴う確認調査である。

調査の対象地域は農道小林・川北線の西側に当たり、平成３年に調査が行われた新谷地北遺跡の南東に隣接する地域である。この地域は平成４年にも確認調査が実施されており、今回はその時に調査が出来なかった部分で、削平される場所を対象としている。調査対象面積は約66500㎡で、現在大部分が水田、一部が休耕田や畑地となっている（第２図）。

調査は11月８日～30日にかけて行った。調査は任意の方向・規模のトレンチを間隔を置いて合計21本設定し、重機によって表土を剥離して実施した。トレンチ調査の面積は約2600㎡である。トレンチの位置と遺構については、平板測量による乎面図を作成するとともに、写真撮影をして記録を残した。

Ⅱ　発見された遺構と出土遺物

今回の調査で発見された遺構は土壙、溝、柱穴、ピットなどである。出土遺物にはナイフ形石器・縄文土器？・弥生土器・礫石器・土師器・須恵器・平瓦・中世陶器・鞴の羽口・砥石・古銭・鉄製品・鉄滓など多様なものがある。以下、各トレンチ検出の遺構・出土遺物について、地形的なまとまりごとに述べる（第３図）。

〈第２トレンチ〉

第２トレンチは平成４年の確認調査区の北東に位置するトレンチである。

第１図　遺跡の位置と周辺

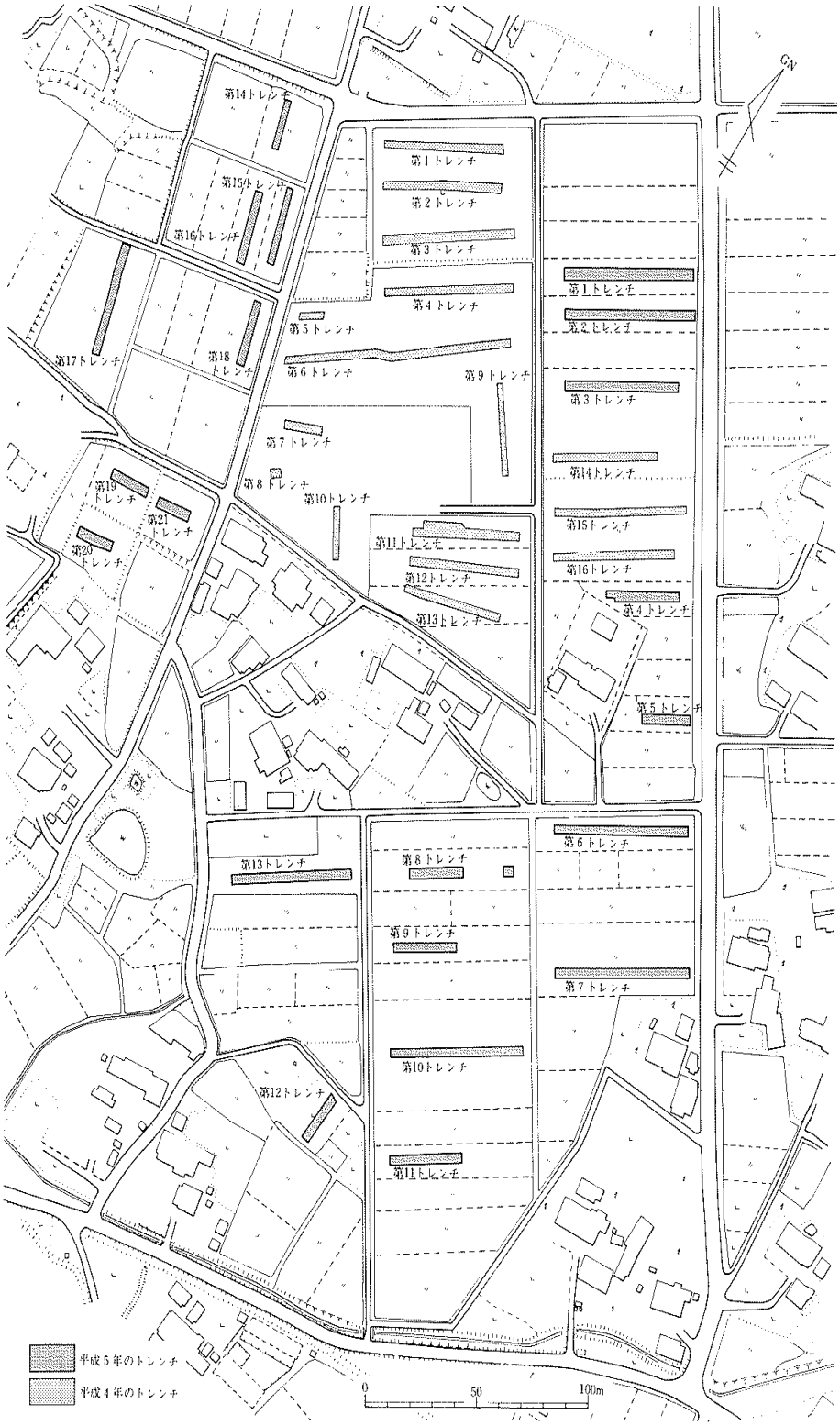
番号	遺跡名	立地	種別	時代
1	新谷地遺跡	段丘	包含地	旧石器、弥生、古代、中世
2	新谷地北遺跡	段丘	土壙墓、集落	古代
3	国史跡大吉山瓦窯跡	丘陵斜面	窯跡	奈良
4	国史跡宮沢遺跡	丘陵	官衙	弥生、奈良、平安
5	倉の沢A遺跡	丘陵端	包含地	縄文前、古代
6	倉の沢B遺跡	丘陵麓	包含地	縄文前・晩、古代
7	寒気原遺跡	丘陵斜面	包含地	縄文、弥生
8	中ノ沢遺跡	丘陵斜面	包含地	縄文、弥生、奈良、平安
9	市ヶ坂館跡	丘陵	城館	中世
10	落合遺跡	丘陵麓	包含地	縄文早・前
11	雨生沢遺跡	丘陵斜面	包含地	旧石器、縄文晩
12	上前田遺跡	丘陵	包含地	縄文前、平安
13	蛇沢遺跡	丘陵麓	包含地	縄文、弥生、古代
14	大谷川遺跡	丘陵麓	包含地	縄文、奈良、平安
15	大谷川逆沢遺跡	丘陵斜面	包含地	縄文、弥生、
16	間久田B遺跡	丘陵麓	包含地	縄文
17	若林B遺跡	丘陵麓	包含地	縄文、古代
18	間久田遺跡	丘陵斜面	包含地	弥生、奈良、平安
19	間久田A遺跡	丘陵麓	包含地	縄文、古代
20	逆沢A遺跡	丘陵斜面	包含地	縄文、古代
21	逆沢B遺跡	丘陵斜面	包含地	古墳
22	若林遺跡	丘陵頂	包含地	古代
23	若林A遺跡	谷底平野	包含地	縄文、弥生
24	西館A遺跡	谷底平野	包含地	縄文前、弥生
25	雨生沢城跡	丘陵端	城跡、包含地	縄文前、古代、中世
26	野崎遺跡	丘陵斜面	包含地	弥生
27	城内遺跡	丘陵斜面	包含地	古代
28	堀谷地遺跡	丘陵	包含地	縄文
29	長者原A遺跡	丘陵	包含地	旧石器、縄文晩、奈良
30	北原遺跡	丘陵	包含地	旧石器、縄文晩、奈良
31	長者原B遺跡	丘陵	包含地	旧石器、縄文晩、奈良
32	長清遺跡	丘陵	包含地	旧石器、縄文晩、奈良
33	化女沼遺跡	丘陵	包含地	旧石器、縄文晩、奈良
34	新田A遺跡	丘陵斜面	包含地、窯跡	旧石器、縄文早・前・晩、弥生、古墳、平安
35	村山遺跡	丘陵頂部	包含地	旧石器、縄文早・前・晩、弥生、古墳～平安
36	座敷乱木遺跡	丘陵斜面	包含地	旧石器前～晩、縄文前・晩、弥生、古代
37	柳口B遺跡	丘陵先端	包含地	縄文早・前
38	町史跡川北横穴古墳群	丘陵斜面	横穴古墳	古墳後(100基程)
39	松森古墳群	丘陵尾根	方墳、円墳	古墳
40	堀館跡	丘陵斜面	城跡	室町
41	成田山遺跡	丘陵斜面	包含地	旧石器、縄文前・晩、弥生、奈良
42	松森遺跡	丘陵斜面	包含地	弥生
43	新田B遺跡	丘陵	包含地	縄文、古代
44	一本松B遺跡	丘陵尾根	包含地	旧石器
45	一本松遺跡	丘陵頂	包含地	旧石器、縄文早・前・晩、弥生、古墳、平安
46	一本松古墳群	丘陵斜面	円墳	古墳後
47	一本松古墳群	丘陵	円墳	古墳
48	新田南遺跡	丘陵上	包含地	旧石器、縄文早・晩、弥生、古墳、古代
49	松森南遺跡	丘陵	包含地	縄文早・晩、弥生
50	成田谷地田遺跡	丘陵尾根	包含地	旧石器
51	ごふく沢遺跡	丘陵頂部	包含地	旧石器、縄文早・前、奈良
52	成田B遺跡	丘陵	包含地	縄文
53	馬場壇A遺跡	丘陵	包含地、円墳	旧石器、縄文早・前・晩、弥生、古墳
54	大谷地遺跡	丘陵斜面	包含地	縄文早
55	北馬場壇遺跡	丘陵斜面	包含地	旧石器、縄文早・晩、弥生、古墳
56	一の沢古墳	丘陵	円墳	古墳
57	一の沢遺跡	丘陵	包含地	旧石器、縄文、弥生、古墳
58	塚原A遺跡	丘陵	包含地	旧石器、縄文晩、弥生
59	市史跡塚原古墳群	丘陵	円墳	古墳後
60	塚原B遺跡	丘陵	包含地	縄文晩、弥生
61	浦越東遺跡	丘陵上	包含地	旧石器、弥生
62	浦越北遺跡	丘陵斜面	包含地	旧石器、弥生
63	浦越遺跡	丘陵上	包含地	旧石器後、縄文晩、古代
64	小寺囲遺跡	丘陵斜面	包含地	旧石器後、縄文、弥生
65	日光山古墳群（小寺囲支群）	丘陵尾根	方墳、円墳	古墳
66	成田A遺跡	丘陵斜面	包含地	旧石器、縄文早・前、古代
67	日光山古墳群（成田支群）	丘陵斜面	円墳、方墳	古墳
68	三丁目城跡	丘陵	城館	中世
69	小寺遺跡	丘陵	集落跡、官衙？	古代
70	北の前遺跡	丘陵斜面	包含地、瓦窯跡	縄文、古代
71	宮沢要害跡	丘陵	城館・要害	中世、近世
72	西館遺跡	丘陵	包含地	縄文、弥生、古代
73	上谷遺跡	丘陵	包含地	弥生、古代
74	宇南遺跡	丘陵	包含地	奈良、平安
75	庚壇遺跡	段丘	包含地	古代
76	新庚壇遺跡	丘陵	包含地	縄文、古代
77	一本杉遺跡	丘陵麓	包含地	縄文晩、平安
78	長者原D遺跡	丘陵斜面	包含地	縄文
79	長者原E遺跡	丘陵斜面	包含地	古代
80	山の上古墳群	丘陵	円墳、方墳	古墳
81	長清古墳	丘陵	円墳、塚	古墳、中世
82	川熊館跡	丘陵	城館	中世
83	内林古墳群	丘陵	古墳	古墳後、奈良
84	下田遺跡	段丘	包含地	古代
85	杉ノ下遺跡	丘陵麓	包含地	古代
86	日光山古墳群（花蔵寺支群）	丘陵尾根	円墳	古墳
87	柳の関遺跡	段丘	包含地	平安
88	道場囲遺跡	丘陵	包含地	古代
89	小林杉の下窯跡	丘陵斜面	瓦窯跡	平安
90	郎の池囲遺跡	段丘	包含地	古代
91	魔塚遺跡	自然堤防	包含地	縄文、古代、中世
92	小林一本杉遺跡	段丘	包含地	弥生
93	新田町遺跡	段丘	包含地	弥生、古墳
94	南小林遺跡	自然堤防	包含地	古代
95	石母田館跡	自然堤防	城館	近世
96	宮田天神遺跡	自然堤防	包含地	古代
97	朝日遺跡	自然堤防	包含地	古代
98	鹿島西遺跡	自然堤防	包含地	古代
99	夜烏前遺跡	自然堤防	包含地	古代
100	南溝遺跡	自然堤防	包含地	古代
101	新田城跡	自然堤防	城館、包含地	古代、中世
102	月山囲遺跡	沖積堤防	包含地	古代
103	塩遺跡	自然堤防	包含地	古代
104	小原遺跡	自然堤防	包含地	

第１表　周辺の遺跡地名表

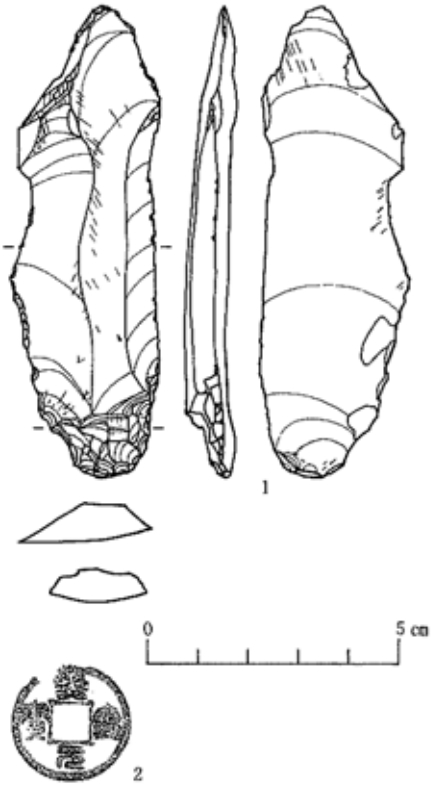
土壙２基と溝１条が検出され、黒ボク土直下の地山面で、珪質頁岩製の縦長剥片を素材としたナイフ形石器が１点出土している（第３図１）。

〈第３・４・５・７・９トレンチ〉

第３トレンチは平成４年の確認調査で掘立柱建物跡や柱穴列などが検出された第11～16トレンチの北側、第４・５・７・９トレンチは南側に位置している。土壙・溝・ピットなどが検出され、土壙が多い。今回は掘立柱建物跡などは検出されて


第14トレンチ
第15トレンチ
第16トレンチ
第17トレンチ
第18トレンチ
第19トレンチ
第20トレンチ
第21トレンチ
第1トレンチ
第2トレンチ
第3トレンチ
第4トレンチ
第5トレンチ
第6トレンチ
第7トレンチ
第8トレンチ
第9トレンチ
第10トレンチ
第11トレンチ
第12トレンチ
第13トレンチ
第1トレンチ
第2トレンチ
第3トレンチ
第14トレンチ
第15トレンチ
第16トレンチ
第4トレンチ
第5トレンチ
第13トレンチ
第8トレンチ
第6トレンチ
第9トレンチ
第7トレンチ
第10トレンチ
第12トレンチ
第11トレンチ
平成5年のトレンチ
平成4年のトレンチ
0
50
100m

第2図　トレンチ配置図



第３図　出土遺物

いないが遺跡としては一体のものと考えられる。また、第７・９トレンチから検出された土壙は、新谷地北遺跡で検出され土壙墓とされたものに形態・規模などが類似している。地点を変えて墓域がある可能性も考えられる。

出土遺物としては弥生土器・石器・須恵器・中世陶器などがあるが、遺構に伴うものはない。

〈第 12 トレンチ〉

土壙・ピット・溝が検出されている。ＳＫ01 からは鞴の羽口（図版２-３・４）・鉄滓が出土しており、周辺の畑には鉄滓や羽口の破片が広く散布することから、この付近に鍛冶遺構とその関連遺構が存在する可能性が高い。また、ＳＫ02 からは砥石が（図版２-５）、ＳＫ03 からは古銭が出土した。古銭（第３図２）は、磨滅が著しいが北宋銭の「照寧天宝」と思われる。

遺物は、表土から弥生土器・土師器・須恵器・平瓦・陶器（瀬戸産）・鞴の羽口・鉄滓・鉄製品などが出土したおり、鞴の羽口の破片や鉄滓が多い。

〈第 14・15・16 トレンチ〉

これらのトレンチは新谷地北遺跡の南、平成４年の確認調査で土壙墓と考えられる土壙が 14 基検出された第１～３トレンチの西に接している。

土壙・ピットなどが検出され、土壙は第 16 トレンチに集中している。土壙の形態・規模は新谷地北遺跡の土壙墓と類似していることから、昨年までに検出されている土壙墓群と一連のものと考えられる。

遺物は表土から土師器・須恵器が出土した。

〈第 17・18・19・20・21 トレンチ〉

これらのトレンチは平成５年春に古川市教委によって発掘され、掘立柱建物跡や竪穴住居跡などが検出されている畑の東側に位置する。

土壙・柱穴・住居跡？・溝などが検出されている。第17・19・20トレンチでは開田による削平が著しい。

出土遺物には縄文土器？・土師器・須恵器・鞴の羽口などがあり、第21トレンチでは平安時代の遺物が多く出土している。

Ⅲ　まとめ

１．今回の調査では合計21本のトレンチを設定して確認を実施した。水田部分に設定したいずれのトレンチにも開田による削平が認められたが、すべてのトレンチで数に多少の差はあるものの遺構・遺物が確認された。
２．平成４年の確認調査で新谷地北遺跡の土壙墓群が南に延びているのが確認されているが、今回の調査でもそれが再確認できた。しかし、今回確認された土壙は新谷地北遺跡や前回確認されたものと比較すると、標高にして約１m低い場所で確認されている。中間に沢が入る可能性も考えられ、単純に同一の土壙墓群の分布範囲の拡大としていいのか、今後の検討が必要と思われる。
３．平成４年の確認調査で掘立柱建物跡などが検出された地域は、その周囲から遺構が検出され、その範囲が広がることが明らかになった。
４．今回の調査によって得られた新しい知見として、旧石器時代のナイフ形石器の発見と鍛冶遺構の存在が知られたこととがある。
５．新谷地遺跡は広大な範囲をもつ遺跡で、確認調査によって多くの時期の遺構や遺物が認められた。新谷地遺跡の立地する丘陵は、単一の丘陵ではなく小さな沢などによって複雑に開析されていることが、今回までの確認調査のトレンチによって知ることができる。このような小地形によって遺跡の範囲が画され、複数の遺跡に細分される可能性も考えられる。

引用･参考文献

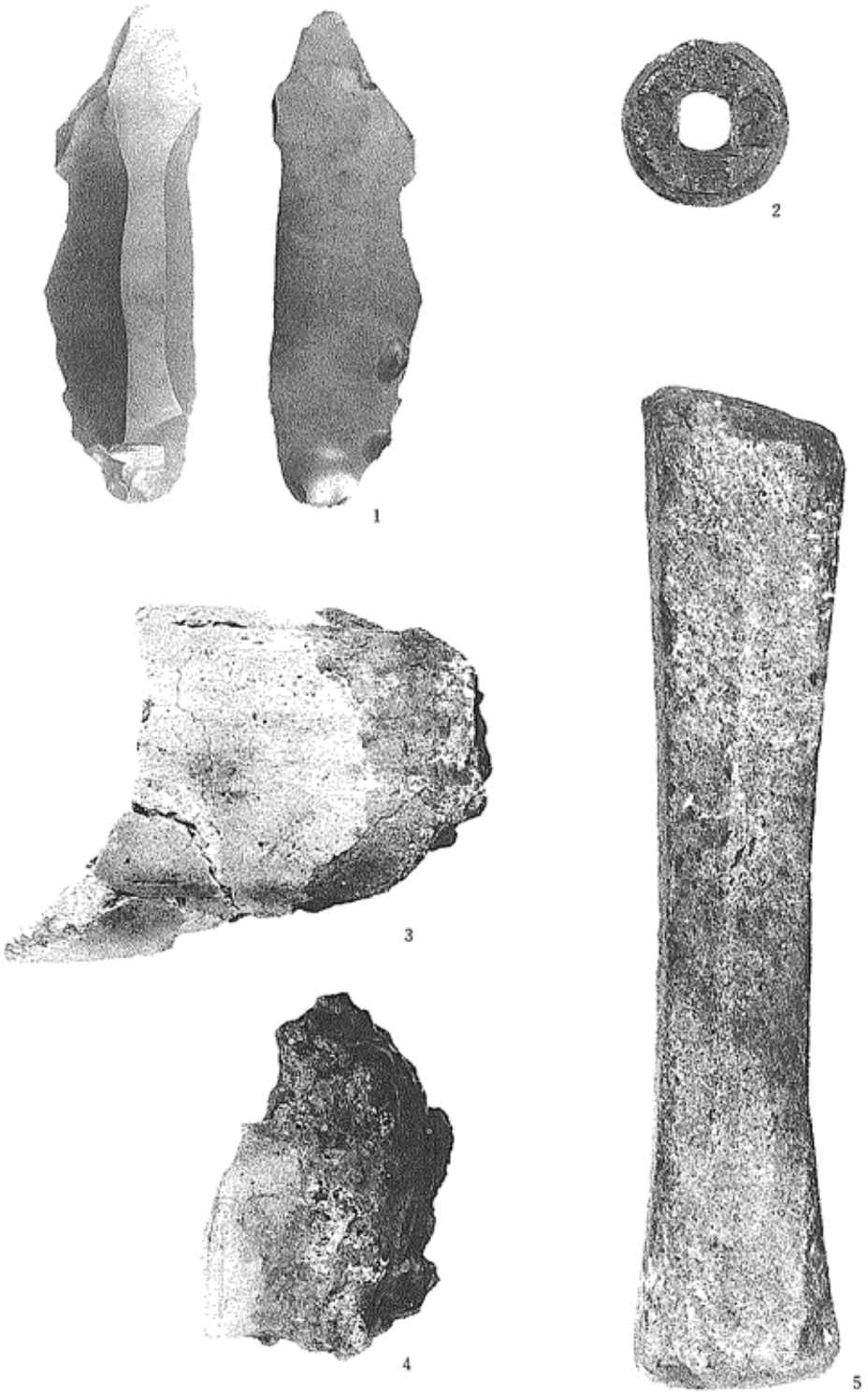
木皿直幸・早川英紀（1992）:「新谷地北遺跡」『宮城県文化財調査報告書第146集
古川市教育委員会（1970）:「塚原古墳群」『古川市文化財調査報告書』１
三好秀樹（1993）:「新谷地遺跡」『宮城県文化財調査報告書』第154集

1．遺跡遠景（南より）

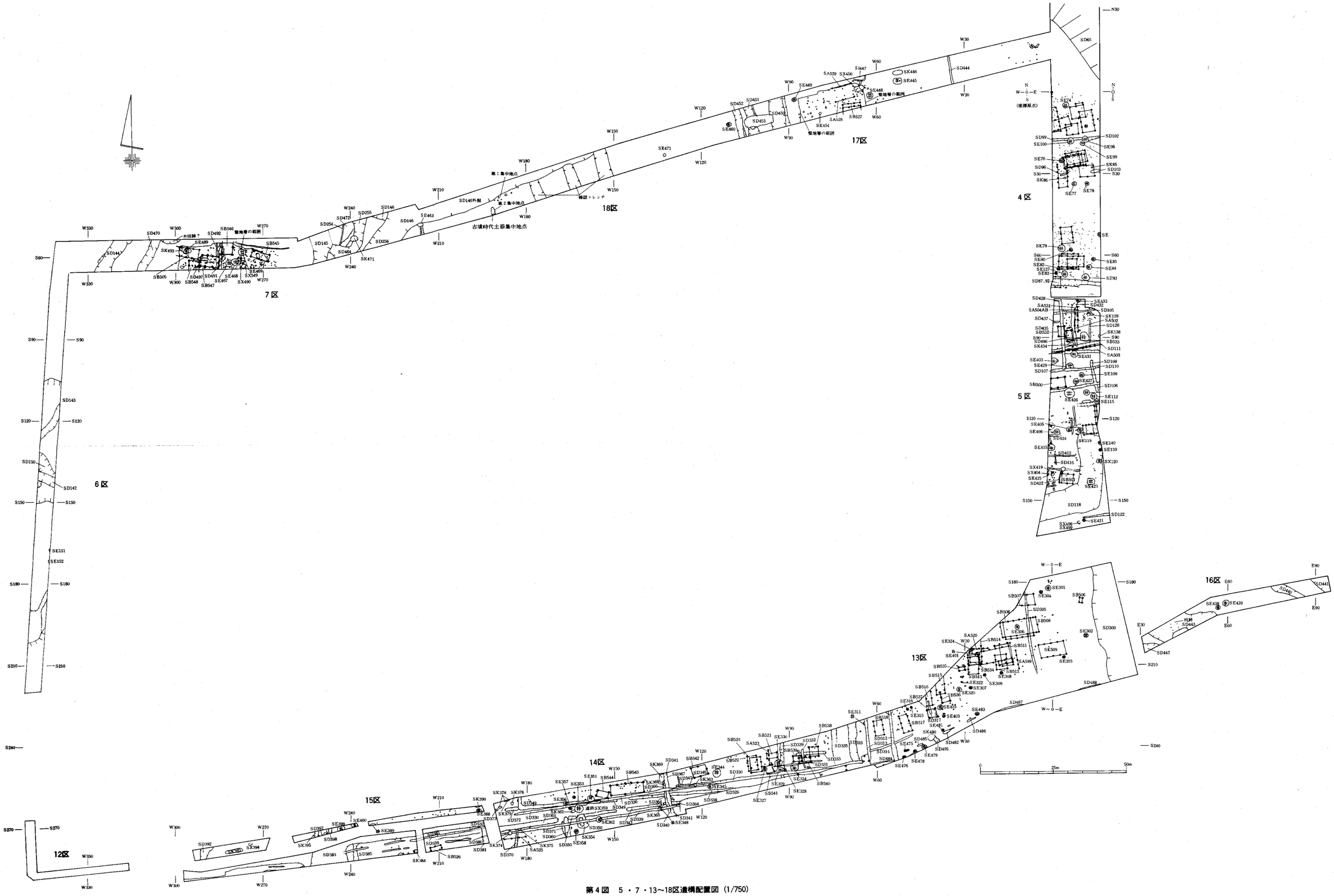
2．第12トレンチ全景

3．第16トレンチ全景

図版1



図版２　出土遺物　　１・３・４Ｓ＝2／3　２実大　５Ｓ＝1／2



第4図　5・7・13～18区遺構配置図（1/750）